

燕市介護保険運営協議会（第1回）次第

平成29年5月22日（月）午後1時30分～
燕市役所 会議室201

1. 開 会

2. 挨拶

3. 議 題

(1) 燕市第7期介護保険事業計画策定スケジュールについて

(資料1、1-1)

(2) 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査及び在宅介護実態調査の報告について

(資料2、2-1、3、3-1)

(3) その他

4. 閉 会

第7期介護保険事業計画策定スケジュール(案)

資料1

(平成29年5月12日作成)

年度	平成28年度			平成29年度																																									
月	～3月			4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月			3月								
旬	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下						
市	12月 ・介護予防・日常生活圏域ニーズ調査 ・在宅介護実態調査の実施			調査集計、現状分析 ▲3/29 「見える化」システム(※)3.0リリース			▲5/19 計画策定担当者会議(県) ●→ 計画策定業務委託契約			●→ 現状分析・サービス見込量推計			▲夏頃 「見える化」システム(※)4.0リリース ●→ 保険料推計			▲秋頃 「見える化」システム(※)4.5リリース ●→ サービス見込量・保険料推計																													
介護保険 運営協議会				●5/22 運協①									●運協②						●運協③						●運協④						●運協⑤														
市議会																												■議会報告(計画素案) ●→ パブリックコメント												■ ・議会報告(計画確定) ・介護保険条例改正					

※地域包括ケア「見える化」システムは、都道府県・市町村における介護保険事業(支援)計画等の策定・実行を総合的に支援するための情報システムです。

介護保険運営協議会 各回協議題(案)

開催予定	協議題(案)
第1回 平成29年5月22日	<ul style="list-style-type: none"> ・介護予防・日常生活圏域ニーズ調査の報告について ・在宅介護実態調査の報告について
第2回 平成29年8月下旬	<ul style="list-style-type: none"> ・第6期介護保険事業計画の進捗状況について ・第7期介護保険事業計画に係る基本的な指針案について
第3回 平成29年10月中旬	<ul style="list-style-type: none"> ・第7期介護保険事業計画に係る人口推計、要介護認定者数等の推計について ・保険料推計
第4回 平成29年11月下旬	<ul style="list-style-type: none"> ・第7期介護保険事業計画(案)について ・パブリックコメントの実施内容について
第5回 平成30年2月上旬	<ul style="list-style-type: none"> ・パブリックコメントの実施報告について ・第7期介護保険事業計画(案)について

地域包括ケア「見える化」システムの概要

資料 1 - 1

○ 地域包括ケア「見える化」システムは、都道府県・市町村における計画策定・実行を支えるために「介護・医療の現状分析・課題抽出支援」「課題解決のための取組事例の共有・施策検討支援」「介護サービス見込み量等の将来推計支援」「介護・医療関連計画の実行管理支援」の機能を提供する。

介護・医療関連計画の実行管理支援

- 介護・医療関連計画における将来推計結果、定量目標値等(計画値)の登録機能
- 計画値と実績値の乖離状況の管理、地域間比較等の分析機能

介護サービス見込み量等の将来推計支援

- 介護サービス見込み量、介護保険料等の将来推計機能
- 将来推計の考え方、適切に推計するための留意点等の助言機能
- 国・都道府県による市町村別将来推計結果の集計・分析機能



介護・医療の現状分析・課題抽出支援

- 公的統計及びレセプト情報等から現状分析・課題抽出に有効な指標群を随時自動的に算出・提供する機能
- 提供される指標群の解釈・課題抽出のポイント等の助言機能
- 日常よく活用する指標群等を保存しておく機能
- 介護サービス事業所、医療機関等の地域資源の位置情報・基本情報の提供機能
- 提供される情報をGIS・グラフ等によって直感的に分析可能な機能

取組事例の共有・施策検討支援

- 現状分析から抽出された課題、地域特性等の条件を設定して柔軟に先進的取組事例、ベストプラクティス事例等を検索・閲覧可能な機能

これまでの地域包括ケア「見える化」システムの開発スケジュールについて

- 平成27年7月に1次リリースを迎えた後、計5回のリリースを実施。
- 後半は第7期介護保険事業計画策定に向けた将来推計機能拡充をメインに、調整済み指標等も追加された。

	平成26年度		平成27年度				平成28年度				平成29年度	
	10-12	1-3	4-6	7-9	10-12	1-3	4-6	7-9	10-12	1-3	4-6	
地域包括ケア「見える化」システムの開発	1次		1次 設計・開発									
			リリース時期: ★1次		★1.3次	★1.5次						
				1次 運用								
			2次	2次 設計・開発				★2次	2次 運用			
				3次	3次 設計・開発				★3次	3次 運用		
機能						1次リリース		2次リリース		3次リリース		
介護・医療の現状分析・課題抽出支援機能						1次	1.3次	1.5次				
現状分析・課題抽出に有効な指標群の閲覧・データ取得機能						○	●	●	●		●	
提供される指標群の解釈・課題抽出のポイント等の助言閲覧機能						○	●	●	●		●	
日常よく活用する指標群等を保存しておく機能							○	●	●		●	
介護サービス事業所、医療機関等の地域資源の位置情報・基本情報の閲覧機能							○	●	●		●	
提供される情報のGIS・グラフ等による直感的な分析機能						○	●	●	●		●	
取組事例の共有・施策検討支援												
先進都道府県・市町村の取組事例、ベストプラクティス事例等の検索・閲覧						○	●	●	●		●	
介護・医療関連計画の実行管理支援												
介護・医療関連計画における将来推計結果、定量目標値等(計画値)の登録機能								○	●		●	
計画値と実績値の乖離状況の管理、地域間比較等の分析機能								○	●		●	
介護サービス見込み量等の将来推計支援(7期)												
介護サービス見込み量、介護保険料等の将来推計機能の利用									○		●	
推計結果の出力、誤記等のチェック機能									○		●	

○: 初回リリース ●: 機能の拡充及び情報量の充実

3次リリースの主な機能拡充概要

- 3次リリースの機能拡充の概要は以下のとおり。(平成29年3月リリース予定)
- 将来推計機能は、試行版に対する意見を一部反映し、使いやすさを改善する機能拡充を行う。
- 現状分析機能は、介護予防・日常生活圏域ニーズ調査結果の登録(送信)・閲覧等が3次リリースで可能になる。

No.	機能概要	機能分類	実現機能概要	リリース予定
1	将来推計機能	計算過程確認用Excelシート	見える化システムの将来推計機能と同様に保険料額が計算可能なExcelシートを作成する。本シートには予めサンプルデータ(全国平均値)が入っており、セル内の式(関数)を参照することにより、システム内の計算過程が分かるようにする。	3次
2	将来推計機能	施策反映可能なサービス量見込み値の追加(利用回数・日数)	「認定者数」「サービス利用者数(利用率)」に加え、在宅サービスの「利用回数・日数」についても、自然体推計値を直接、施策反映値に修正できるようにする。	3次
3	将来推計機能	論理エラーメッセージの改善	誤記を防ぐため、設定した桁数以上の数値や論理矛盾(認定者数>第一号被保険者数等)が発生している場合は、エラーと判断され次の推計ステップに進めなくなっているが、エラーの原因となる箇所が保険者にわかりやすいようメッセージの改善を行う。	3次
4	現状分析機能	介護予防・日常生活圏域ニーズ調査のデータ登録・指標提示	・昨年9月にアナウンスがなされた介護予防・日常生活圏域ニーズ調査の結果データの登録(送信)、調査設計情報の登録をする。 ・上記データを用いた指標(各種高齢者のリスク等)を実装する。	3次
5	現状分析機能	一部指標の追加	在宅サービス給付単位数分布(要介護度別)、定員、要支援・要介護者1人あたり定員等、2次リリースまでに実装できなかった指標を追加する。	3次

4次リリースの主な機能拡充概要

○4次リリースについては、将来推計機能(推計ツール【確定版】)の機能拡充に焦点を絞って行う。(平成29年7月リリース予定)

No.	機能概要	機能分類	実現機能概要	リリース予定
1	将来推計機能	推計結果データの都道府県提出機能	<ul style="list-style-type: none"> ・市区町村の操作により、都道府県が推計データを確認できるようにする。 ・推計データには「ステータス情報」が付与され、保険者からの提出操作以降の参照・編集権限がステータスによって管理される。 ・都道府県が推計データに対して実行した操作は、市区町村側でもステータス情報として相互に参照できるようにする。 	4次
2	将来推計機能	小規模保険者向け推計機能	<ul style="list-style-type: none"> ・小規模保険者向けの自然体推計ロジックを追加する(認定者数、サービス利用者数において、要介護度を包括的に推計できるようにする)。 ・通常の自然体推計ロジックか、小規模保険者向けの自然体推計ロジックのどちらを使用するかは保険者が決定できる。 	4次
3	将来推計機能	情報提供機能	上記の推計ロジックの判断の参考資料として、「推計人口と第1号被保険者数との比較結果」「利用者数の伸びの動向」「推計パターン毎の乖離状況」をExcelシートによりダウンロードできるようにする。	4次
4	将来推計機能	制度改正への対応	現在、国会に提出中の法律案が、国会の審議を経て成立した場合、成立した内容を踏まえ、推計ロジック等に影響する点について適宜対応を行う。	4次

【システム画面】



【出典】地域包括ケア「見える化」システム (平成 29 年 5 月 16 日取得)

介護予防・日常生活圏域ニーズ調査報告書

平成 29 年 3 月

燕 市

目次

1 調査概要	1
1 調査目的.....	1
2 調査内容.....	1
3 回収結果.....	1
4 報告書の見方.....	1
2 回答者の属性	2
1 年齢構成.....	2
2 リスク該当者の状況.....	3
3 世帯構成.....	6
3 調査結果の概要	7
1 機能.....	7
2 日常生活.....	9
4 評価項目別の結果	10
1 機能.....	10
(1)運動器機能の低下.....	10
(2)閉じこもり傾向.....	14
(3)転倒リスク.....	19
(4)低栄養の傾向.....	23
(5)口腔機能の低下.....	27
(6)認知機能の低下.....	32
(7)うつ傾向.....	36
(8)虚弱.....	40
(9)総合事業対象者.....	45
2 日常生活.....	47
(1)手段的自立度(IADL).....	47
(2)生活機能総合評価.....	49
3 社会参加.....	50
(1)知的能動性.....	50
(2)社会的役割.....	52
5 健康・疾病	62
1 疾病.....	62
(1)高血圧.....	63
(2)脳卒中.....	64
(3)心臓病.....	65

(4) 糖尿病.....	66
(5) 筋骨格系疾患.....	67
(6) がん.....	68
2 主観的健康感.....	69
3 生きがいや学習について.....	73
(1) 生きがいを感じる.....	73
(2) 今後学習したいこと.....	74
6 介護.....	75
1 介護に関する調査.....	75
(1) 介護の必要性.....	75
(2) 日常生活上の不安や介護に対する意識について.....	76
(3) 地域包括支援センターへの相談について.....	78
(4) 介護保険料について.....	78

1 調査概要

1 調査目的

日常生活や心身の状況を正確に把握し、生活支援サービスや介護保険サービス、介護予防事業等の取り組み、サービス量の見込みを検討するための調査とし、第7期（平成30年度～平成32年度）介護保険事業計画の適切な策定に向けた指針に係る基礎情報を得ること等を目的として行いました。

2 調査内容

- (1) 調査対象者：抽出による一般高齢者に配布
- (2) 調査期間：平成28年12月～12月末日
- (3) 調査基準日：平成28年11月21日現在
- (4) 配布・回収方法：郵送による配布・回収

3 回収結果

調査対象者数	1,500人
回収数	1,059件
回収率	70.6%
有効回答数	1,059件

4 報告書の見方

- (1) 報告書中の「n」の数値は、設問への回答者数を表します。
- (2) 回答の比率は、すべて小数点以下第2位を四捨五入して算出しました。したがって、回答者比率の合計が100%にならない場合があります。
- (3) 回答の比率(%)は、その設問の回答者数を基数として算出しました。したがって、複数回答(「〇はいくつでも」等)の設問については、全ての回答比率の合計が100%を超えることがあります。
- (4) 本調査では介護認定を受けていない高齢者(非認定者)に調査を実施しました。高齢者(非認定者)における「介護予防・日常生活支援総合事業」(旧二次予防対象事業、以下 総合事業)の対象者の選定は、基本チェックリストによる判定項目の「運動器機能の低下」「低栄養の傾向」「口腔機能の低下」「虚弱」を用いて行い、4項目の生活機能いずれかにリスクありと判定された方を総合事業対象者とし、それ以外の方を一般高齢者としました。

※表・グラフについては総合事業対象者を「総合」と表記しています。

※基本チェックリストとは：

厚生労働省の「地域支援事業実施要項」に基づき、介護予防事業における二次予防事業(現在の介護予防・日常生活支援総合事業)候補者抽出の評価・判定をするために用いたものです。

2 回答者の属性

1 年齢構成

		65～69歳	70～74歳	75～79歳	80～84歳	85歳以上	無回答	合計
全体		260	267	266	232	34	0	1,059
		24.6	25.2	25.1	21.9	3.2	0.0	100.0
性別	男性	124	121	127	117	18	0	507
		24.5	23.9	25.0	23.1	3.6	0.0	100.0
	女性	136	146	139	115	16	0	552
		24.6	26.4	25.2	20.8	2.9	0.0	100.0

上段:人数 下段:割合(%)

[地区別]

		65～69歳	70～74歳	75～79歳	80～84歳	85歳以上	無回答	合計
地域包括支援センター おおまがり		55	68	65	57	12	0	257
		21.4	26.5	25.3	22.2	4.7	0.0	100.0
性別	男性	27	31	29	29	8	0	124
		21.8	25.0	23.4	23.4	6.5	0.0	100.0
	女性	28	37	36	28	4	0	133
		21.1	27.8	27.1	21.1	3.0	0.0	100.0

上段:人数 下段:割合(%)

		65～69歳	70～74歳	75～79歳	80～84歳	85歳以上	無回答	合計
地域包括支援センター さわたり		63	68	61	61	10	0	263
		24.0	25.9	23.2	23.2	3.8	0.0	100.0
性別	男性	25	29	28	31	4	0	117
		21.4	24.8	23.9	26.5	3.4	0.0	100.0
	女性	38	39	33	30	6	0	146
		26.0	26.7	22.6	20.5	4.1	0.0	100.0

上段:人数 下段:割合(%)

		65～69歳	70～74歳	75～79歳	80～84歳	85歳以上	無回答	合計
吉田地区地域包括 支援センター		73	67	73	63	6	0	282
		25.9	23.8	25.9	22.3	2.1	0.0	100.0
性別	男性	37	31	36	30	3	0	137
		27.0	22.6	26.3	21.9	2.2	0.0	100.0
	女性	36	36	37	33	3	0	145
		24.8	24.8	25.5	22.8	2.1	0.0	100.0

上段:人数 下段:割合(%)

		65～69歳	70～74歳	75～79歳	80～84歳	85歳以上	無回答	合計
分水地区地域包括 支援センター		69	64	67	51	6	0	257
		26.8	24.9	26.1	19.8	2.3	0.0	100.0
性別	男性	35	30	34	27	3	0	129
		27.1	23.3	26.4	20.9	2.3	0.0	100.0
	女性	34	34	33	24	3	0	128
		26.6	26.6	25.8	18.8	2.3	0.0	100.0

上段:人数 下段:割合(%)

2 リスク該当者の状況

		非認定者		無回答	合計		
		一般	総合				
全体		1059	736	323	0	1,059	
		100.0	69.5	30.5	0.0	100.0	
性別	男性	507	362	145	0	507	
		100.0	71.4	28.6	0.0	100.0	
性別・ 年齢別	男-65～69歳	124	102	22	0	124	
			100.0	82.3	17.7	0.0	100.0
	男-70～74歳	121	89	32	0	121	
			100.0	73.6	26.4	0.0	100.0
	男-75～79歳	127	86	41	0	127	
		100.0	67.7	32.3	0.0	100.0	
	男-80～84歳	117	73	44	0	117	
		100.0	62.4	37.6	0.0	100.0	
	男-85歳以上	18	12	6	0	18	
		100.0	66.7	33.3	0.0	100.0	
性別	女性	552	374	178	0	552	
		100.0	67.8	32.2	0.0	100.0	
性別・ 年齢別	女-65～69歳	136	113	23	0	136	
			100.0	83.1	16.9	0.0	100.0
	女-70～74歳	146	112	34	0	146	
			100.0	76.7	23.3	0.0	100.0
	女-75～79歳	139	85	54	0	139	
		100.0	61.2	38.8	0.0	100.0	
	女-80～84歳	115	59	56	0	115	
		100.0	51.3	48.7	0.0	100.0	
	女-85歳以上	16	5	11	0	16	
		100.0	31.3	68.8	0.0	100.0	

上段:人数 下段:割合(%)

[地区別]

		非認定者		無回答	合計	
		一般	総合			
地域包括支援センター おおまがり		257 100.0	178 69.3	79 30.7	0 0.0	257 100.0
性別	男性	124 100.0	86 69.4	38 30.6	0 0.0	124 100.0
性別・ 年齢別	男-65～69歳	27 100.0	22 81.5	5 18.5	0 0.0	27 100.0
	男-70～74歳	31 100.0	23 74.2	8 25.8	0 0.0	31 100.0
	男-75～79歳	29 100.0	18 62.1	11 37.9	0 0.0	29 100.0
	男-80～84歳	29 100.0	18 62.1	11 37.9	0 0.0	29 100.0
	男-85歳以上	8 100.0	5 62.5	3 37.5	0 0.0	8 100.0
	性別	女性	133 100.0	92 69.2	41 30.8	0 0.0
性別・ 年齢別	女-65～69歳	28 100.0	25 89.3	3 10.7	0 0.0	28 100.0
	女-70～74歳	37 100.0	29 78.4	8 21.6	0 0.0	37 100.0
	女-75～79歳	36 100.0	24 66.7	12 33.3	0 0.0	36 100.0
	女-80～84歳	28 100.0	13 46.4	15 53.6	0 0.0	28 100.0
	女-85歳以上	4 100.0	1 25.0	3 75.0	0 0.0	4 100.0

上段:人数 下段:割合(%)

		非認定者		無回答	合計	
		一般	総合			
地域包括支援センター さわたり		263 100.0	173 65.8	90 34.2	0 0.0	263 100.0
性別	男性	117 100.0	78 66.7	39 33.3	0 0.0	117 100.0
性別・ 年齢別	男-65～69歳	25 100.0	16 64.0	9 36.0	0 0.0	25 100.0
	男-70～74歳	29 100.0	21 72.4	8 27.6	0 0.0	29 100.0
	男-75～79歳	28 100.0	21 75.0	7 25.0	0 0.0	28 100.0
	男-80～84歳	31 100.0	16 51.6	15 48.4	0 0.0	31 100.0
	男-85歳以上	4 100.0	4 100.0	0 0.0	0 0.0	4 100.0
	性別	女性	146 100.0	95 65.1	51 34.9	0 0.0
性別・ 年齢別	女-65～69歳	38 100.0	29 76.3	9 23.7	0 0.0	38 100.0
	女-70～74歳	39 100.0	29 74.4	10 25.6	0 0.0	39 100.0
	女-75～79歳	33 100.0	18 54.5	15 45.5	0 0.0	33 100.0
	女-80～84歳	30 100.0	16 53.3	14 46.7	0 0.0	30 100.0
	女-85歳以上	6 100.0	3 50.0	3 50.0	0 0.0	6 100.0

上段:人数 下段:割合(%)

		非認定者		無回答	合計	
		一般	総合			
吉田地区地域包括 支援センター		282 100.0	198 70.2	84 29.8	0 0.0	282 100.0
性別	男性	137 100.0	98 71.5	39 28.5	0 0.0	137 100.0
性別・ 年齢別	男-65～69歳	37 100.0	34 91.9	3 8.1	0 0.0	37 100.0
	男-70～74歳	31 100.0	22 71.0	9 29.0	0 0.0	31 100.0
	男-75～79歳	36 100.0	21 58.3	15 41.7	0 0.0	36 100.0
	男-80～84歳	30 100.0	20 66.7	10 33.3	0 0.0	30 100.0
	男-85歳以上	3 100.0	1 33.3	2 66.7	0 0.0	3 100.0
	性別	女性	145 100.0	100 69.0	45 31.0	0 0.0
性別・ 年齢別	女-65～69歳	36 100.0	31 86.1	5 13.9	0 0.0	36 100.0
	女-70～74歳	36 100.0	27 75.0	9 25.0	0 0.0	36 100.0
	女-75～79歳	37 100.0	26 70.3	11 29.7	0 0.0	37 100.0
	女-80～84歳	33 100.0	15 45.5	18 54.5	0 0.0	33 100.0
	女-85歳以上	3 100.0	1 33.3	2 66.7	0 0.0	3 100.0

上段:人数 下段:割合(%)

		非認定者		無回答	合計	
		一般	総合			
分水地区地域包括 支援センター		257 100.0	187 72.8	70 27.2	0 0.0	257 100.0
性別	男性	129 100.0	100 77.5	29 22.5	0 0.0	129 100.0
性別・ 年齢別	男-65～69歳	35 100.0	30 85.7	5 14.3	0 0.0	35 100.0
	男-70～74歳	30 100.0	23 76.7	7 23.3	0 0.0	30 100.0
	男-75～79歳	34 100.0	26 76.5	8 23.5	0 0.0	34 100.0
	男-80～84歳	27 100.0	19 70.4	8 29.6	0 0.0	27 100.0
	男-85歳以上	3 100.0	2 66.7	1 33.3	0 0.0	3 100.0
	性別	女性	128 100.0	87 68.0	41 32.0	0 0.0
性別・ 年齢別	女-65～69歳	34 100.0	28 82.4	6 17.6	0 0.0	34 100.0
	女-70～74歳	34 100.0	27 79.4	7 20.6	0 0.0	34 100.0
	女-75～79歳	33 100.0	17 51.5	16 48.5	0 0.0	33 100.0
	女-80～84歳	24 100.0	15 62.5	9 37.5	0 0.0	24 100.0
	女-85歳以上	3 100.0	0 0.0	3 100.0	0 0.0	3 100.0

上段:人数 下段:割合(%)

3 世帯構成

		1人暮らし	夫婦2人暮らし(配偶者65歳以上)	夫婦2人暮らし(配偶者64歳以下)	息子・娘との2世帯	その他	無回答	合計
全体		118 11.1	318 30.0	44 4.2	322 30.4	241 22.8	16 1.5	1,059 100.0
性別	男性	31 6.1	176 34.7	33 6.5	149 29.4	108 21.3	10 2.0	507 100.0
	女性	87 15.8	142 25.7	11 2.0	173 31.3	133 24.1	6 1.1	552 100.0

上段:人数 下段:割合(%)

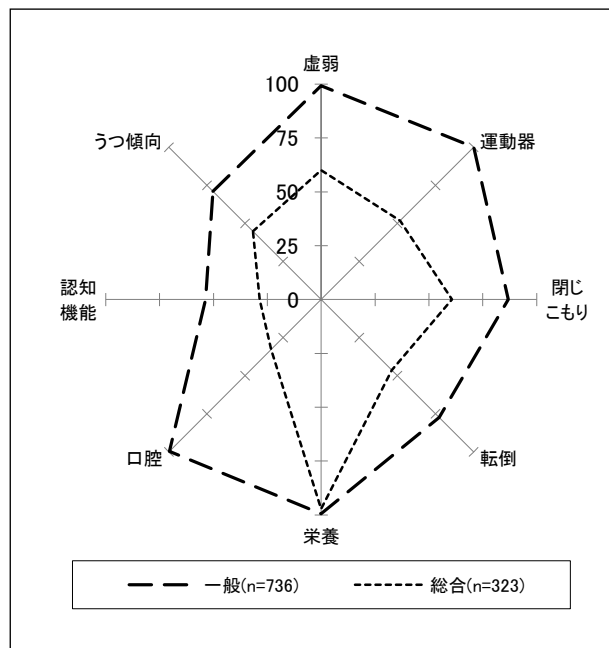
3 調査結果の概要

1 機能

(1) 項目別評価結果

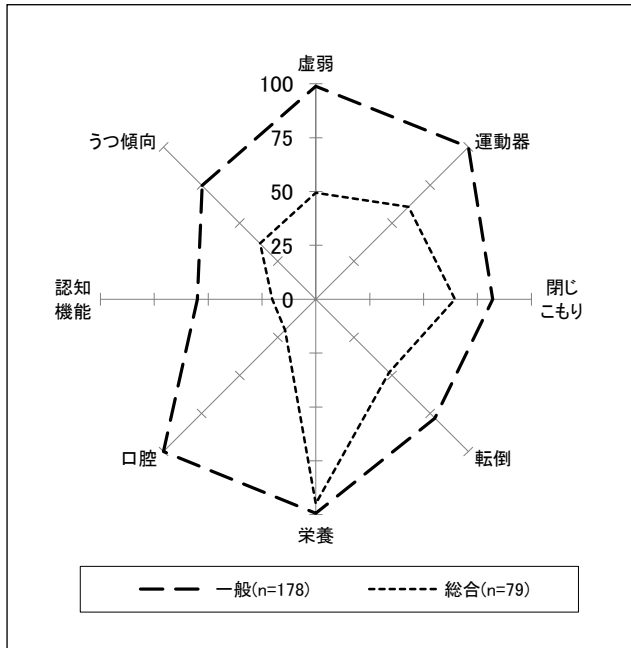
生活機能の評価項目ごとの非該当者（リスクなし）の割合をみると、ほぼすべての項目で総合事業の対象にもならない一般高齢者の割合が高くなっていますが、総合事業対象者選定の直接の条件になっていない閉じこもり傾向、転倒リスク、認知機能の低下、うつ傾向については、総合事業対象者に比べて率は低いものの、一般高齢者の中にも該当者（リスク者）がいることが考えられます。

図表 3-1-1 生活機能（非該当・リスクなしの割合）

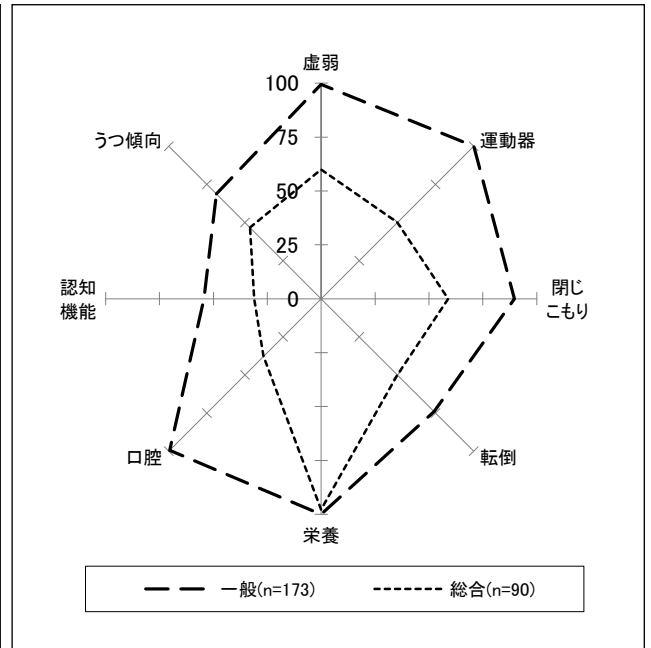


[地区別]

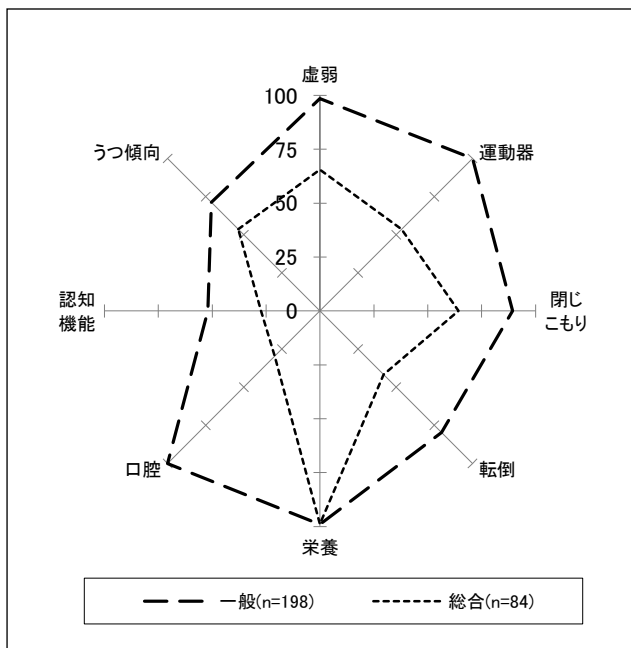
(おおまがり)



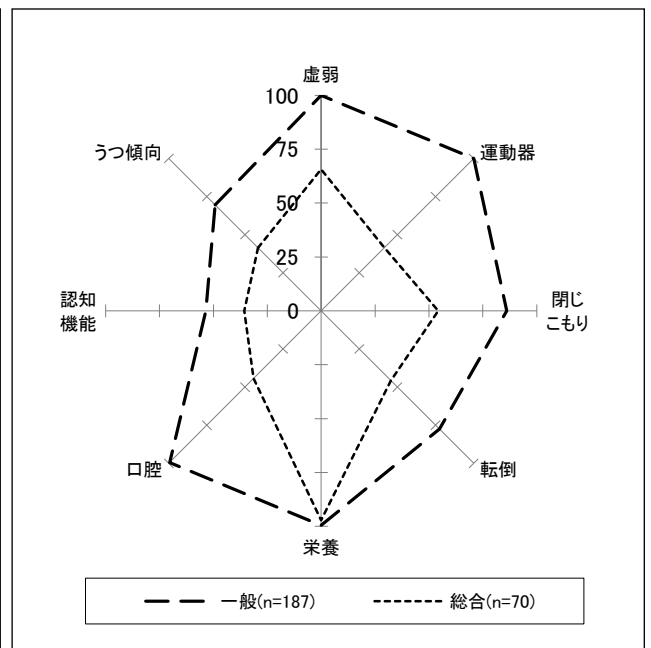
(さわたり)



(吉田地区)



(分水地区)

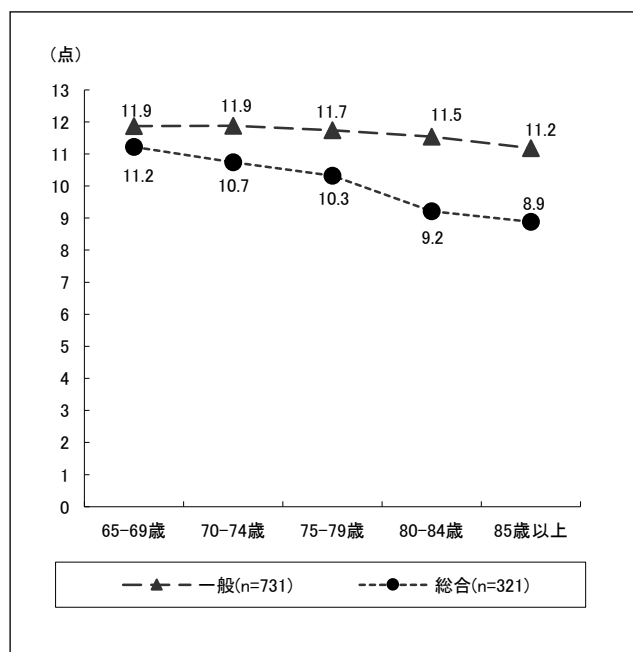


2 日常生活

(1) 老研式活動能力指標

IADLを中心とした高齢者の比較的高次の生活機能の指標として定着している老研式活動能力指標（13項目）について、その生活機能得点（平均）をみると、すべての年代で総合事業対象者より一般高齢者が高くなっており、年齢が上がるほどその得点は低下する傾向にあります。

図表 3-2-1 リスク該当状況別生活機能



4 評価項目別の結果

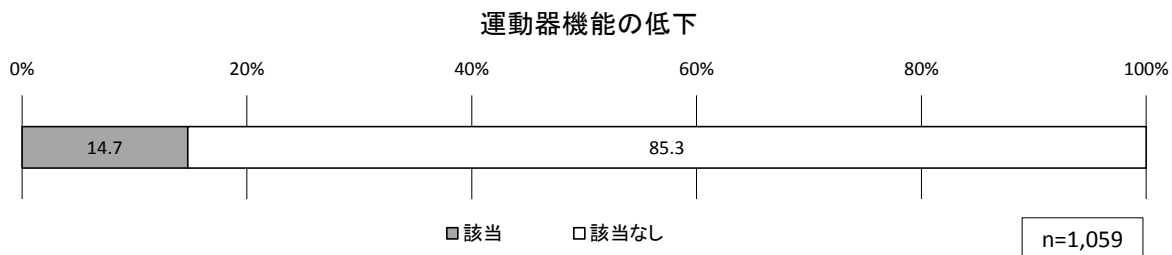
1 機能

(1) 運動器機能の低下

① 評価と該当状況

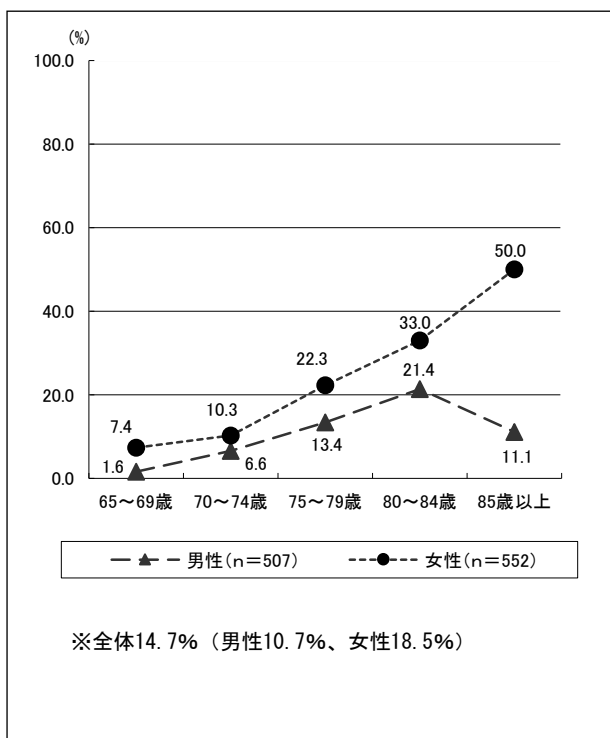
○ 運動器機能の低下については、関連する設問5問（問2(1)～(5)）に対する回答結果からリスク状況への評価を行っています。

○ 運動器機能の低下の評価結果をみると、男性より女性のほうが、また年齢が上がるほど該当者割合が高くなっています。



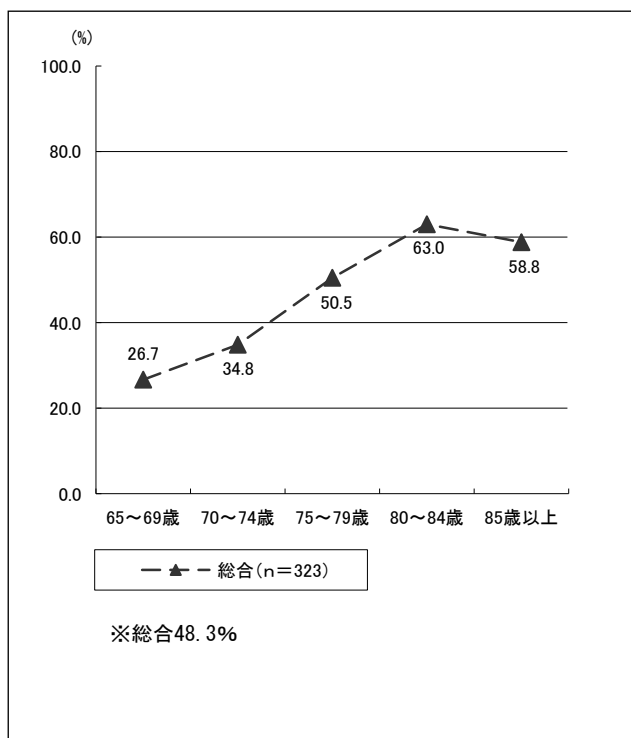
図表4-1-1 該当者割合

(性・年齢階級別)

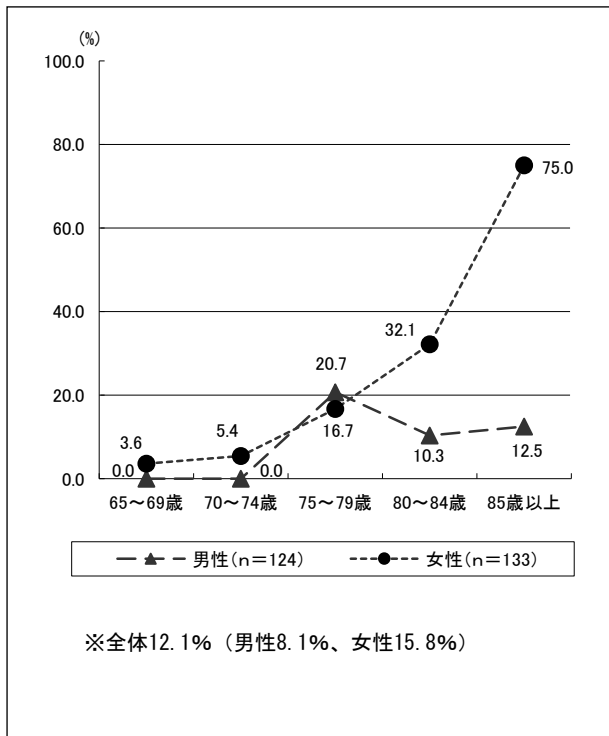


図表4-1-2 該当者割合

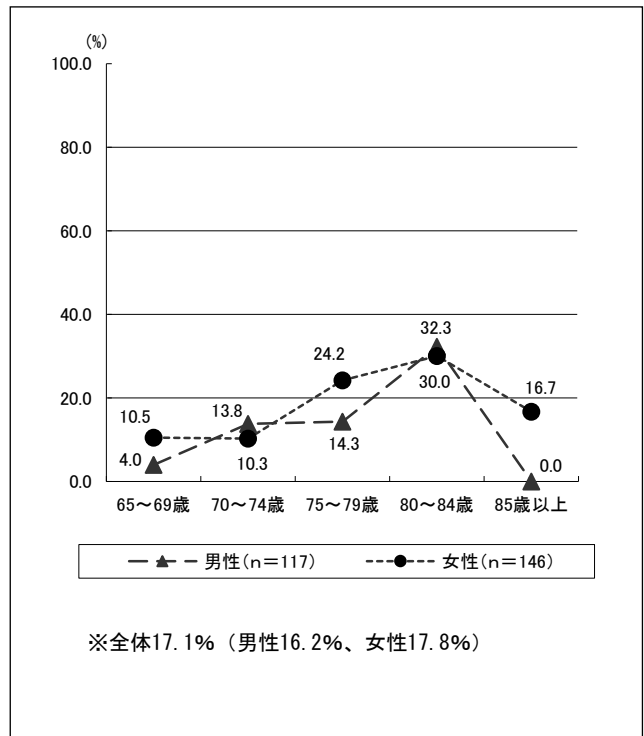
(リスク該当状況・年齢階級別)



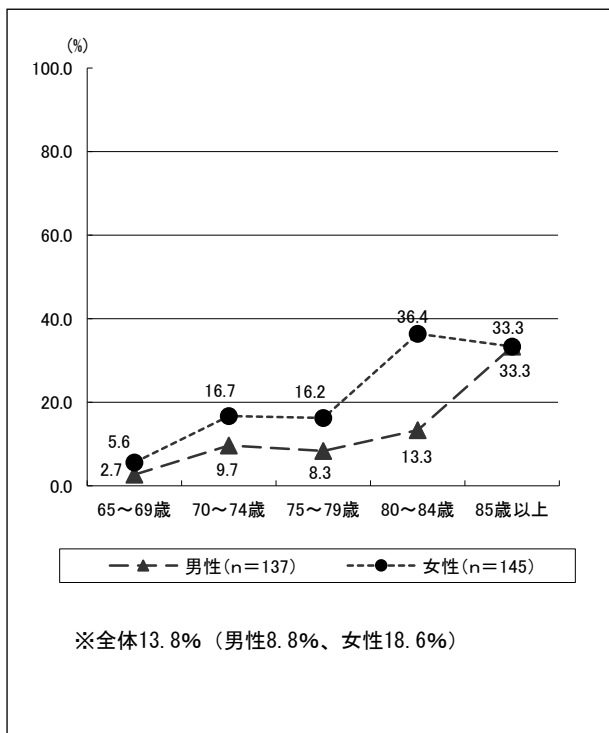
[地区別] 運動器機能の低下-1
 該当者割合 (性・年齢階級別)
 (おおまがり)



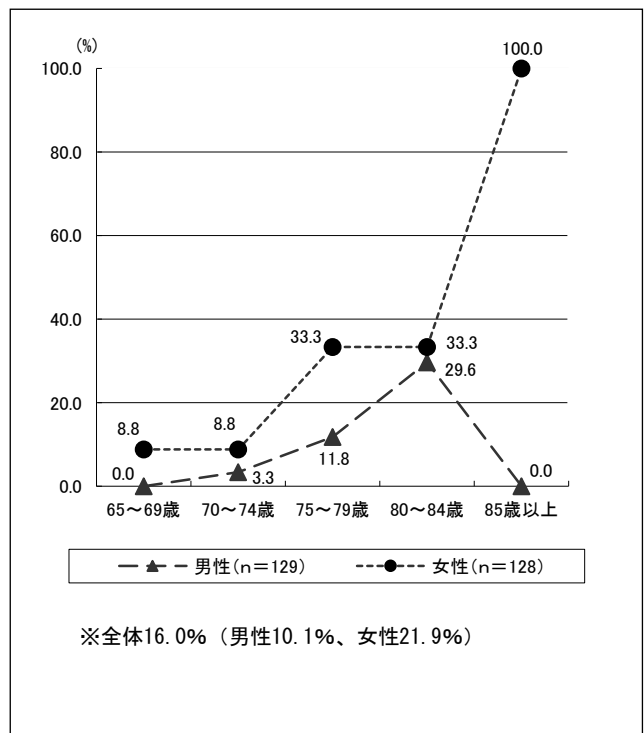
(さわたり)



(吉田地区)



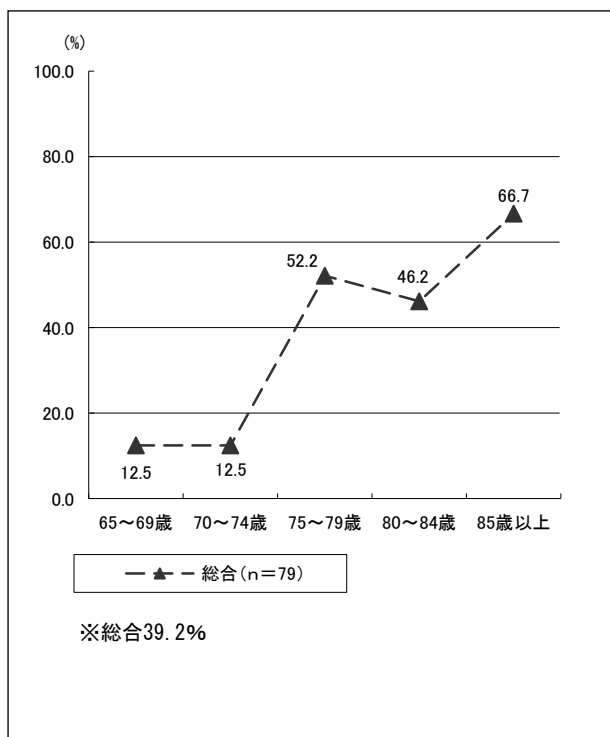
(分水地区)



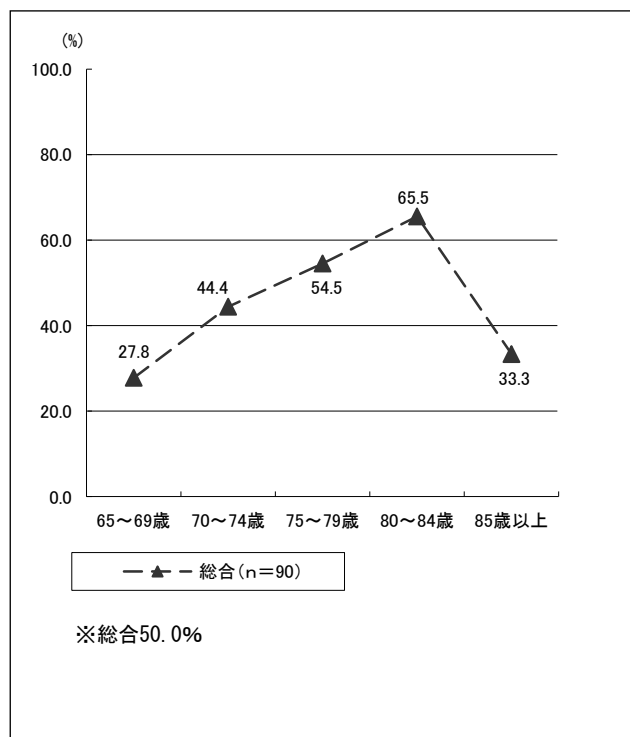
[地区別] 運動器機能の低下-2

該当者割合 (リスク該当状況・年齢階級別)

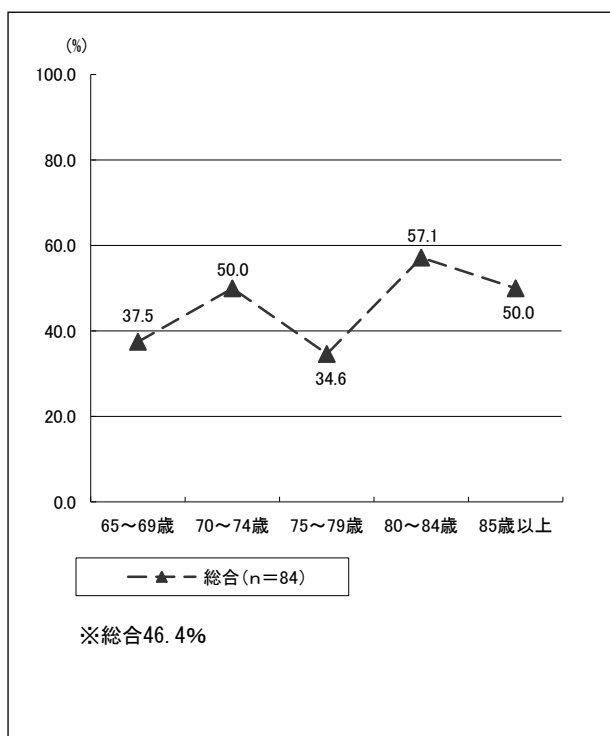
(おおまがり)



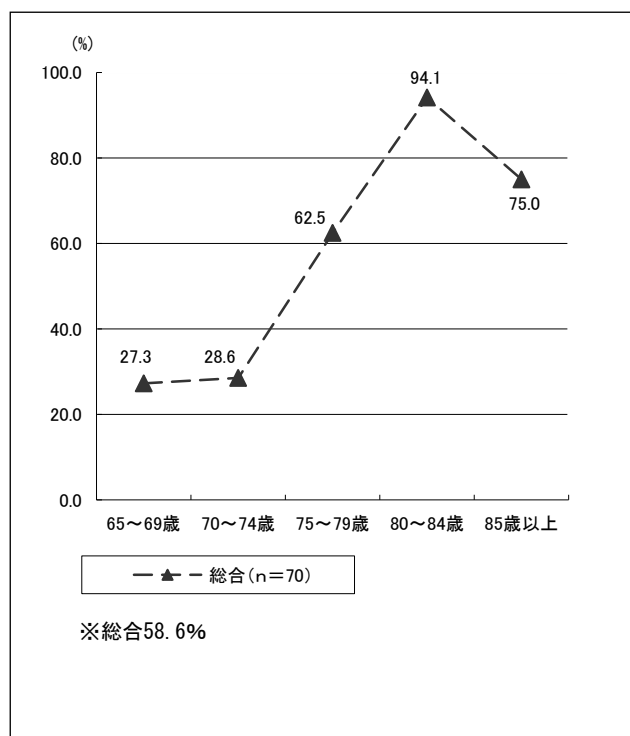
(さわたり)



(吉田地区)



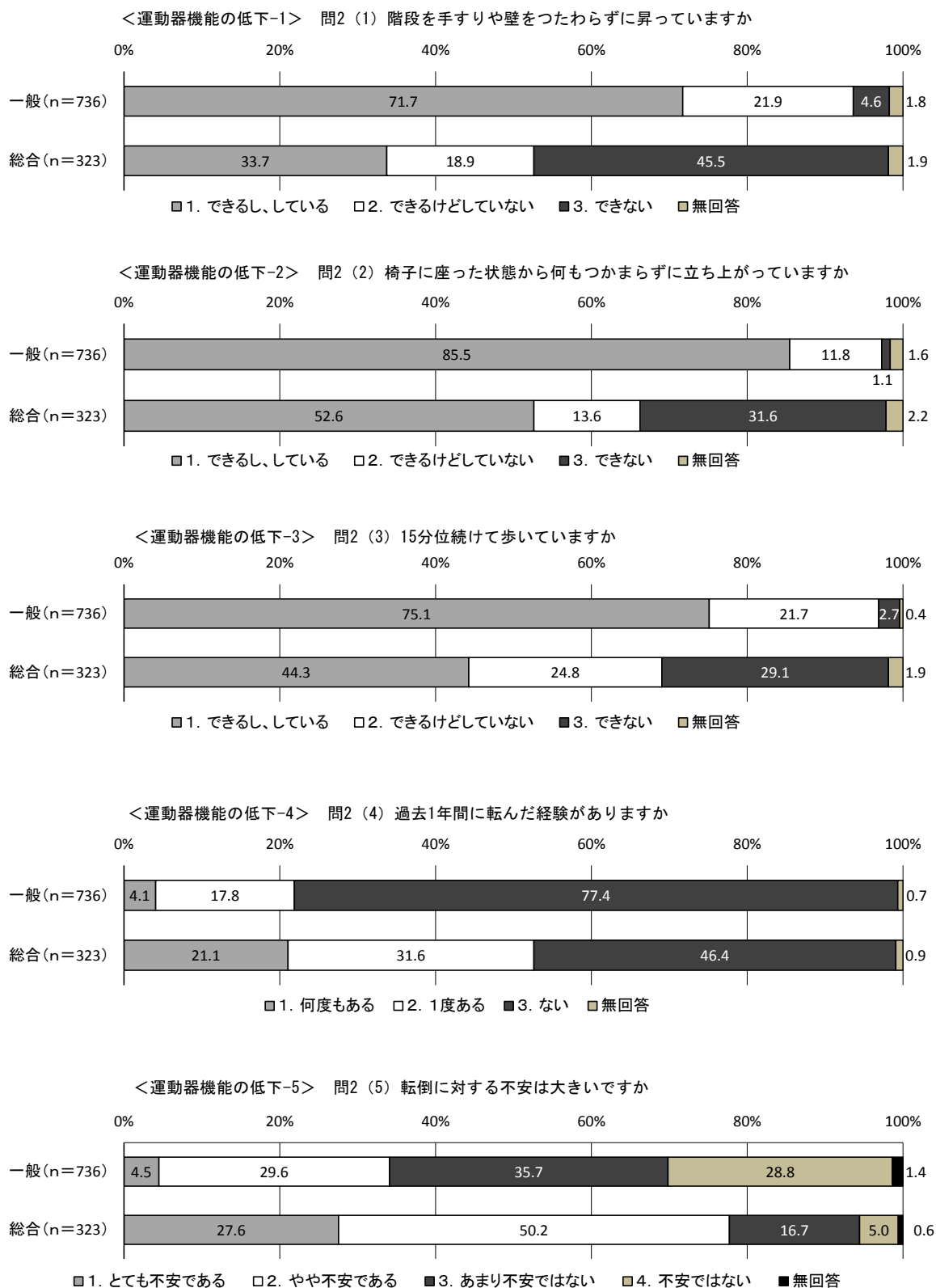
(分水地区)



②回答状況

○評価の基礎になった設問に対する回答結果をリスク該当状況別にみると、各設問で一般高齢者と総合事業対象者では一定の差がみられます。問2(1)～(3)に対する回答では「できない」の割合に特に大きな差がみられます。

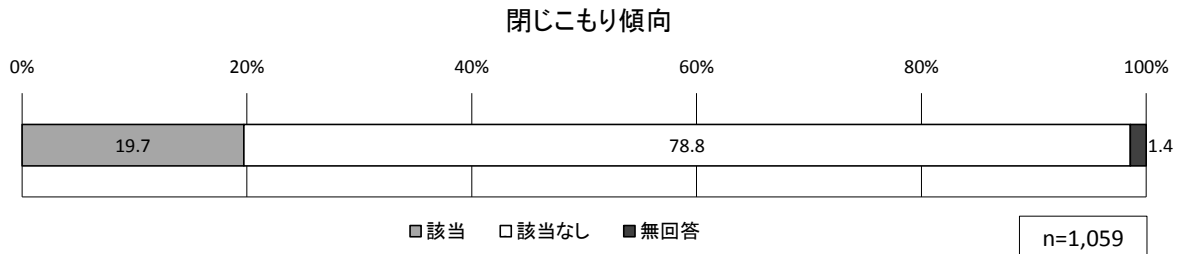
図表 4-1-3 回答結果



(2)閉じこもり傾向

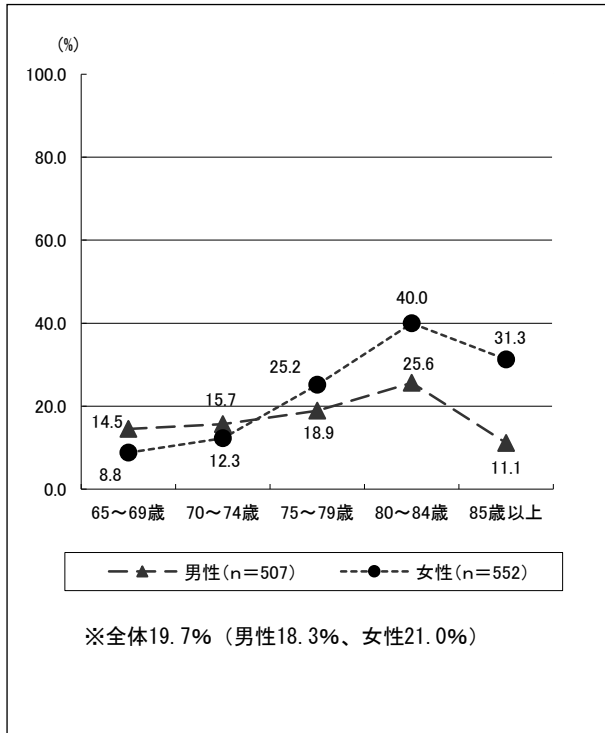
①評価と該当状況

- 閉じこもり傾向については、関連する設問1問（問2(6)）に対する回答結果からリスク状況についての評価を行っています。
- 閉じこもり傾向の該当状況をみると、男女別では80歳以上で大きく差が出ているようです。
- リスク該当状況別にみると、総合事業対象者の該当率が高くなっています。



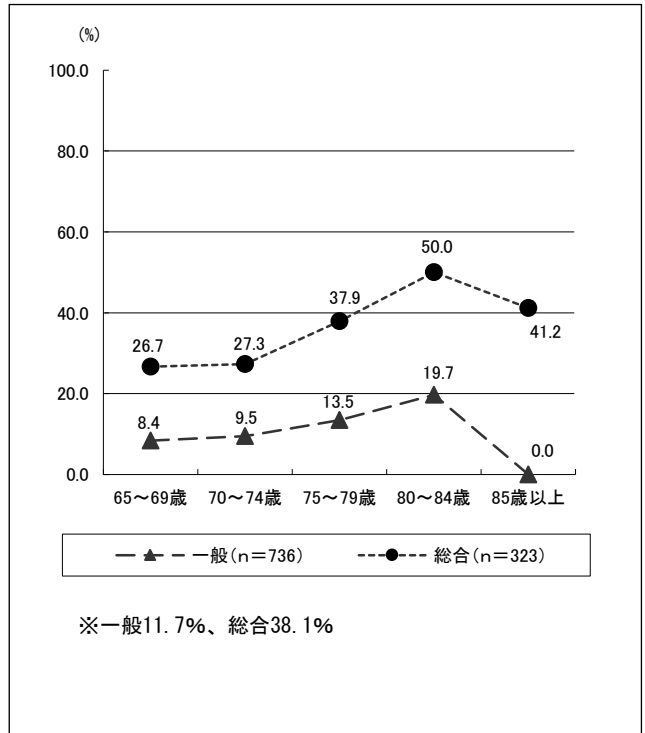
図表4-1-4 該当者割合

(性・年齢階級別)

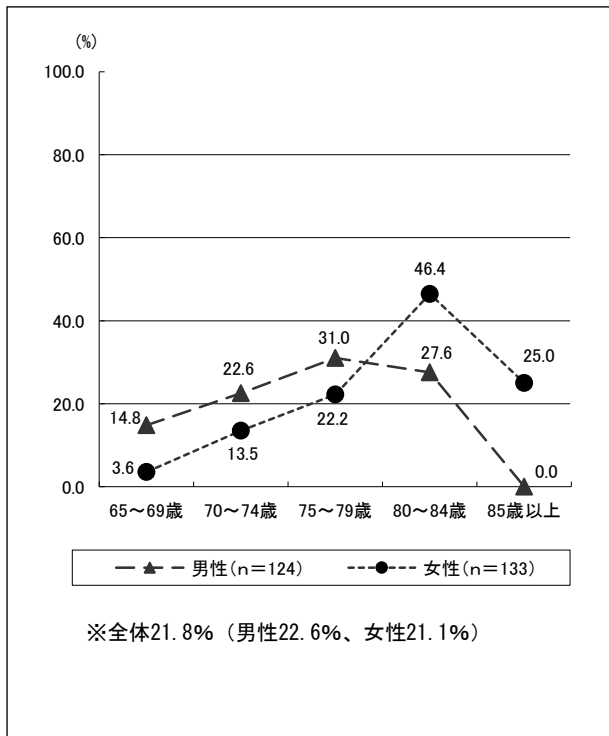


図表4-1-5 該当者割合

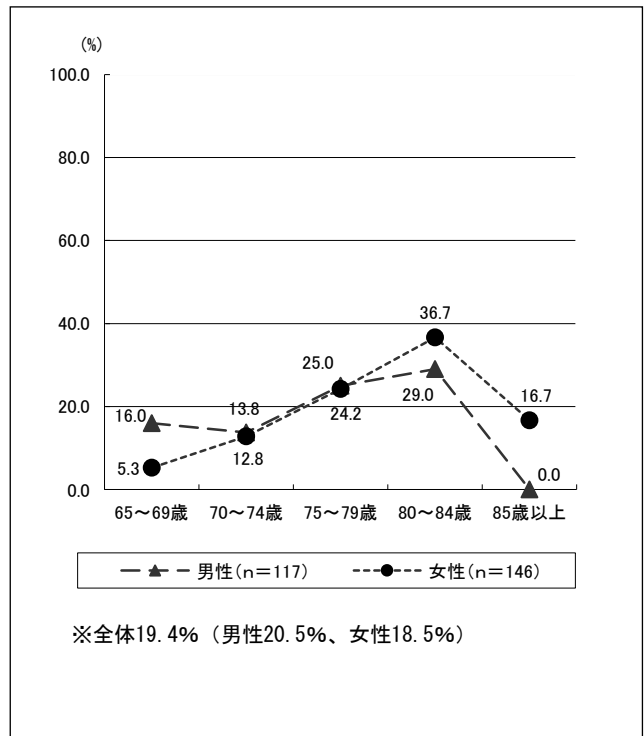
(リスク該当状況・年齢階級別)



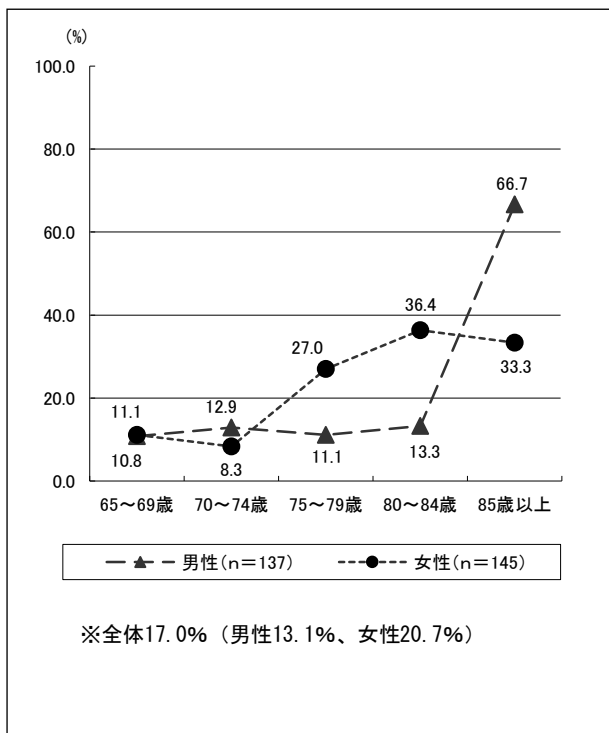
[地区別] 閉じこもり傾向-1
 該当者割合 (性・年齢階級別)
 (おおまがり)



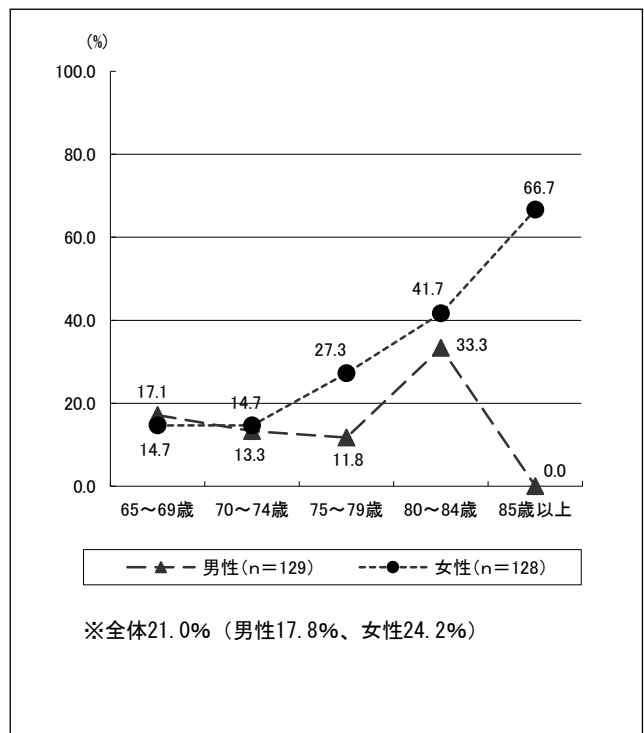
(さわたり)



(吉田地区)



(分水地区)

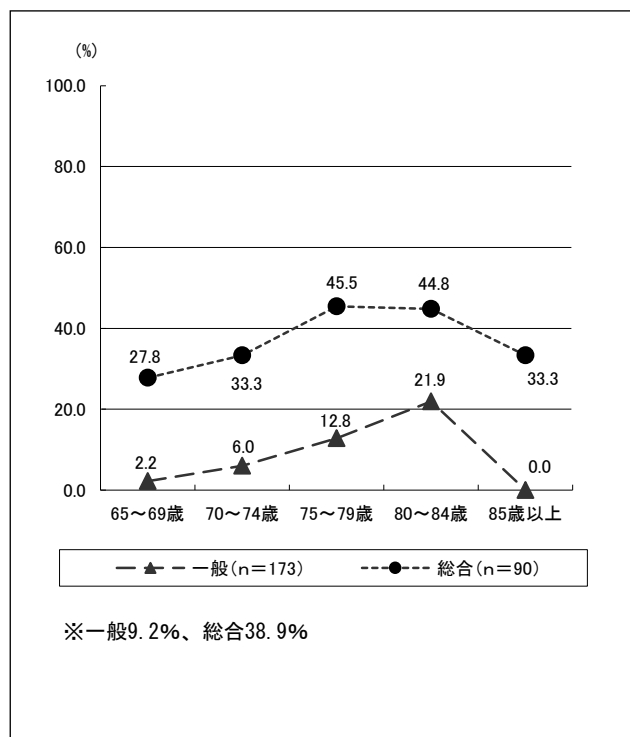
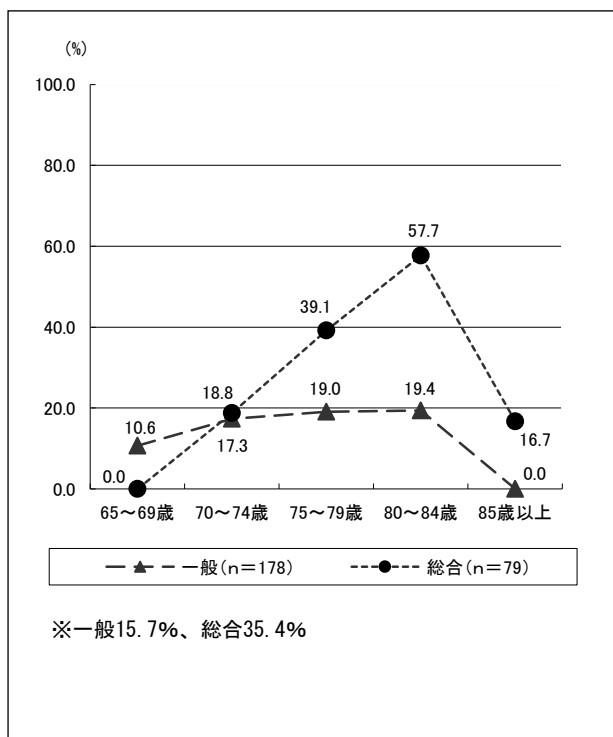


[地区別] 閉じこもり傾向-2

該当者割合 (リスク該当状況・年齢階級別)

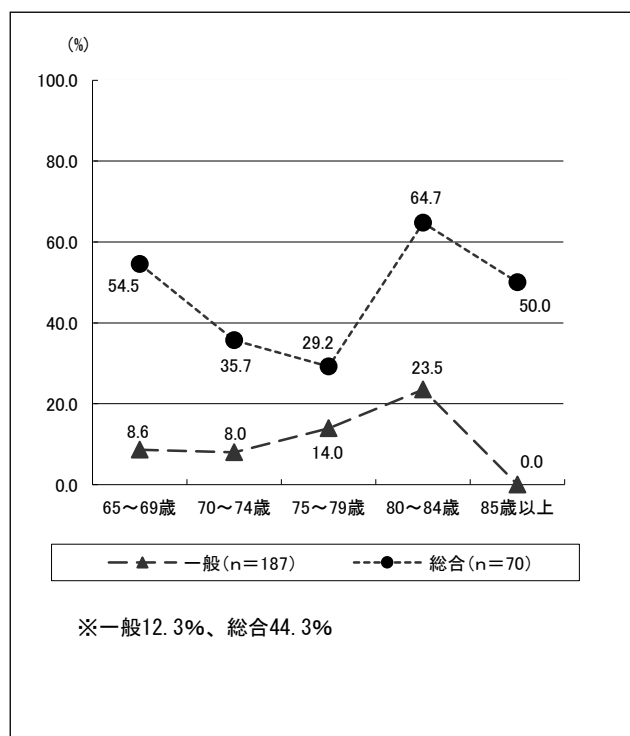
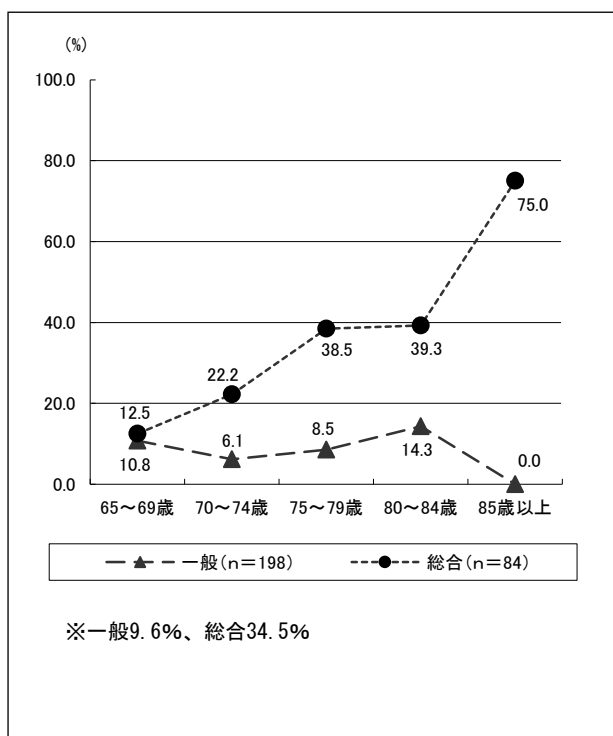
(おおまがり)

(さわたり)



(吉田地区)

(分水地区)

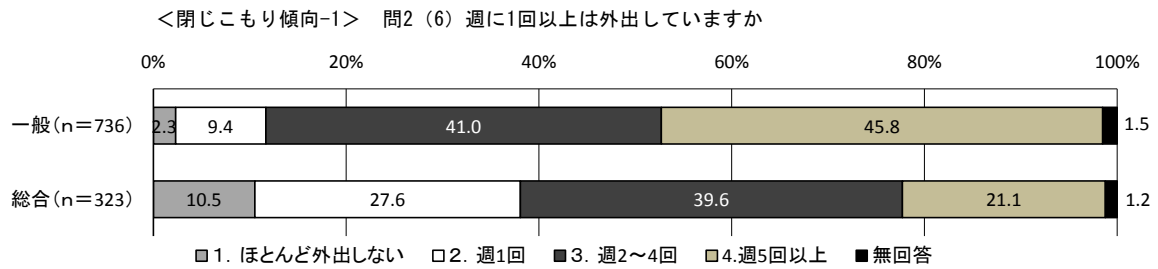


②回答状況

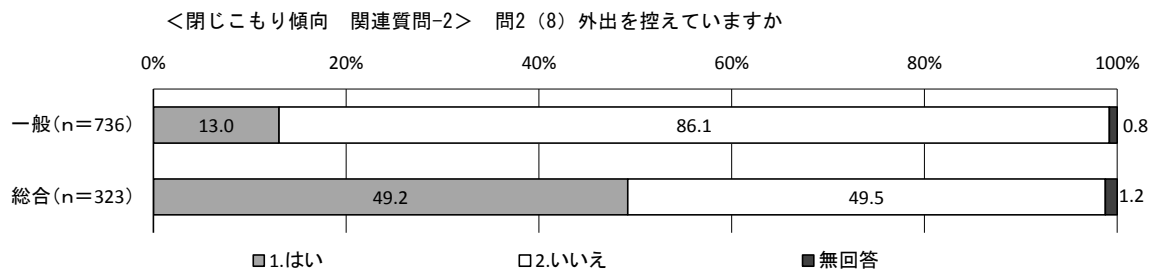
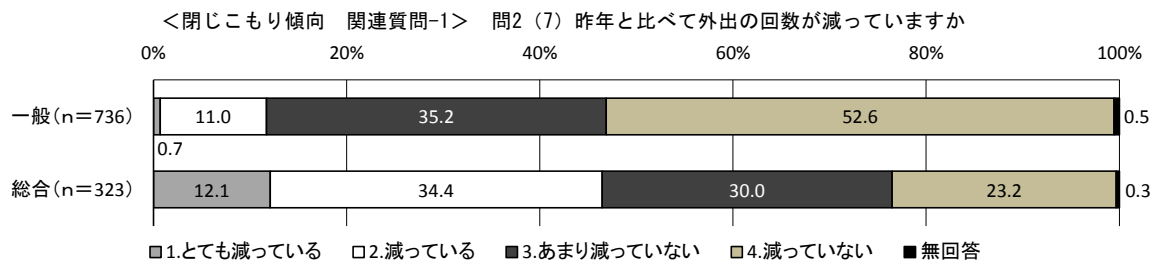
○評価の基礎になった設問に対する回答結果をリスク該当状況別に比較してみると、一般高齢者と総合事業対象者では「ほとんど外出しない」「週1回」及び「週5回以上」の割合に大きな差がみられます。

○関連する設問の回答をみると、総合事業対象者は「病気」や「足腰などの痛み」で外出を控えている割合が高くなっています。

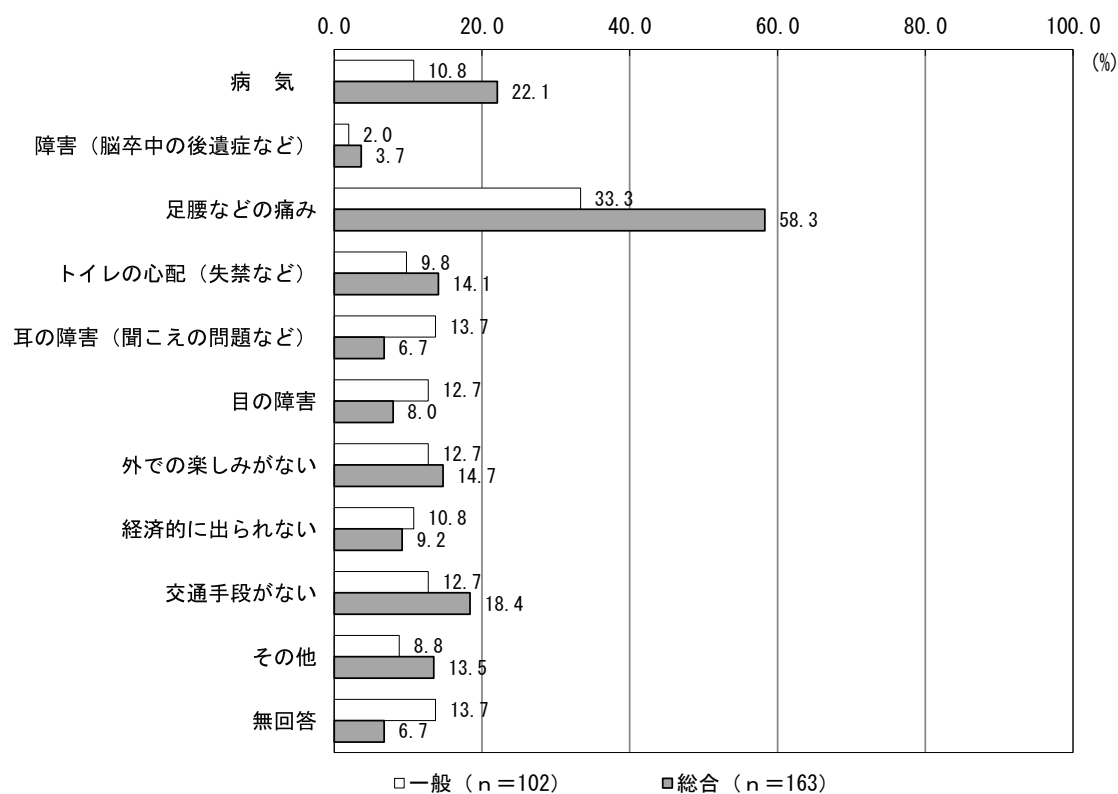
図表 4-1-6 回答結果



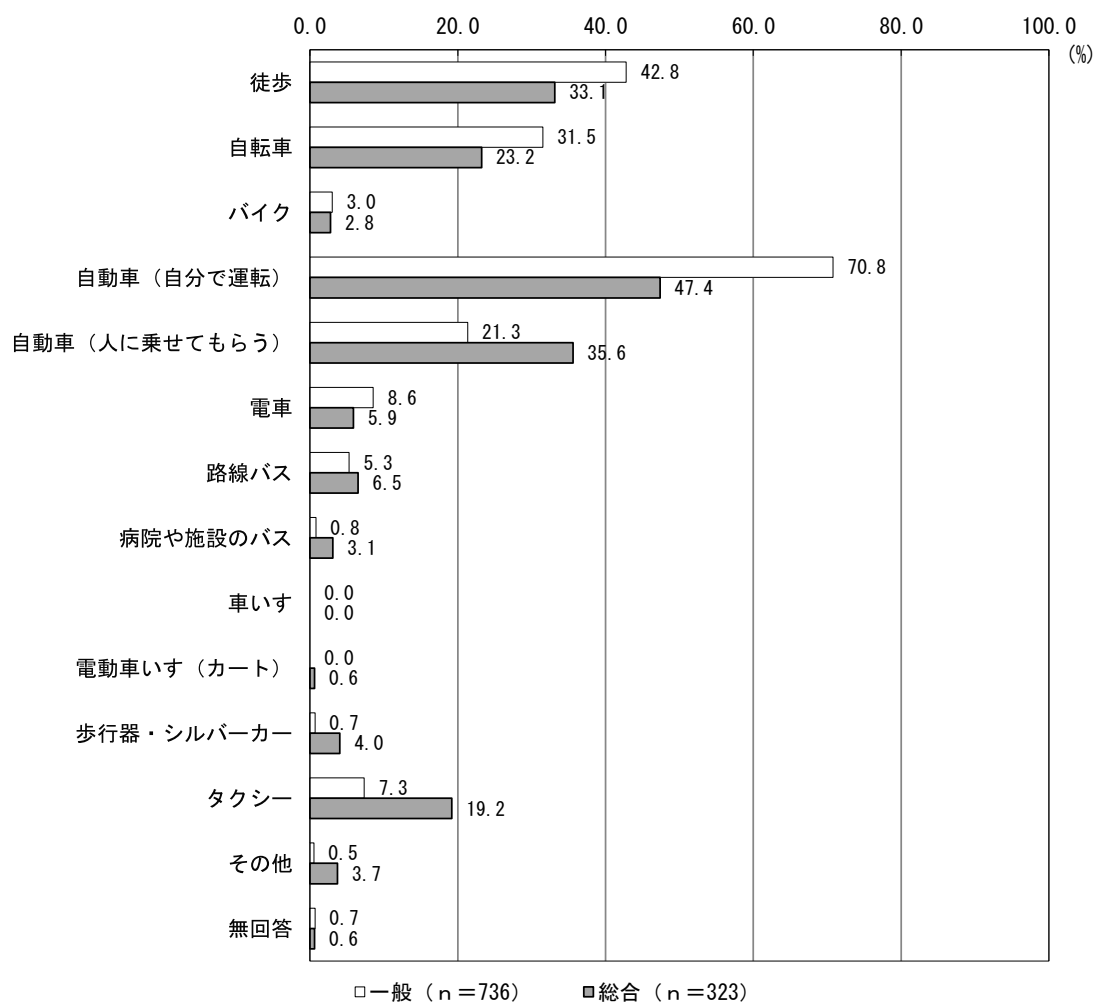
<関連質問>



<閉じこもり傾向 関連質問-3> 問2(8)① 外出を控えている理由は、次のどれですか(いくつでも)



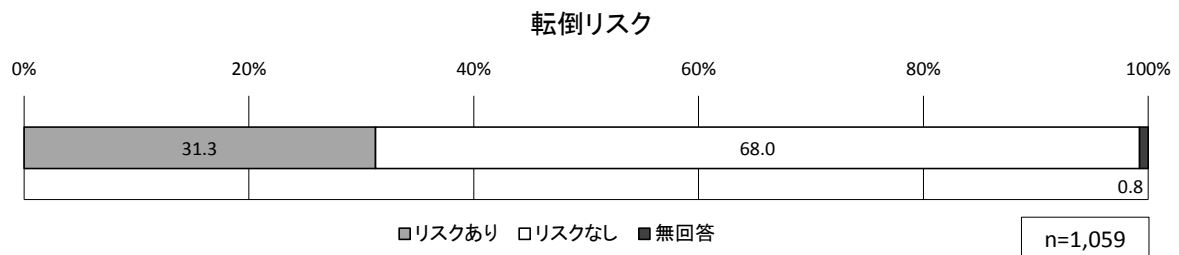
<閉じこもり傾向 関連質問-4> 問2(9) 外出する際の移動手段は何ですか(いくつでも)



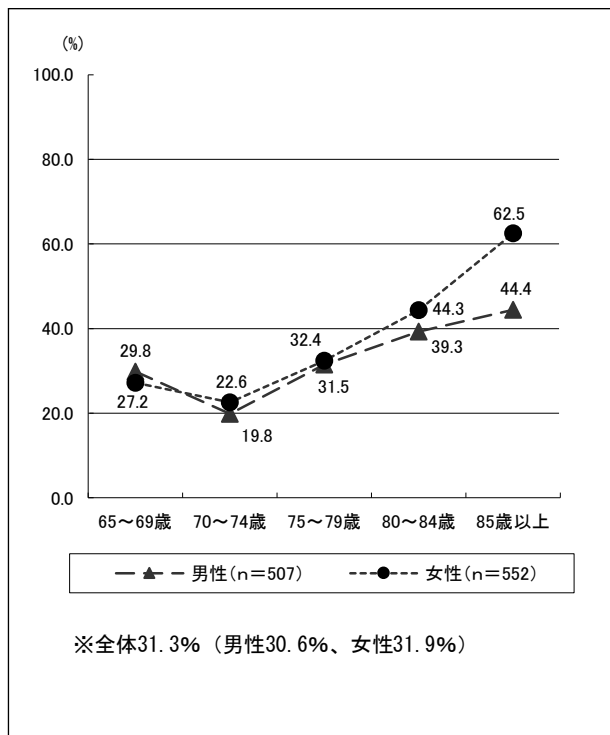
(3)転倒リスク

①評価と該当状況

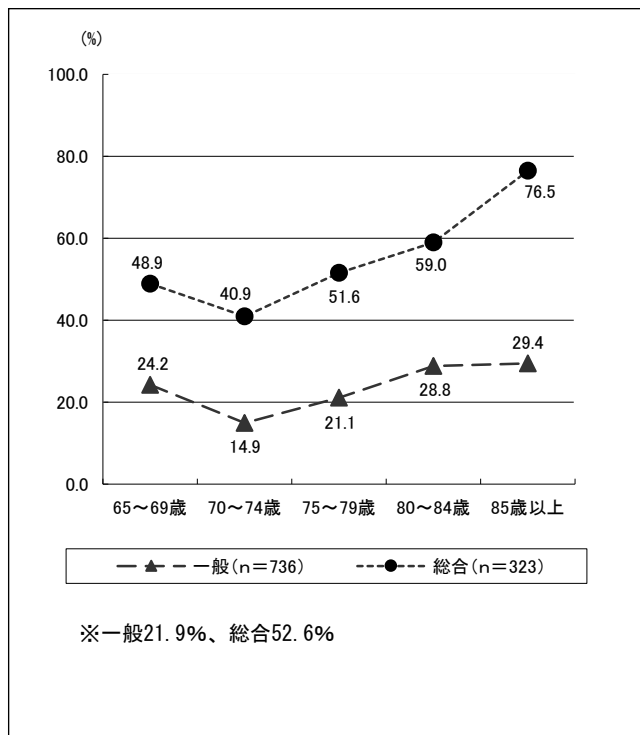
- 転倒リスクについては、関連する設問1問（問2(4)）に対する回答結果からリスク状況への評価を行っています。
- 転倒リスクのリスク者割合をみると、男性より女性のリスク者割合がわずかに高く、その差は年齢が上がるほど大きくなっています。
- リスク該当状況別にみると、一般高齢者よりも総合事業対象者のリスク者割合が高くなっています。



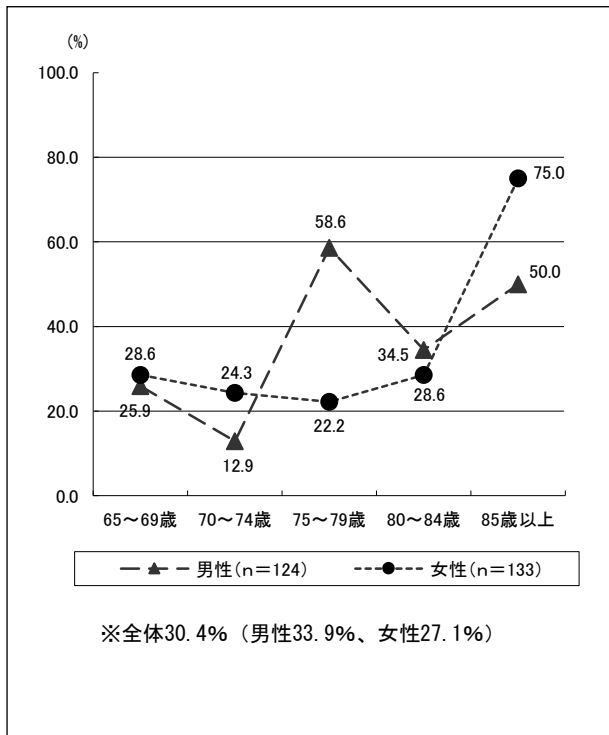
図表 4-1-7 リスク者割合
(性・年齢階級別)



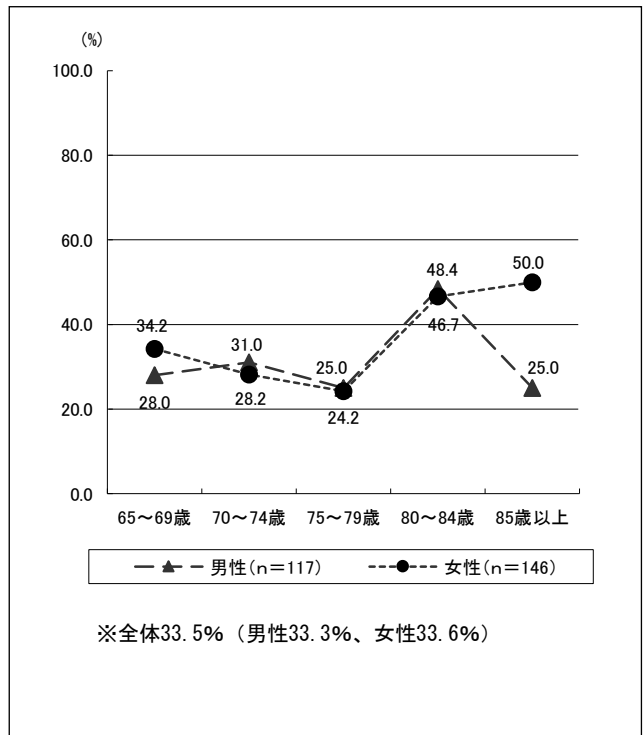
図表 4-1-8 リスク者割合
(リスク該当状況・年齢階級別)



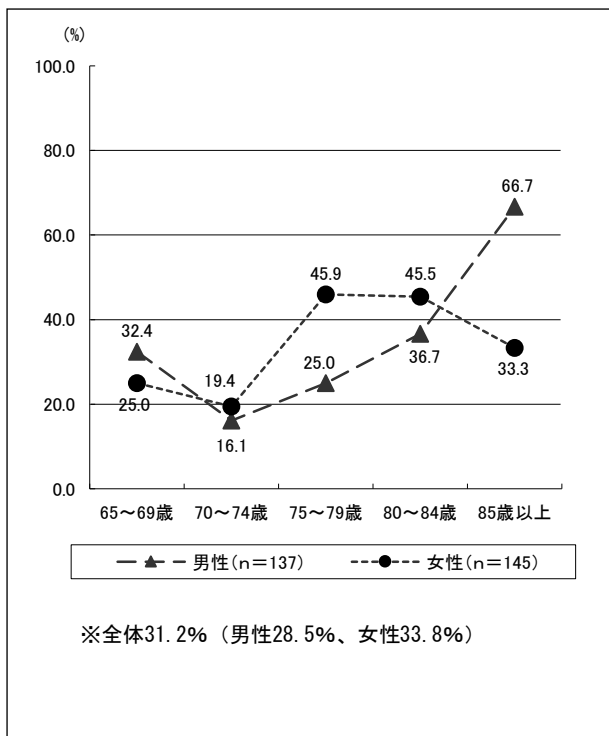
[地区別] 転倒リスク-1
 該当者割合 (性・年齢階級別)
 (おおまがり)



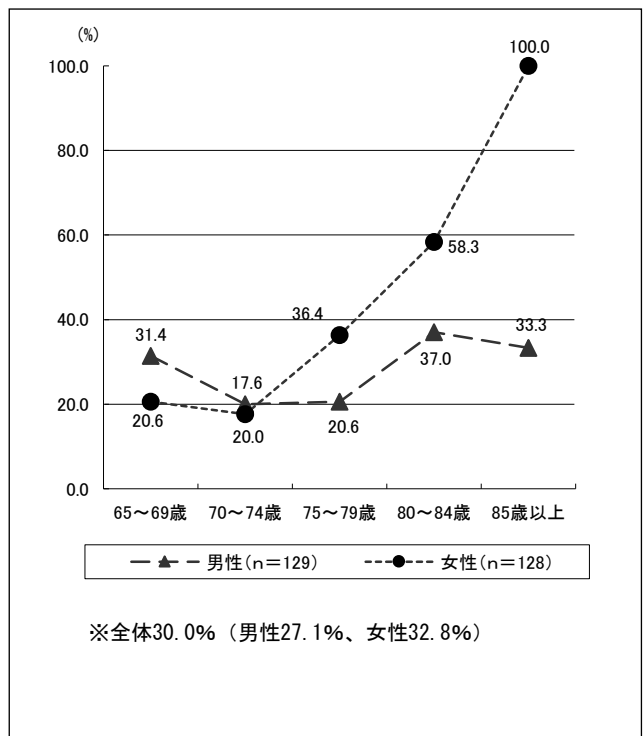
(さわたり)



(吉田地区)



(分水地区)

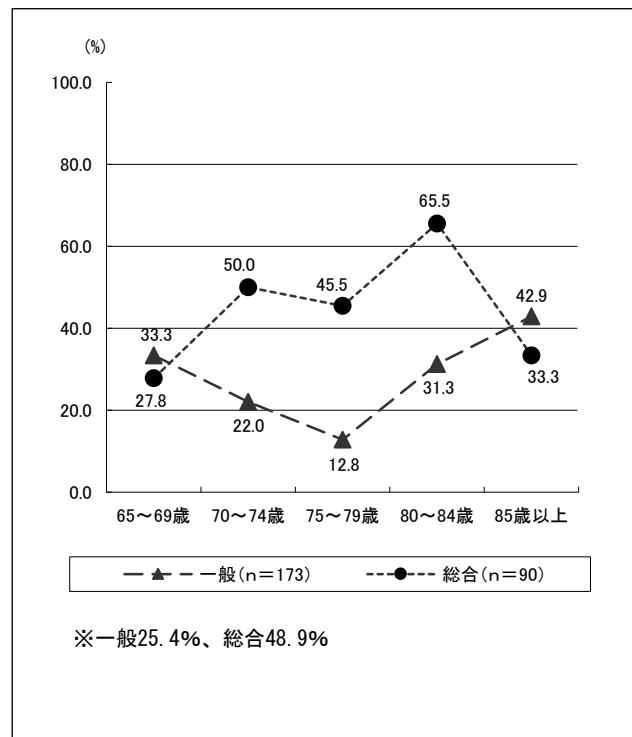
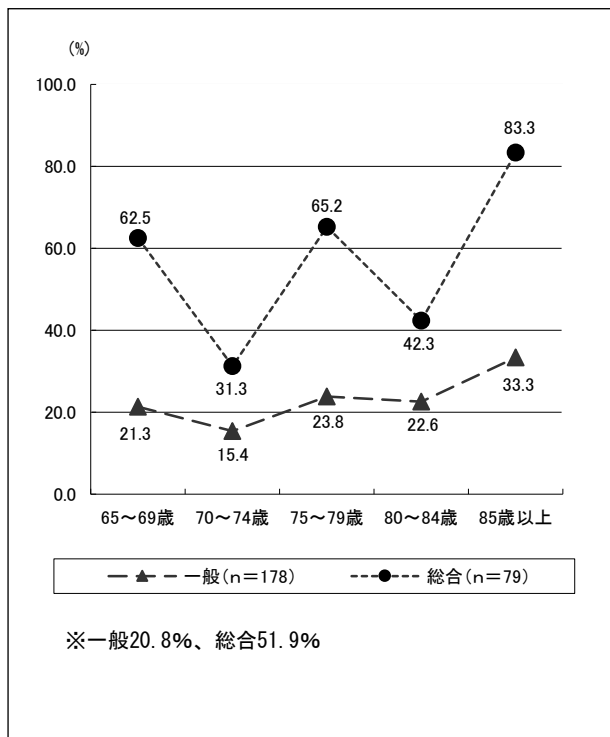


[地区別] 転倒リスク-2

該当者割合（リスク該当状況・年齢階級別）

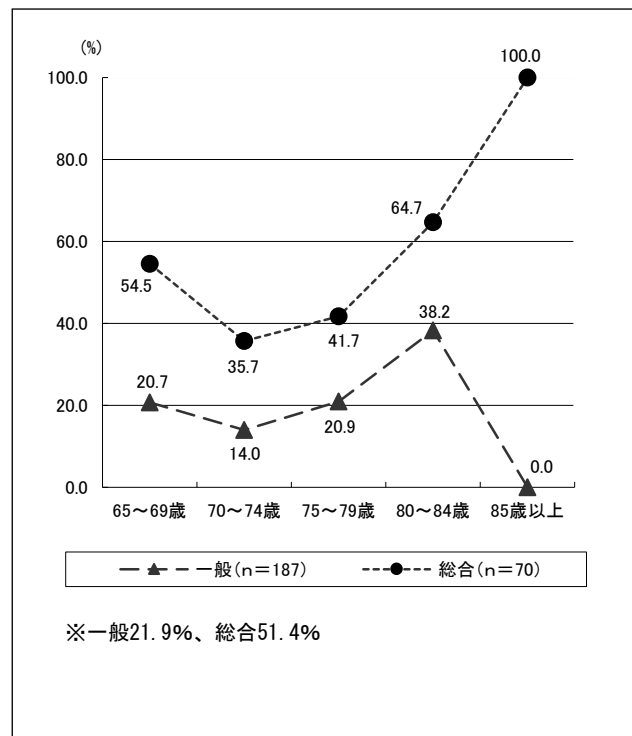
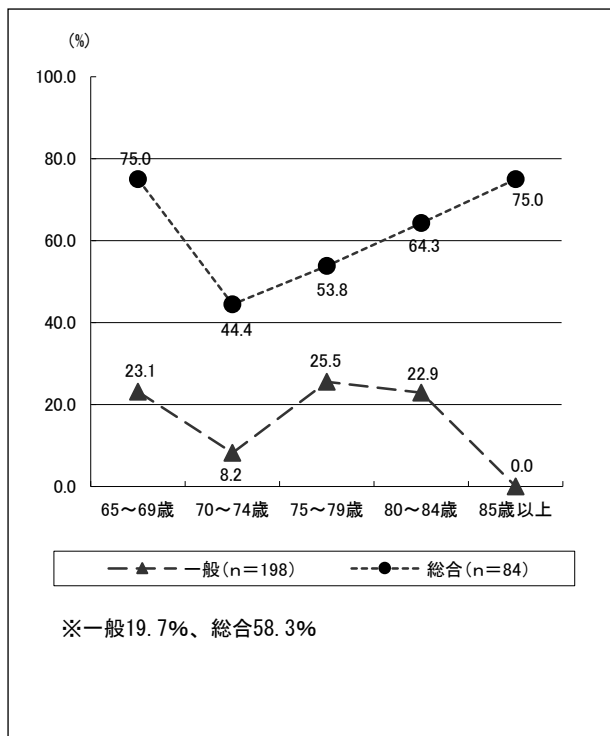
(おおまがり)

(さわたり)



(吉田地区)

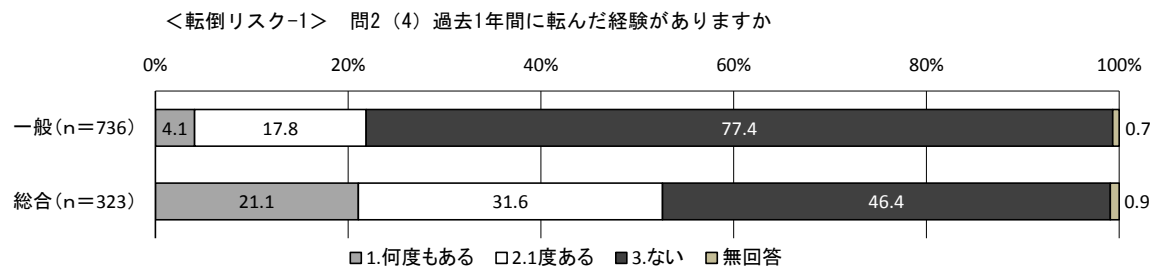
(分水地区)



②回答状況

○評価の基礎になった設問に対する回答結果をみると、総合事業対象者は過去1年間に転んだ経験が「何度もある」の割合が高くなっています。

図表 4-1-9 回答結果

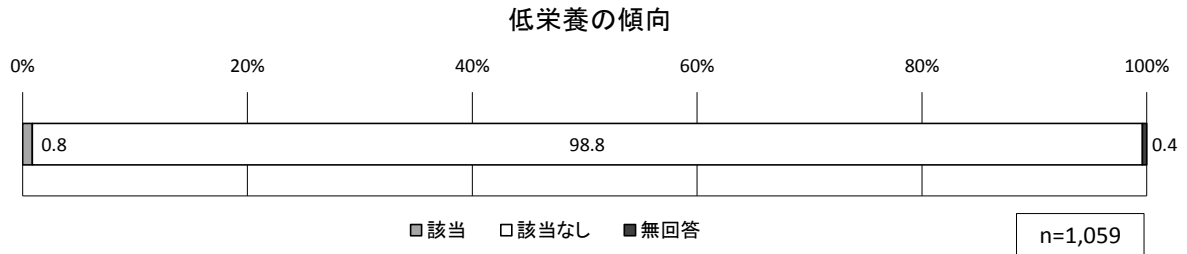


(4)低栄養の傾向

①評価と該当状況

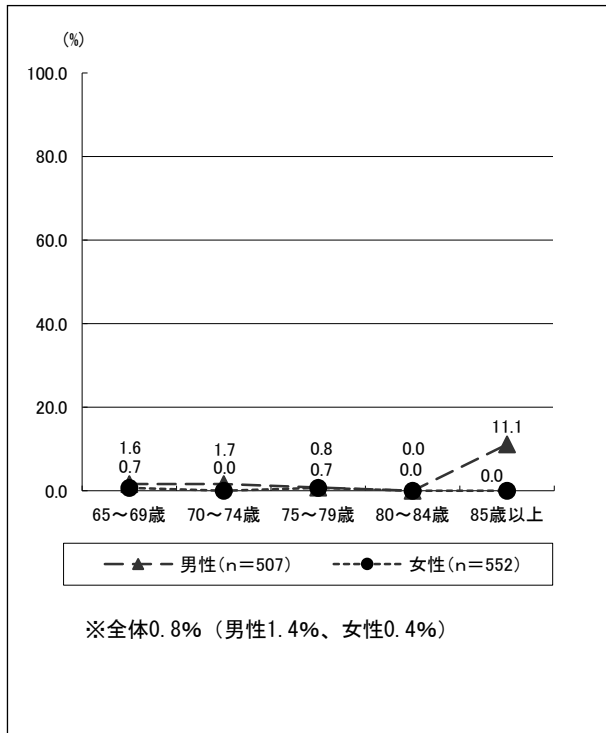
○低栄養の傾向については、関連する設問2問（問3(1)(7)）に対する回答からリスク状況への評価を行っています。

○低栄養の傾向の該当状況をみると、該当者割合は他の項目に比べて非常に低くなっています。



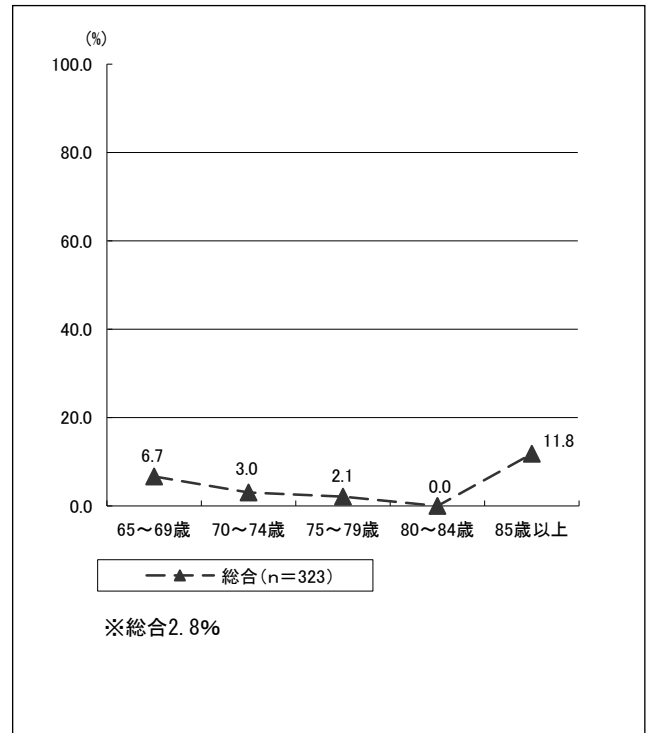
図表 4-1-10 該当者割合

(性・年齢階級別)



図表 4-1-11 該当者割合

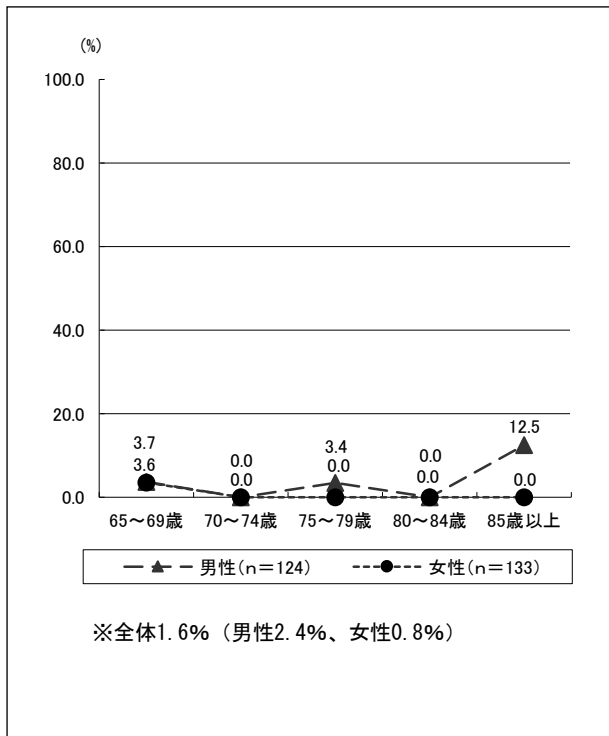
(リスク該当状況・年齢階級別)



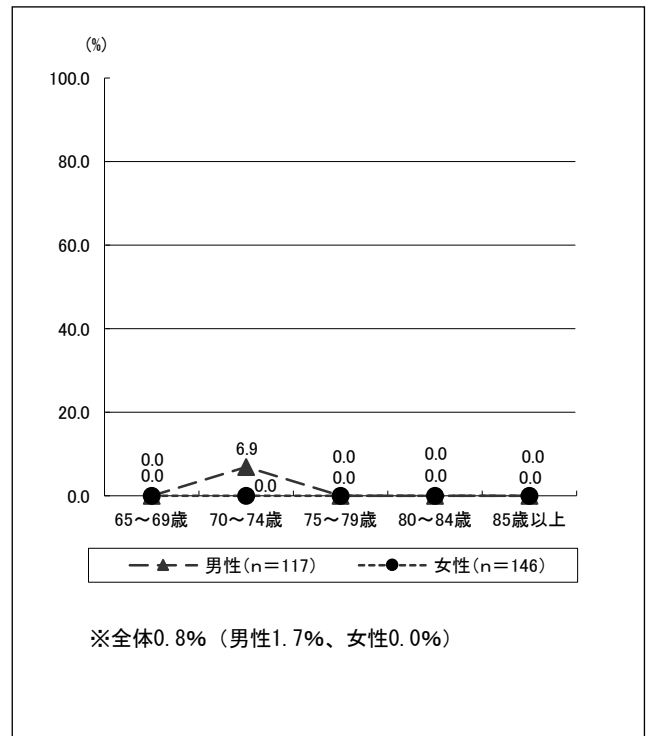
[地区別] 低栄養の傾向-1

該当者割合 (性・年齢階級別)

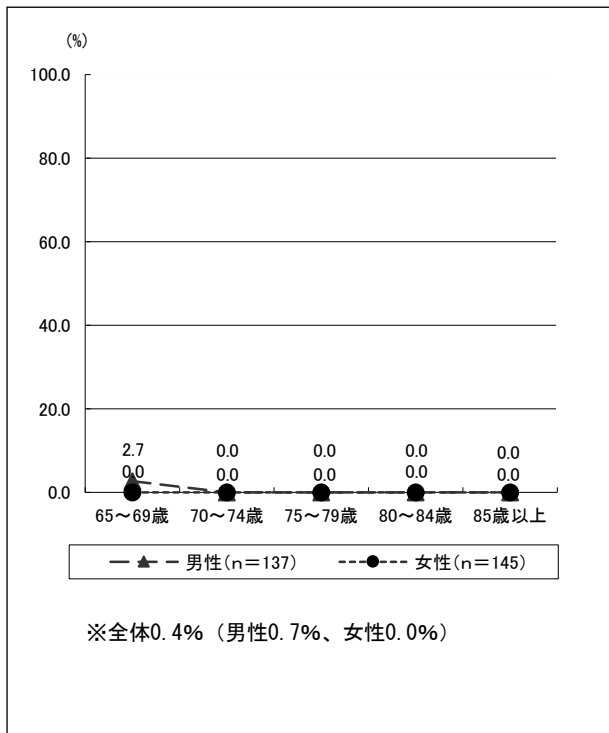
(おおまがり)



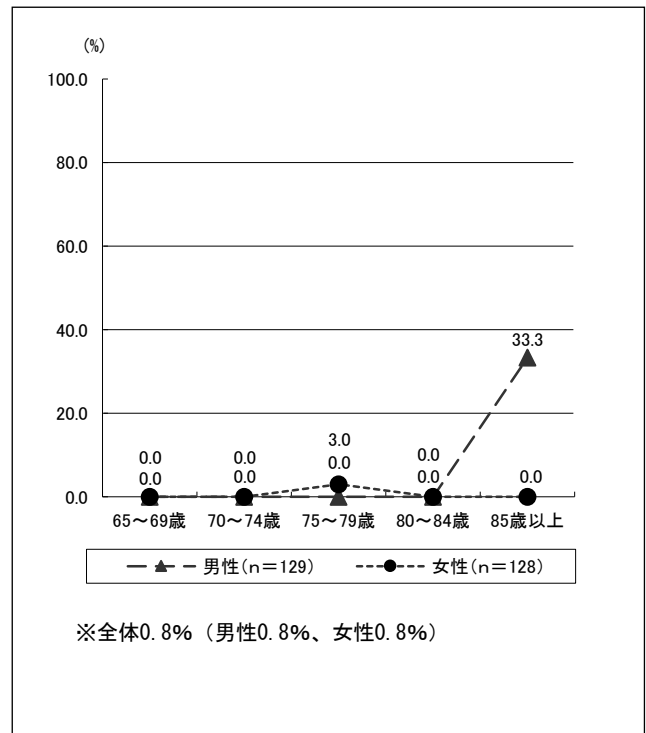
(さわたり)



(吉田地区)



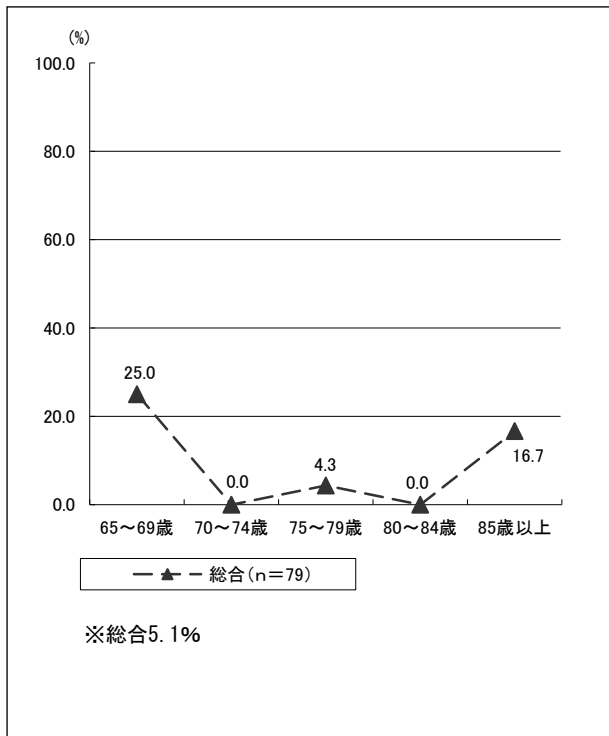
(分水地区)



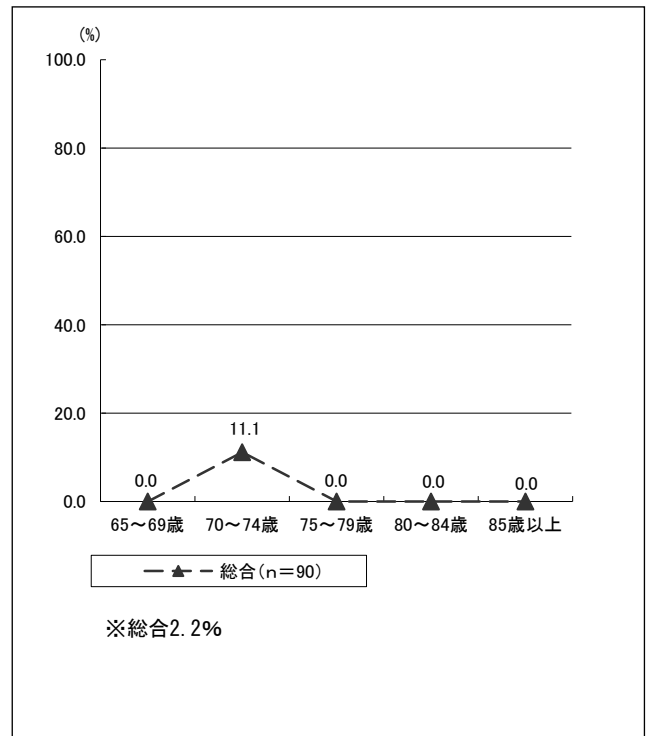
[地区別] 低栄養の傾向-2

該当者割合 (リスク該当状況・年齢階級別)

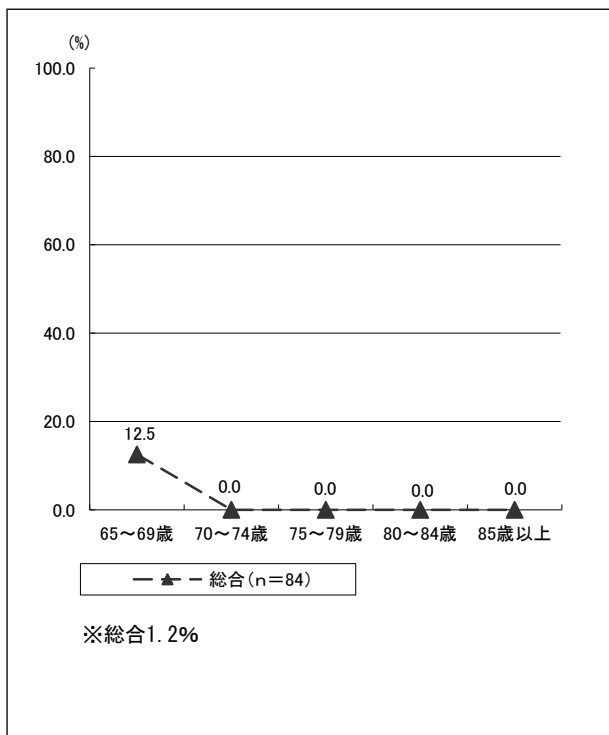
(おおまがり)



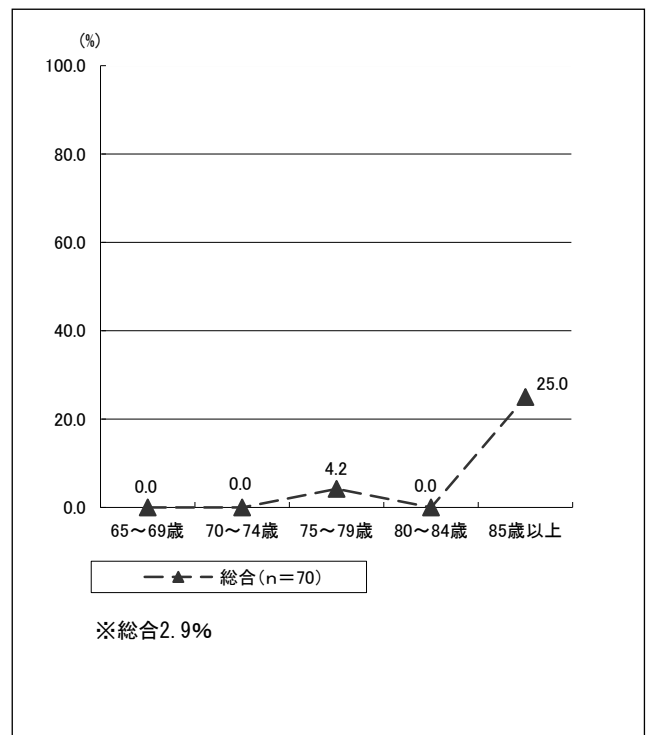
(さわたり)



(吉田地区)



(分水地区)



②回答状況

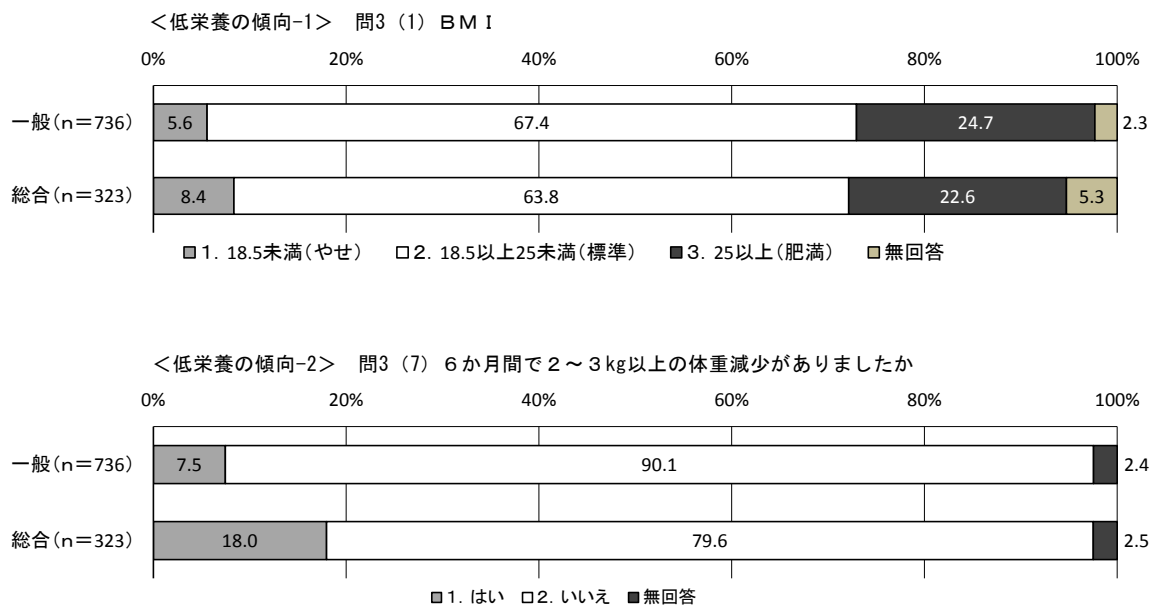
○評価の基礎になった設問に対する回答結果をリスク該当状況別に比較してみると、問3(1)から算出されるBMIによる「やせ」や「肥満」の差はわずかなものとなっています。

○最近 6 か月の体重減少について一般高齢者と総合事業対象者を比較すると、「はい」と回答した方の割合に一定の差がみられます。

※BMIとは:

身長と体重から算定される体格指数で「肥満」や「やせ」などを示す目安になるものです。

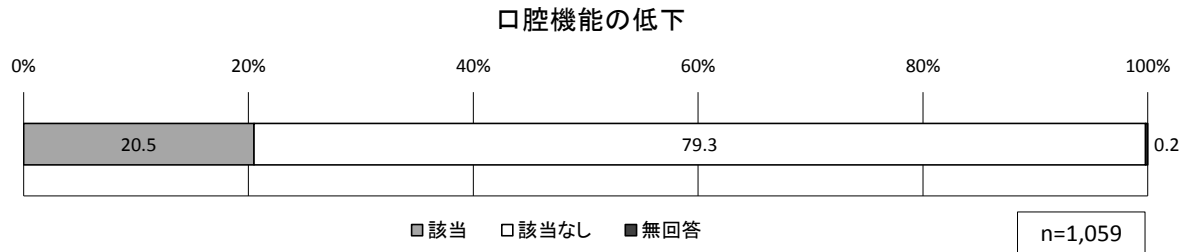
図表 4-1-12 回答結果



(5) 口腔機能の低下

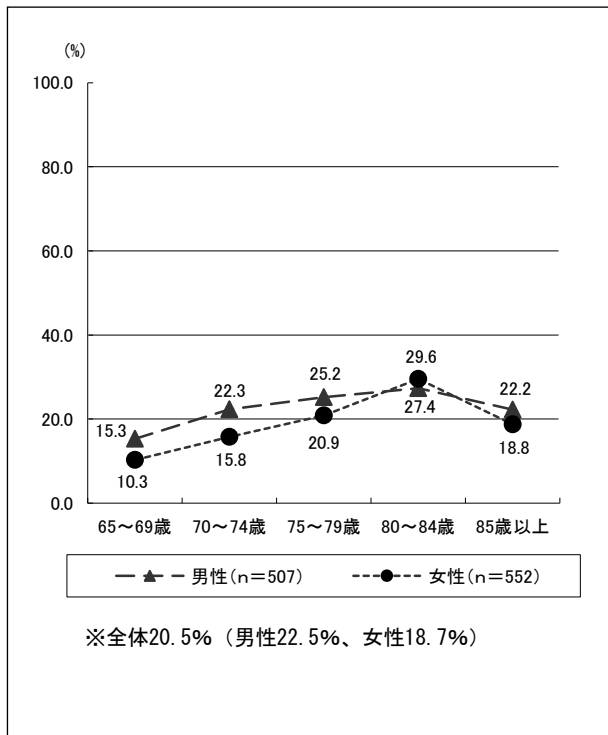
① 評価と該当状況

- 口腔機能の低下については、関連する設問3問（問3(2)～(4)）に対する回答結果からリスク状況への評価を行っています。
- 口腔機能の低下に関する評価結果をみると、性別による差はあまりみられません。



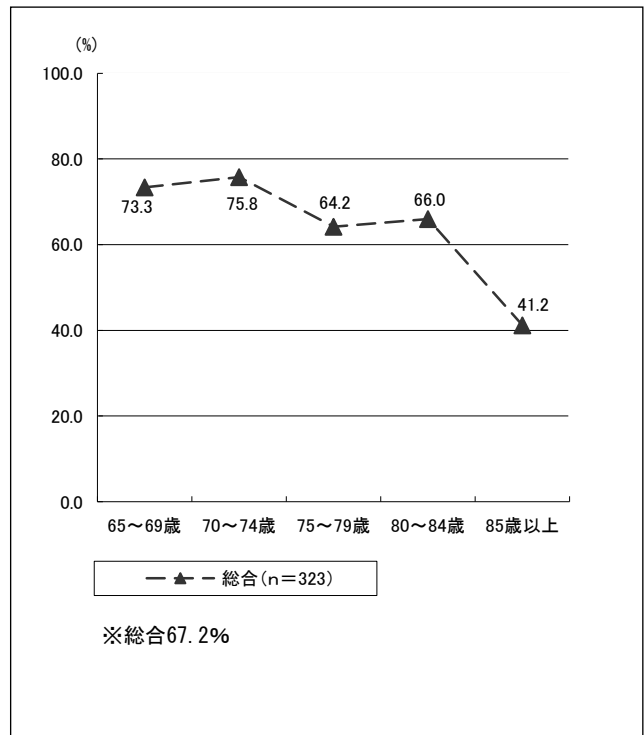
図表 4-1-13 該当者割合

(性・年齢階級別)

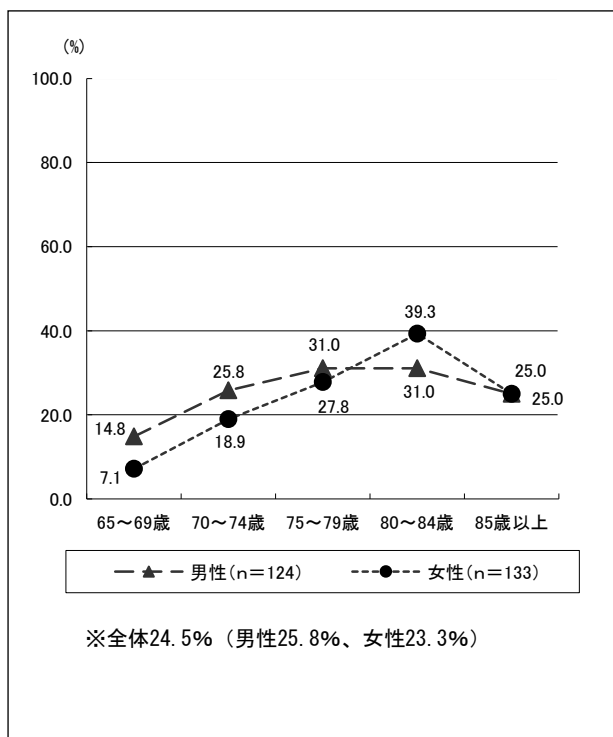


図表 4-1-14 該当者割合

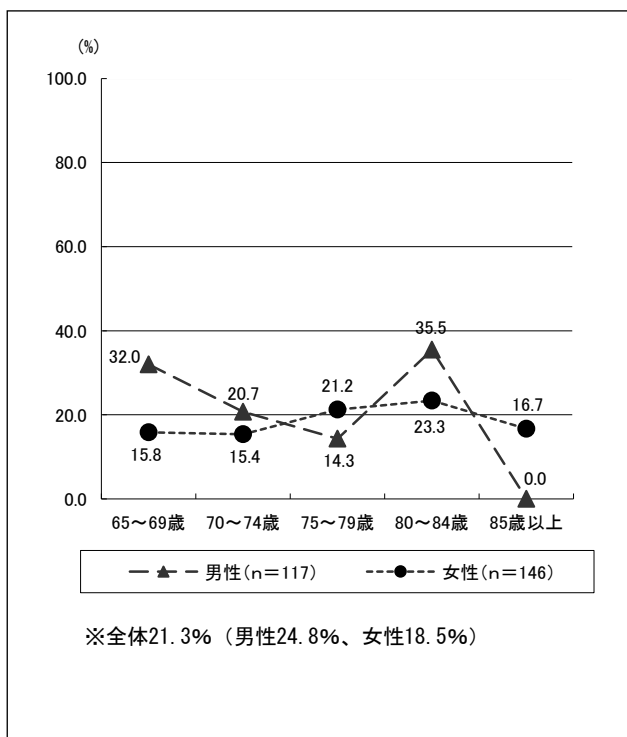
(リスク該当状況・年齢階級別)



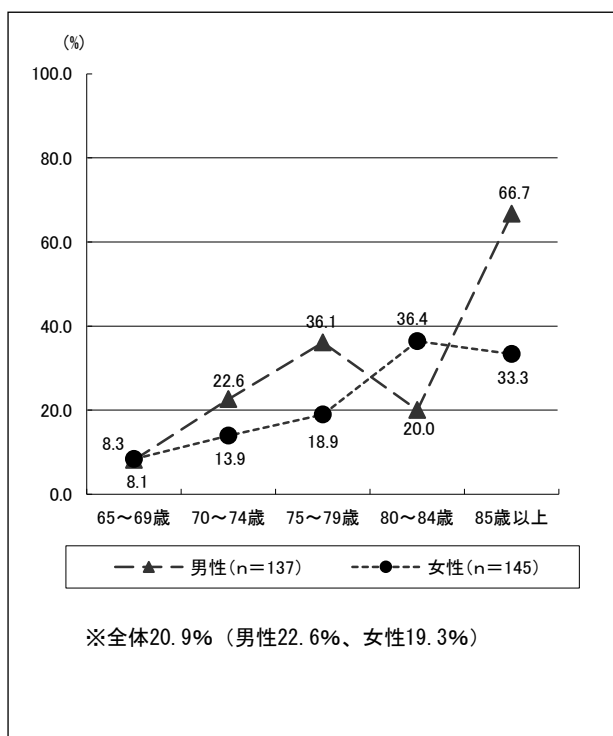
[地区別] 口腔機能の低下-1
 該当者割合 (性・年齢階級別)
 (おおまがり)



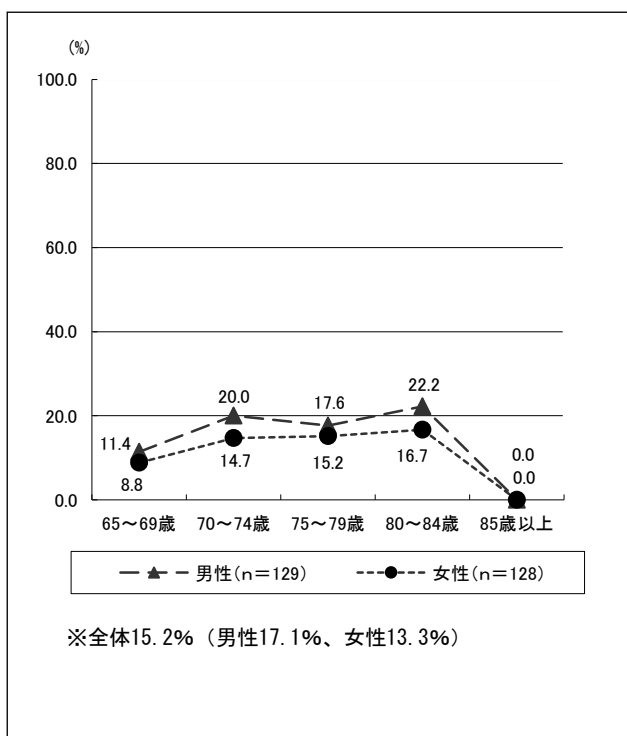
(さわたり)



(吉田地区)



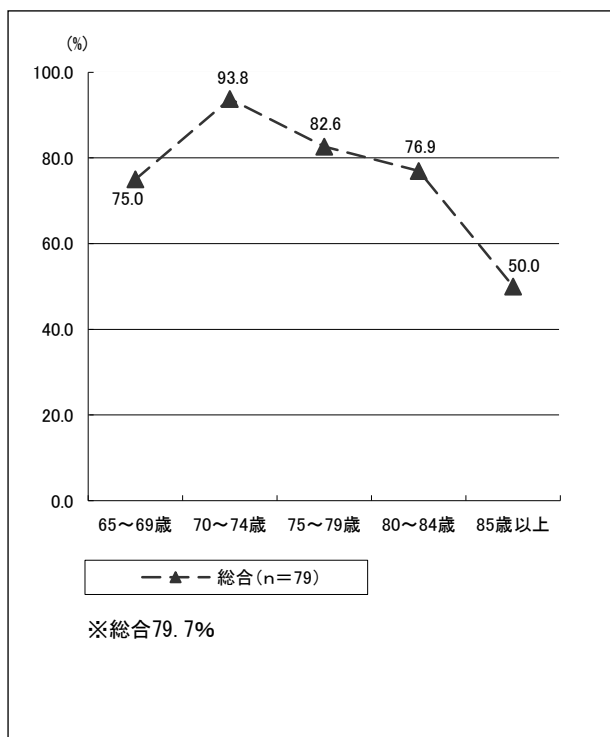
(分水地区)



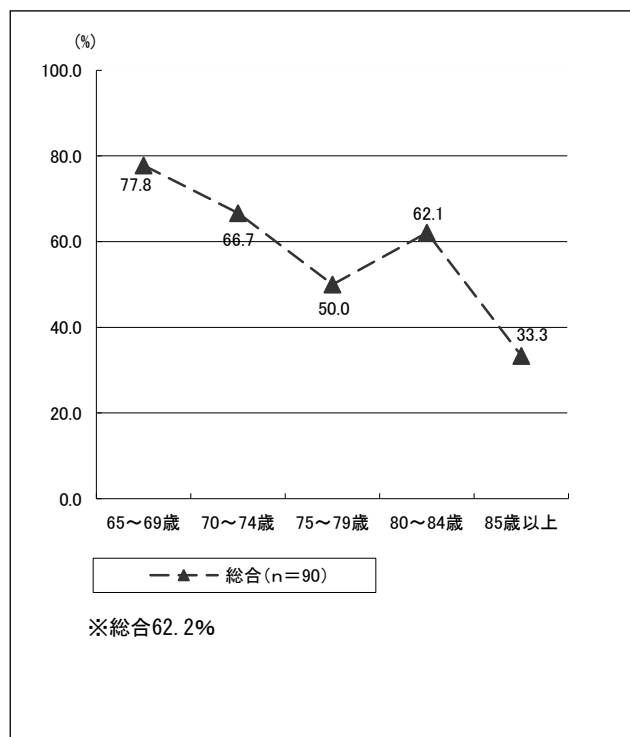
[地区別] 口腔機能の低下-2

該当者割合 (リスク該当状況・年齢階級別)

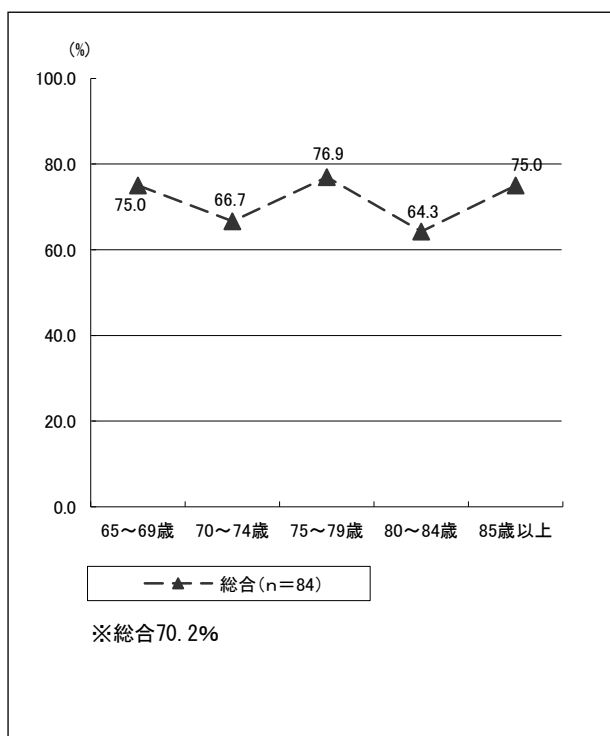
(おおまがり)



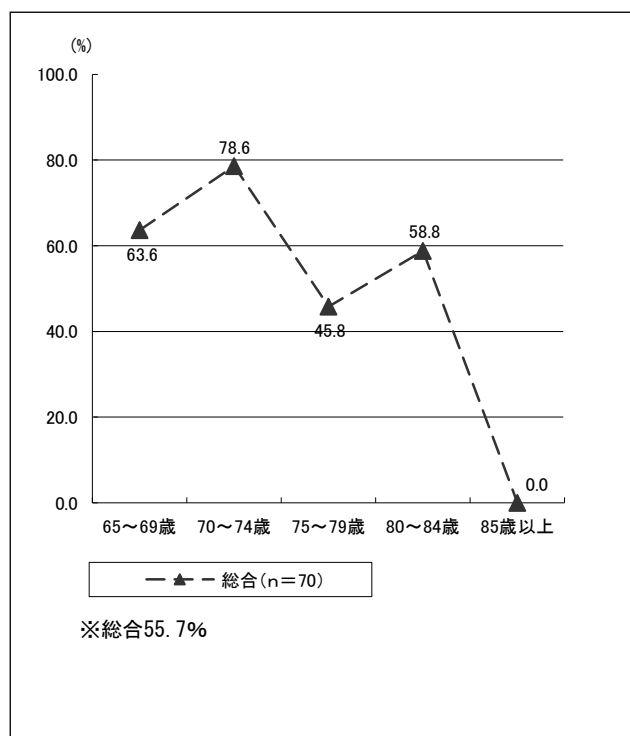
(さわたり)



(吉田地区)



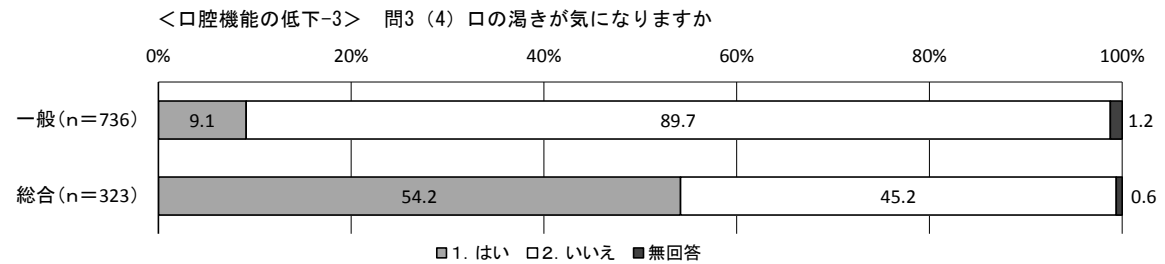
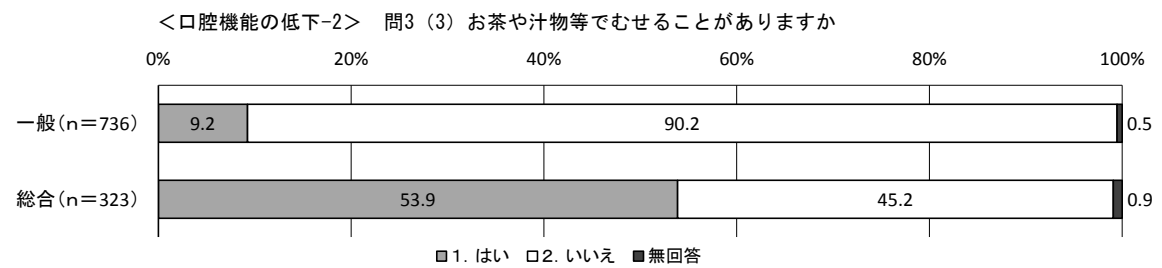
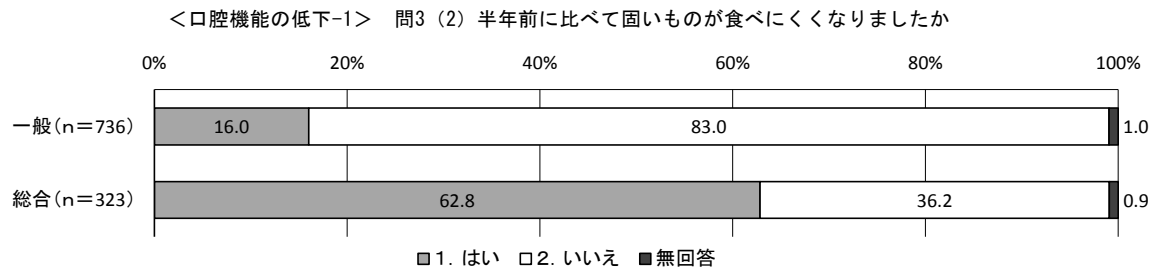
(分水地区)



②回答状況

○評価の基礎になった設問に対する回答結果をリスク該当状況別に比較してみると、全ての設問で一般高齢者と総合事業対象者に大きな差がみられます

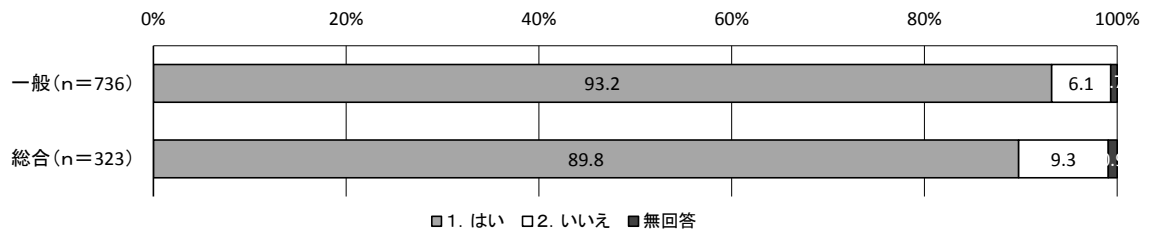
図表 4-1-15 回答結果



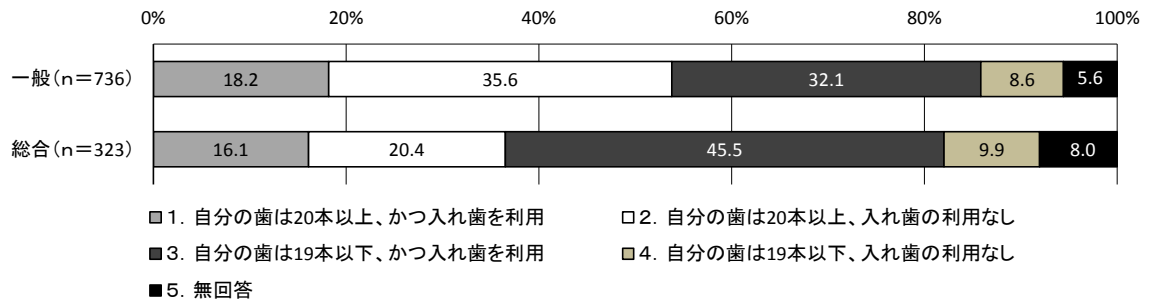
<関連質問>

<口腔機能の低下 関連質問-1>

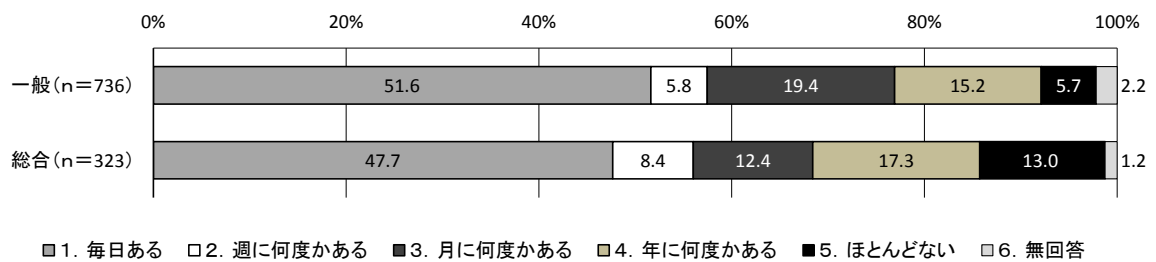
問3 (5) 歯磨き（人にやってもらう場合も含む）を毎日していますか



<口腔機能の低下 関連質問-2> 問3 (6) 歯の数と入れ歯の利用状況をお教えてください



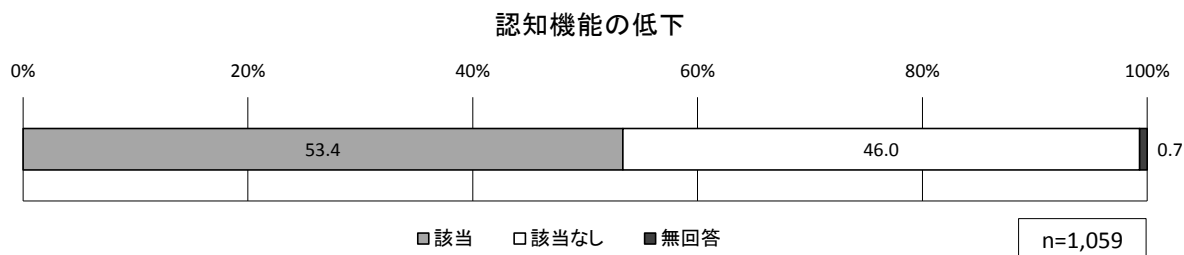
<口腔機能の低下 関連質問-3> 問3 (8) どなたかと食事をとる機会がありますか



(6)認知機能の低下

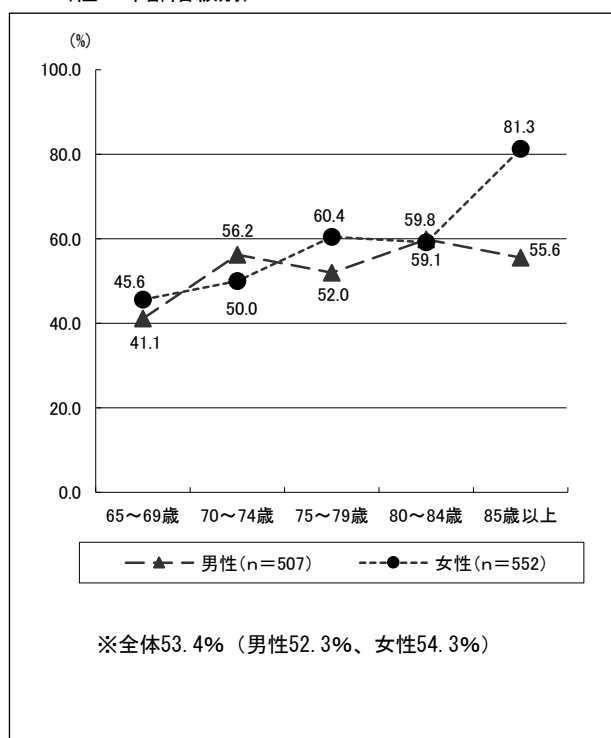
①評価と該当状況

- 認知機能の低下については、関連設問3問（問4(1)～(3)）に対する回答からリスク状況への評価を行っています。
- 認知機能の低下の該当状況をみると、男女差はあまりみられず、年齢が上がるほど高くなっている傾向がみられます。
- リスク該当状況別にみると、一般高齢者より総合事業対象者で該当割合が高くなっています。
- 総合事業対象者全体に占める認知機能の低下の該当者割合は、基本チェックリストの評価項目の中で最も高くなっています。



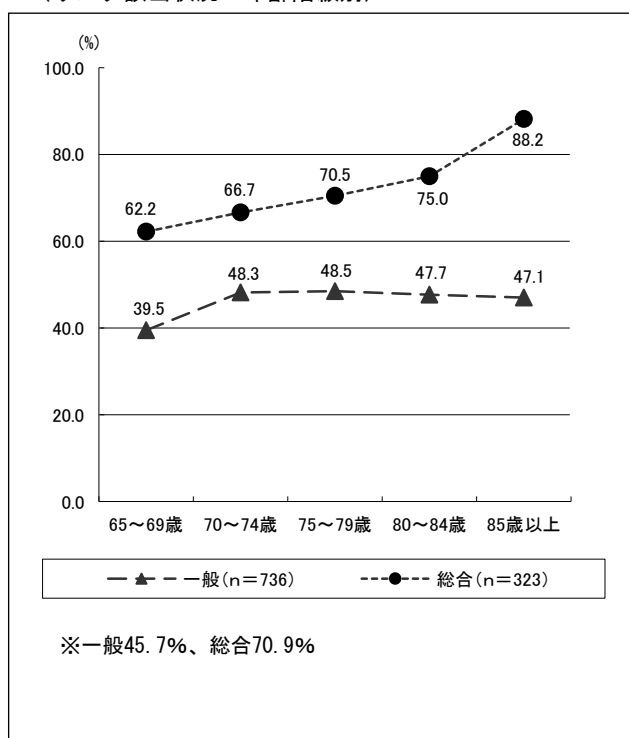
図表 4-1-16 該当者割合

(性・年齢階級別)

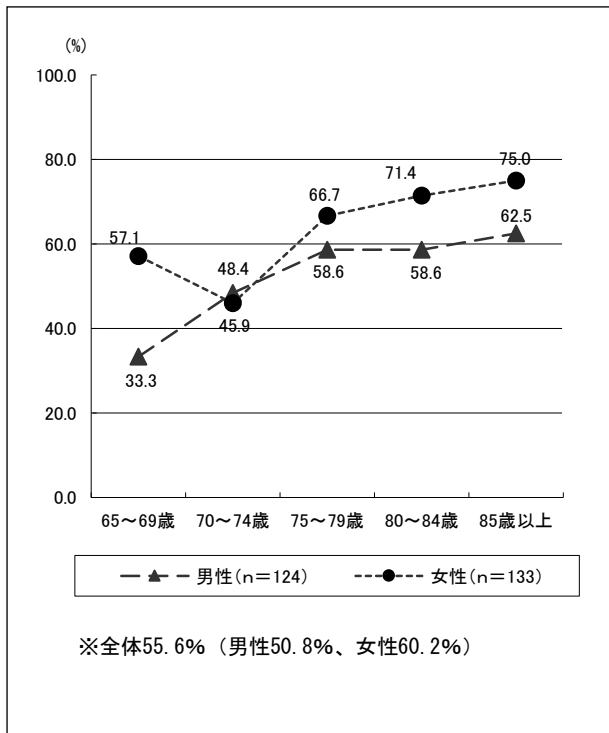


図表 4-1-17 該当者割合

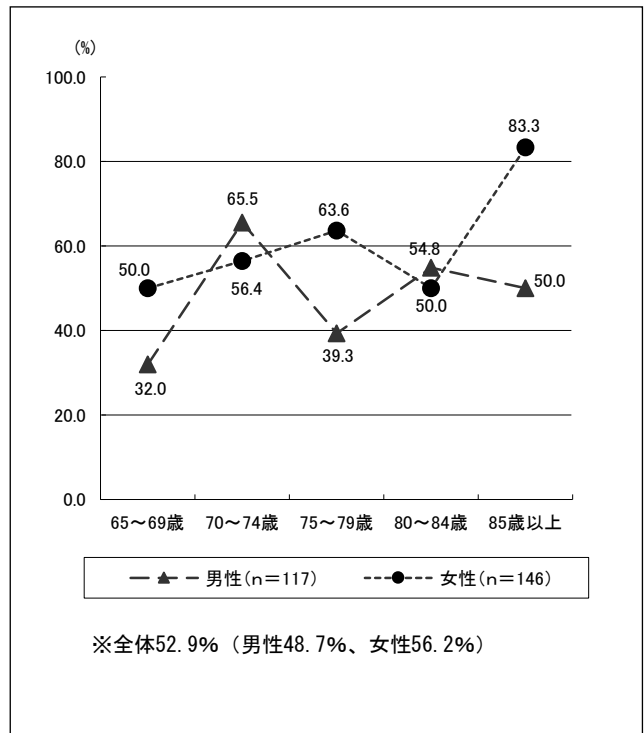
(リスク該当状況・年齢階級別)



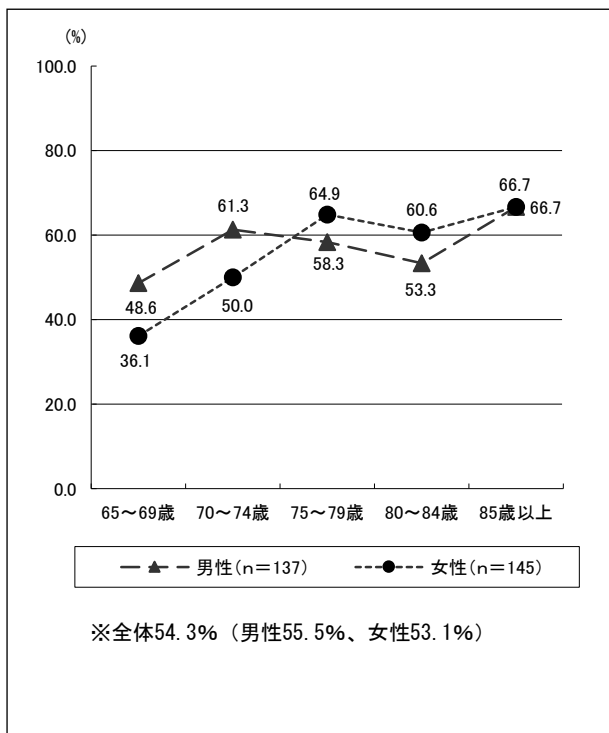
[地区別] 認知機能の低下-1
 該当者割合 (性・年齢階級別)
 (おおまがり)



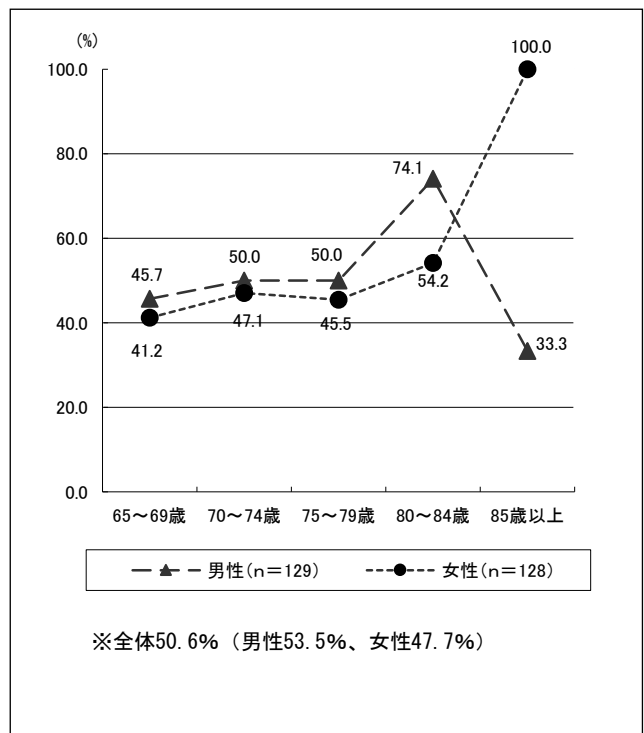
(さわたり)



(吉田地区)



(分水地区)

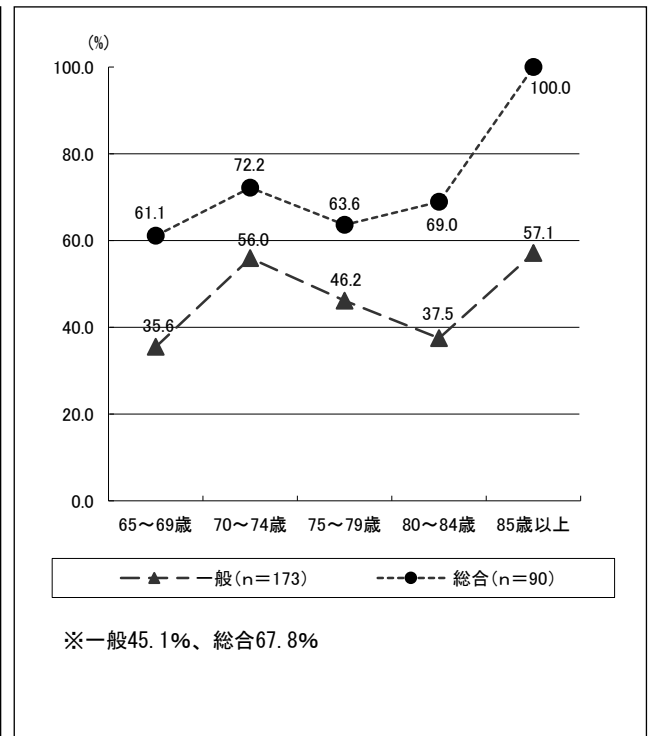
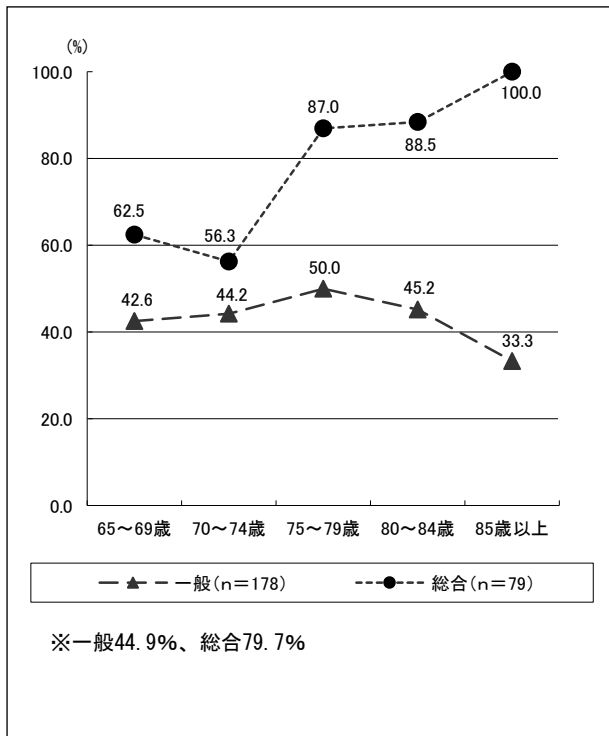


[地区別] 認知機能の低下-2

該当者割合 (リスク該当状況・年齢階級別)

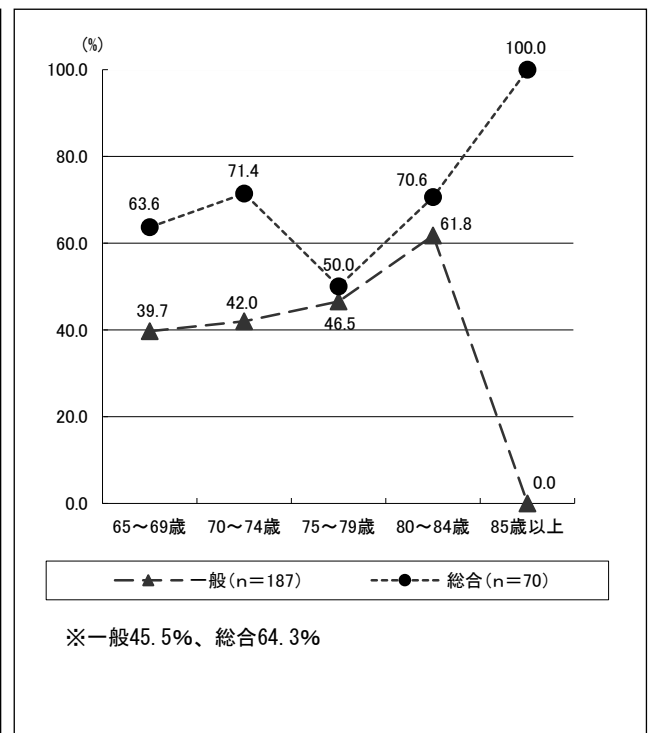
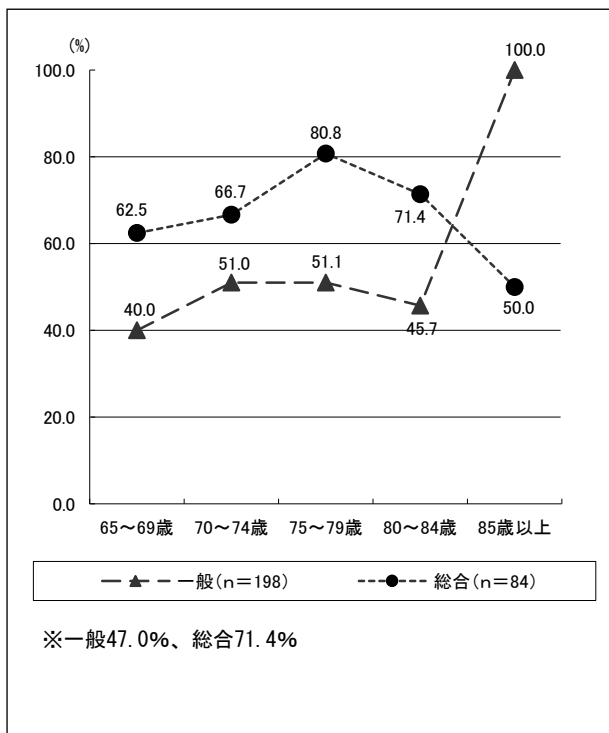
(おおまがり)

(さわたり)



(吉田地区)

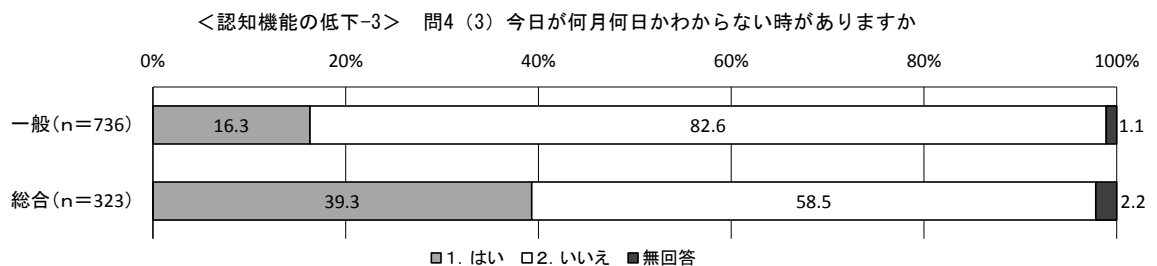
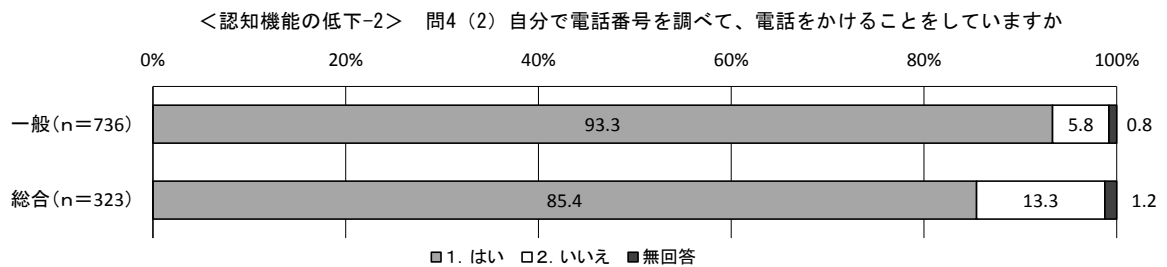
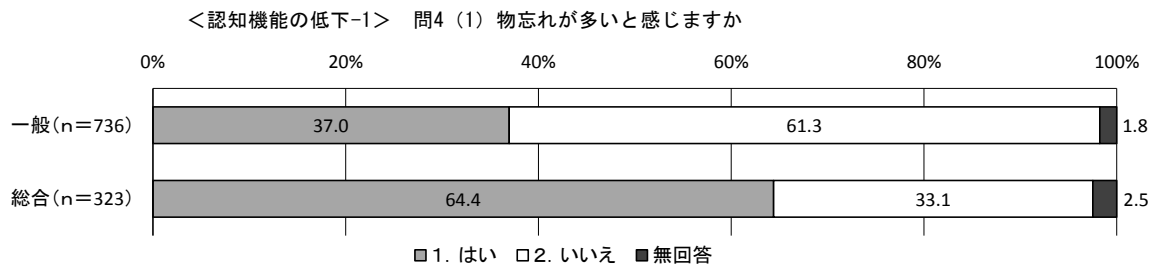
(分水地区)



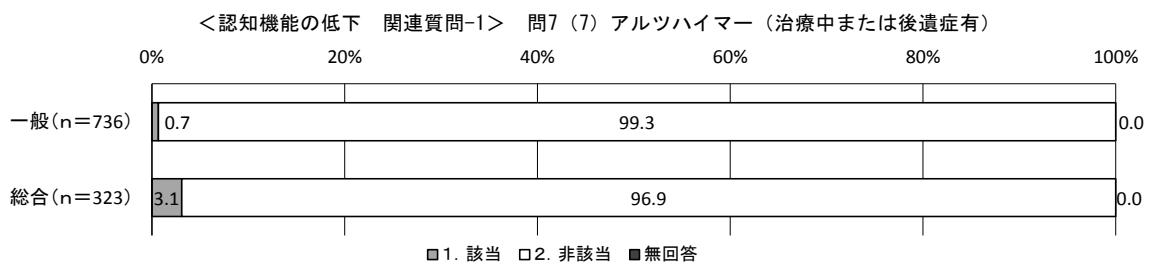
②回答状況

○設問に対する回答結果をリスク該当状況別に比較してみると、一般高齢者と総合事業対象者では一定の差がみられます。

図表 4-1-18 回答結果



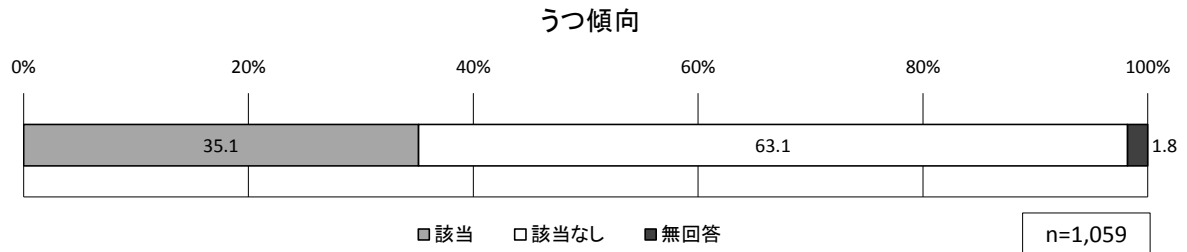
<関連質問>



(7)うつ傾向

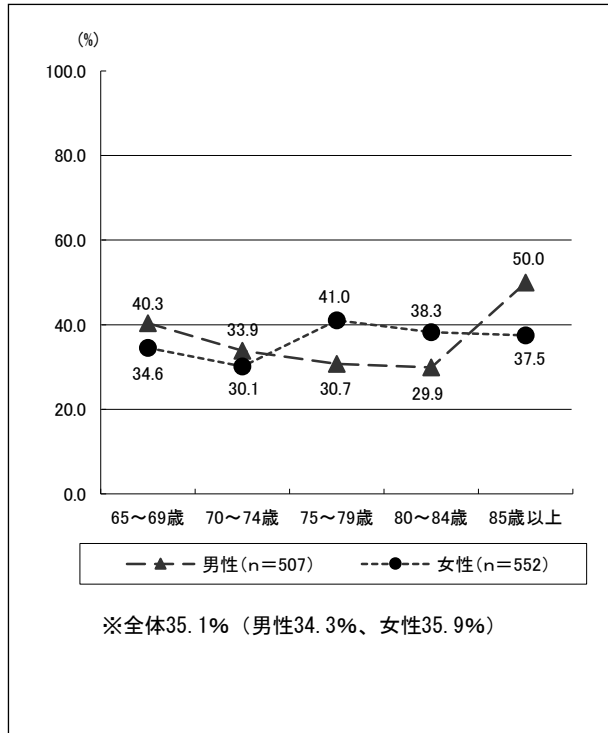
①評価と該当状況

- うつ傾向については、関連設問2問（問7(3)(4)）に対する回答からリスク状況への評価を行っています。
- うつ傾向の該当状況をみると、男女差はあまりみられません。
- リスク該当状況別にみると、やはり一般高齢者より総合事業対象者の該当率が高くなっています。



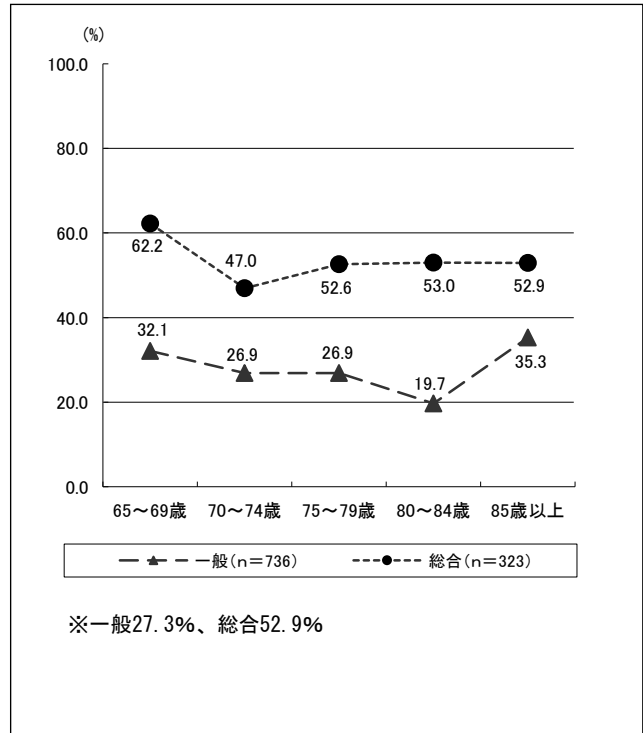
図表 4-1-19 該当者割合

(性・年齢階級別)



図表 4-1-20 該当者割合

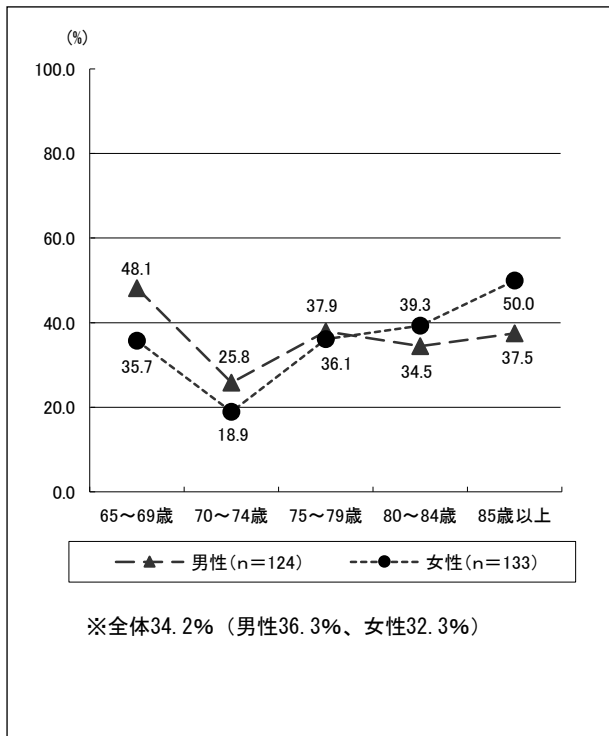
(リスク該当状況・年齢階級別)



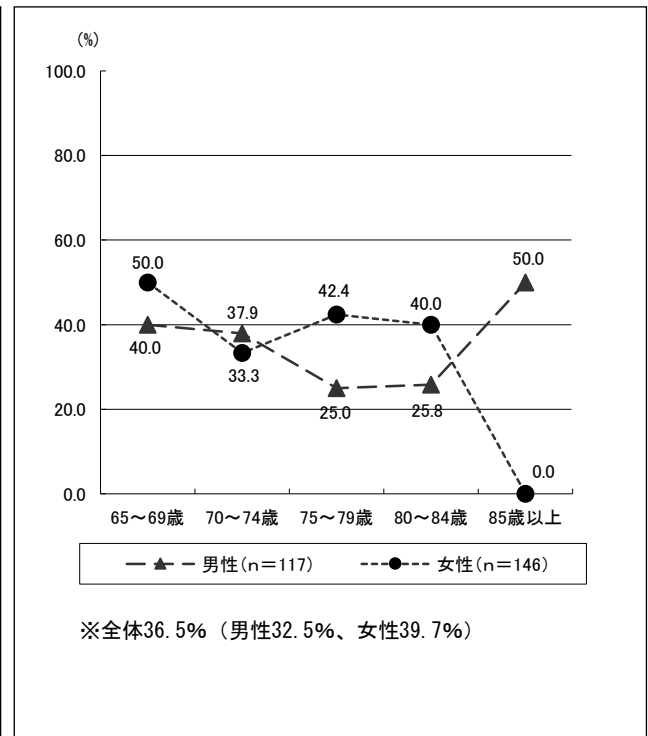
[地区別] うつ傾向-1

該当者割合 (性・年齢階級別)

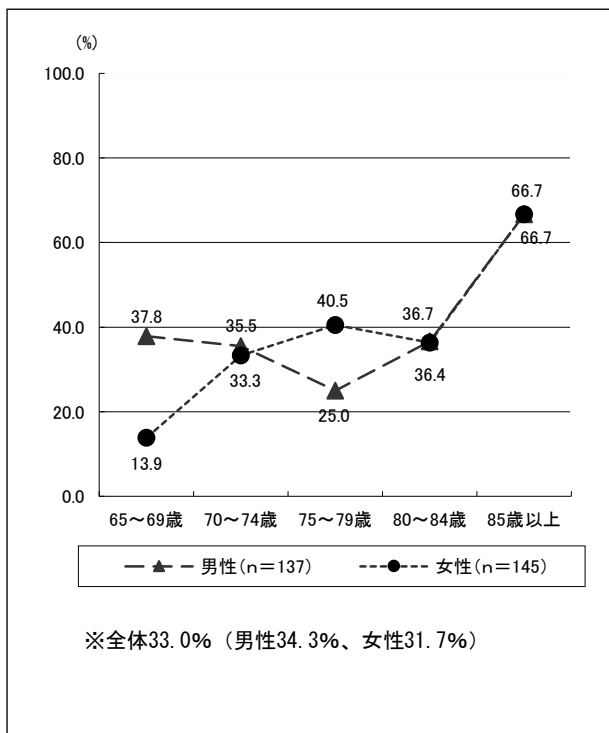
(おおまがり)



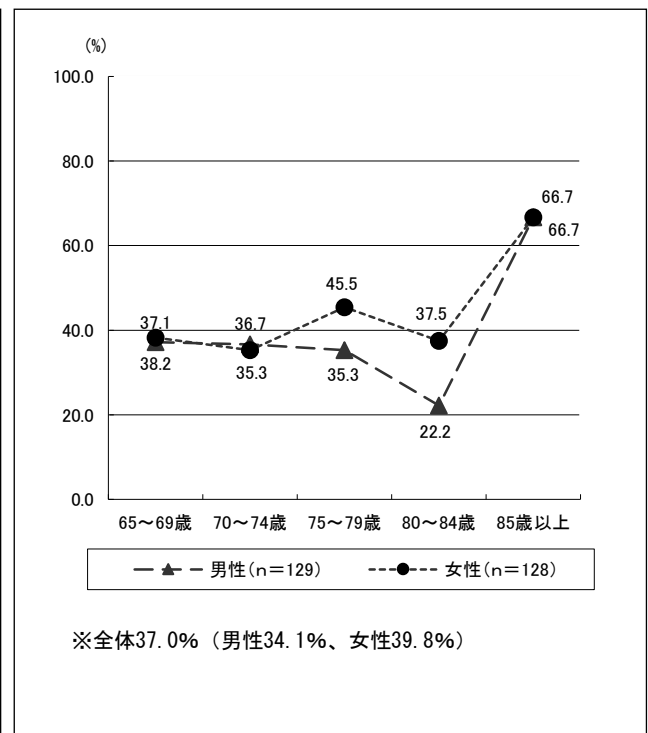
(さわたり)



(吉田地区)



(分水地区)

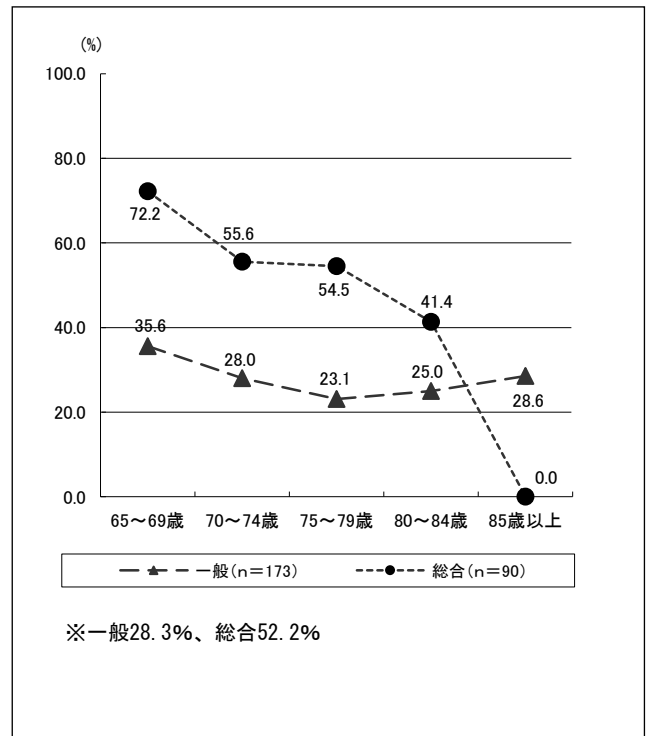
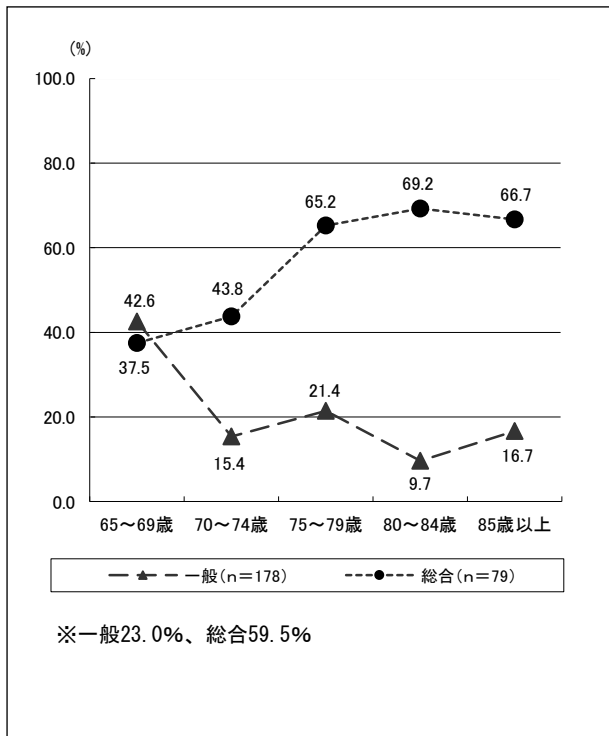


[地区別] うつ傾向-2

該当者割合 (リスク該当状況・年齢階級別)

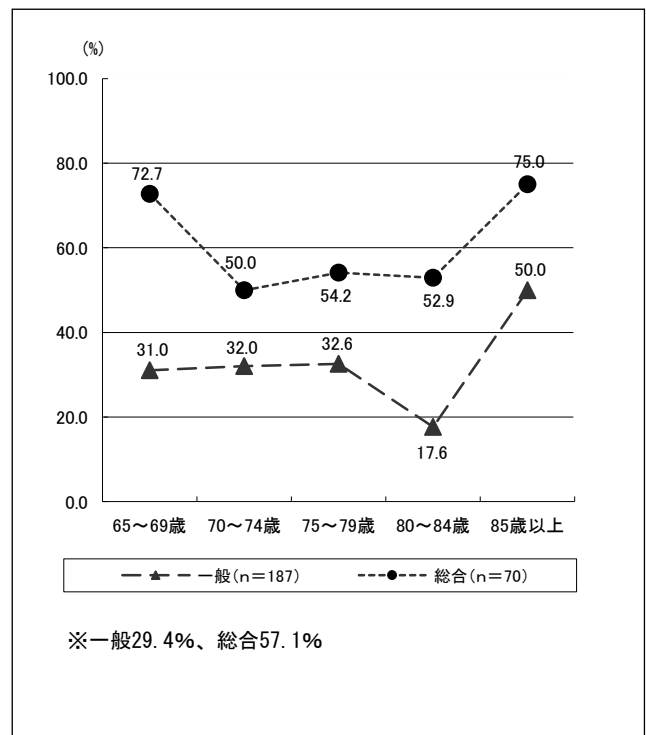
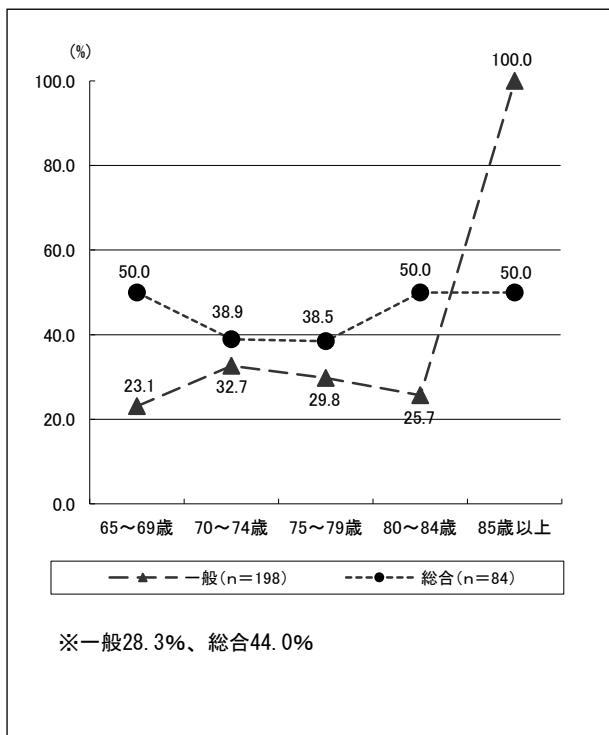
(おおまがり)

(さわたり)



(吉田地区)

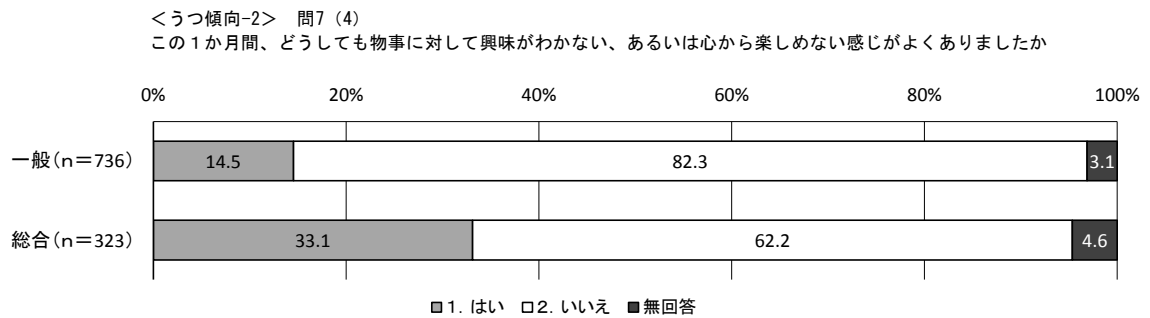
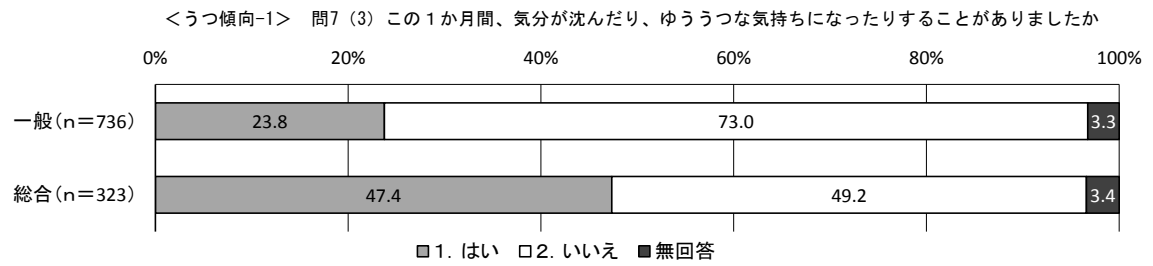
(分水地区)



②回答状況

○設問に対する回答結果をみると、一般高齢者と総合事業対象者の該当率には一定の差がみられます。

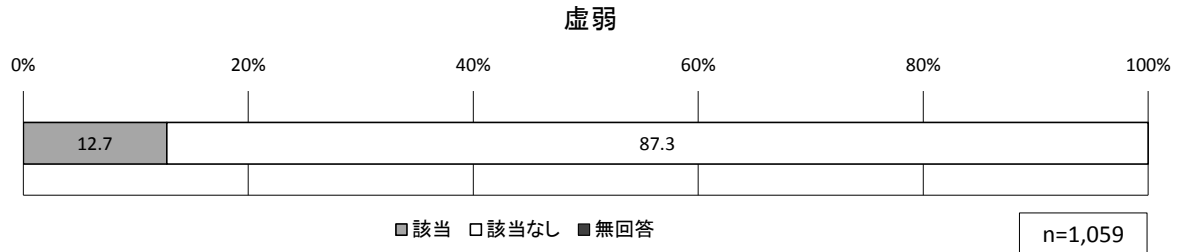
図表 4-1-21 回答結果



(8)虚弱

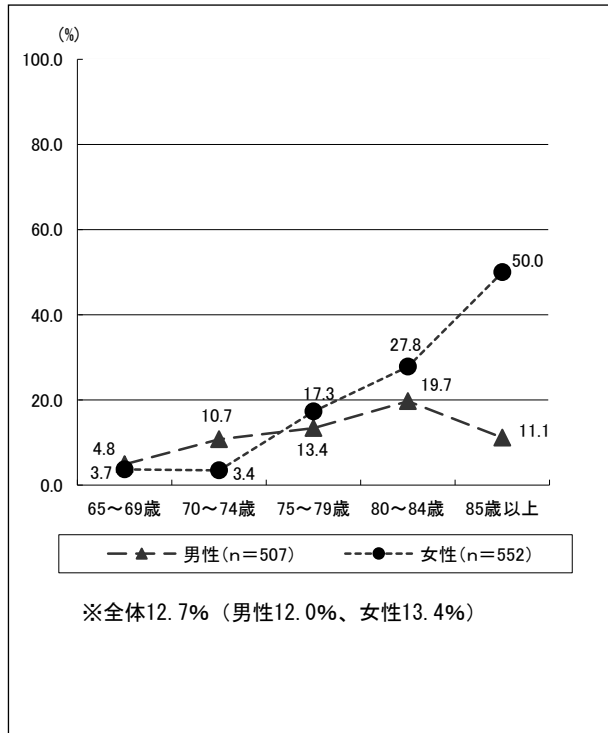
①評価と該当状況

- 虚弱については関連設問20問（問2(1)～(7)、問3(1)～(4)(7)、問4(1)～(5)(8)(13)(14)）に対する回答からリスク状況への評価を行っています。
- 20項目中、10項目以上が該当した場合に虚弱該当者となります。
- 虚弱の該当者割合をみると、年齢とともに割合が高くなる傾向にあり、女性の80歳以上で特に割合が高くなっています。



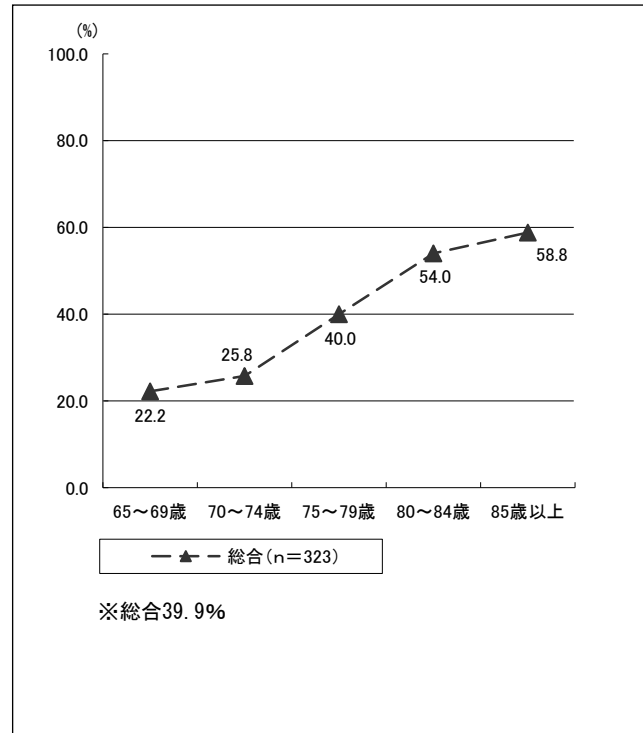
図表 4-1-22 該当者割合

(性・年齢階級別)



図表 4-1-23 該当者割合

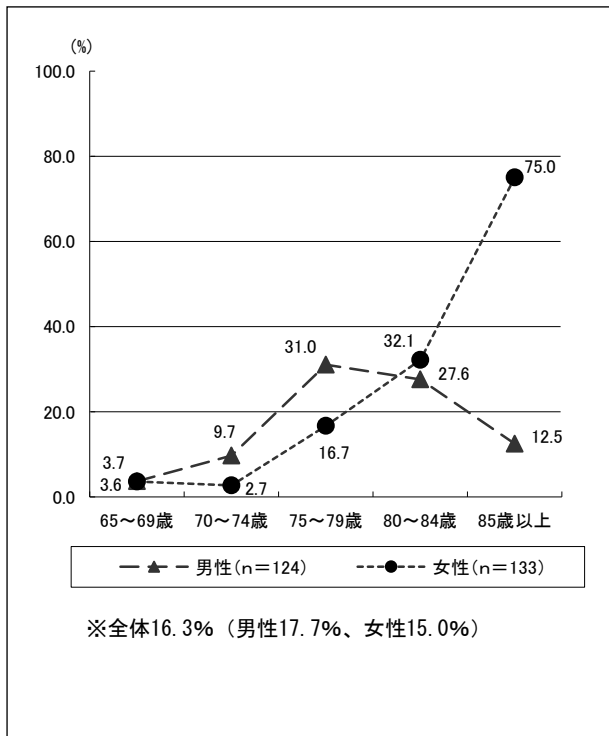
(リスク該当状況・年齢階級別)



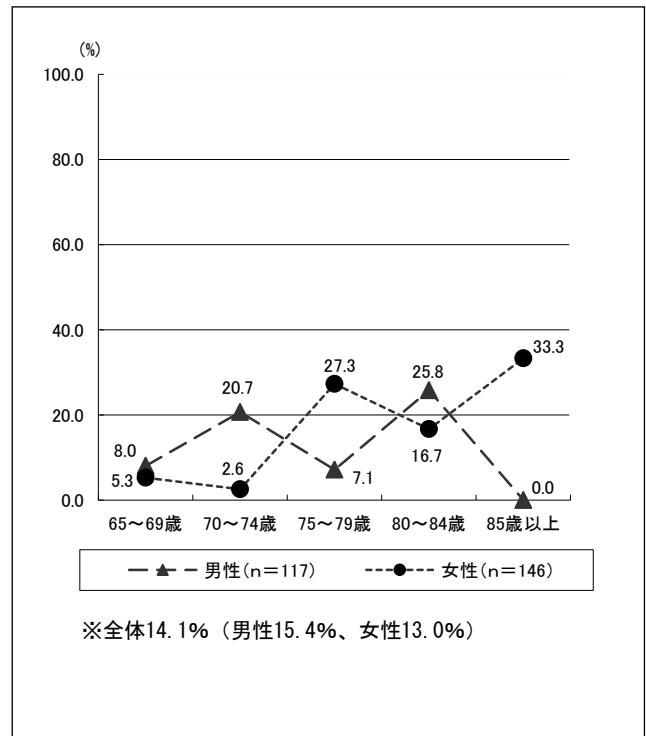
[地区別] 虚弱-1

該当者割合 (性・年齢階級別)

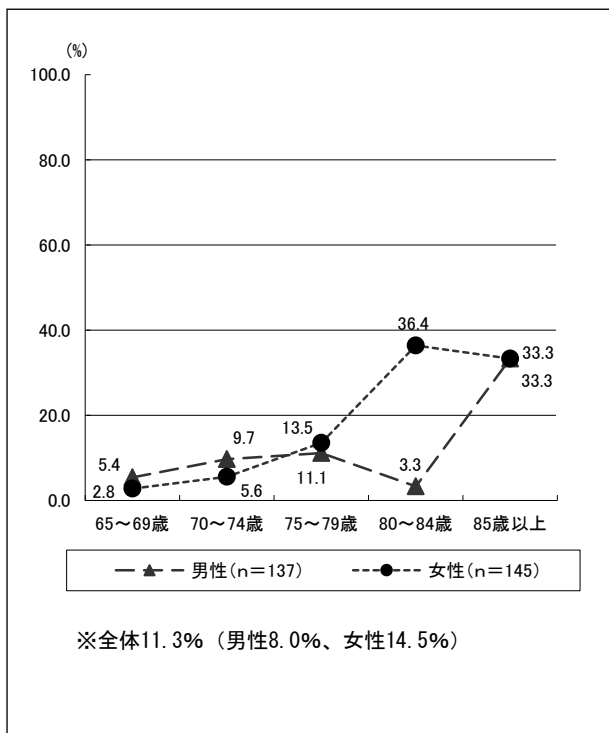
(おおまがり)



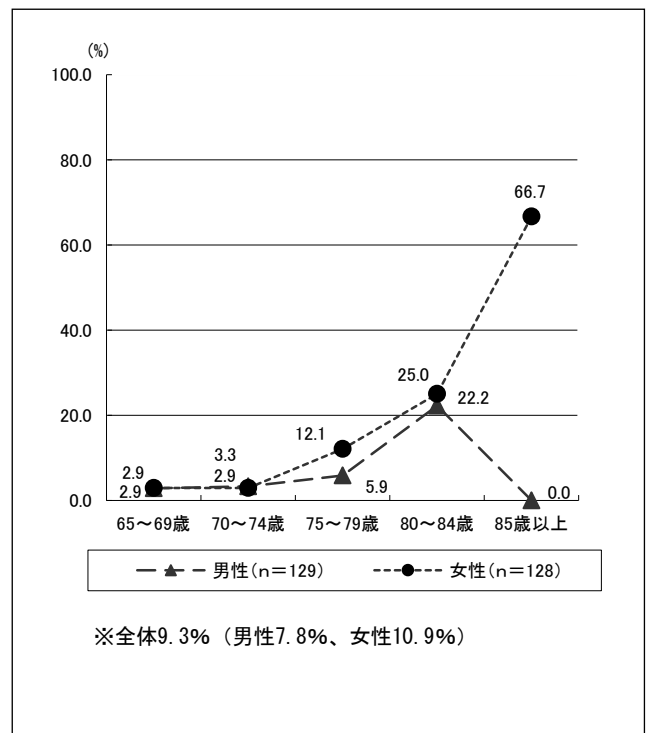
(さわたり)



(吉田地区)



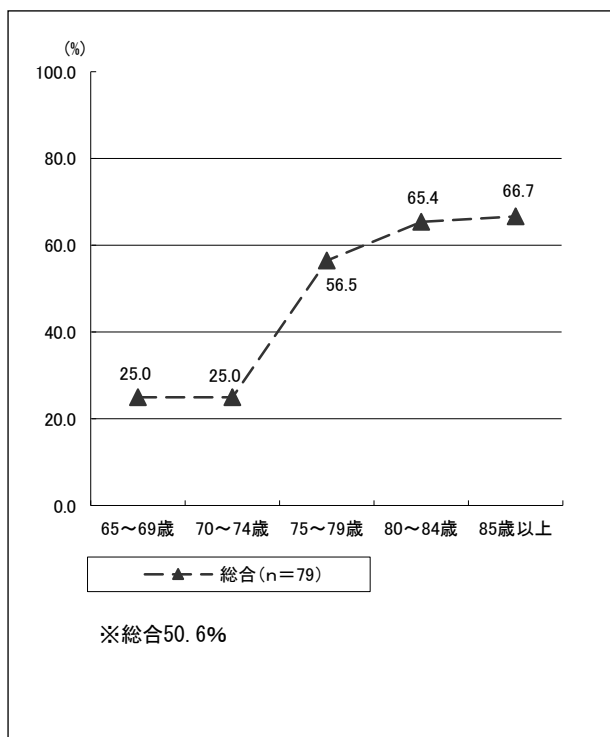
(分水地区)



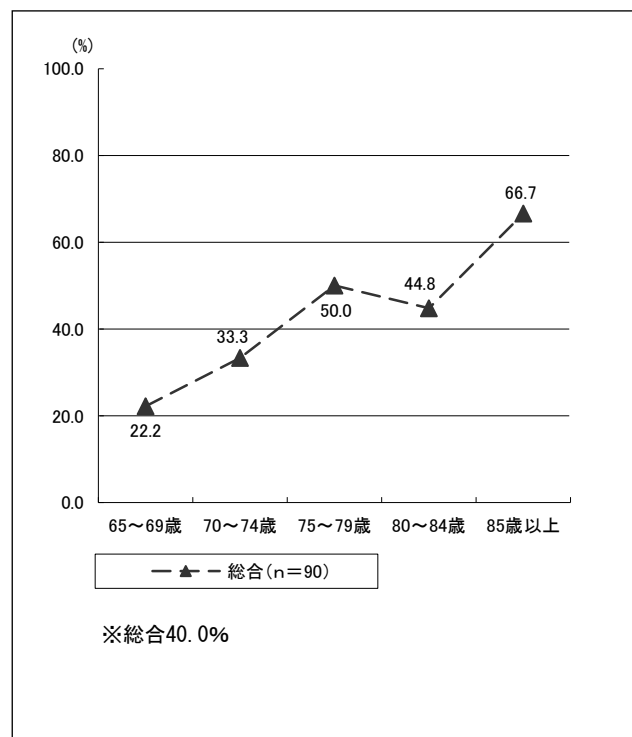
[地区別] 虚弱-2

該当者割合 (リスク該当状況・年齢階級別)

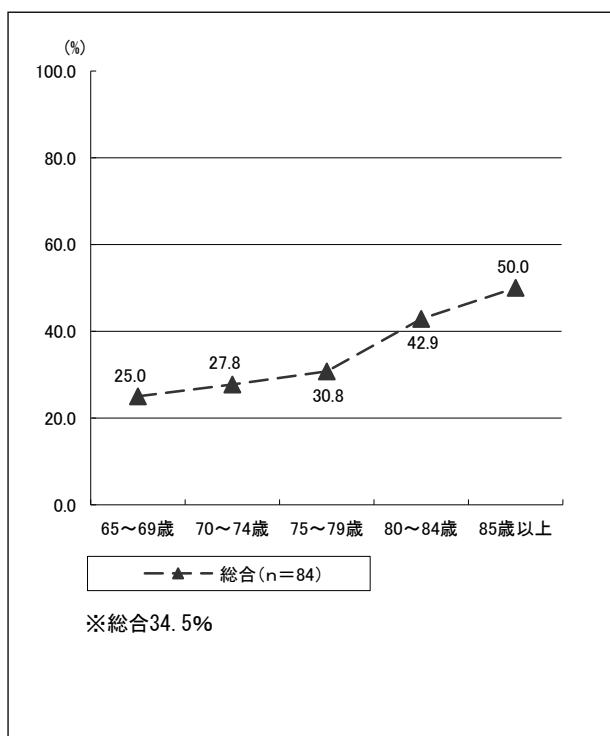
(おおまがり)



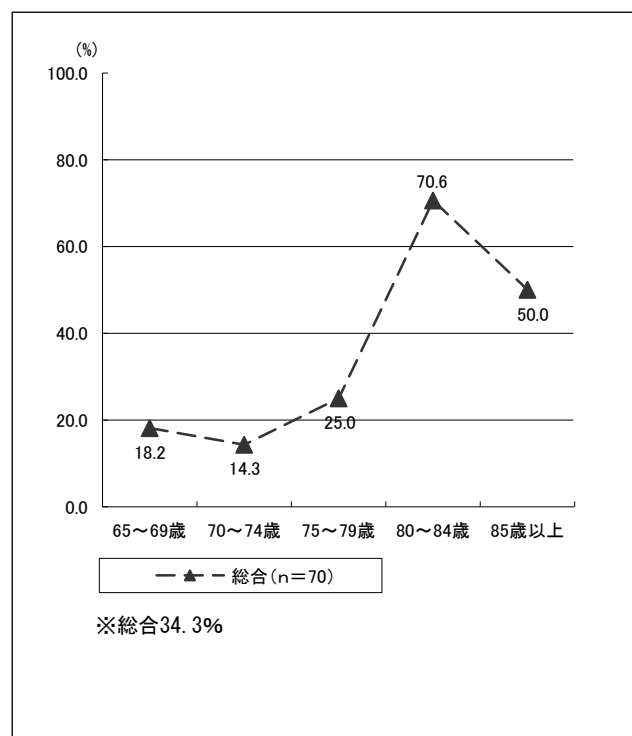
(さわたり)



(吉田地区)



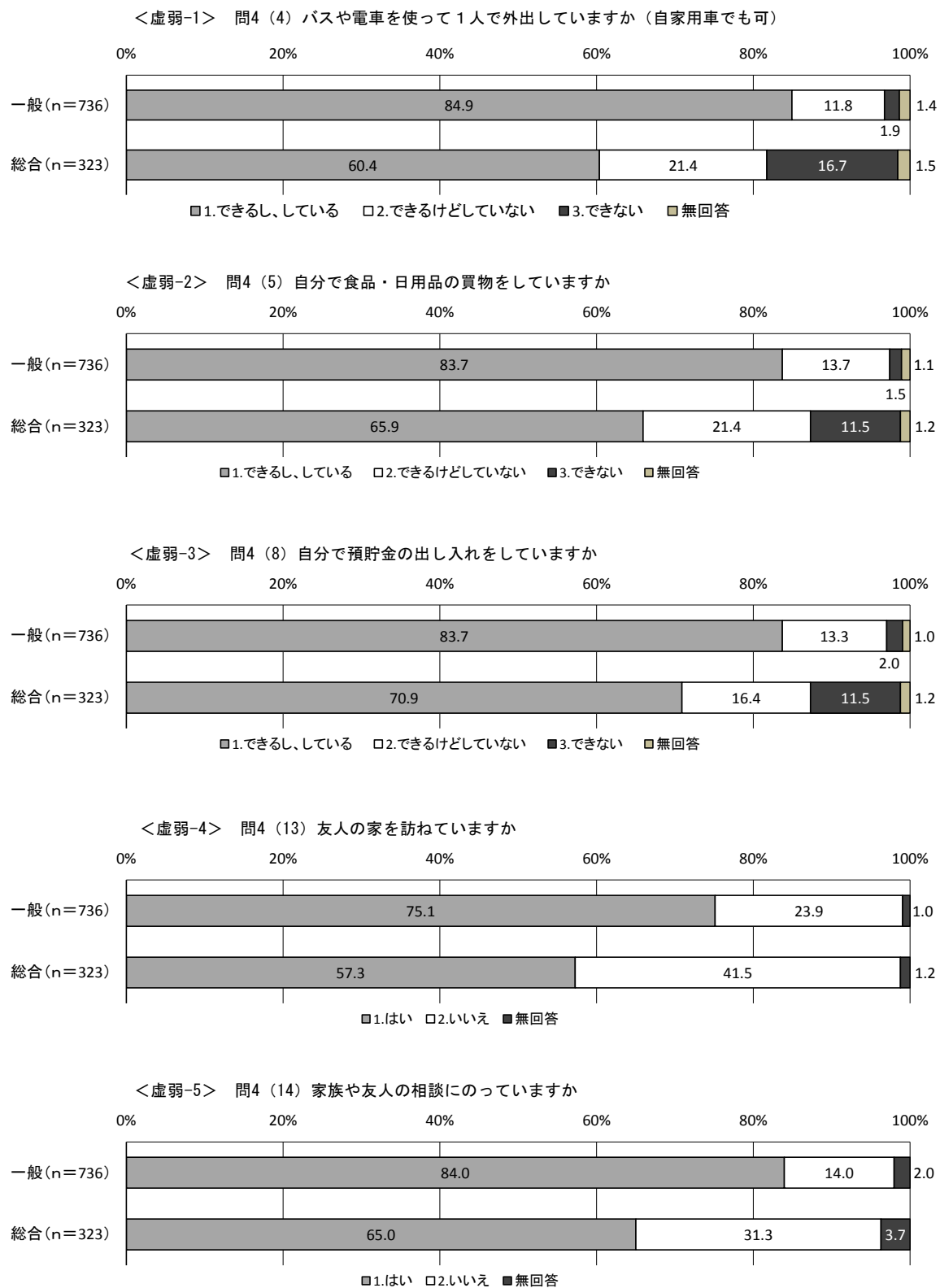
(分水地区)



②回答状況

○20項目のうち、他の評価項目に含まれない5項目についてそれぞれの回答結果をみると、一般高齢者、総合事業対象者で該当率に一定の差がみられます。
○問4(4)～(6)に対する回答では「できない」の割合に大きな差がみられます。

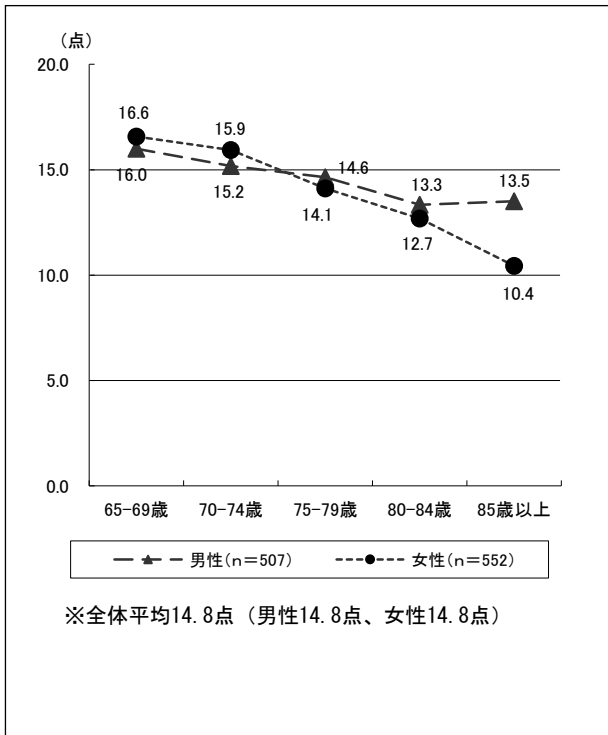
図表 4-1-24 回答結果



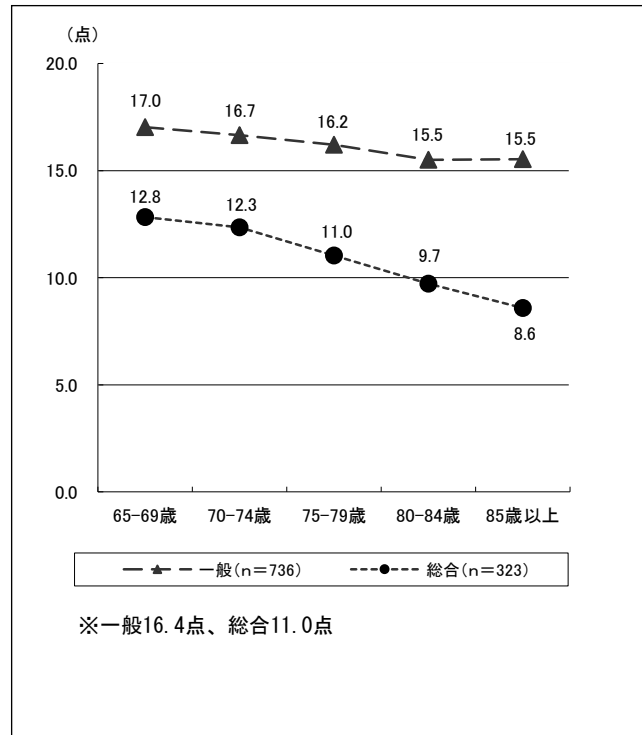
③基本チェックリスト得点

- 基本チェックリスト20項目について、それぞれ該当しない回答をした場合を1点として、その合計得点の平均を求めたのが下の図表となっています。男女とも年齢が上がるほど平均得点が下がっており、男女差はあまりないという結果となっています。
- リスク該当状況別にみると、総合事業対象者より一般高齢者の点数が高くなっており、それぞれの生活機能のレベルを反映した結果となっています。

図表 4-1-25 基本チェックリスト平均得点図表
(性・年齢階級別)



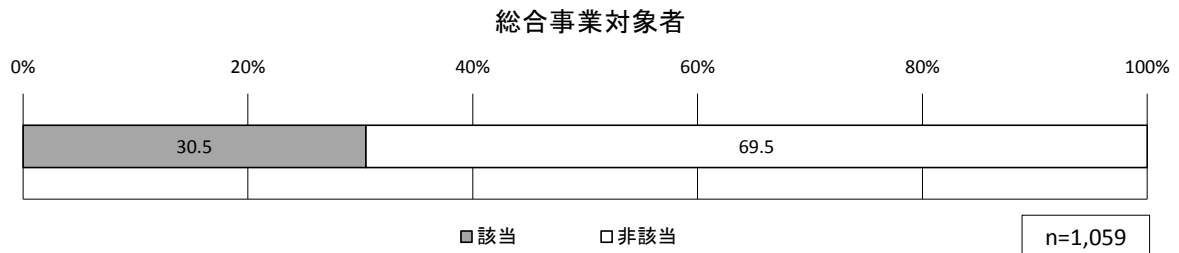
図表 4-1-26 基本チェックリスト平均得点
(リスク該当状況・年齢階級別)



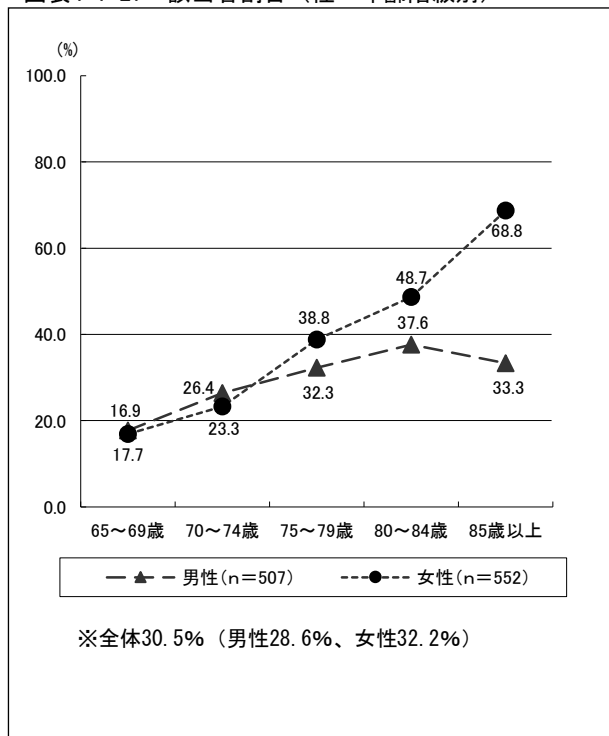
(9)総合事業対象者

①評価と該当状況

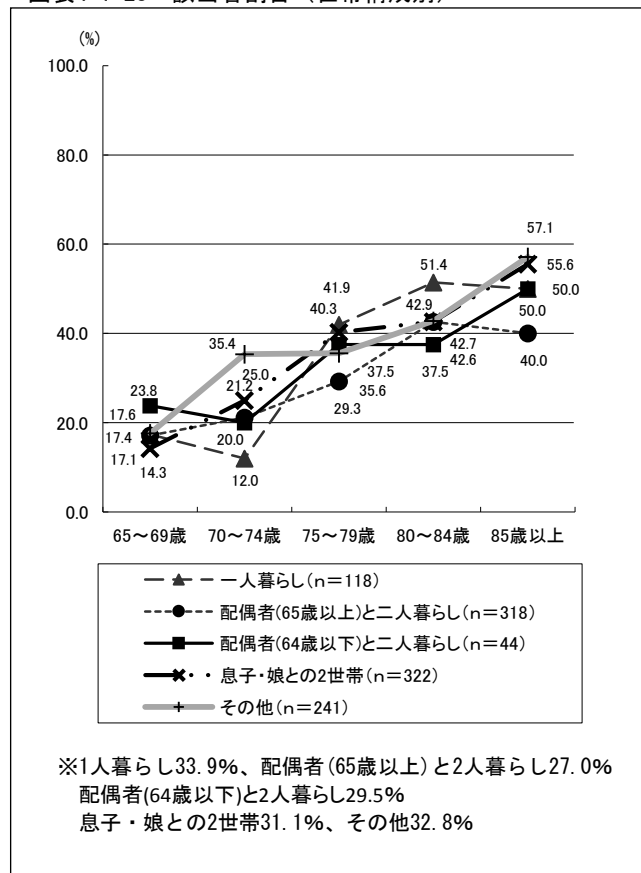
- 「運動器機能の低下」「低栄養の傾向」「口腔機能の低下」「虚弱」のいずれかにひとつでも該当する場合は総合事業対象者となります。
- 総合事業対象者については、複数の評価項目で重複して該当している場合があるため、こうした重複を除いて該当者割合を求めたのが下の図表となっています。
- 該当者割合は、女性のほうが高く、また年齢が上がるほどその割合は高くなっています。



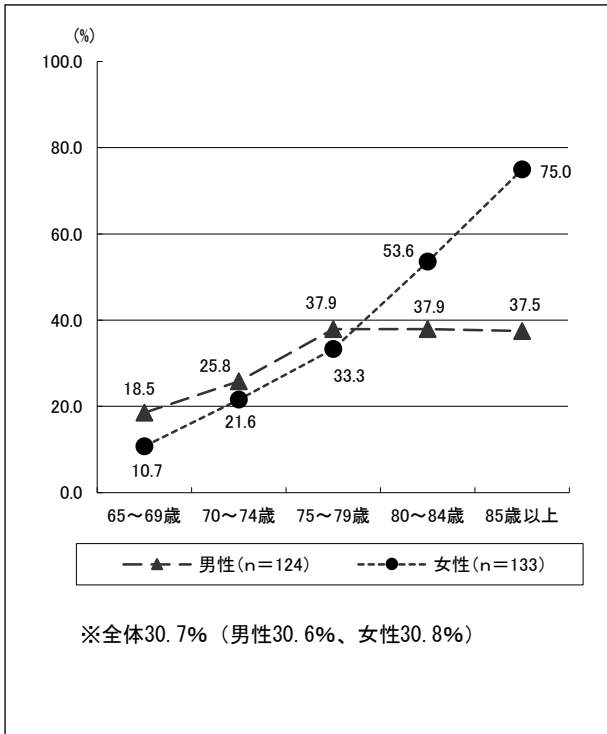
図表4-1-27 該当者割合（性・年齢階級別）



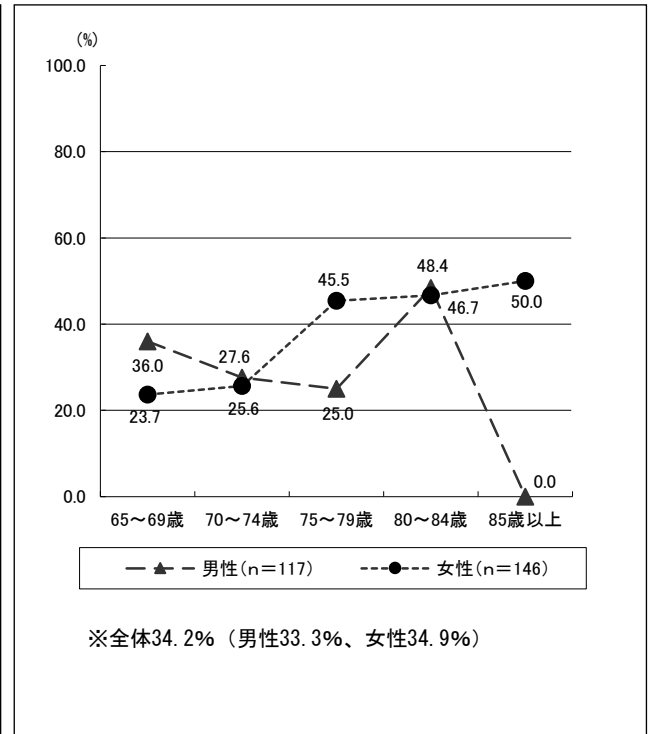
図表4-1-28 該当者割合（世帯構成別）



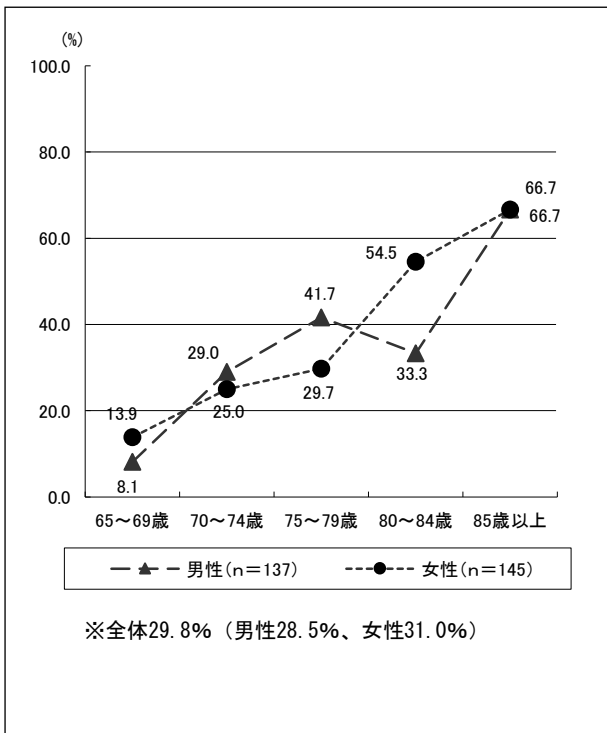
[地区別] 総合事業対象者
 該当者割合（性・年齢階級別）
 （おおまがり）



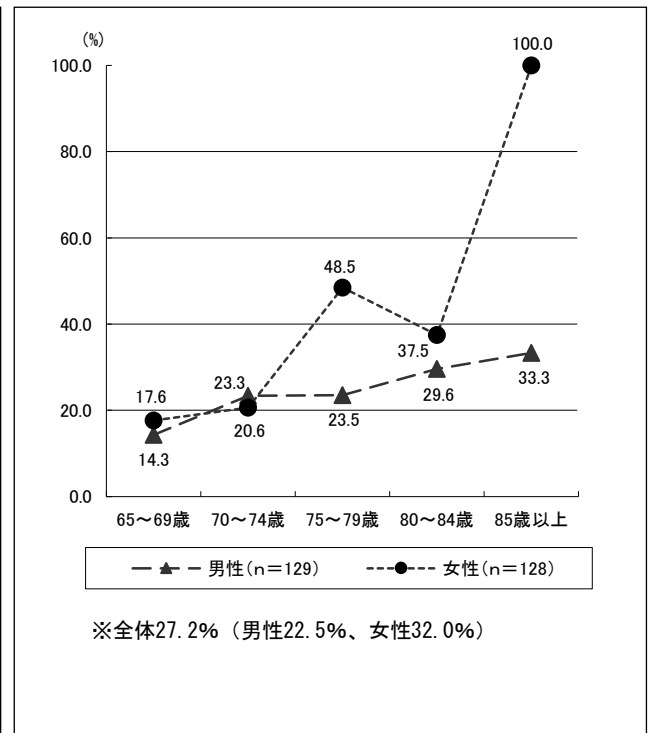
（さわたり）



（吉田地区）



（分水地区）

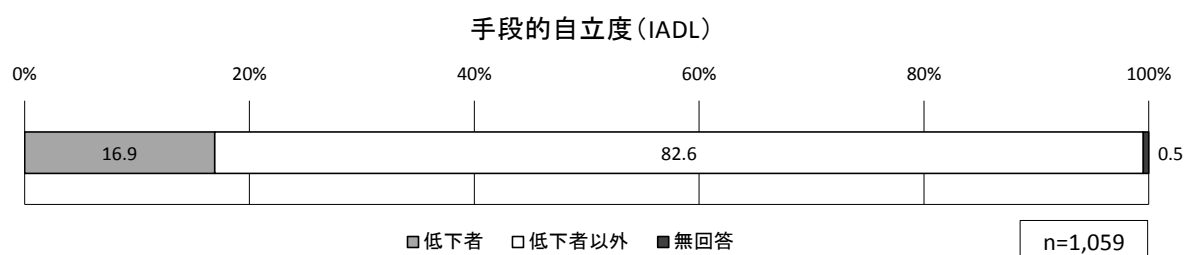


2 日常生活

(1)手段的自立度(IADL)

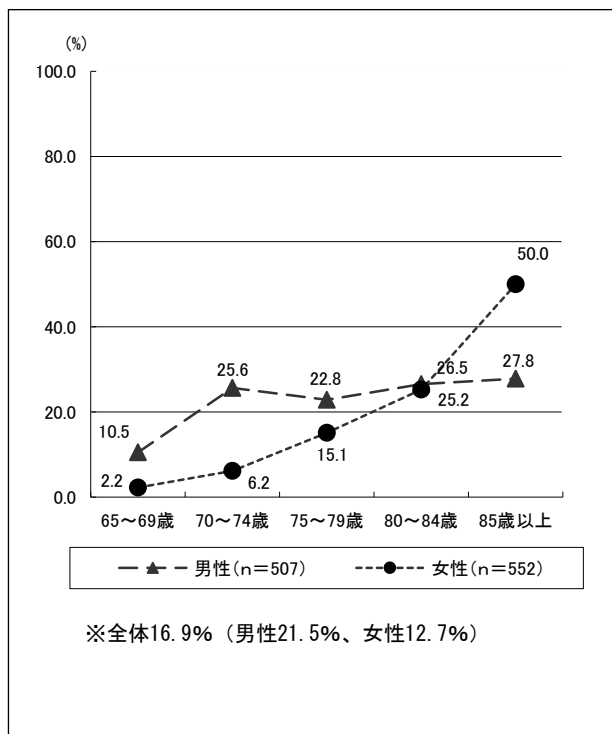
①評価方法及び結果

- 本調査では、高齢者の比較的高次の生活機能进行评估することができる老研式活動能力指標に準じた設問が設けられています。(問4(4)～(8))
- このうち、手段的自立度(IADL)については、各設問に「できるし、している」または「できるけどしていない」と回答した場合を1点として、5点満点で評価し、5点を「高い」、4点を「やや低い」、3点以下を「低い」として評価しています。
- 4点以下を低下者とした評価結果をみると、年齢とともに割合が高くなっています。
- リスク該当状況別にみると、一般高齢者より総合事業対象者の割合が高くなっています。



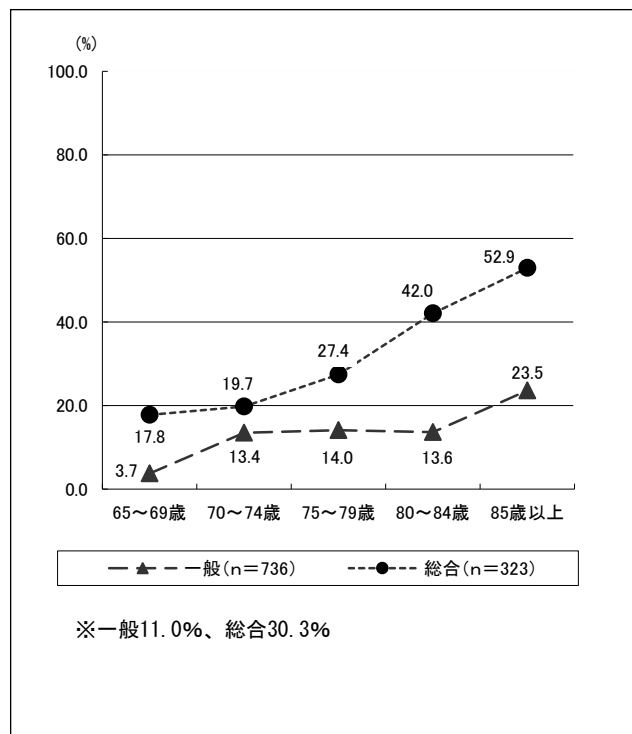
図表 4-2-1 低下者割合

(性・年齢階級別)



図表 4-2-2 低下者割合

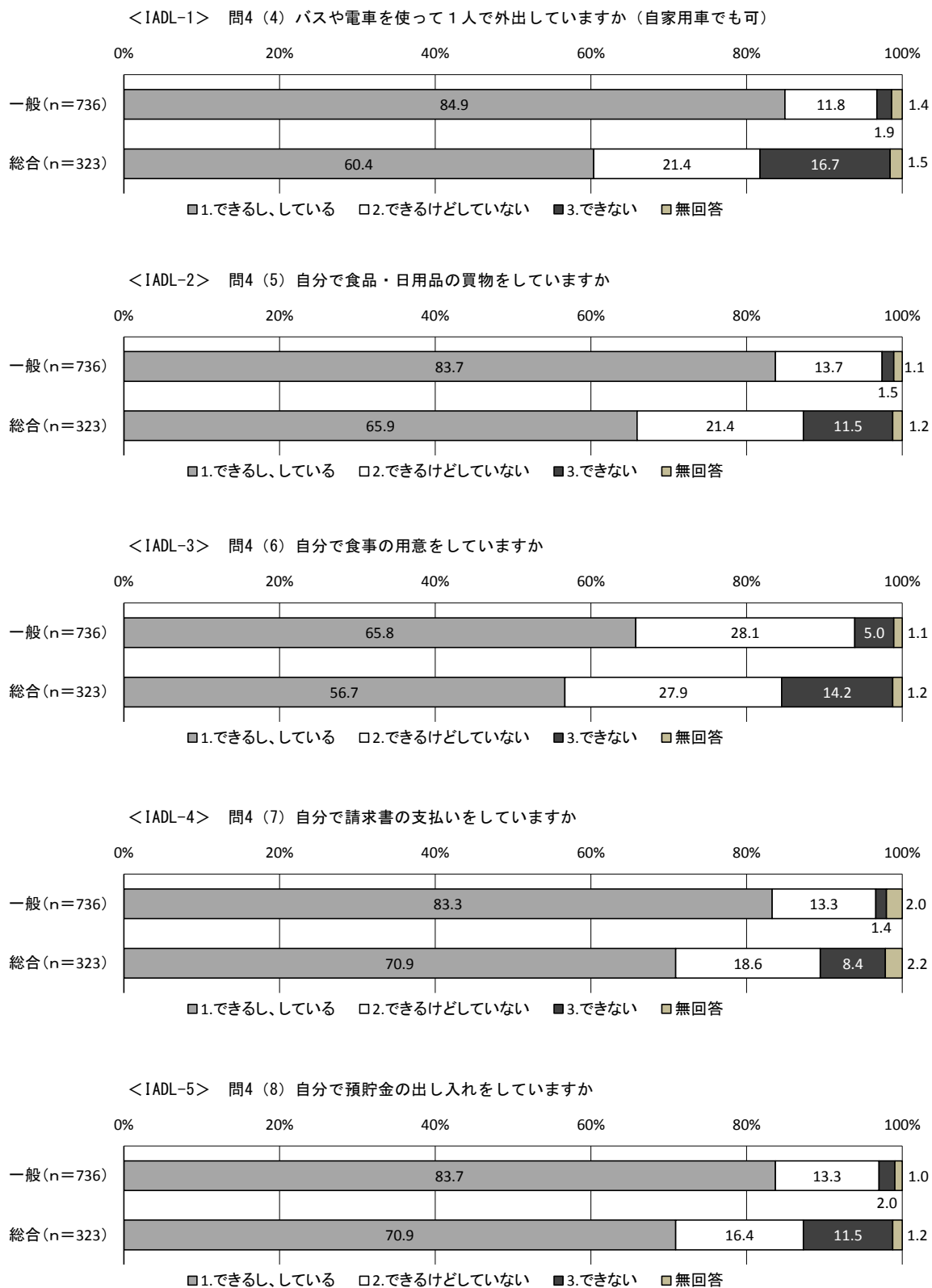
(リスク該当状況・年齢階級別)



②回答状況

○評価の基礎となっている5項目についてそれぞれの回答結果をみると、一般高齢者と総合事業対象者の回答結果には一定の差がみられ、特に総合事業対象者では各設問の「できない」の割合が高くなっています。

図表 4-2-3 回答結果



(2)生活機能総合評価

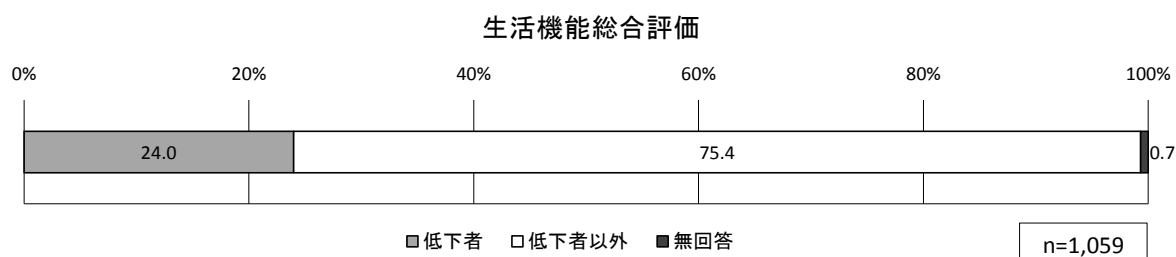
①生活機能低下者割合

○(1)の手段的自立度に、知的能動性、社会的役割を加えた老研指標13項目での評価結果は、以下のとおりとなっています。評価は、13点満点で評価し、11点以上を「高い」、9、10点を「やや低い」、8点以下を「低い」として評価しています。

○10点以下を低下者とした結果をみると、男女別では男性の割合がわずかに高くなっています。

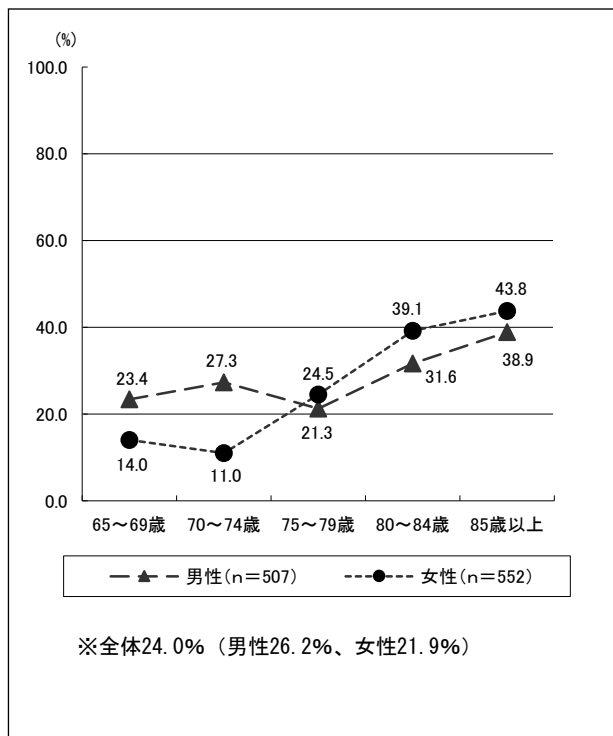
○該当割合は年齢が上がるにつれ高くなる傾向となっています。

○リスク該当状況別にみると、一般高齢者より総合事業対象者の該当割合が高くなっています。



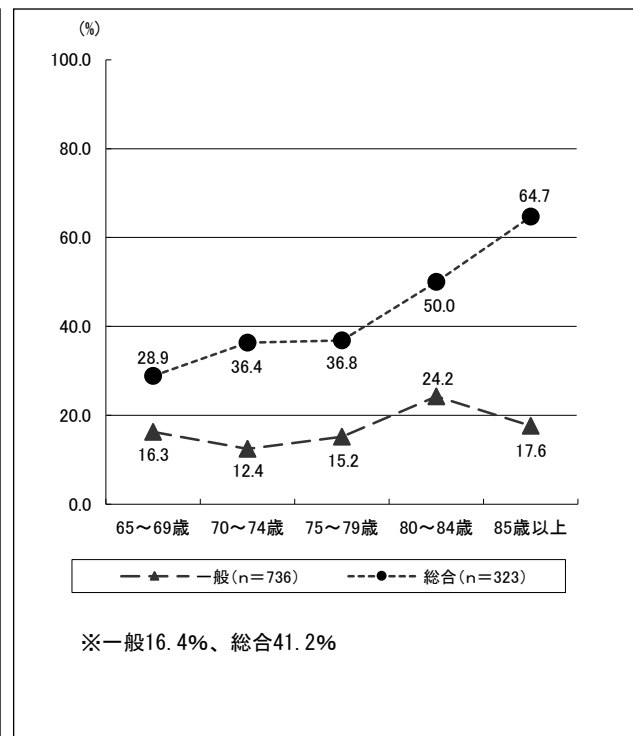
図表 4-2-4 生活機能低下者割合

(性・年齢階級別)



図表 4-2-5 生活機能低下者割合

(リスク該当状況・年齢階級別)

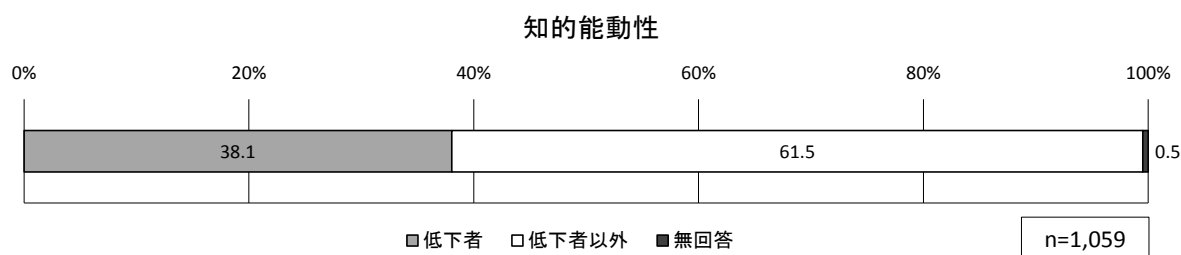


3 社会参加

(1) 知的能動性

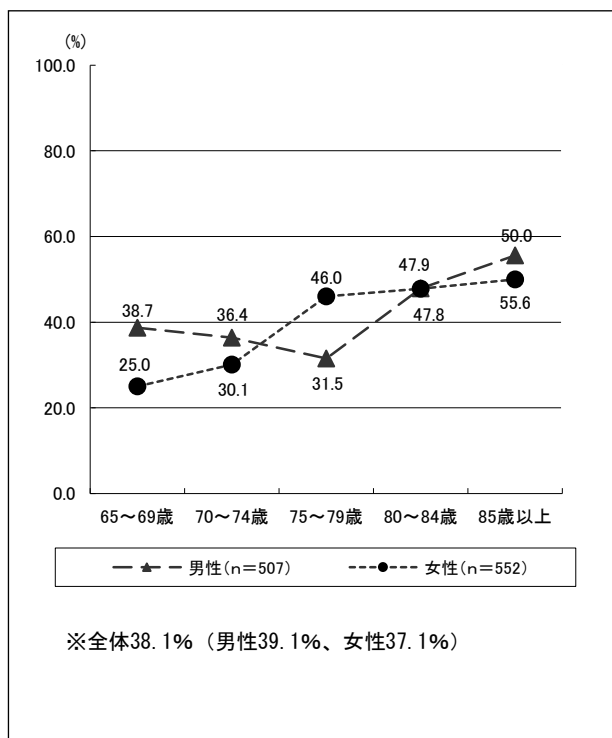
① 評価方法及び結果

- 老研式活動能力指標には、高齢者の知的活動に関する設問が4問設けられ、「知的能動性」として尺度化されています。(問4(9)～(12))
- 評価は、各設問に「はい」と回答した場合を1点として、4点満点の4点を「高い」、3点を「やや低い」、2点以下を「低い」と評価しています。
- 3点以下を低下者とした評価結果をみると、年齢とともに低下者割合も増加する傾向となっていますが、男女にあまり大きな差はみられません。
- リスク該当状況別にみると、一般高齢者より総合事業対象者の該当割合が高くなっています。



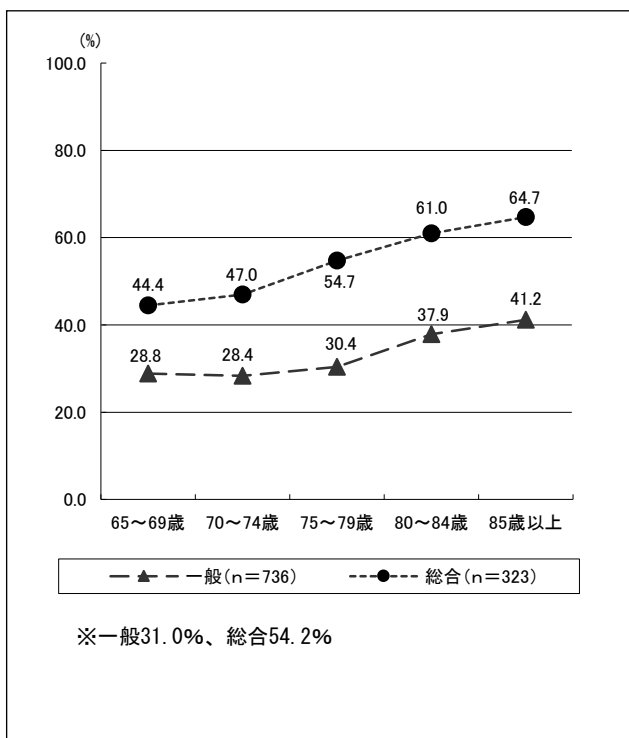
図表4-3-1 低下者割合

(性・年齢階級別)



図表4-3-2 低下者割合

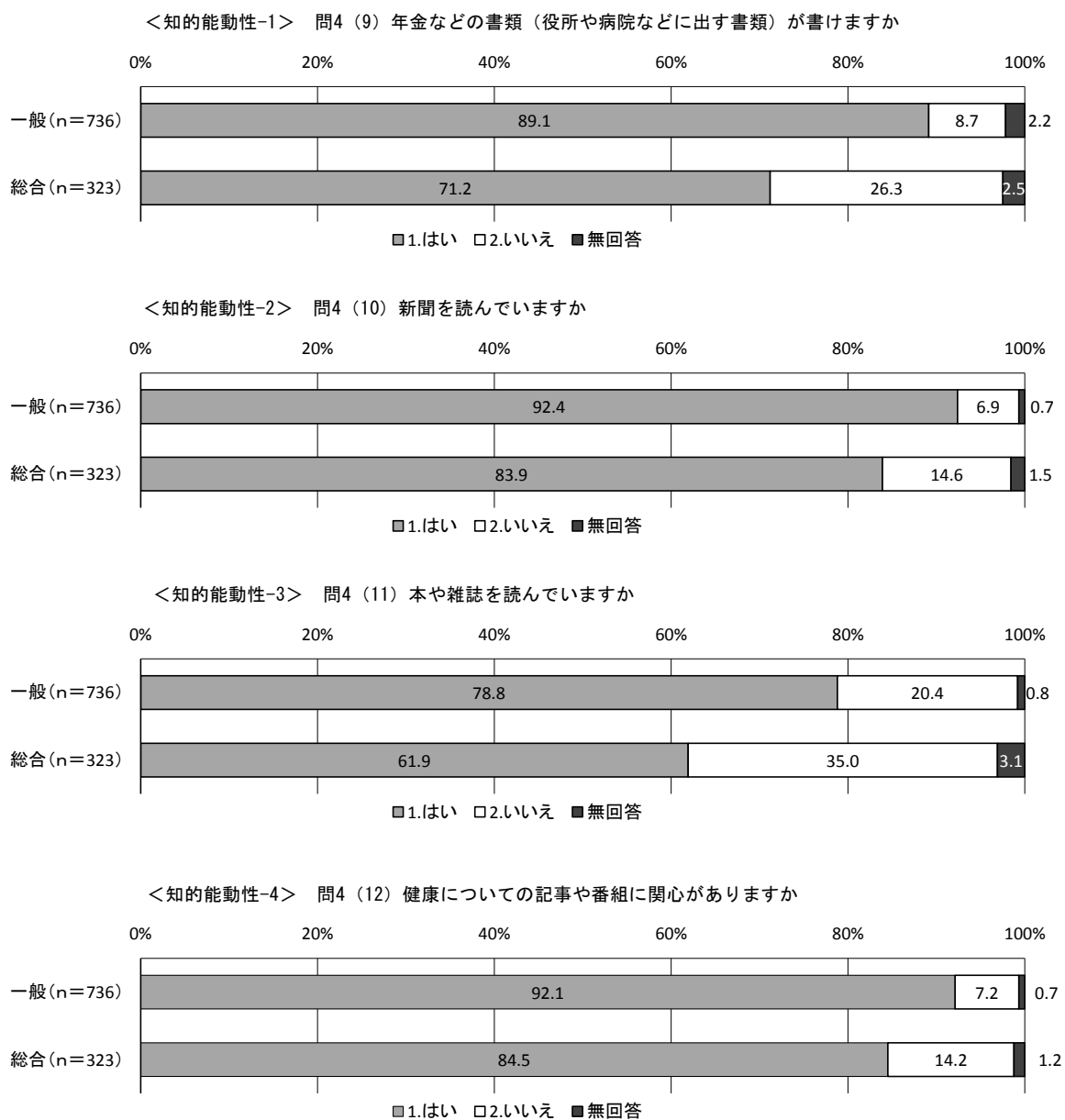
(リスク該当状況・年齢階級別)



②回答状況

○評価の基礎となっている4項目についてそれぞれの回答結果をみると、一般高齢者、総合事業対象者でその回答結果に一定の差がみられます。

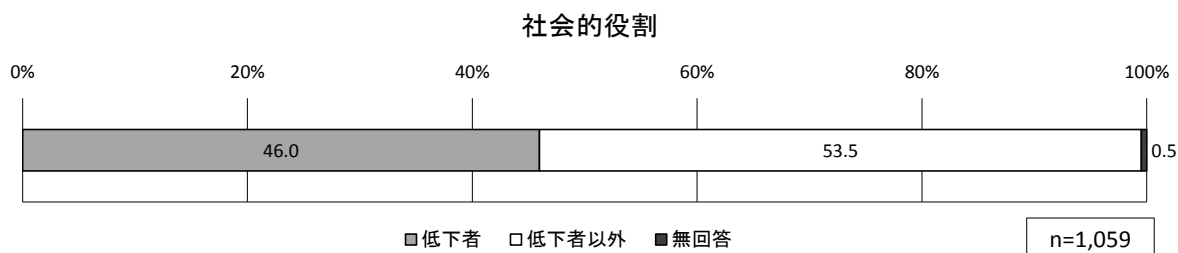
図表 4-3-3 回答結果



(2)社会的役割

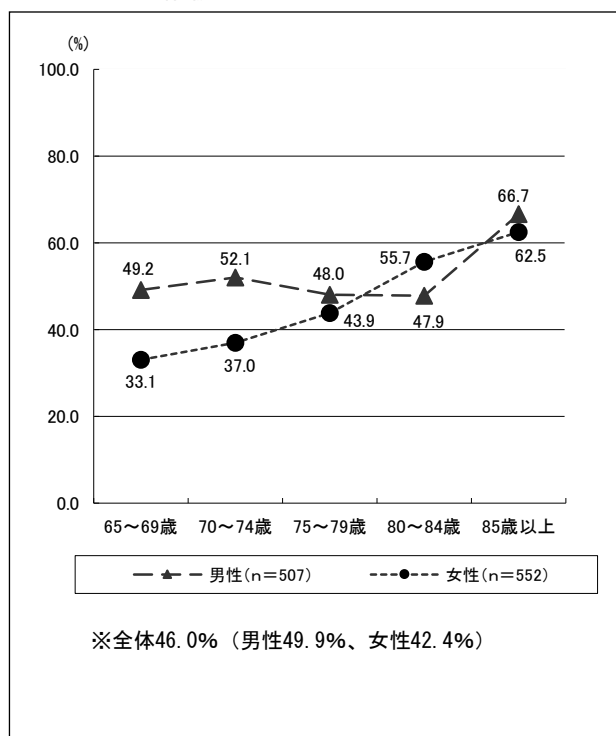
①評価方法及び結果

- 老研式活動能力指標には、高齢者の社会活動に関する設問が4問設けられ、「社会的役割」として尺度化されています。(問4(13)～(16))
- 評価は、知的能動性と同様に4点満点で評価し、4点を「高い」、3点を「やや低い」、2点以下を「低い」と評価しています。
- 2点以下を低下者とした評価結果をみると、男性の低下者割合がわずかに高くなっています。
- リスク該当状況別にみると、一般高齢者より総合事業対象者の低下者割合が高くなっています。



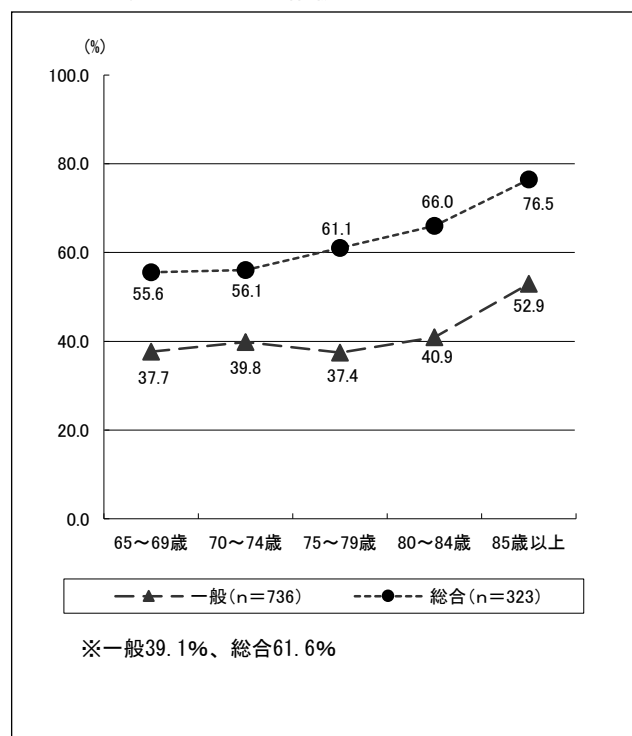
図表 4-3-4 低下者割合

(性・年齢階級別)



図表 4-3-5 低下者割合

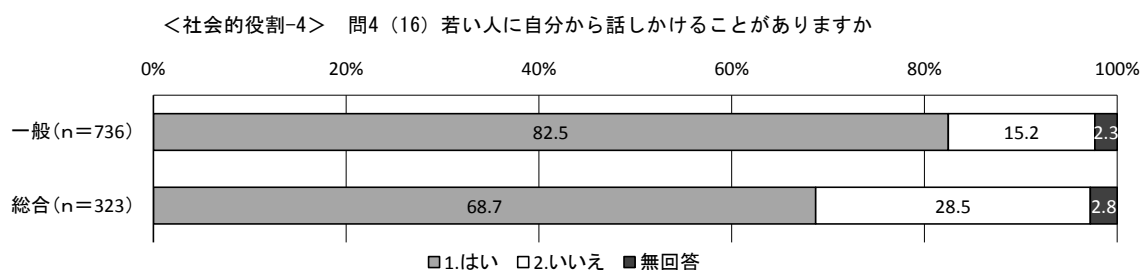
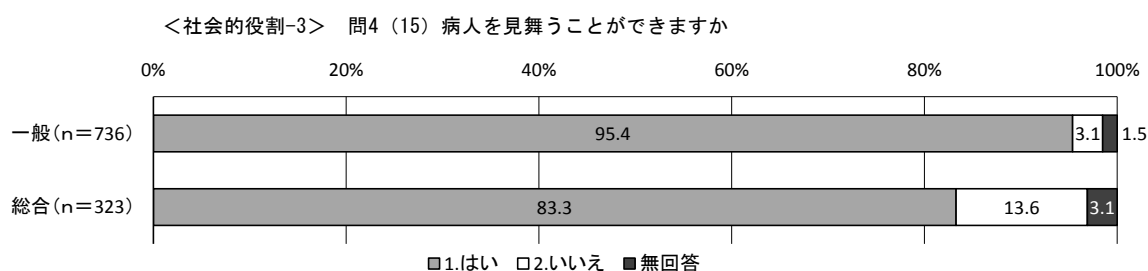
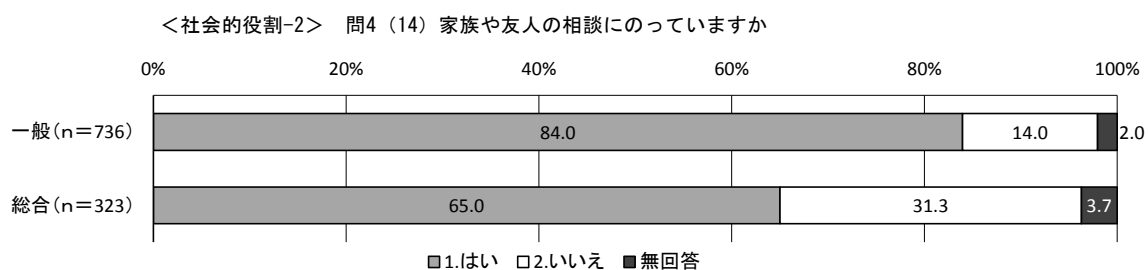
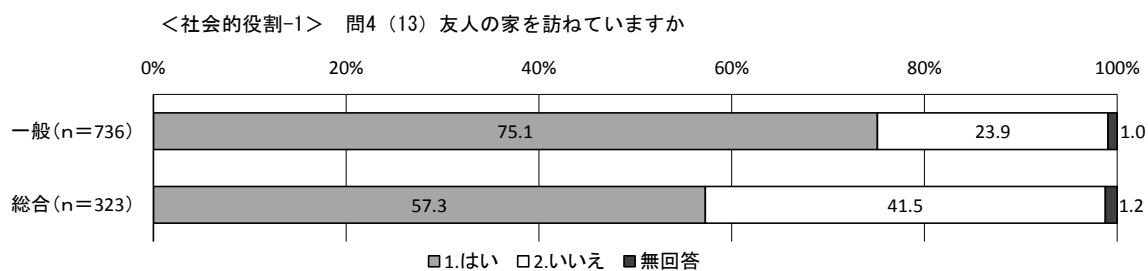
(リスク該当状況・年齢階級別)



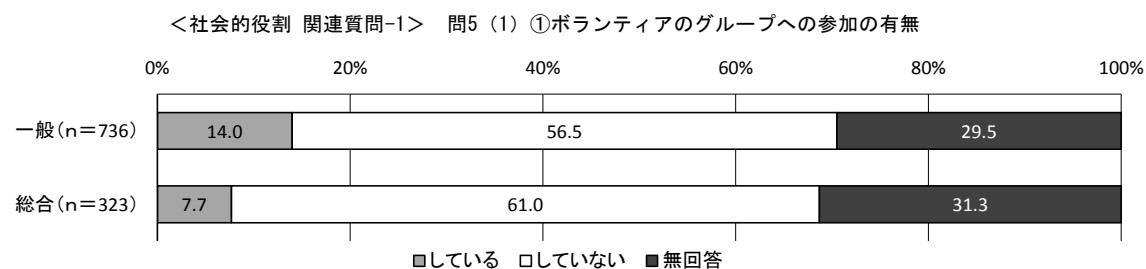
②回答状況

○評価の基礎となっている4項目の回答結果をみると、一般高齢者、総合事業対象者でその回答結果に一定の差がみられます。

図表 4-3-6 回答結果



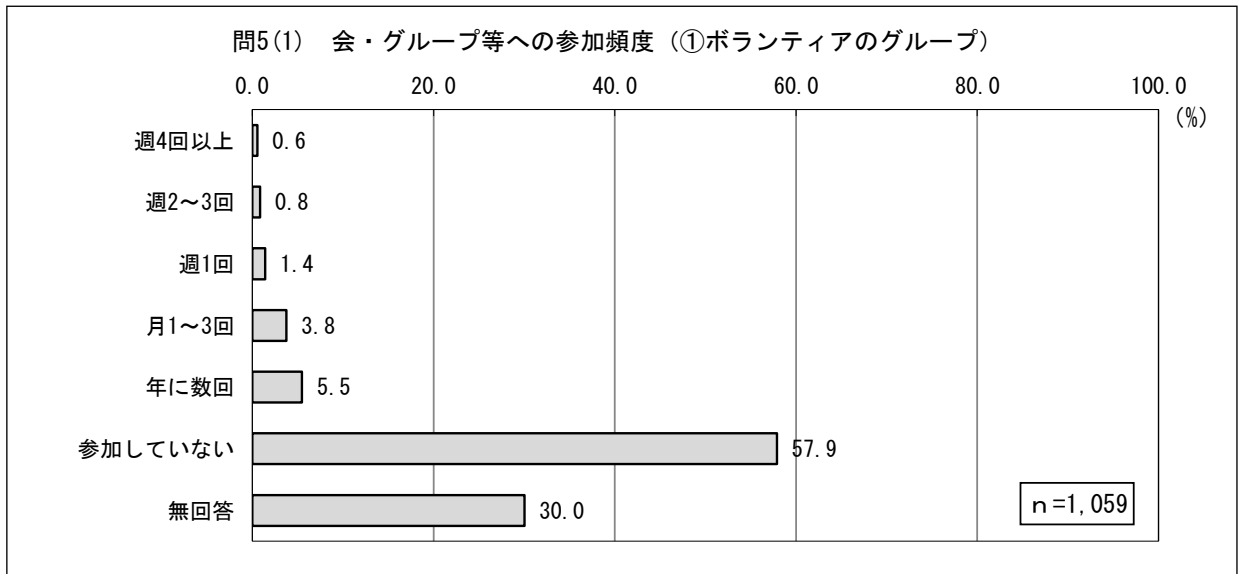
<関連質問>



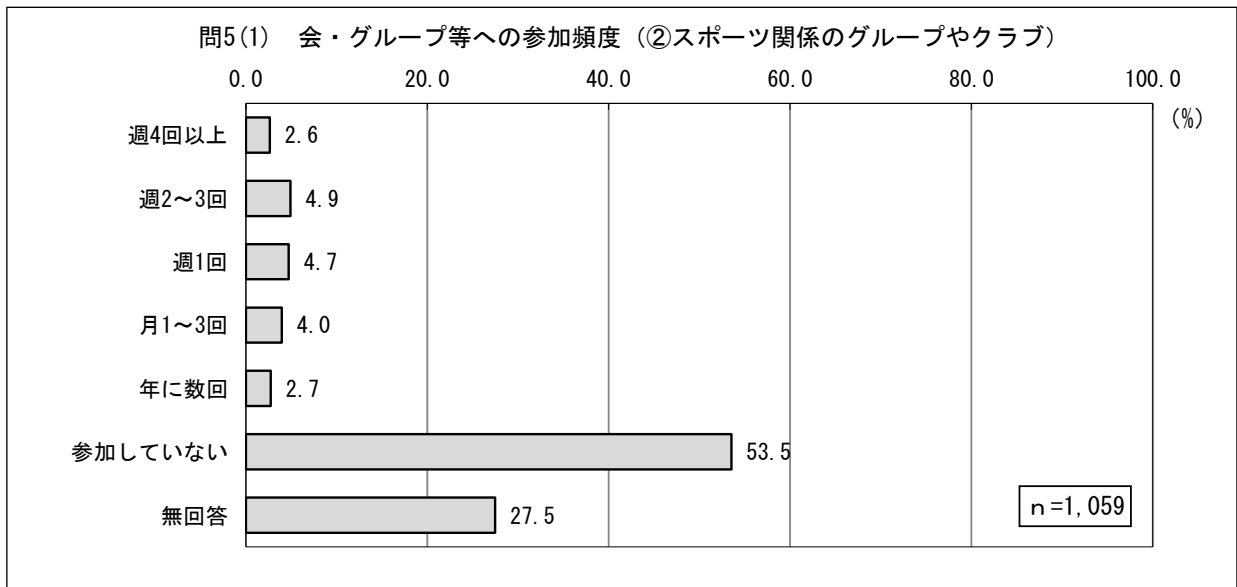
③地域活動等

○会・グループ等への参加としては、「町内会・自治会」に「年に数回」参加される方の割合が最も高くなっています。

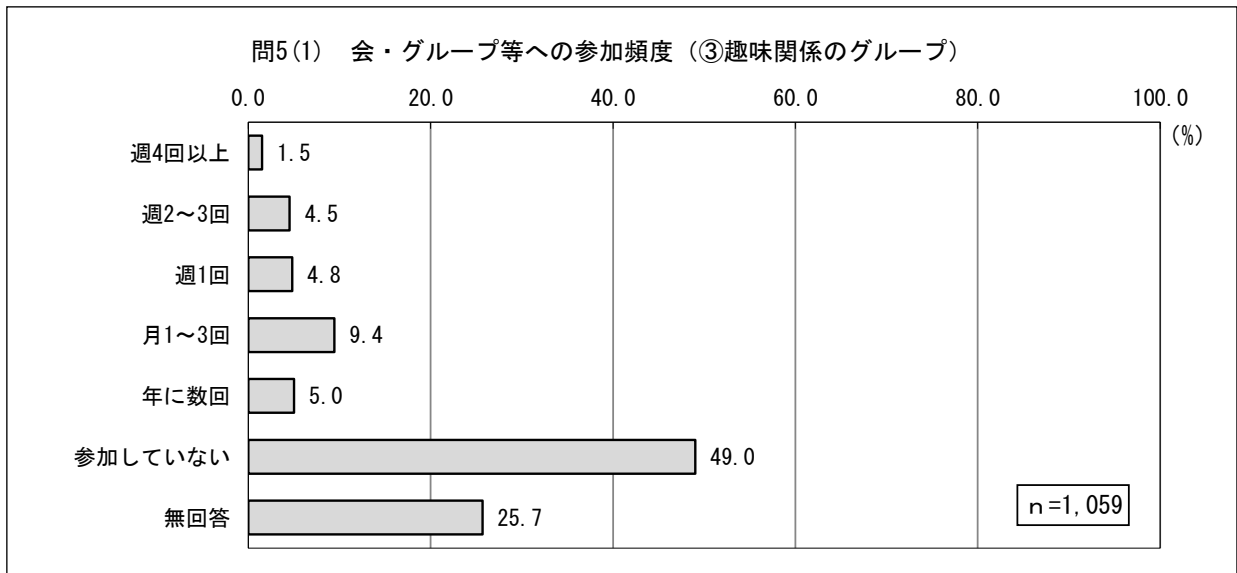
図表 4-3-7 会・グループ等への参加①



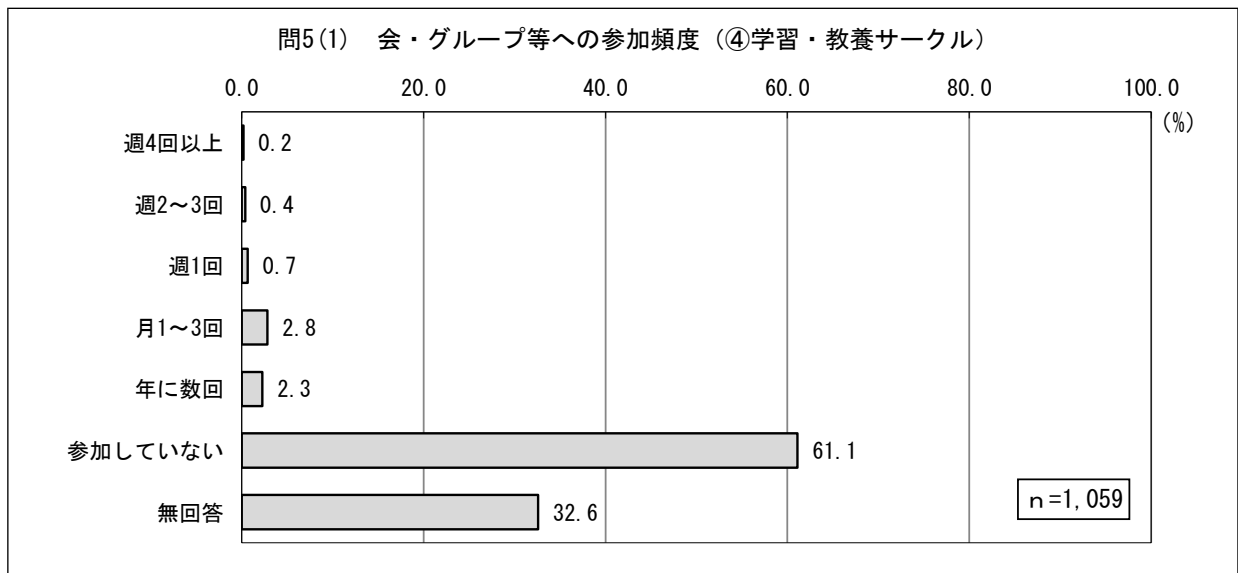
図表 4-3-8 会・グループ等への参加②



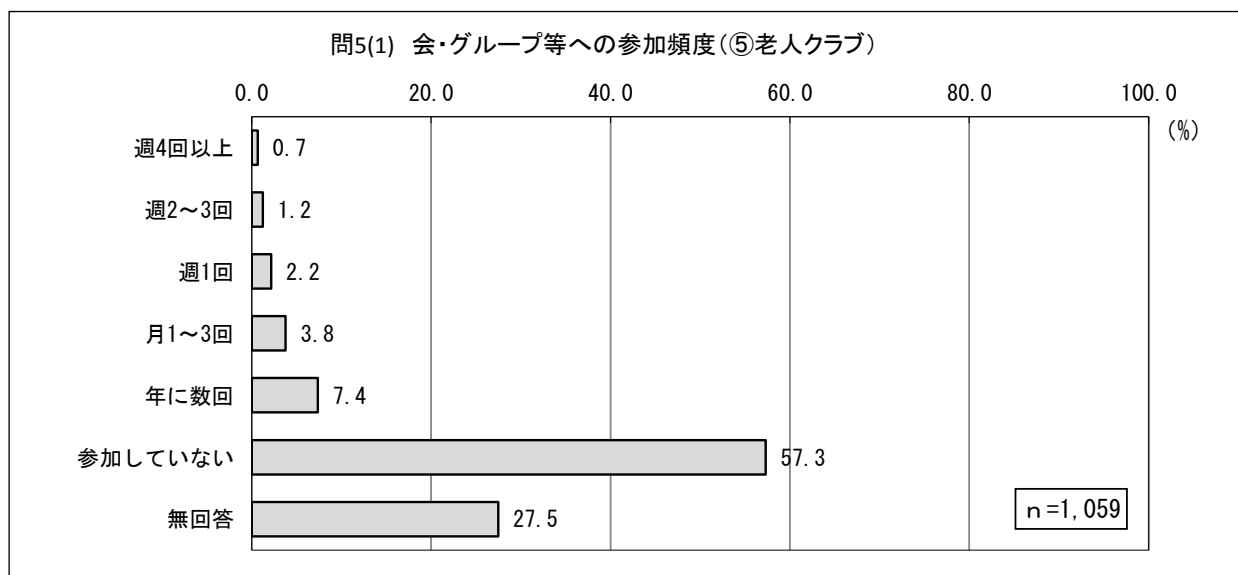
図表 4-3-9 会・グループ等への参加③



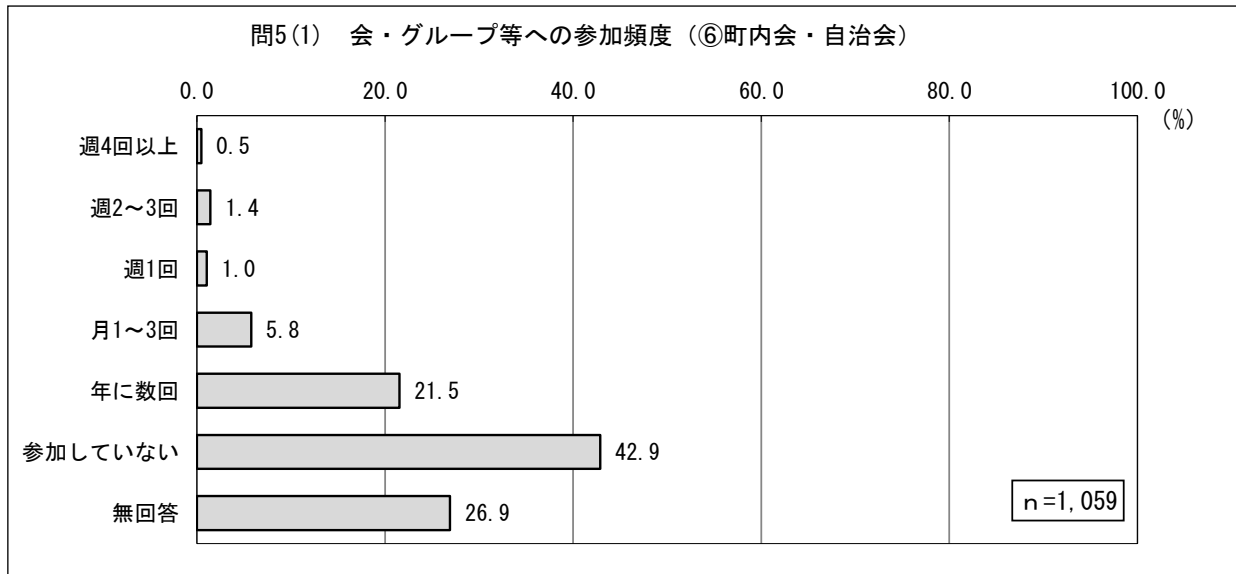
図表 4-3-10 会・グループ等への参加④



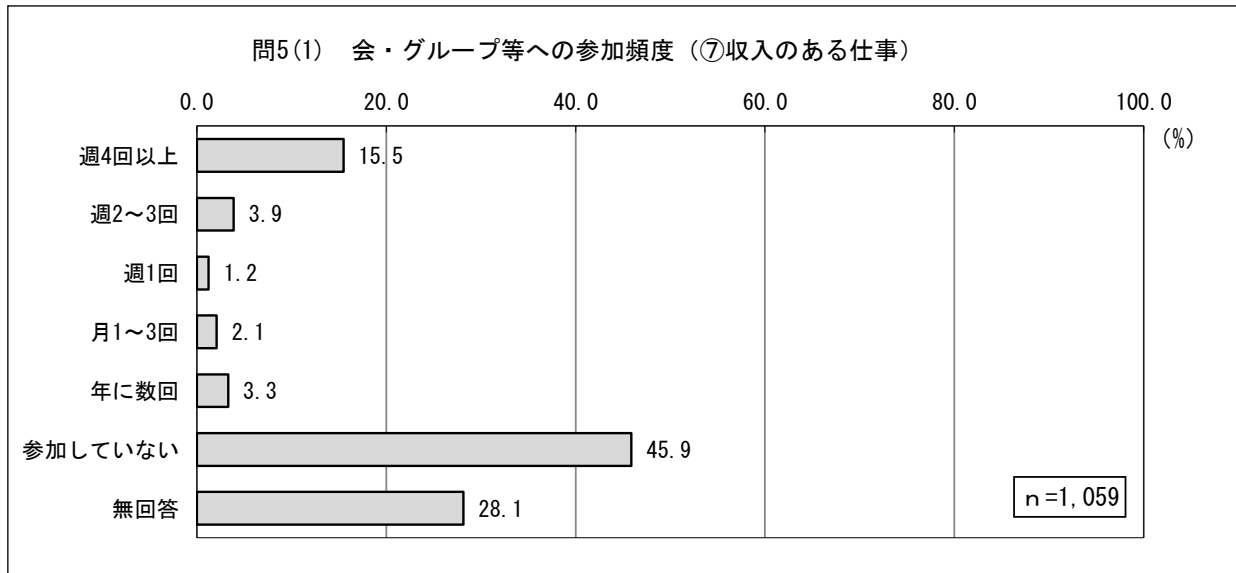
図表 4-3-11 会・グループ等への参加⑤



図表 4-3-12 会・グループ等への参加⑥

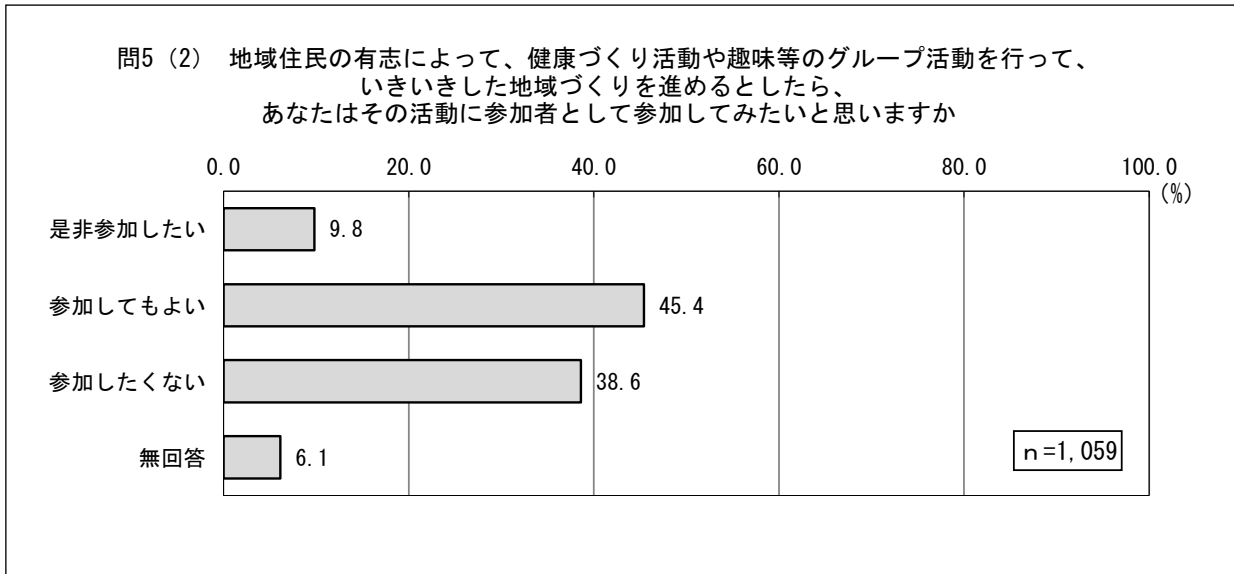


図表 4-3-13 会・グループ等への参加⑦

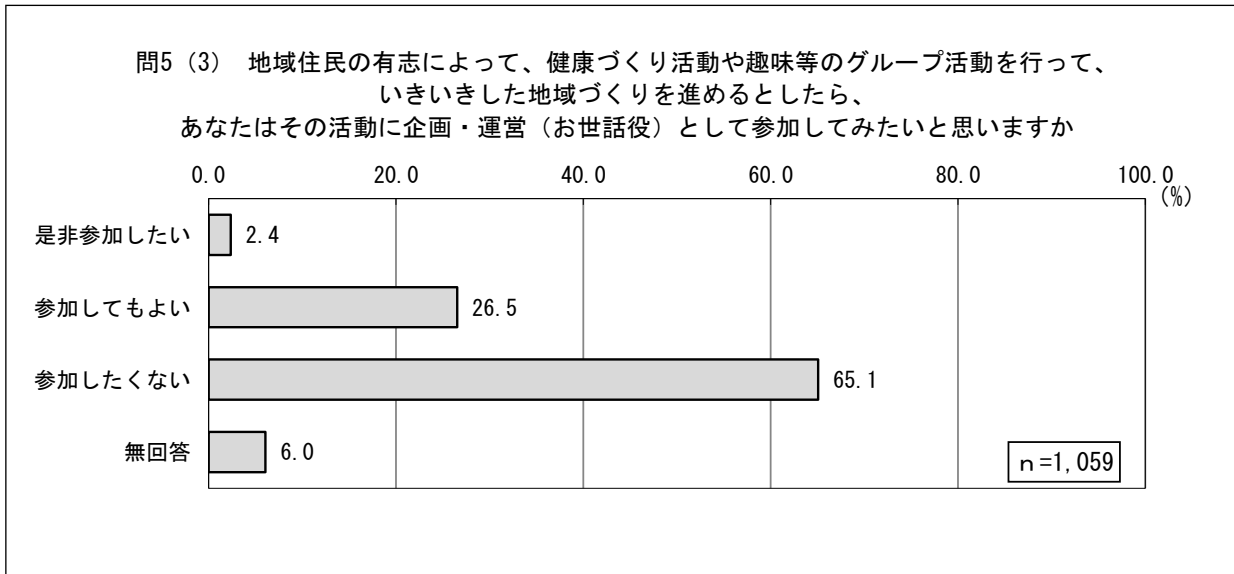


○社会参加活動については参加者として「参加してもよい」が45.4%に対して、企画・運営（運営側）として「参加してもよい」は26.5%となっています。

図表 4-3-14 社会参加活動について①

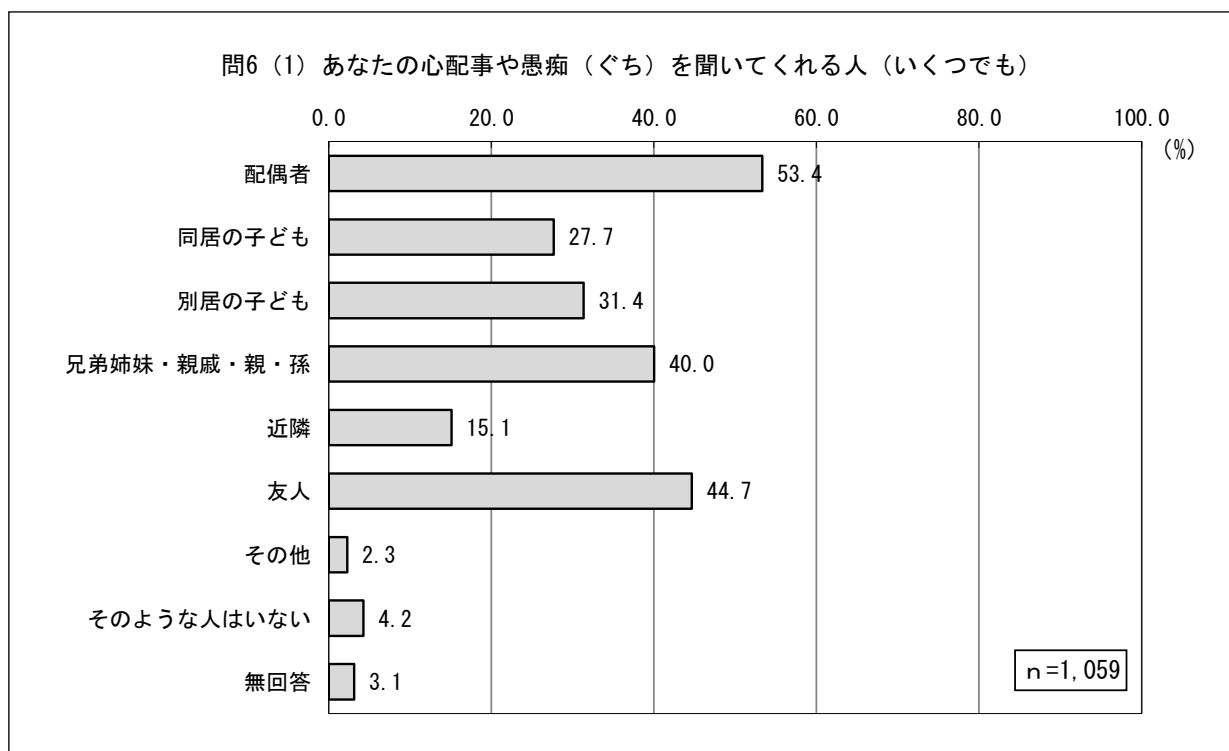


図表 4-3-15 社会参加活動について②

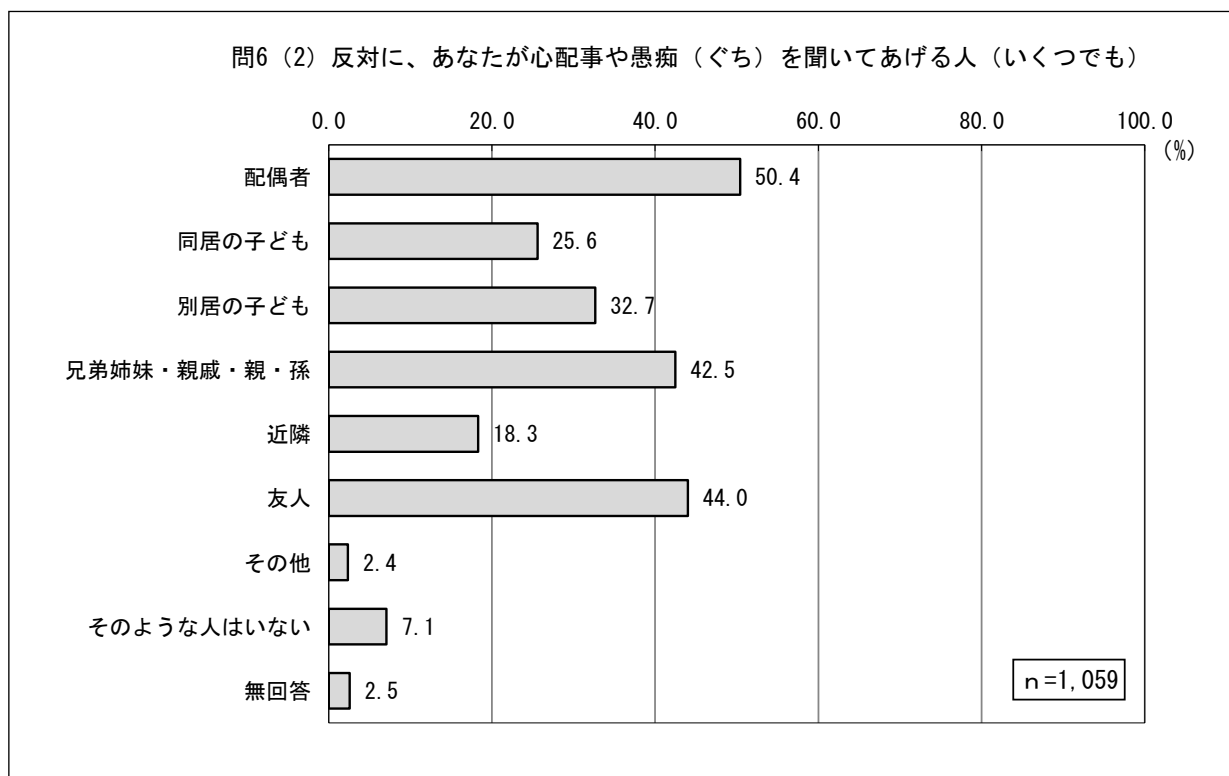


○話し相手は、「心配事や愚痴（ぐち）を聞いてくれる人」「心配事や愚痴（ぐち）を聞いてあげる人」とともに「配偶者」と回答した方の割合が最も高くなっています。

図表 4-3-16 話し相手（聞いてくれる人）

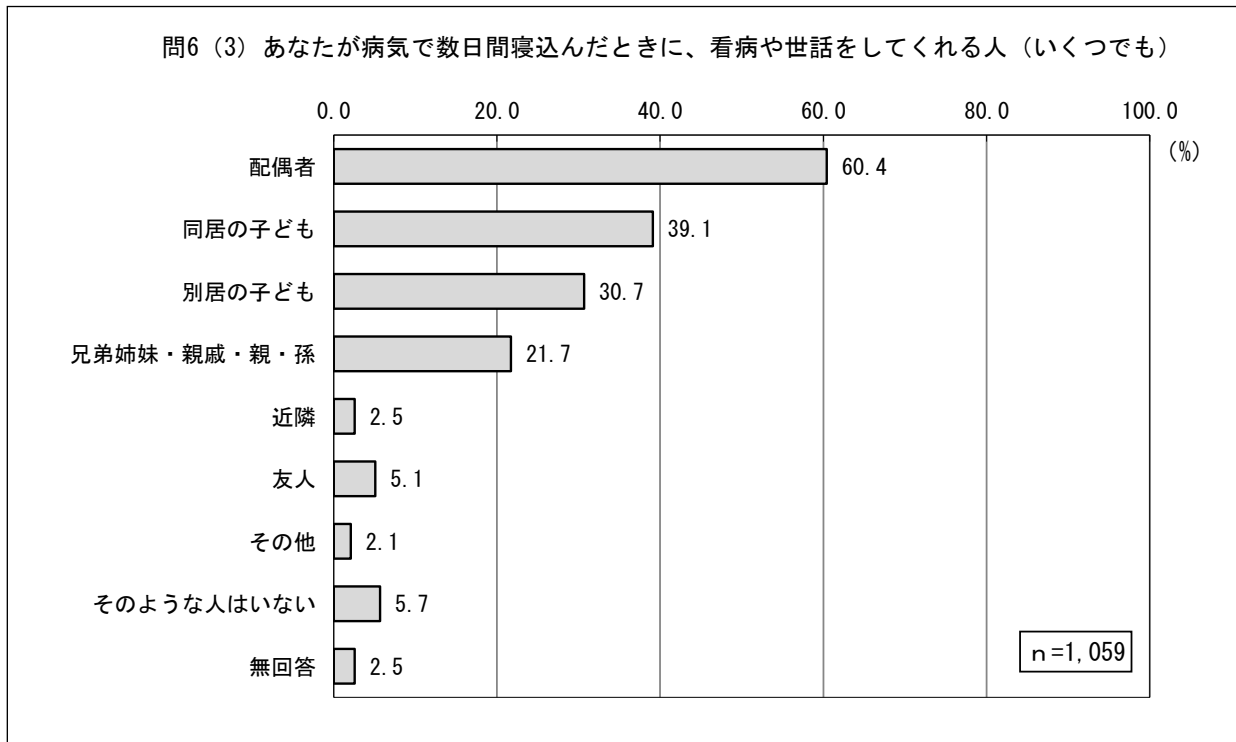


図表 4-3-17 話し相手（聞いてあげる人）

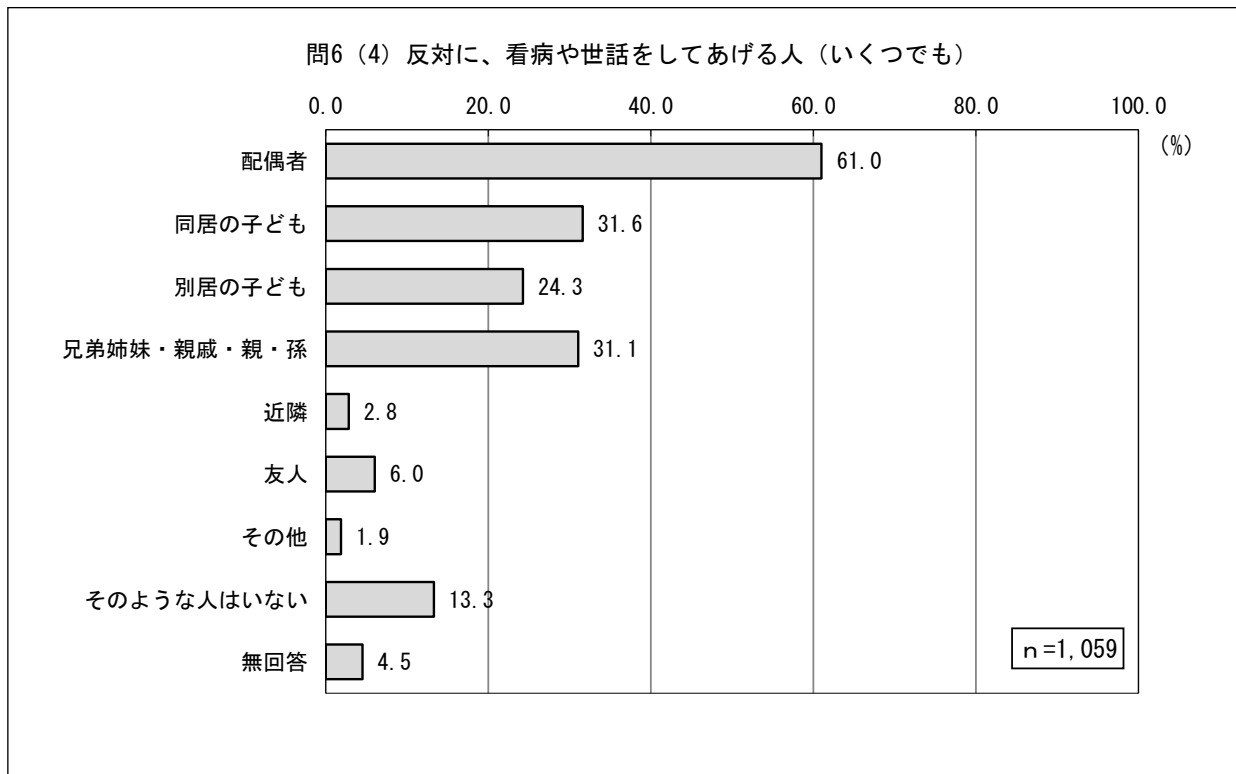


○病気や看病の相手は「看病や世話をしてくれる人」「看病や世話をしあける人」とともに「配偶者」と回答した方の割合が最も高くなっています。

図表 4-3-18 世話をしてくれる人

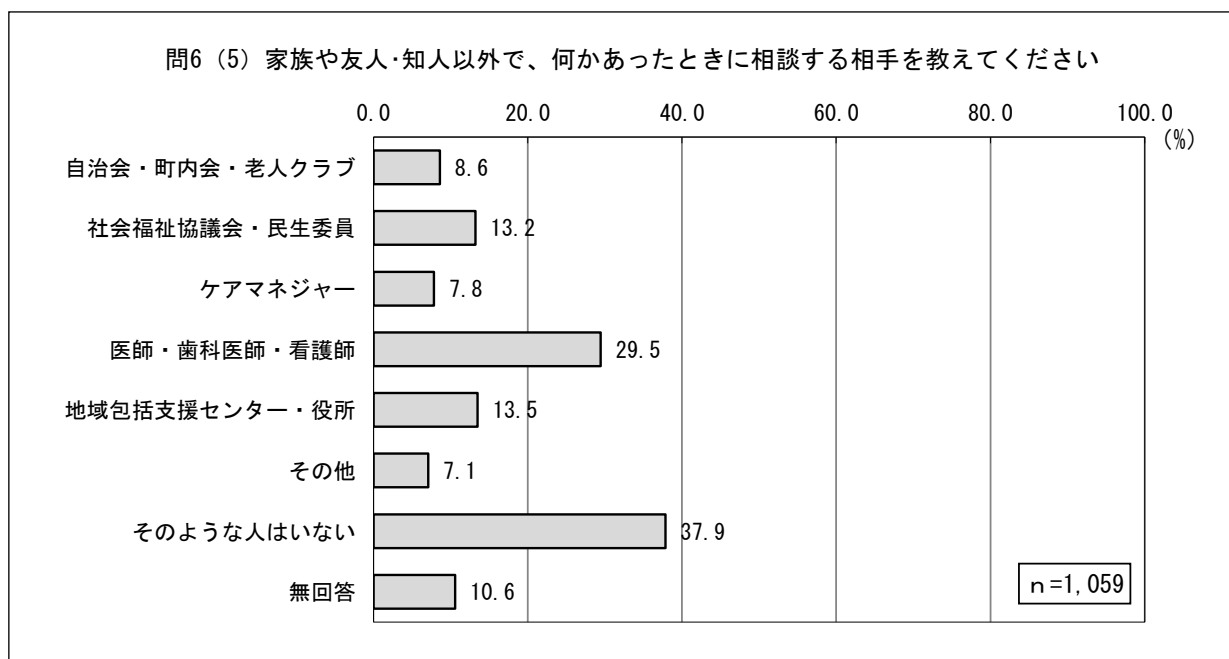


図表 4-3-19 世話をしあける人



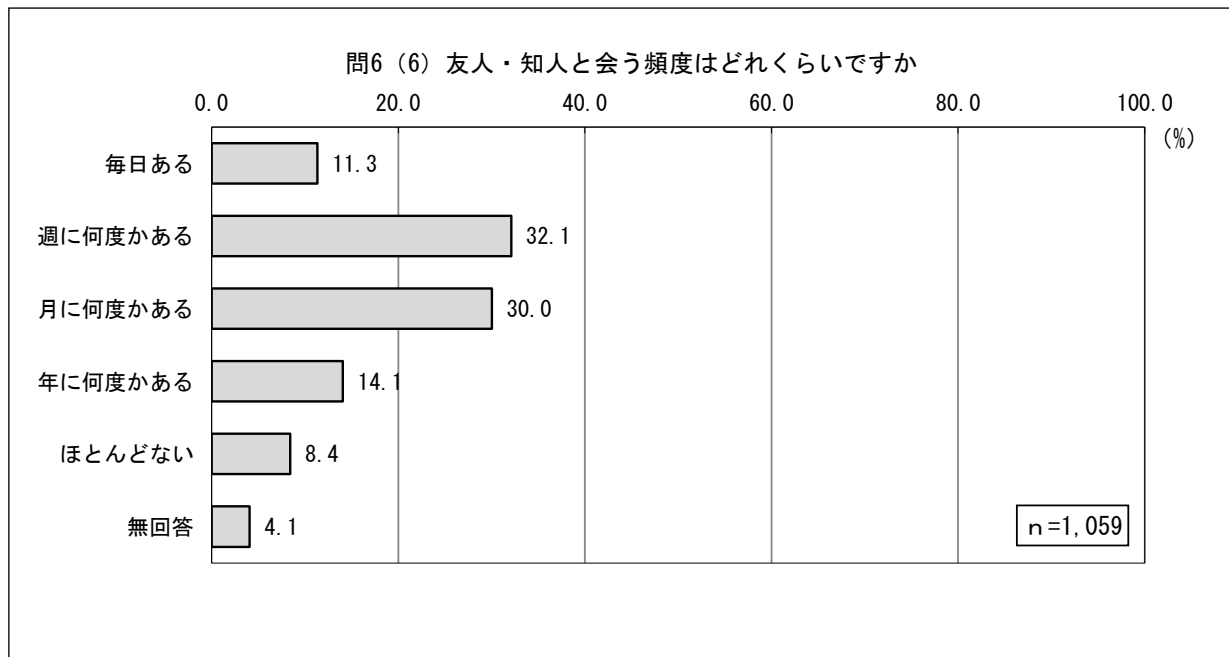
○家族や友人・知人以外の相談相手は、「医師・歯科医師・看護師」が最も多く29.5%、次いで「地域包括支援センター・役所」が13.5%となっている一方で、「そのような人はいない」が37.9%となっています。

図表 4-3-20 家族・友人以外の相談相手



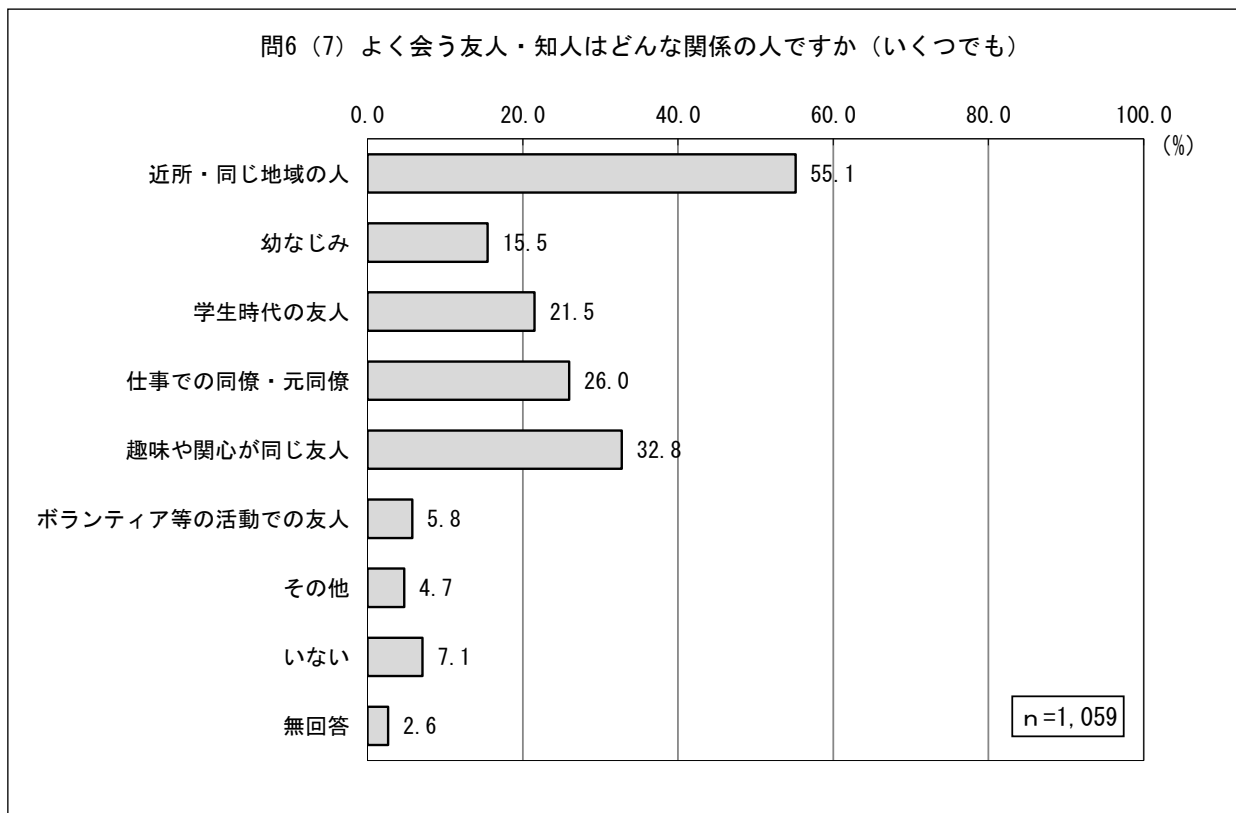
○友人・知人と会う頻度は、「週に何度かある」が最も多く32.1%、次いで「月に何度かある」が30.0%となっています。

図表 4-3-21 友人と会う頻度



○よく会う友人・知人との関係は、「近所・同じ地域の人」が最も多く55.1%、次いで「趣味や関心が同じ友人」が32.8%となっています。

図表 4-3-22 友人とはどんな関係か



5 健康・疾病

1 疾病

現在治療中、または後遺症のある病気について、最も割合の高いのは一般高齢者・総合事業対象者ともに「高血圧」となっています。また、一般高齢者と総合事業対象者の差が大きいのは「筋骨格系の病気（骨粗しょう症、関節症等）」となっています。

図表 5-1-1 有病率（リスク該当状況別）

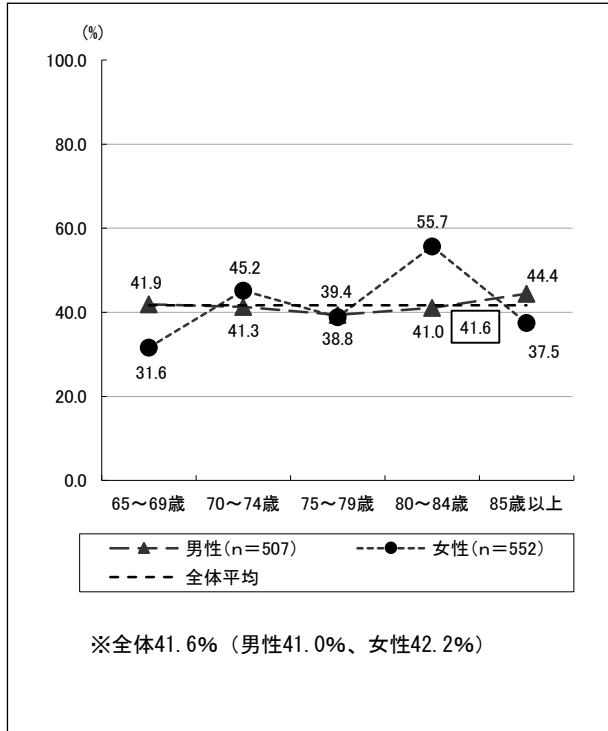
	単位(%)	
	一般	総合
高血圧	40.8	43.7
目の病気	18.6	29.7
筋骨格の病気(骨粗しょう症、関節症等)	9.8	23.8
糖尿病	12.0	17.0
高脂血症(脂質異常)	12.0	13.9
耳の病気	6.7	13.6
心臓病	7.1	13.3
胃腸・肝臓・胆のうの病気	6.0	9.6
腎臓・前立腺の病気	5.6	9.0
呼吸器の病気(肺炎や気管支炎等)	4.3	8.0
脳卒中(脳出血・脳梗塞等)	4.9	5.9
がん(悪性新生物)	2.7	5.9
外傷(転倒・骨折等)	0.8	5.0
認知症(アルツハイマー病等)	0.7	3.1
血液・免疫の病気	0.7	2.5
うつ病	1.2	1.9
パーキンソン病	0.3	1.2
その他	7.3	11.1
ない	19.0	7.4
無回答	6.3	4.3

(1) 高血圧

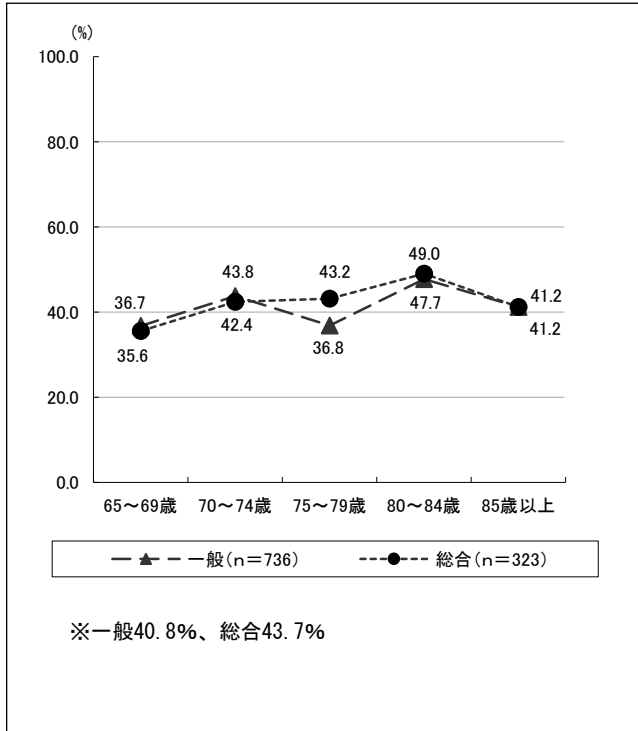
◇ 有病率

- 現在治療中または後遺症のある病気で最も高いのは「高血圧」ですが、性別による差はあまりみられませんでした。
- リスク該当状況別にみても、一般高齢者と総合事業対象者の有病率にあまり差はみられませんでした。

図表 5-1-2 有病率（性・年齢階級別）



図表 5-1-3 有病率（リスク該当状況・年齢階級別）

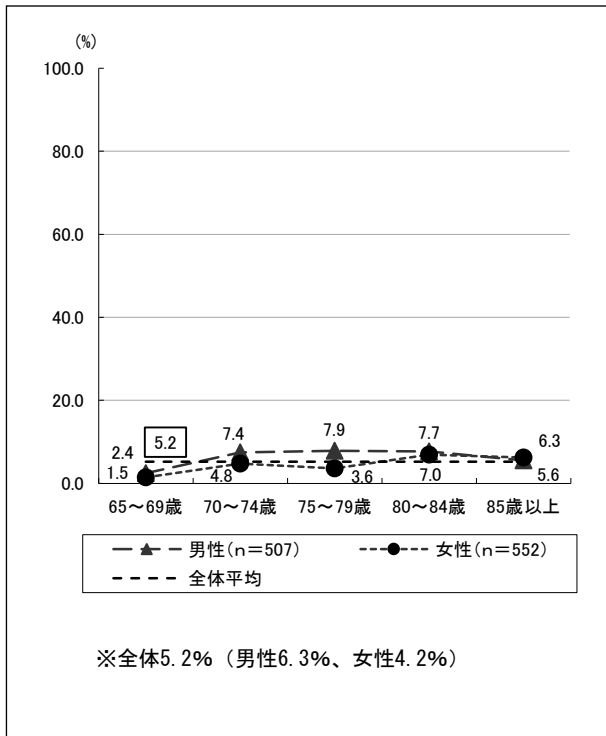


(2)脳卒中

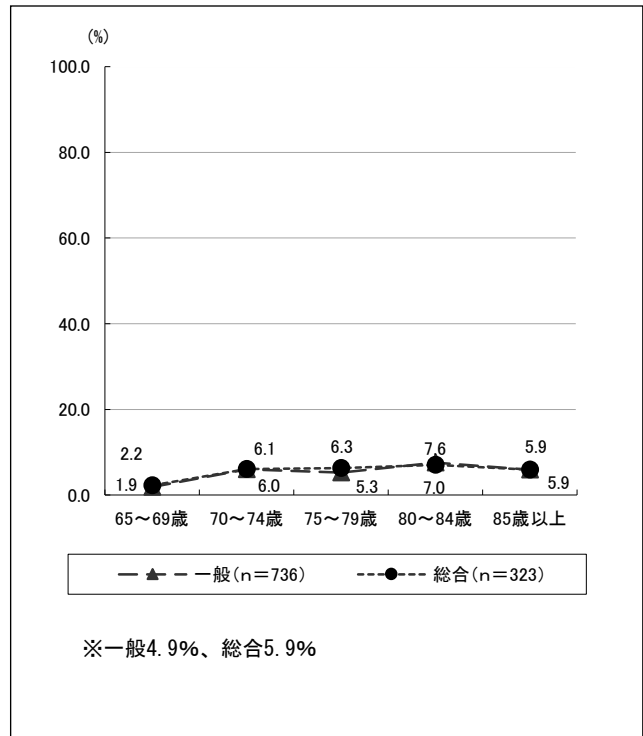
◇有病率

- 要介護の主原因となる「脳卒中」について、現在治療中とする割合(有病率)は、非常に低くなっています。
- 性別・リスク該当状況別にみてもほとんど差はみられず、年齢による傾向もみられません。

図表 5-1-4 有病率
(性・年齢階級別)



図表 5-1-5 有病率
(リスク該当状況・年齢階級別)

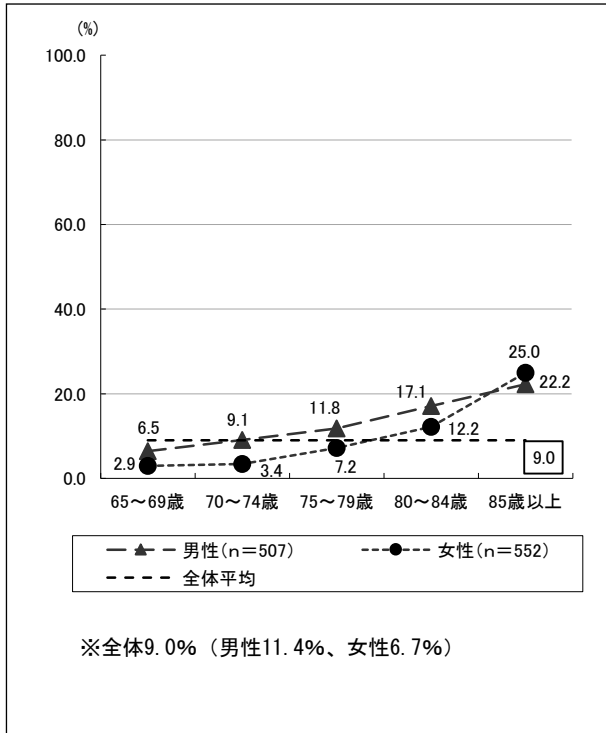


(3)心臓病

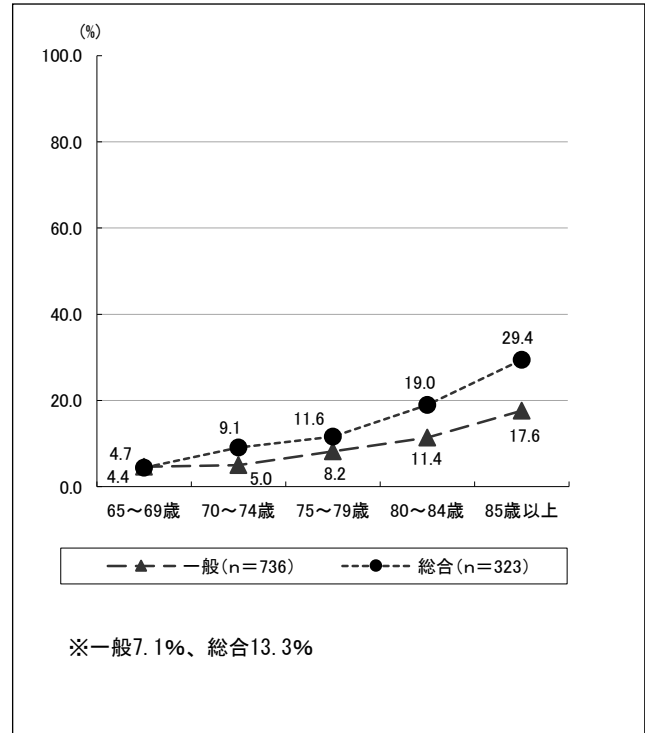
◇有病率

- 内蔵疾患で要介護の原因となる「心臓病」についてみると、有病率は、女性より男性で高くなっています。
- リスク該当状況別にみると、一般高齢者より総合事業対象者の有病率が高くなっています。

図表 5-1-6 有病率
(性・年齢階級別)



図表 5-1-7 有病率
(リスク該当状況・年齢階級別)



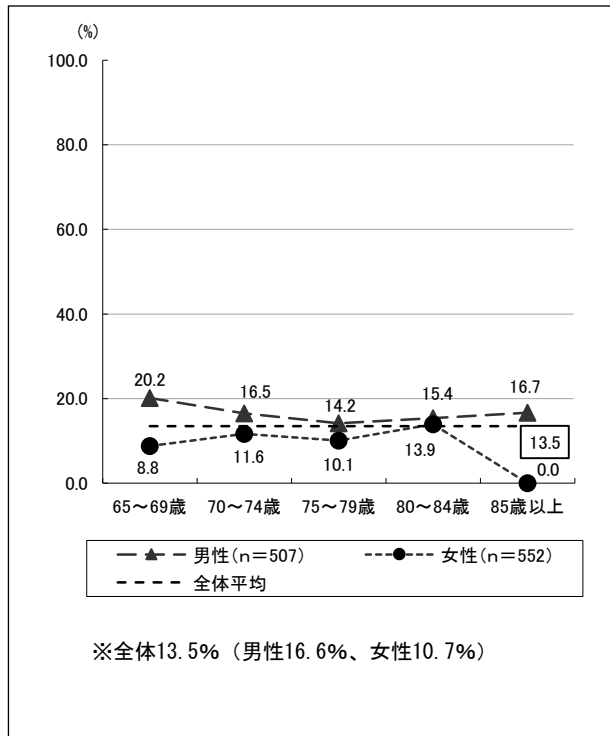
(4)糖尿病

◇有病率

- 同じく内蔵疾患で要介護の原因となる「糖尿病」についてみると、有病率は女性より男性で高くなっています。
- リスク該当状況別にみると、一般高齢者より総合事業対象者の有病率がわずかに高くなっています。

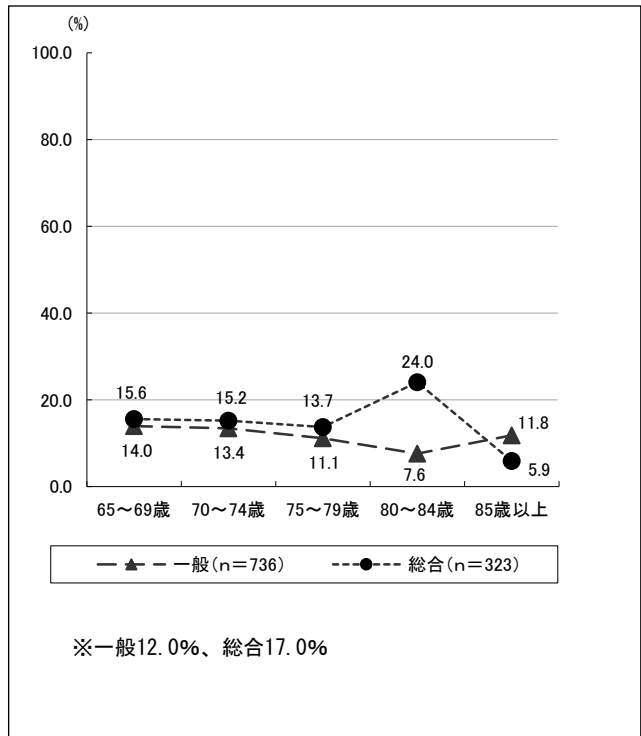
図表 5-1-8 有病率

(性・年齢階級別)



図表 5-1-9 有病率

(リスク該当状況・年齢階級別)



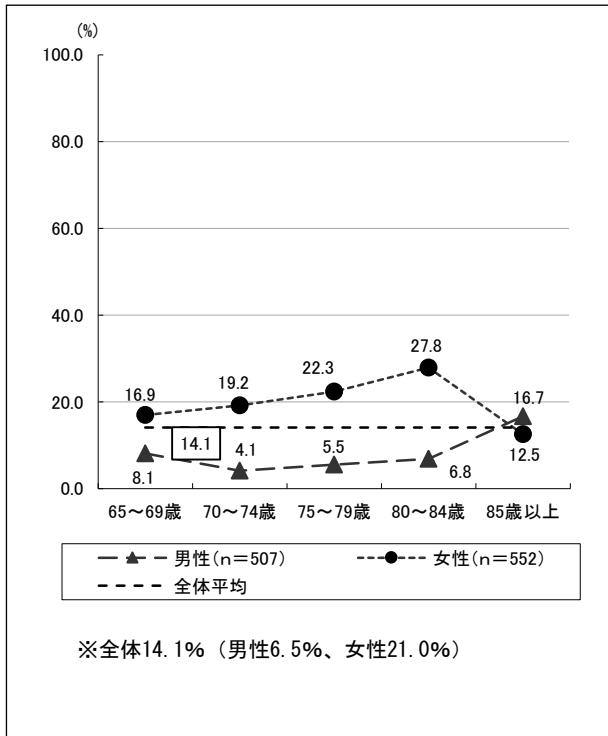
(5)筋骨格系疾患

◇有病率

- 要介護原因となる関節リウマチを含む「筋骨格系」疾患の有病率をみると、男性より女性で高くなっています。
- リスク該当状況別にみると、一般高齢者より総合事業対象者の有病率が高くなっています。

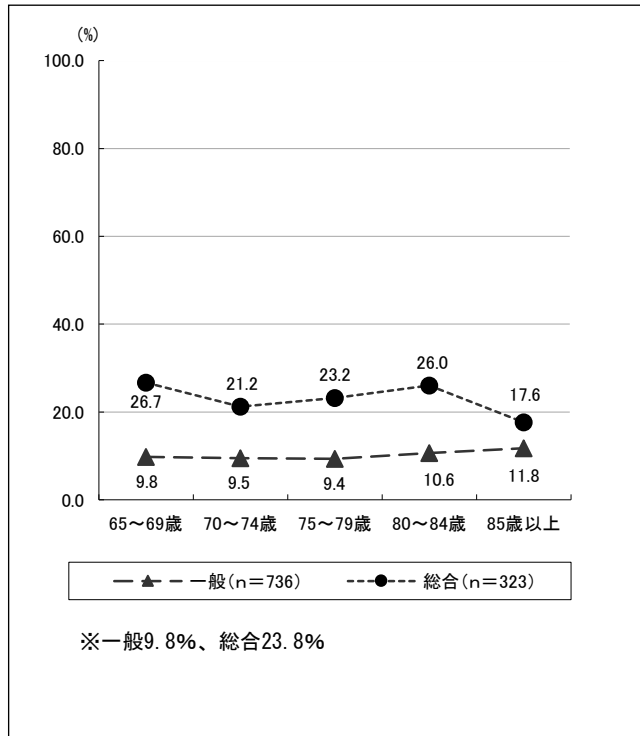
図表 5-1-10 有病率

(性・年齢階級別)



図表 5-1-11 有病率

(リスク該当状況・年齢階級別)



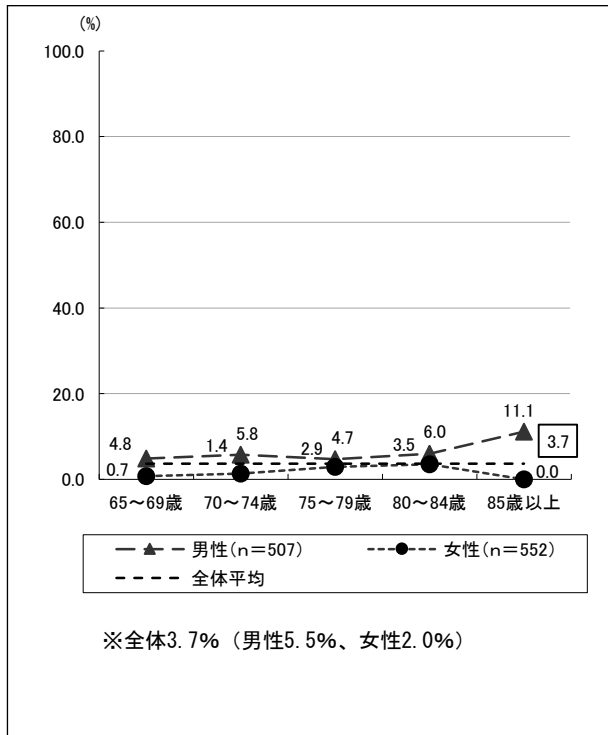
(6)がん

◇有病率

- やはり要介護原因にもなる「がん（新生物）」の有病率をみると、女性より男性で高くなっています。
- リスク該当状況別にみると、一般高齢者より総合事業対象者の有病率がわずかに高くなっています。

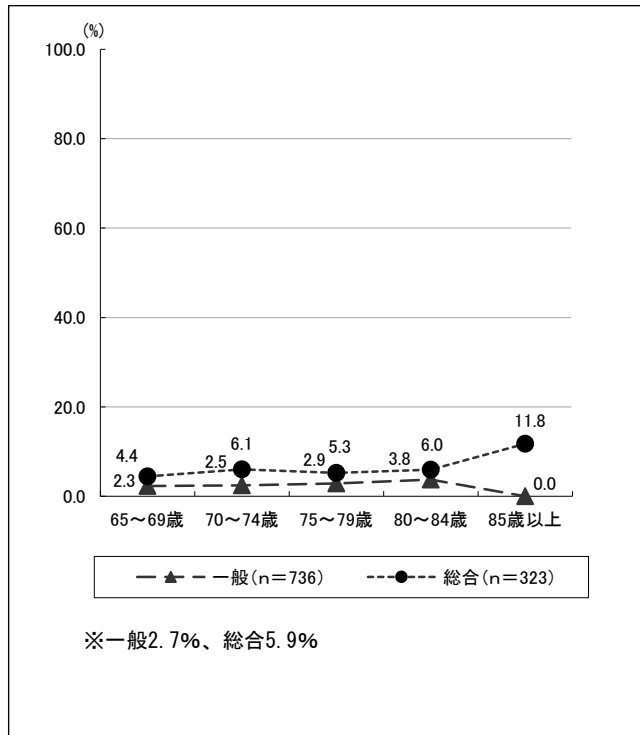
図表 5-1-12 有病率

(性・年齢階級別)



図表 5-1-13 有病率

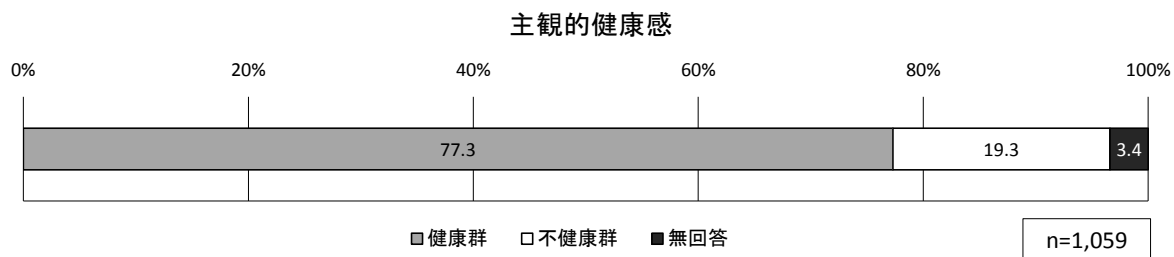
(リスク該当状況・年齢階級別)



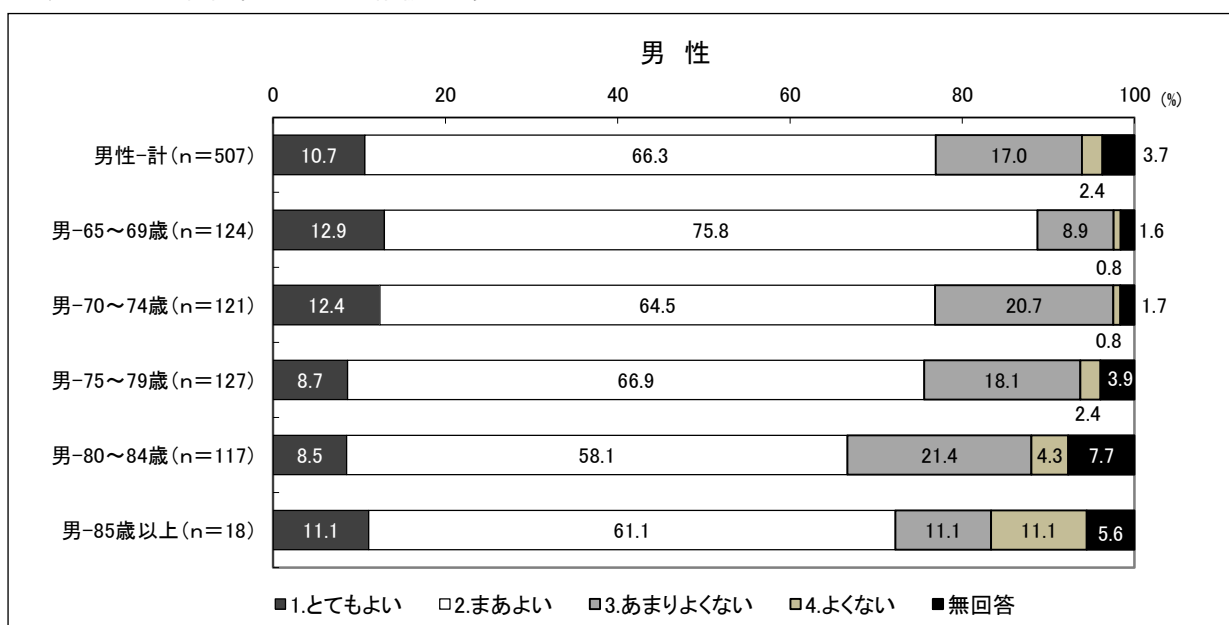
2 主観的健康感

①回答結果

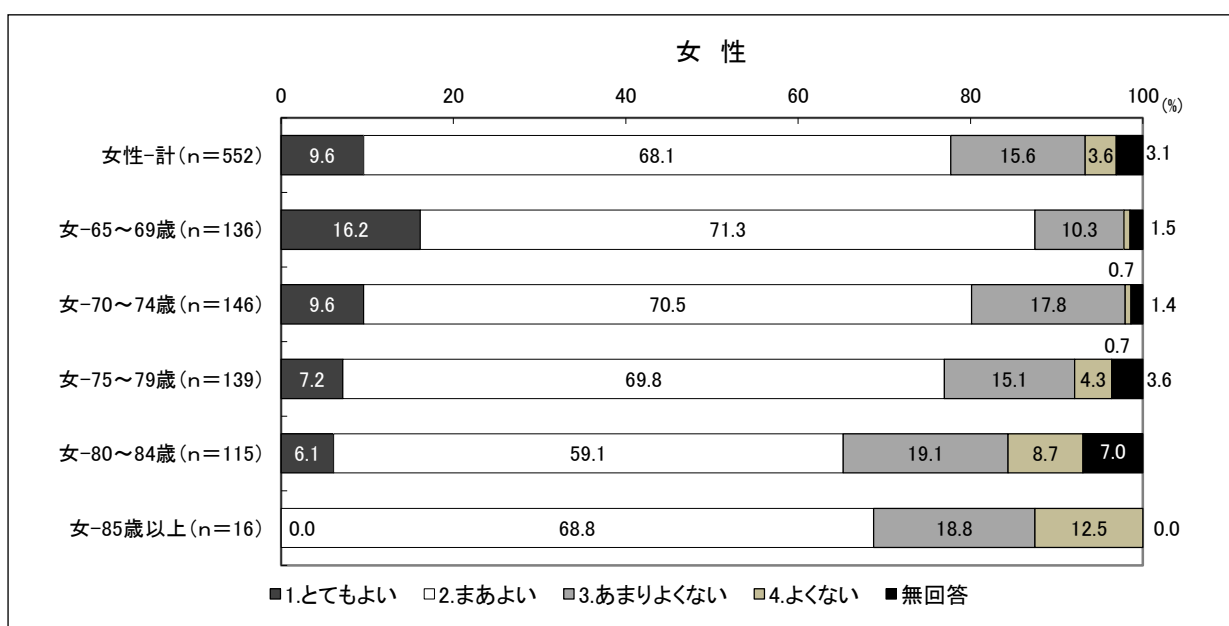
○高齢者のQOL（生活の質）の指標ともなっている主観的健康感に関する回答結果を男女別にみると、男性で「とてもよい」とする回答が女性より1.1ポイント高くなっており、同時に「あまりよくない」「よくない」とする不健康群は0.2ポイント低くなっています。



図表 5-2-1 回答結果（性・年齢階級別：男性）



図表 5-2-2 回答結果（性・年齢階級別：女性）

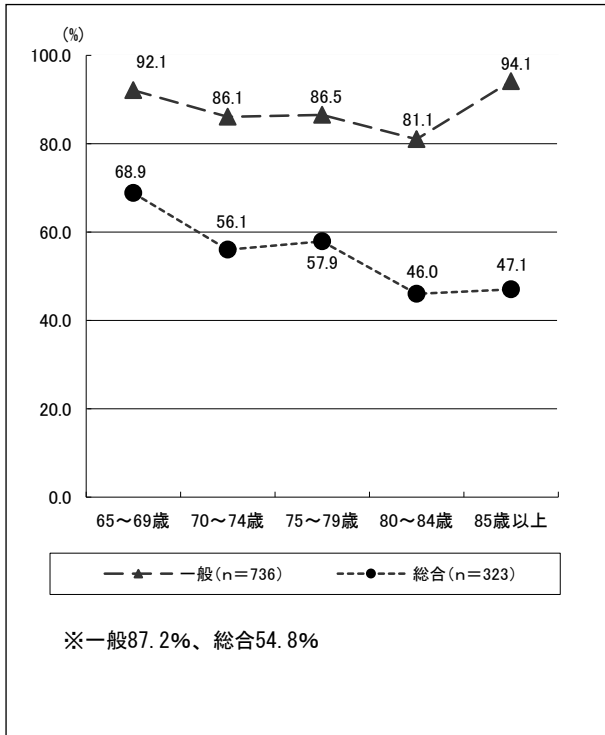


②属性別の状況

○主観的健康感について肯定的な回答をした健康群の割合をリスク該当状況別にみると、やはり一般高齢者の該当割合が高くなっています。

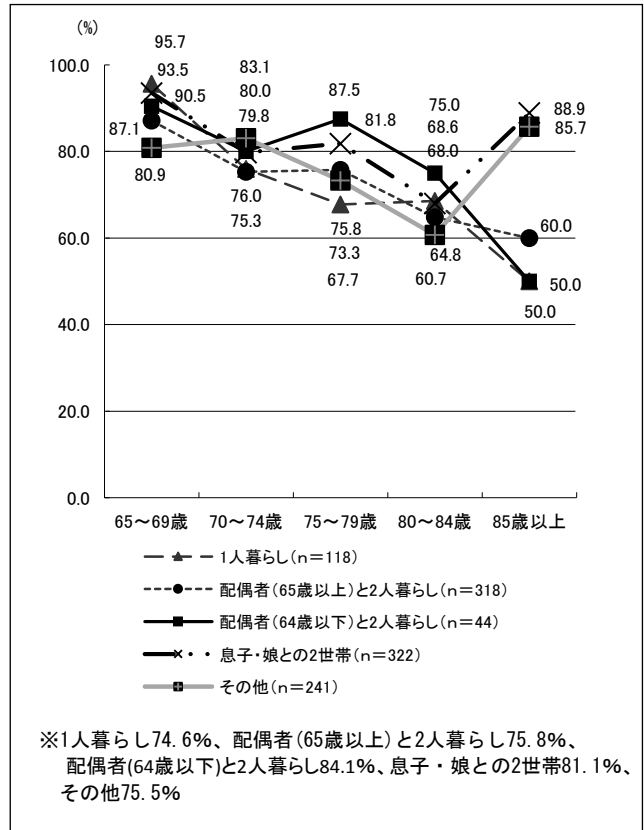
図表 5-2-3 健康群の割合

(リスク該当状況別)



図表 5-2-4 健康群の割合

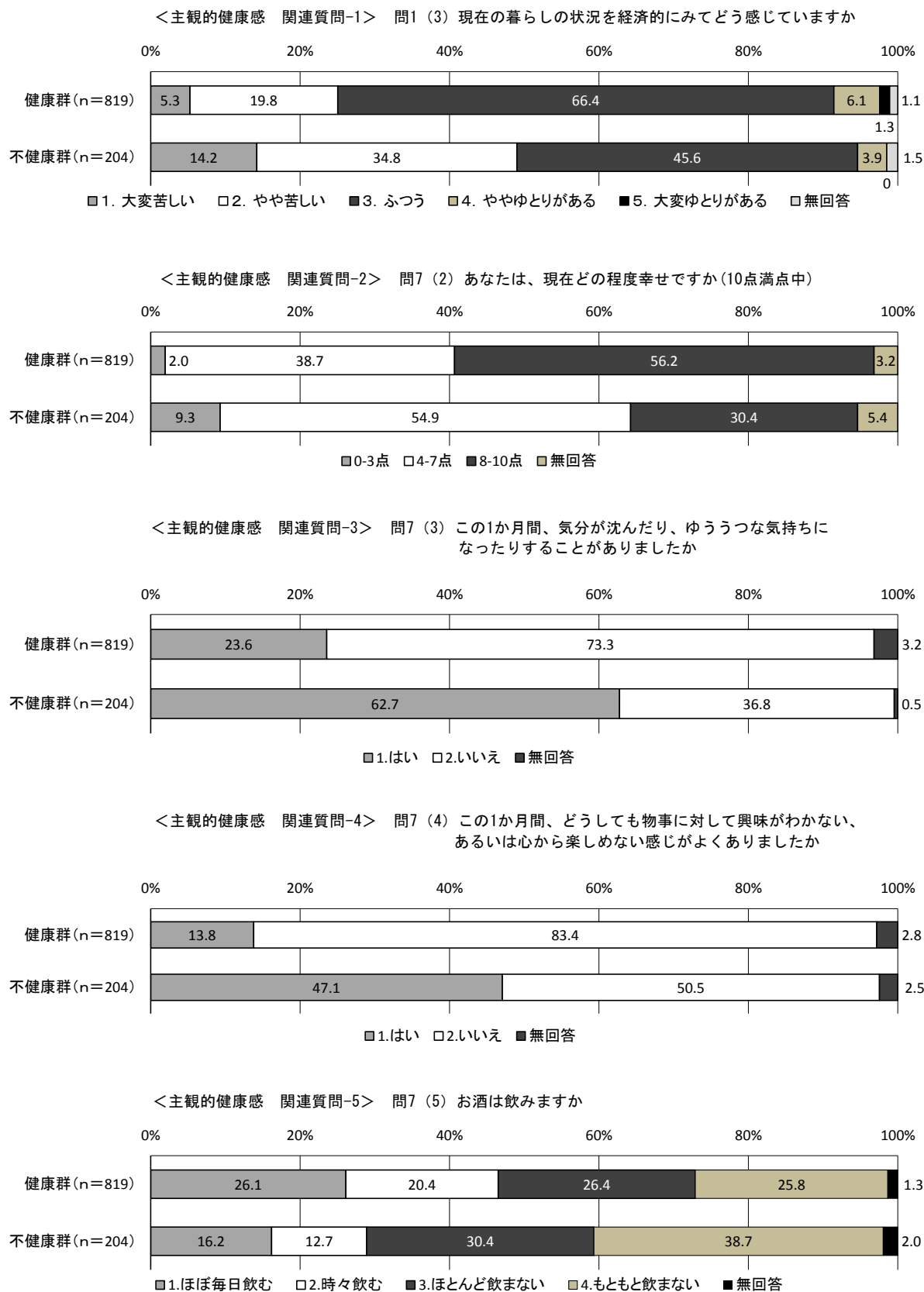
(世帯構成別)



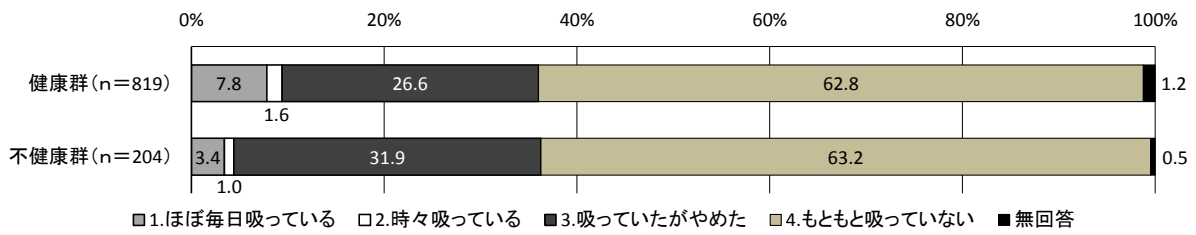
③関連設問への回答状況

○主観的健康感に関連する各設問に対する回答を、健康群と不健康群別にみると、問7(3)(4)で両者の差が大きくなっており、抑うつ感が主観的健康感と関連していることが考えられます。

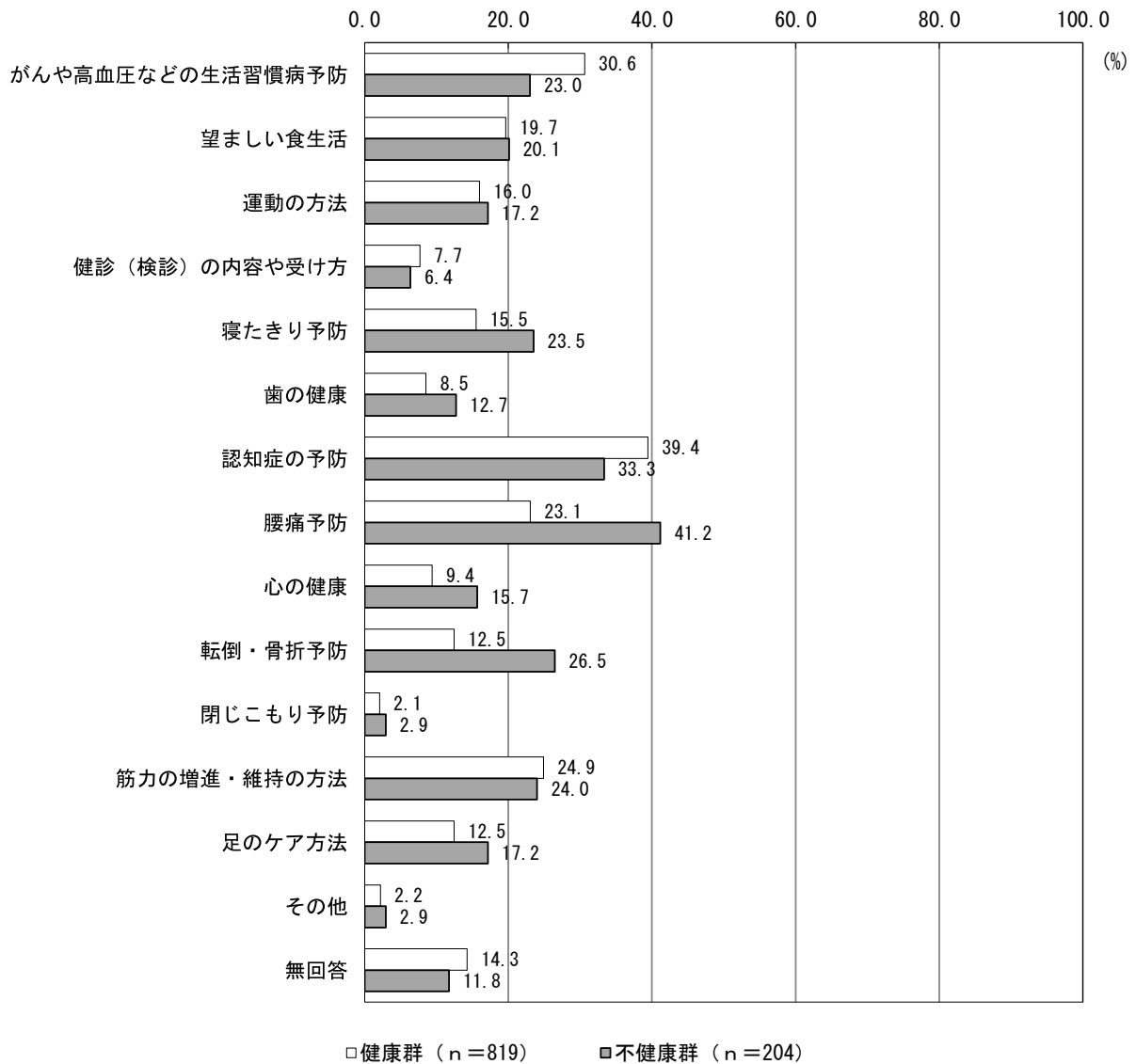
図表 5-2-5 関連設問への回答結果



<主観的健康感 関連質問-6> 問7(6) タバコは吸っていますか



<主観的健康感 関連質問-7> 問7(8) 健康についてどのような情報が知りたいですか(いくつでも)

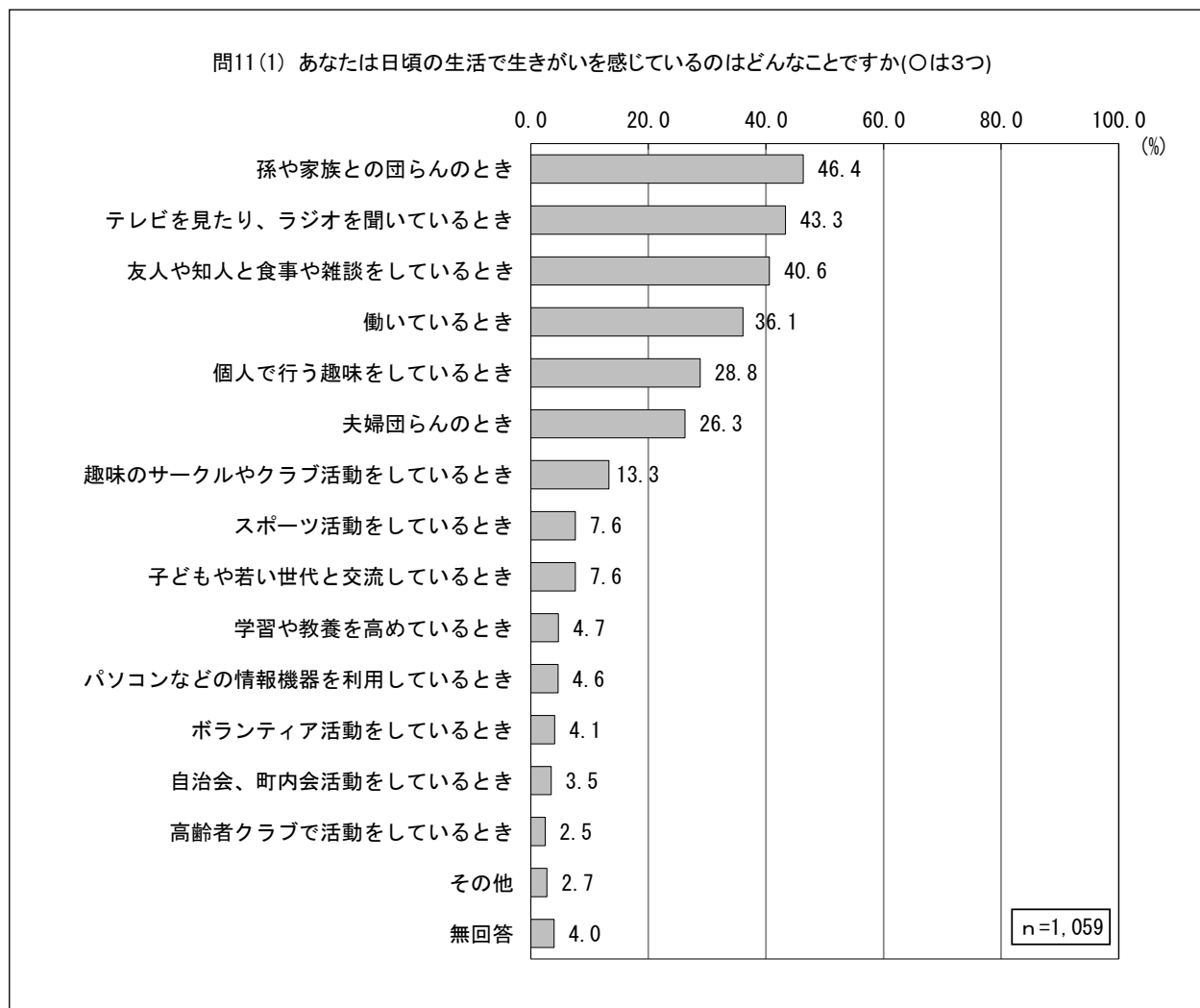


3 生きがいや学習について

(1)生きがいを感ずること

○日頃の生活で生きがいを感ずるのは「孫や家族との団らんのとき」が最も多く46.4%、次いで「テレビを見たり、ラジオを聞いているとき」で43.3%となっています。

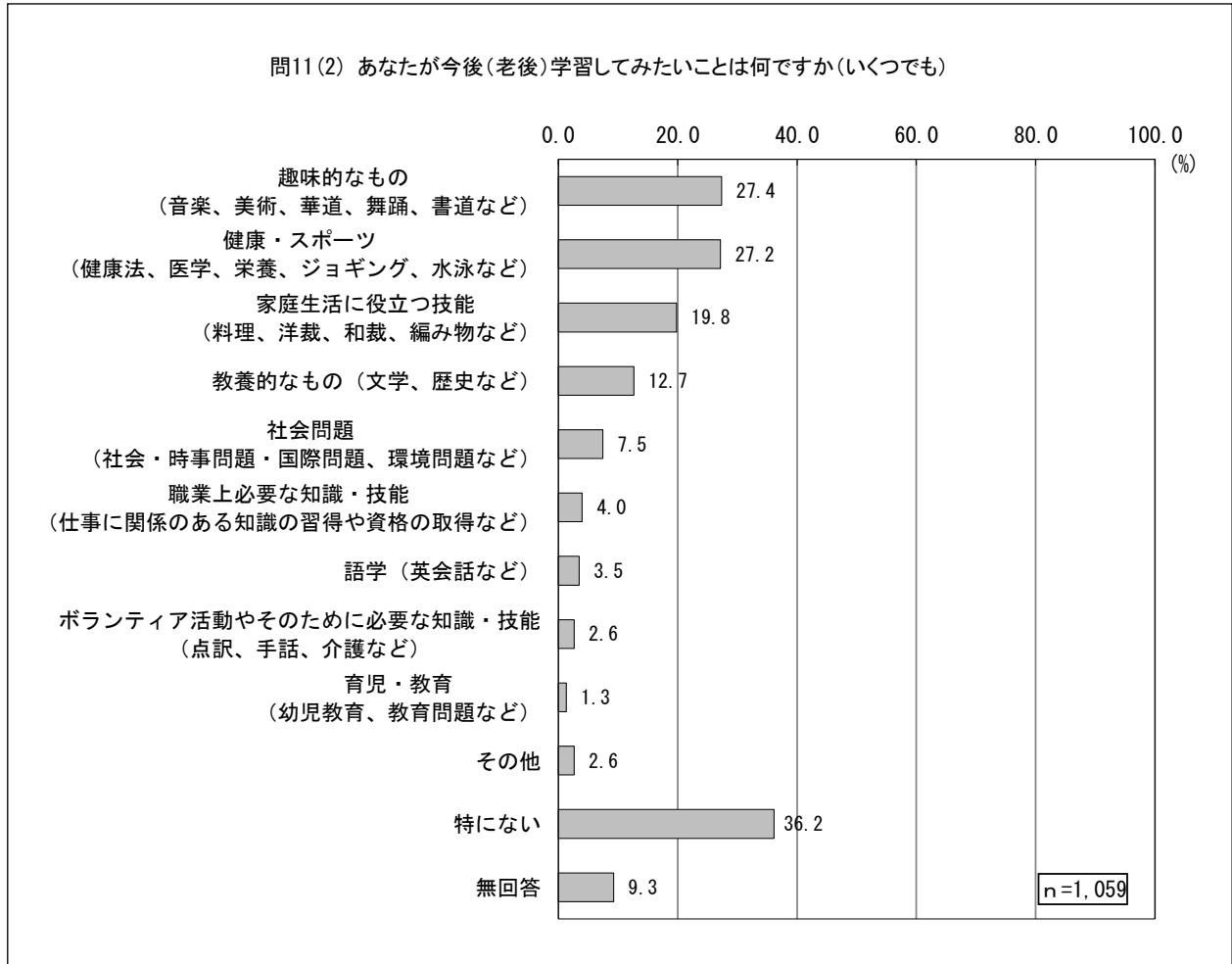
図表 5-3-1 生きがいについて



(2) 今後学習したいこと

○今後学習してみたいことは、「趣味的なもの（音楽、美術、華道、舞踊、書道など）」が最も多く 27.4%、次いで「健康・スポーツ（健康法、医学、栄養、ジョギング、水泳など）」が 27.2%となっています。

図表 5-3-2 今後学習してみたいこと



6 介護

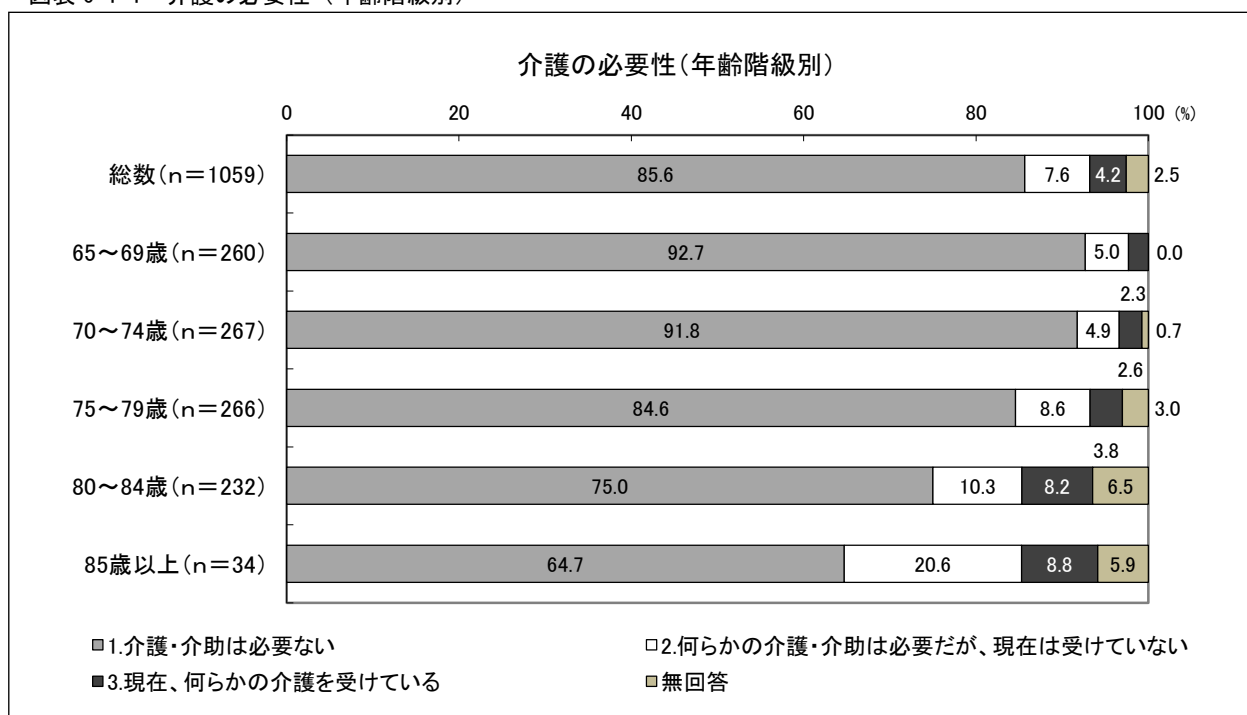
1 介護に関する調査

(1) 介護の必要性

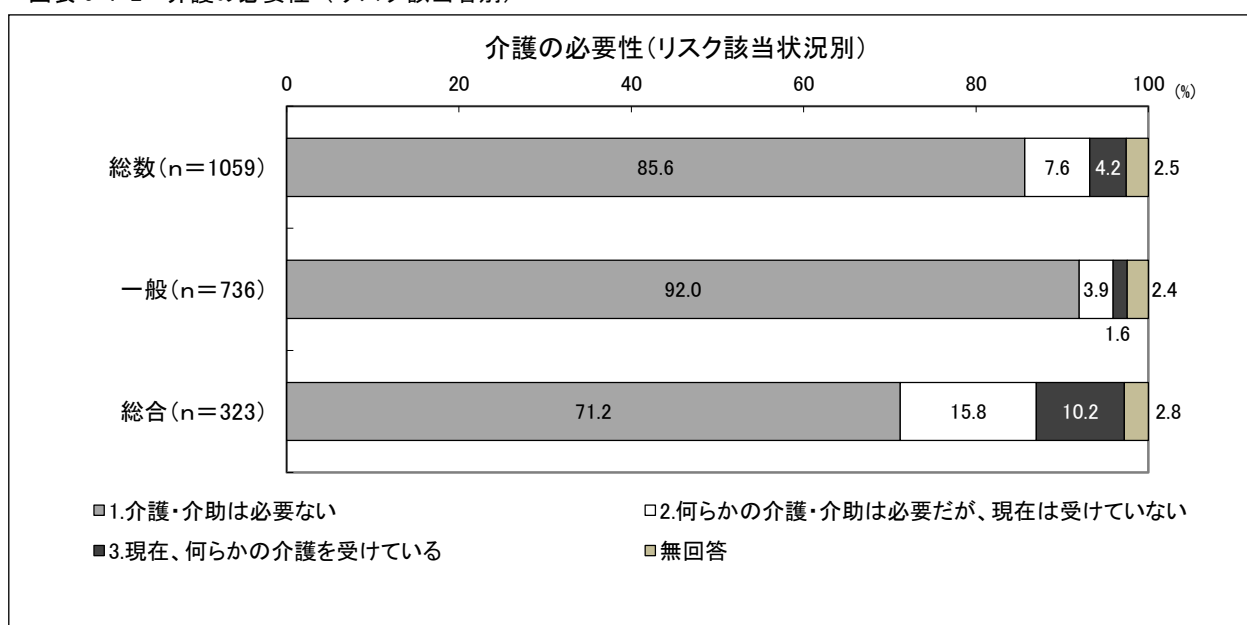
○介護の必要性に関する設問（問1(2)）に対する回答をみると、年齢が上がるほど「現在、何らかの介護を受けている」「何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない」の割合が高くなっています。

○これをリスク該当状況別にみると、総合事業対象者では10.2%が「現在、何らかの介護を受けている」、また15.8%が「何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない」と回答しています。

図表 6-1-1 介護の必要性（年齢階級別）



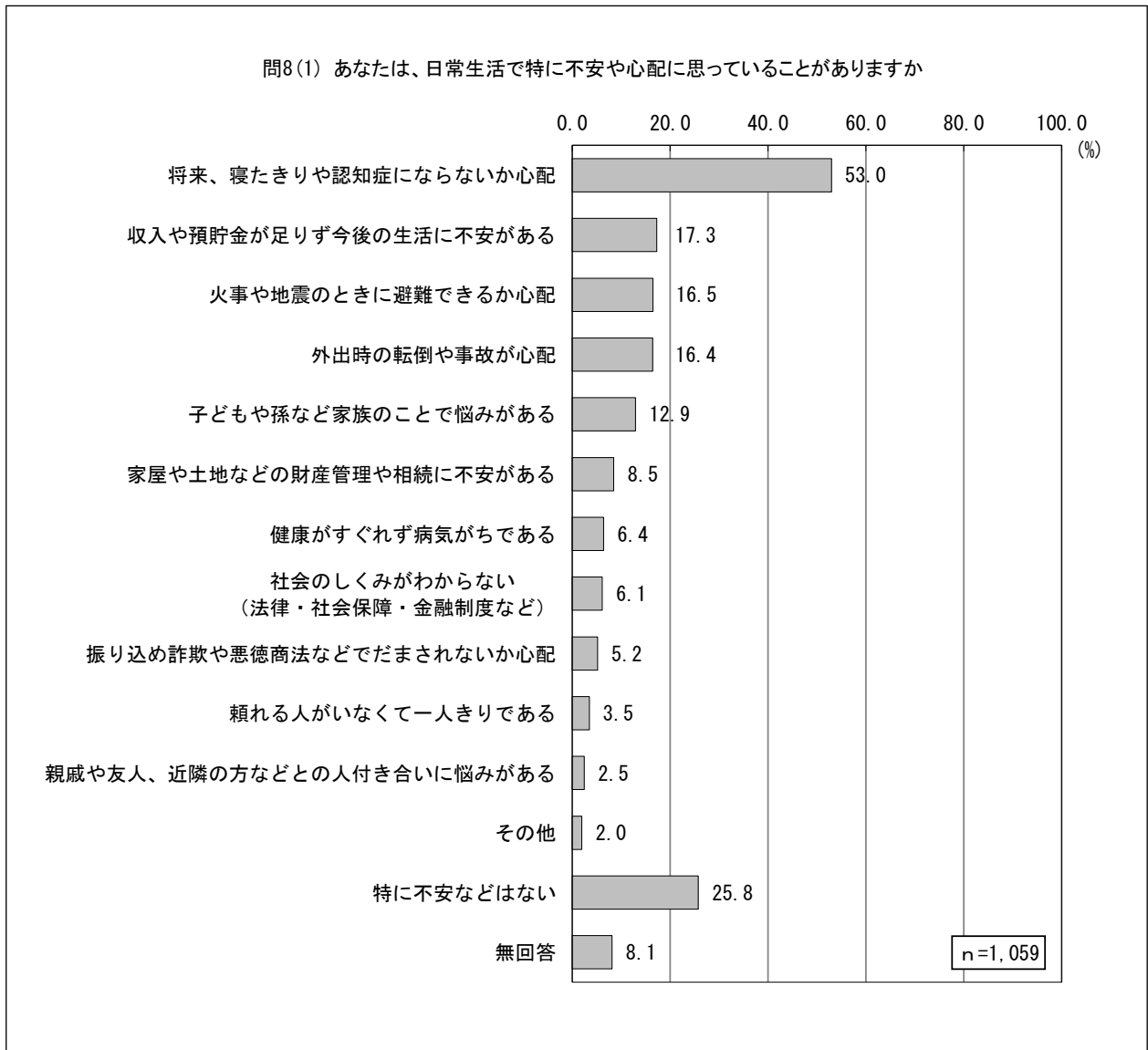
図表 6-1-2 介護の必要性（リスク該当者別）



(2) 日常生活上の不安や介護に対する意識について

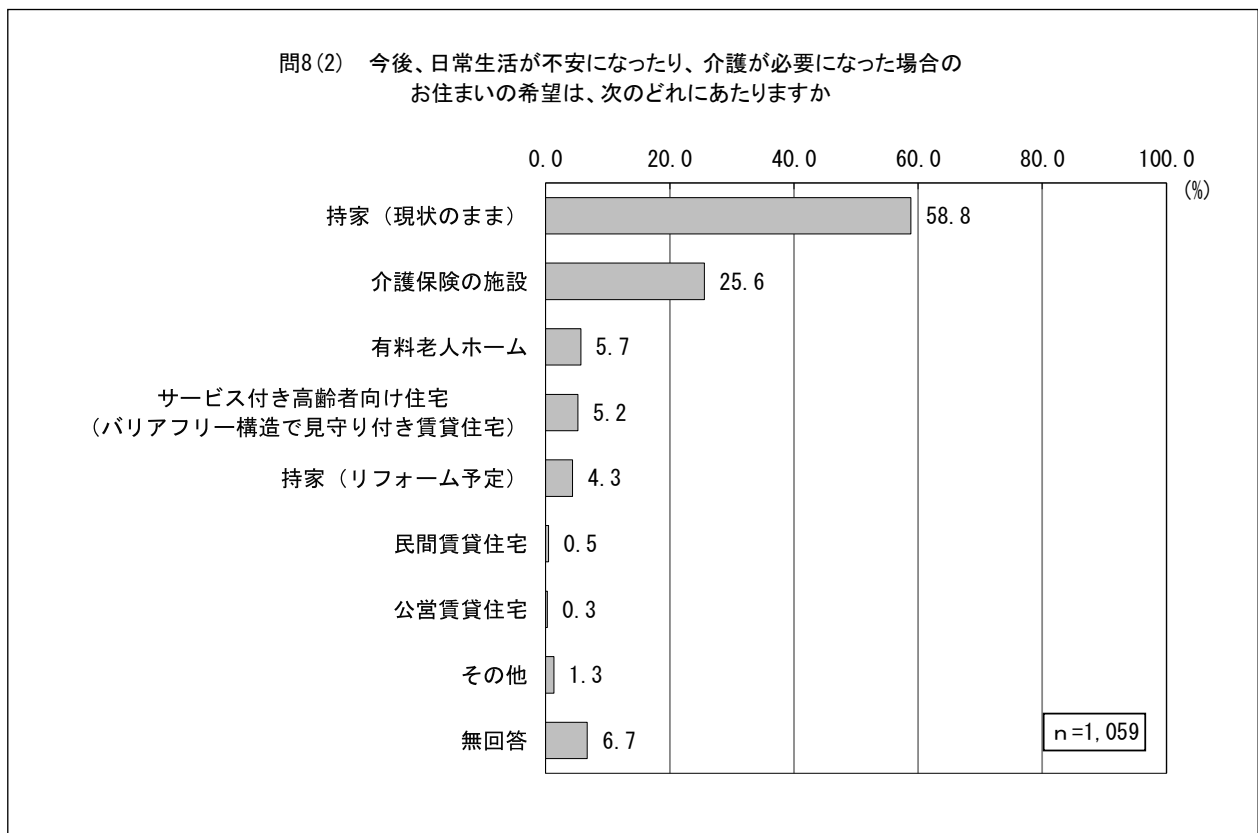
○日常生活で特に不安に思っていることは「将来、寝たきりや認知症にならないか心配」が特に多く 53.0%となっています。

図表 6-1-3 日常生活で特に不安に思っていること



○介護が必要になった場合などの住まいの希望は「持ち家（現状のまま）」が最も多く 58.8%、次いで「介護保険の施設」で 25.6%となっています。

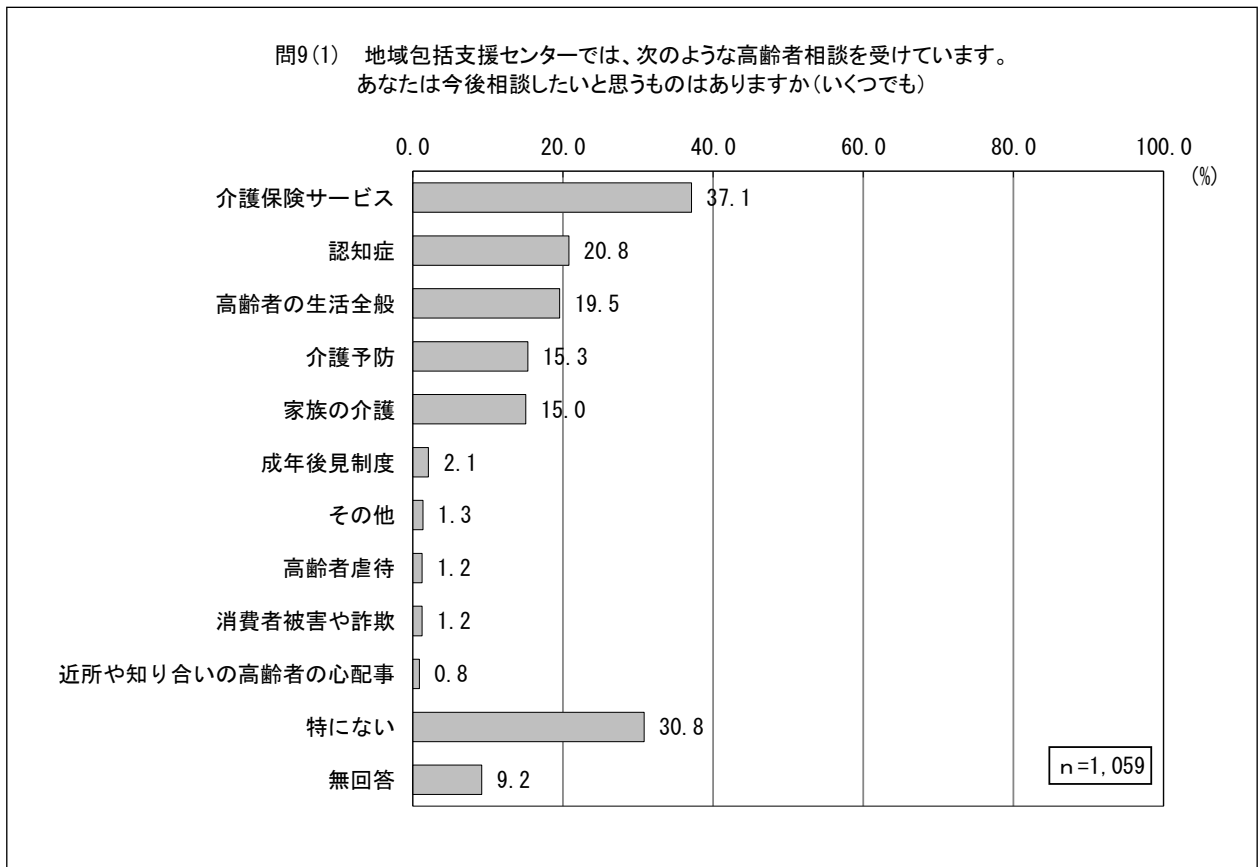
図表 6-1-4 介護が必要になった場合などの住まいの希望



(3) 地域包括支援センターへの相談について

○地域包括支援センターに今後相談したいと思うことは「介護保険サービス」が最も多く 37.1%、次いで「認知症」が 20.8%となっています。

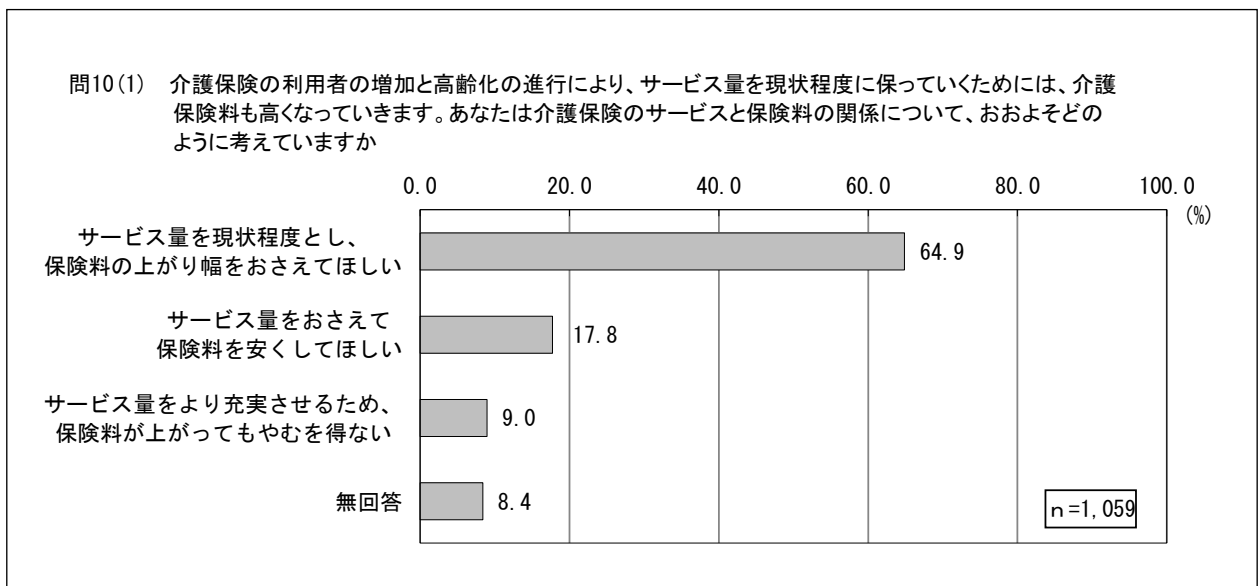
図表 6-1-5 地域包括支援センターに相談したいこと



(4) 介護保険料について

○介護保険料については「サービス量を現状程度とし、保険料の上がり幅を抑えてほしい」と考えている方の割合が特に高く 64.9%となっています。

図表 6-1-6 介護保険料とサービスの関係について



《概要版》

介護予防・日常生活圏域ニーズ調査報告書

平成 29 年 5 月 22 日

燕 市

目次

1 調査概要	1
1 調査目的.....	1
2 調査内容.....	1
3 回収結果.....	1
4 報告書の見方.....	1
2 回答者の属性	2
1 年齢構成.....	2
2 世帯構成.....	3
3 調査結果の概要	4
1 機能.....	4
4 評価項目別の結果	5
1 機能.....	5
(1)運動器機能の低下.....	5
(2)閉じこもり傾向.....	6
(3)転倒リスク.....	7
(4)低栄養の傾向.....	8
(5)口腔機能の低下.....	9
(6)認知機能の低下.....	10
(7)うつ傾向.....	11
(8)総合事業対象者.....	12
2 リスク該当者の状況.....	13
3 総合事業対象者出現率.....	16
5 健康・疾病	17
1 疾病.....	17
2 健康.....	17
(1)主観的幸福感.....	17
(2)健康について知りたい情報.....	18
6 介護	19
1 介護に関する調査.....	19
(1)日常生活上の不安や介護に対する意識について.....	19
(2)地域包括支援センターへの相談について.....	20
(3)介護保険料について.....	20
7 社会資源	21
1 社会参加.....	21

1 調査概要

1 調査目的

日常生活や心身の状況を正確に把握し、生活支援サービスや介護保険サービス、介護予防事業等の取り組み、サービス量の見込みを検討するための調査とし、第7期（平成30年度～平成32年度）介護保険事業計画の適切な策定に向けた指針に係る基礎情報を得ること等を目的として行いました。

2 調査内容

- (1) 調査対象者：抽出による一般高齢者に配布
- (2) 調査期間：平成28年12月～12月末日
- (3) 調査基準日：平成28年11月21日現在
- (4) 配布・回収方法：郵送による配布・回収

3 回収結果

調査対象者数	1,500人
回収数	1,059件
回収率	70.6%
有効回答数	1,059件

4 報告書の見方

- (1) 報告書中の「n」の数値は、設問への回答者数を表します。
- (2) 回答の比率は、すべて小数点以下第2位を四捨五入して算出しました。したがって、回答者比率の合計が100%にならない場合があります。
- (3) 回答の比率(%)は、その設問の回答者数を基数として算出しました。したがって、複数回答(「〇はいくつでも」等)の設問については、全ての回答比率の合計が100%を超えることがあります。
- (4) 本調査では介護認定を受けていない高齢者(非認定者)に調査を実施しました。高齢者(非認定者)における「介護予防・日常生活支援総合事業」(旧二次予防対象事業、以下 総合事業)の対象者の選定は、基本チェックリストによる判定項目の「運動器機能の低下」「低栄養の傾向」「口腔機能の低下」「虚弱」を用いて行い、4項目の生活機能いずれかにリスクありと判定された方を総合事業対象者とし、それ以外の方を一般高齢者としました。

※表・グラフについては総合事業対象者を「総合」と表記しています。

※基本チェックリストとは：

厚生労働省の「地域支援事業実施要項」に基づき、介護予防事業における二次予防事業(現在の介護予防・日常生活支援総合事業)候補者抽出の評価・判定をするために用いたものです。

2 回答者の属性

1 年齢構成

		65～69歳	70～74歳	75～79歳	80～84歳	85歳以上	無回答	合計
全体		260	267	266	232	34	0	1,059
		24.6	25.2	25.1	21.9	3.2	0.0	100.0
性別	男性	124	121	127	117	18	0	507
		24.5	23.9	25.0	23.1	3.6	0.0	100.0
	女性	136	146	139	115	16	0	552
		24.6	26.4	25.2	20.8	2.9	0.0	100.0

上段:人数 下段:割合(%)

[地区別]

		65～69歳	70～74歳	75～79歳	80～84歳	85歳以上	無回答	合計
地域包括支援センター おおまがり		55	68	65	57	12	0	257
		21.4	26.5	25.3	22.2	4.7	0.0	100.0
性別	男性	27	31	29	29	8	0	124
		21.8	25.0	23.4	23.4	6.5	0.0	100.0
	女性	28	37	36	28	4	0	133
		21.1	27.8	27.1	21.1	3.0	0.0	100.0

上段:人数 下段:割合(%)

		65～69歳	70～74歳	75～79歳	80～84歳	85歳以上	無回答	合計
地域包括支援センター さわたり		63	68	61	61	10	0	263
		24.0	25.9	23.2	23.2	3.8	0.0	100.0
性別	男性	25	29	28	31	4	0	117
		21.4	24.8	23.9	26.5	3.4	0.0	100.0
	女性	38	39	33	30	6	0	146
		26.0	26.7	22.6	20.5	4.1	0.0	100.0

上段:人数 下段:割合(%)

		65～69歳	70～74歳	75～79歳	80～84歳	85歳以上	無回答	合計
吉田地区地域包括 支援センター		73	67	73	63	6	0	282
		25.9	23.8	25.9	22.3	2.1	0.0	100.0
性別	男性	37	31	36	30	3	0	137
		27.0	22.6	26.3	21.9	2.2	0.0	100.0
	女性	36	36	37	33	3	0	145
		24.8	24.8	25.5	22.8	2.1	0.0	100.0

上段:人数 下段:割合(%)

		65～69歳	70～74歳	75～79歳	80～84歳	85歳以上	無回答	合計
分水地区地域包括 支援センター		69	64	67	51	6	0	257
		26.8	24.9	26.1	19.8	2.3	0.0	100.0
性別	男性	35	30	34	27	3	0	129
		27.1	23.3	26.4	20.9	2.3	0.0	100.0
	女性	34	34	33	24	3	0	128
		26.6	26.6	25.8	18.8	2.3	0.0	100.0

上段:人数 下段:割合(%)

2 世帯構成

		1人暮らし	夫婦2人暮らし(配偶者65歳以上)	夫婦2人暮らし(配偶者64歳以下)	息子・娘との2世帯	その他	無回答	合計
全体		118 11.1	318 30.0	44 4.2	322 30.4	241 22.8	16 1.5	1,059 100.0
性別	男性	31 6.1	176 34.7	33 6.5	149 29.4	108 21.3	10 2.0	507 100.0
	女性	87 15.8	142 25.7	11 2.0	173 31.3	133 24.1	6 1.1	552 100.0

上段:人数 下段:割合(%)

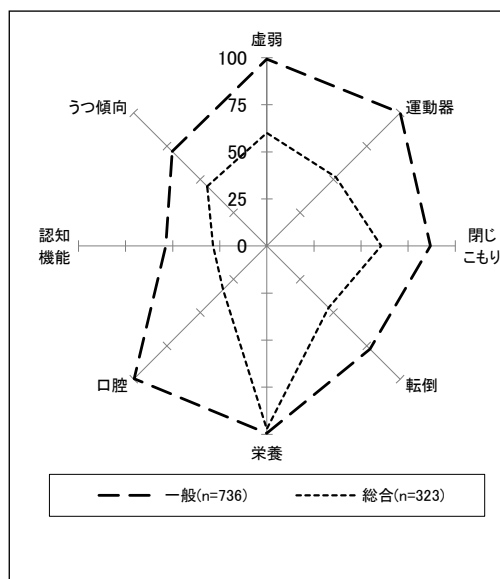
3 調査結果の概要

1 機能

(1) 項目別評価結果

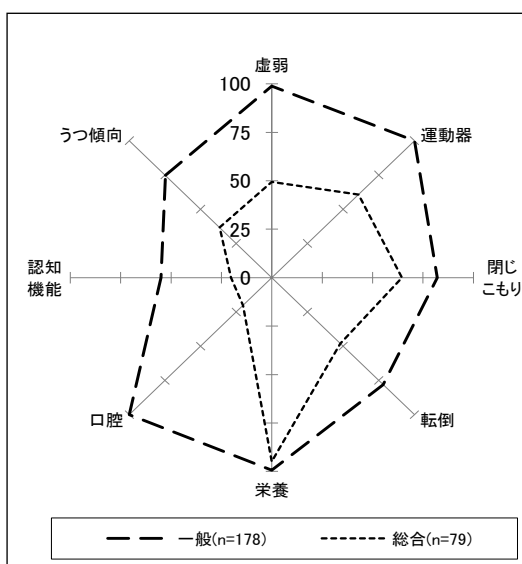
生活機能の評価項目ごとの非該当者（リスクなし）の割合をみると、ほぼすべての項目で総合事業の対象にもならない一般高齢者の割合が高くなっていますが、総合事業対象者選定の直接の条件になっていない閉じこもり傾向、転倒リスク、認知機能の低下、うつ傾向については、総合事業対象者に比べて率は低いものの、一般高齢者の中にも該当者（リスク者）がいることが考えられます。

図表 3-1-1 生活機能（非該当・リスクなしの割合）

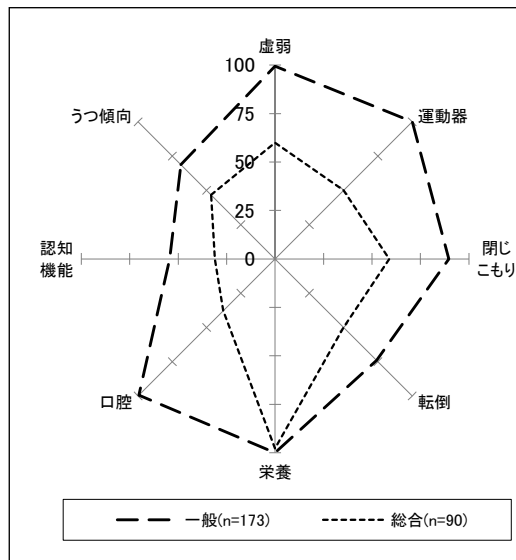


[地区別]

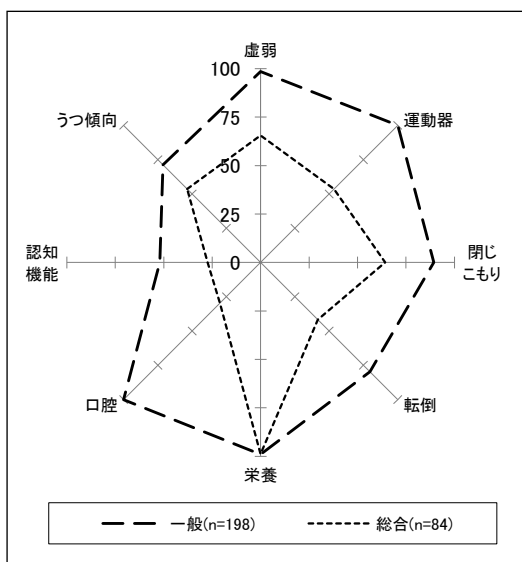
(おおまがり)



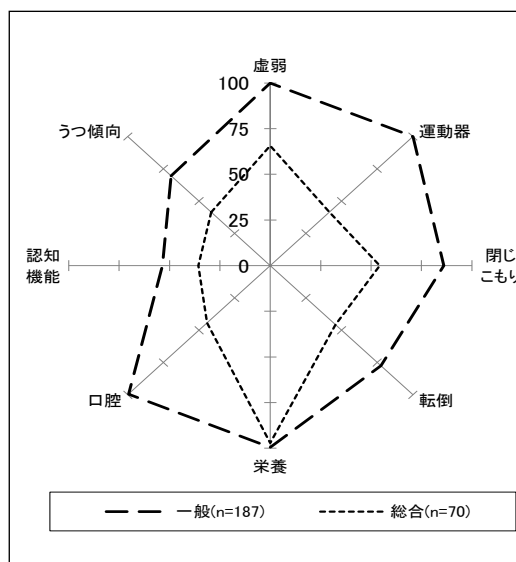
(さわたり)



(吉田地区)



(分水地区)



4 評価項目別の結果

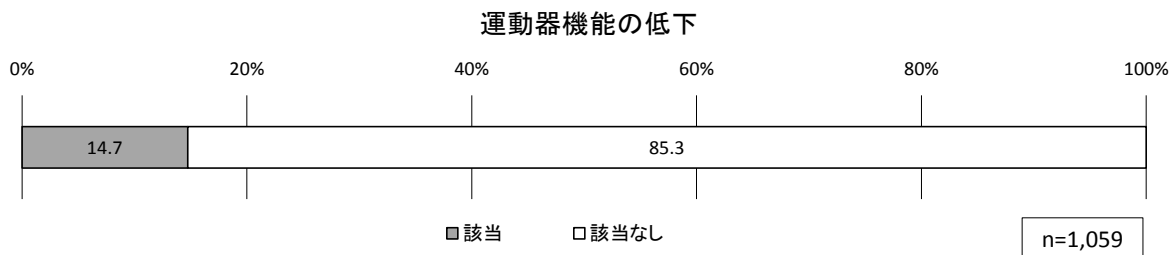
1 機能

(1) 運動器機能の低下

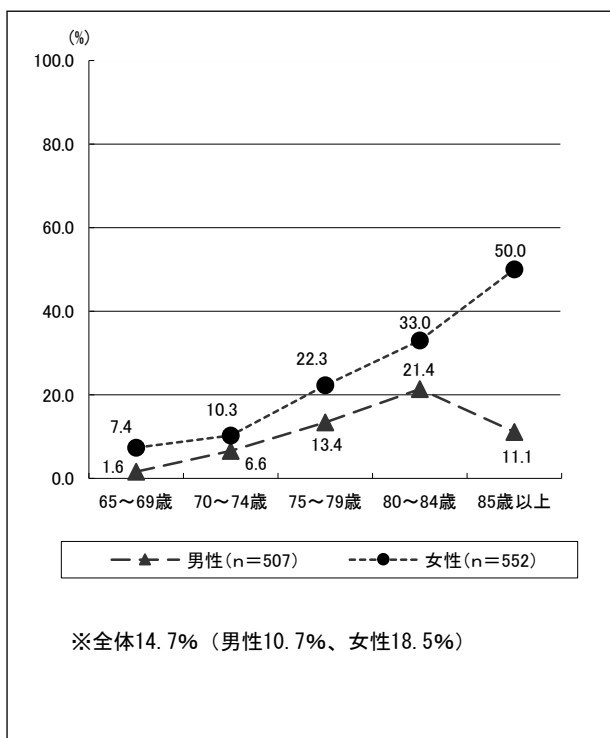
① 評価と該当状況

○ 運動器機能の低下については、関連する設問5問（問2(1)～(5)）に対する回答結果からリスク状況への評価を行っています。

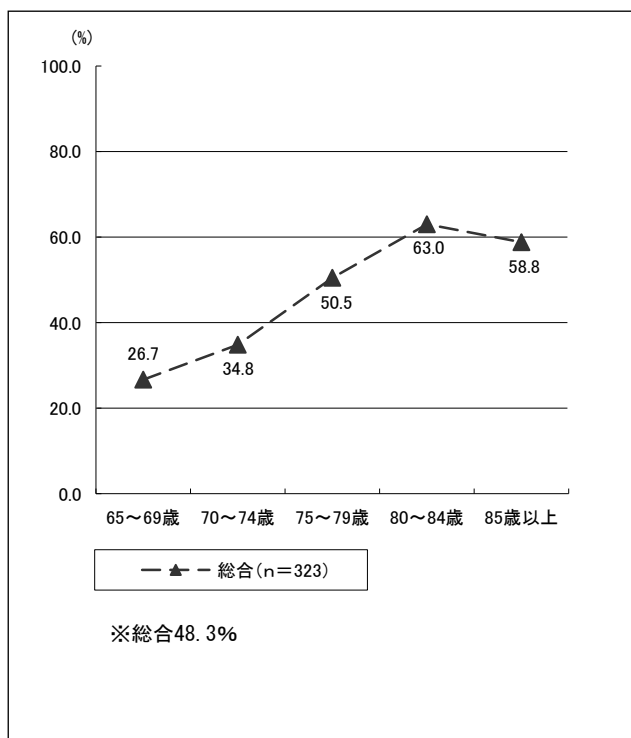
○ 運動器機能の低下の評価結果をみると、男性より女性のほうが、また年齢が上がるほど該当者割合が高くなっています。



図表4-1-1 該当者割合
(性・年齢階級別)



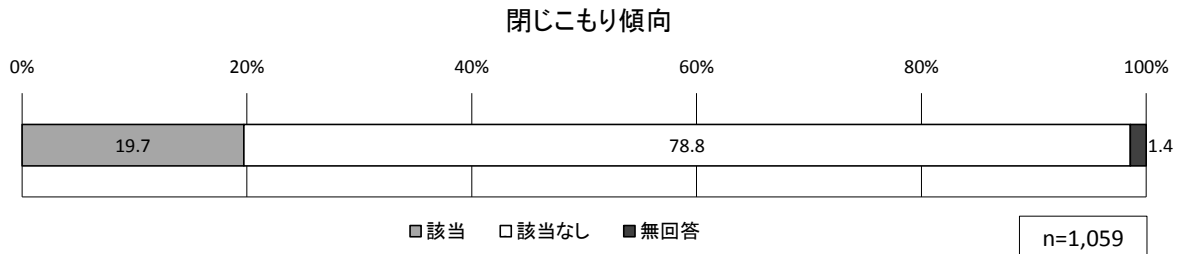
図表4-1-2 該当者割合
(リスク該当状況・年齢階級別)



(2)閉じこもり傾向

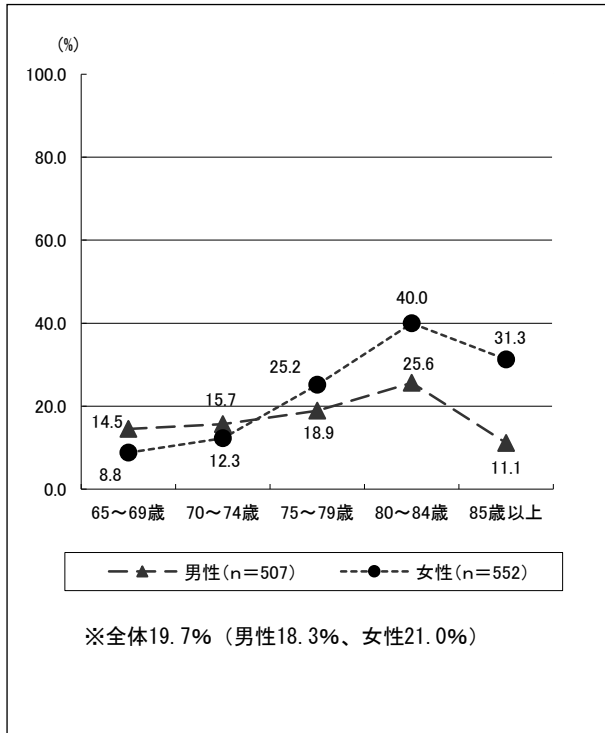
①評価と該当状況

- 閉じこもり傾向については、関連する設問1問（問2(6)）に対する回答結果からリスク状況についての評価を行っています。
- 閉じこもり傾向の該当状況をみると、男女別では80歳以上で大きく差が出ているようです。
- リスク該当状況別にみると、総合事業対象者の該当率が高くなっています。



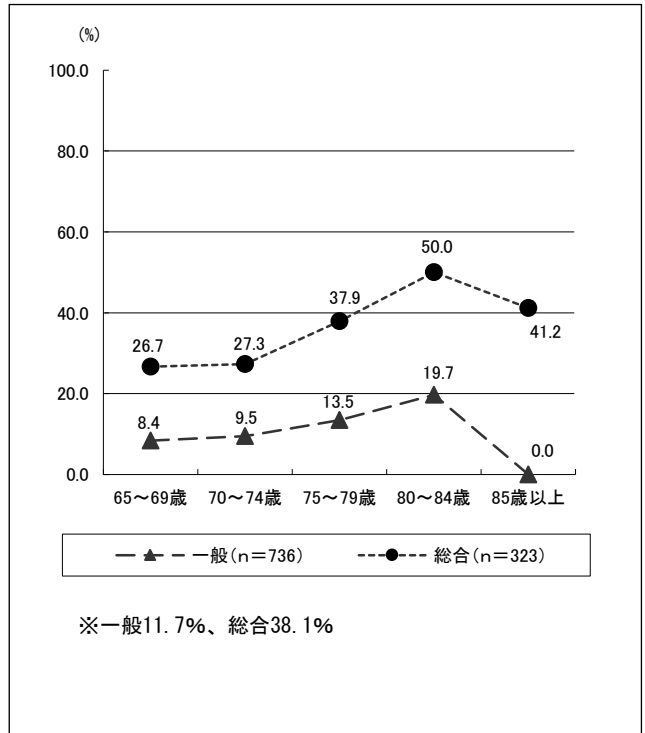
図表4-1-4 該当者割合

(性・年齢階級別)



図表4-1-5 該当者割合

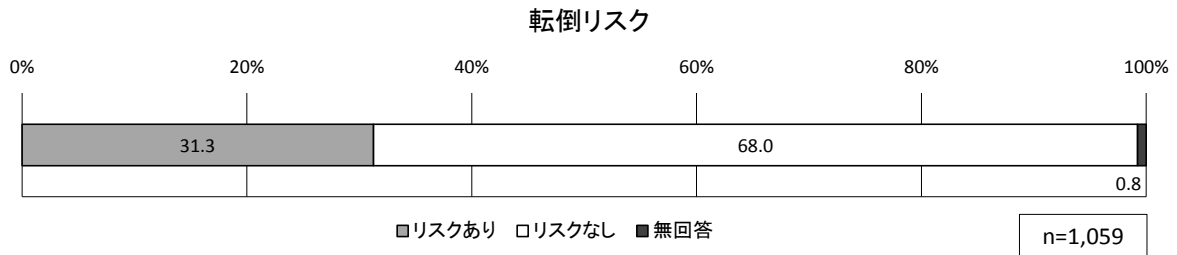
(リスク該当状況・年齢階級別)



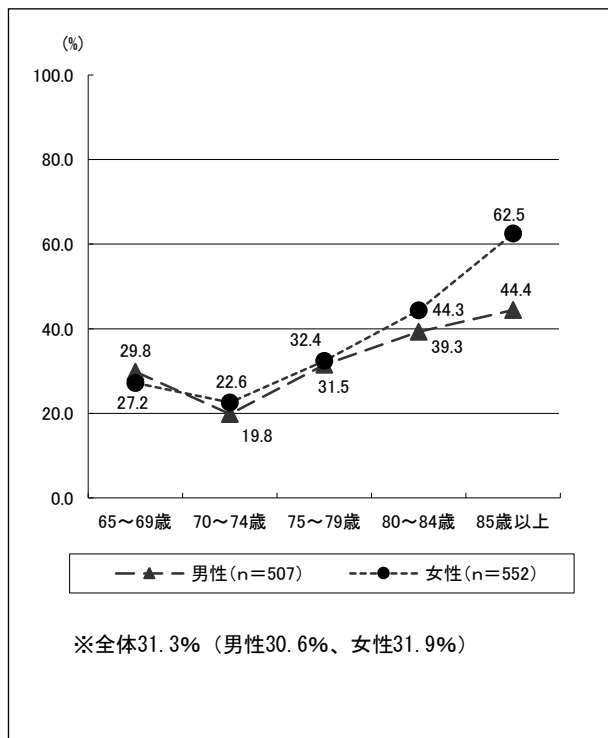
(3)転倒リスク

①評価と該当状況

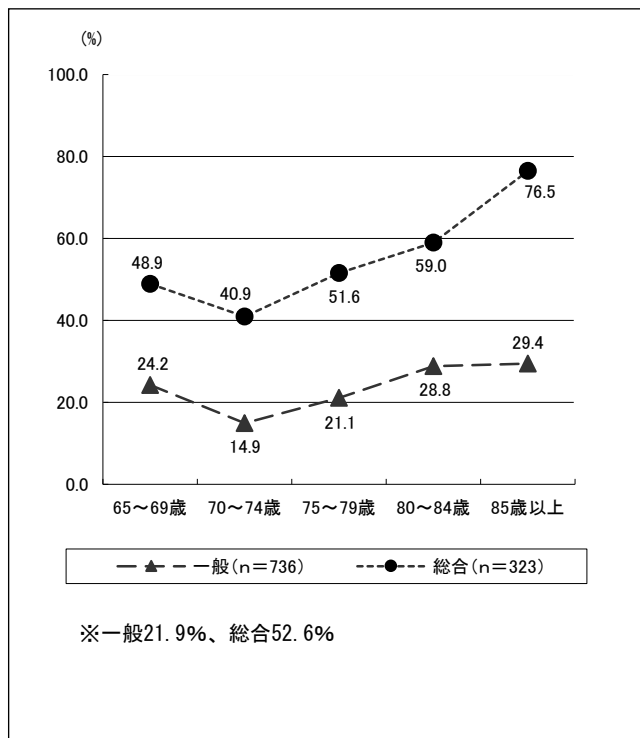
- 転倒リスクについては、関連する設問1問（問2(4)）に対する回答結果からリスク状況への評価を行っています。
- 転倒リスクのリスク者割合をみると、男性より女性のリスク者割合がわずかに高く、その差は年齢が上がるほど大きくなっています。
- リスク該当状況別にみると、一般高齢者よりも総合事業対象者のリスク者割合が高くなっています。



図表 4-1-7 リスク者割合
(性・年齢階級別)



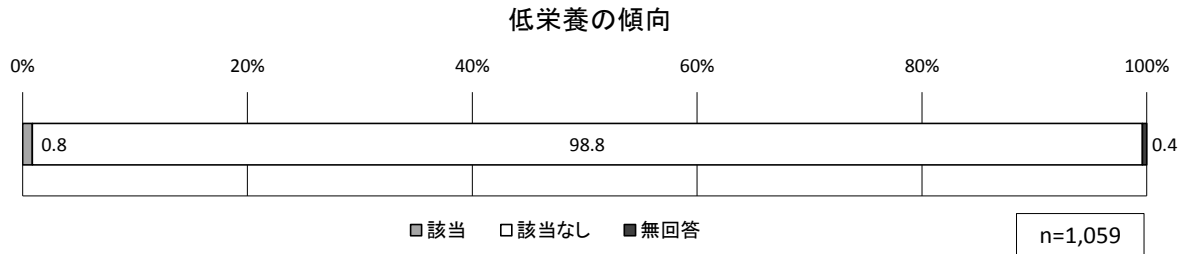
図表 4-1-8 リスク者割合
(リスク該当状況・年齢階級別)



(4)低栄養の傾向

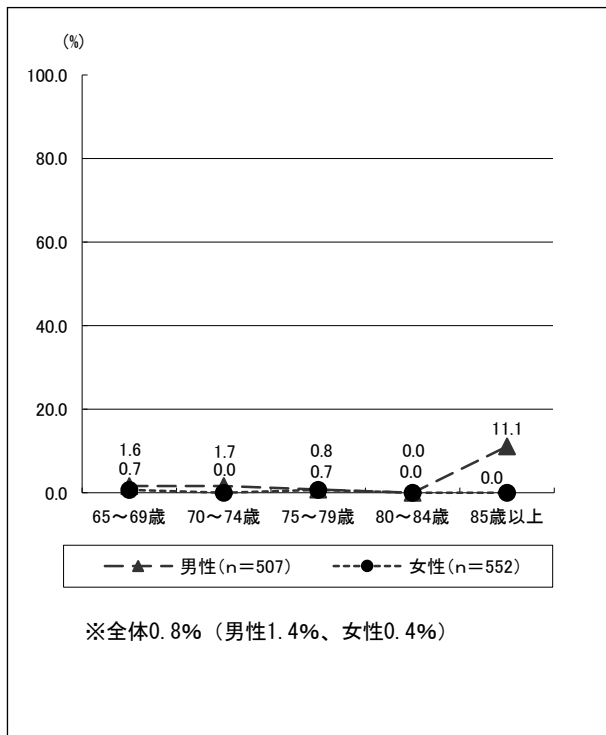
①評価と該当状況

- 低栄養の傾向については、関連する設問2問（問3(1)(7)）に対する回答からリスク状況への評価を行っています。
- 低栄養の傾向の該当状況をみると、該当者割合は他の項目に比べて非常に低くなっています。



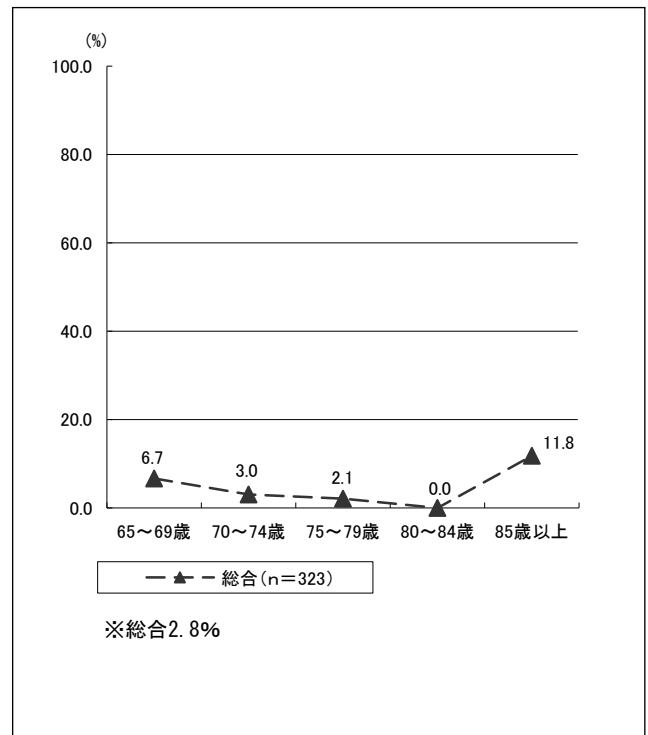
図表 4-1-10 該当者割合

(性・年齢階級別)



図表 4-1-11 該当者割合

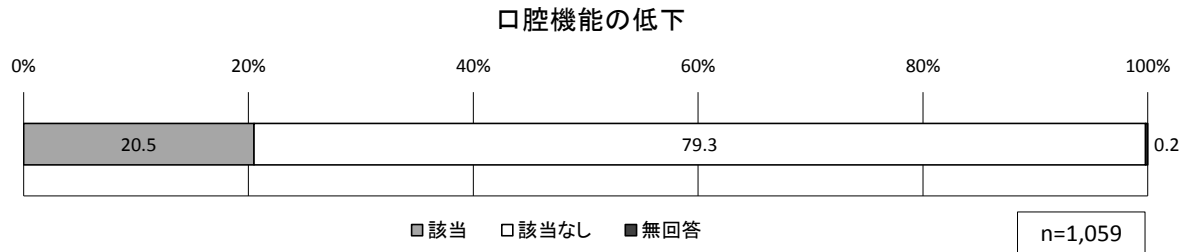
(リスク該当状況・年齢階級別)



(5) 口腔機能の低下

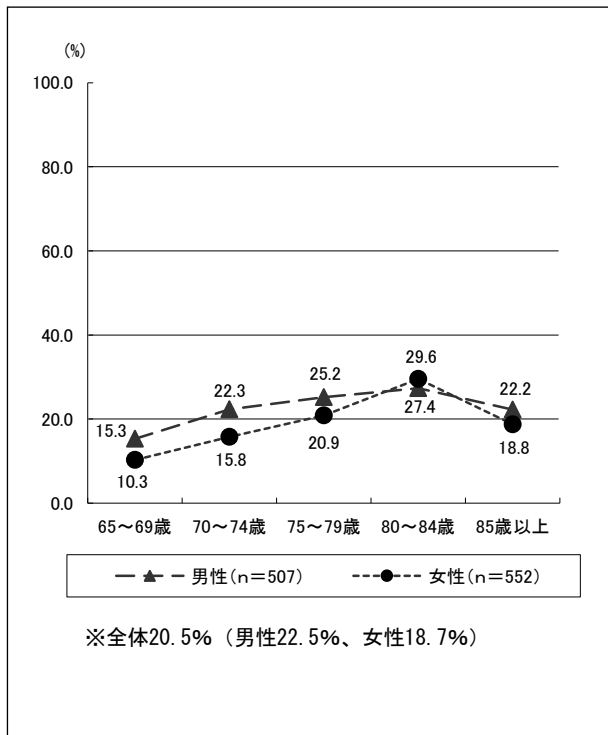
① 評価と該当状況

- 口腔機能の低下については、関連する設問3問（問3(2)～(4)）に対する回答結果からリスク状況への評価を行っています。
- 口腔機能の低下に関する評価結果をみると、性別による差はあまりみられません。



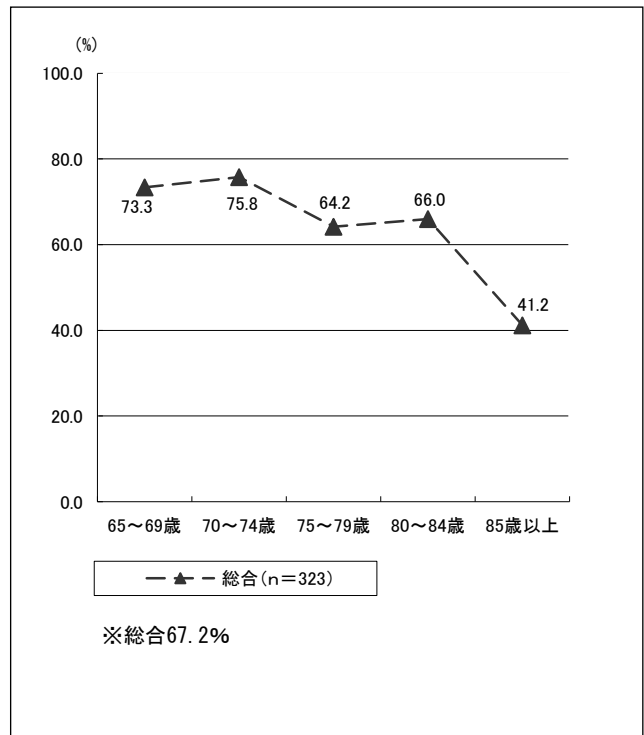
図表 4-1-13 該当者割合

(性・年齢階級別)



図表 4-1-14 該当者割合

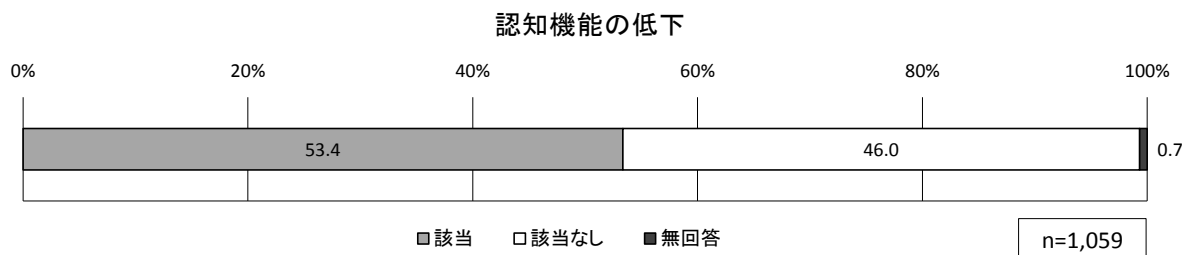
(リスク該当状況・年齢階級別)



(6)認知機能の低下

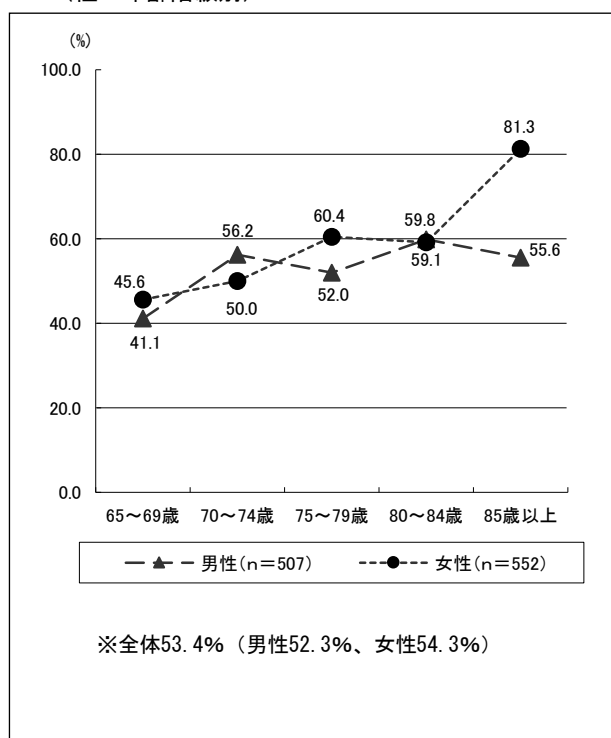
①評価と該当状況

- 認知機能の低下については、関連設問3問（問4(1)～(3)）に対する回答からリスク状況への評価を行っています。
- 認知機能の低下の該当状況をみると、男女差はあまりみられず、年齢が上がるほど高くなっている傾向がみられます。
- リスク該当状況別にみると、一般高齢者より総合事業対象者で該当割合が高くなっています。
- 総合事業対象者全体に占める認知機能の低下の該当者割合は、基本チェックリストの評価項目の中で最も高くなっています。



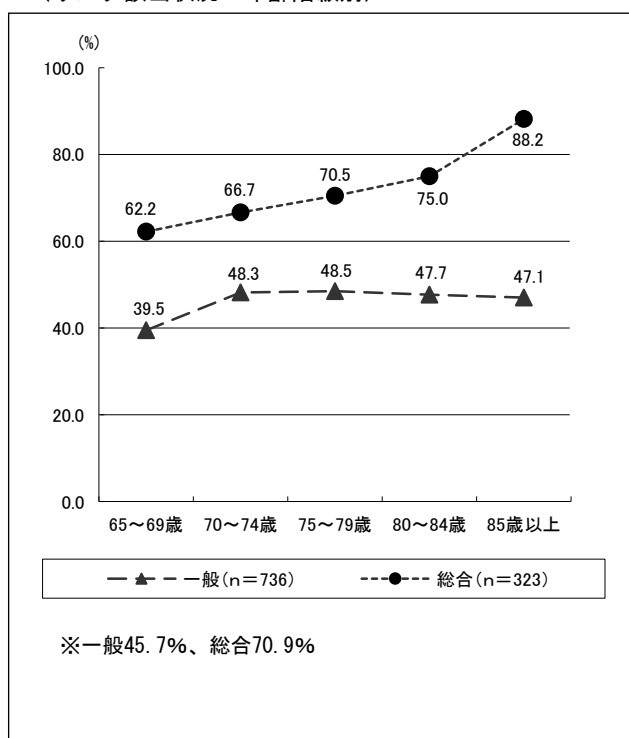
図表 4-1-16 該当者割合

(性・年齢階級別)



図表 4-1-17 該当者割合

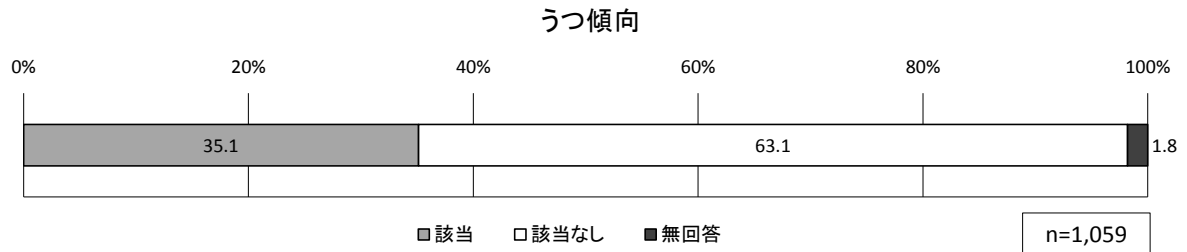
(リスク該当状況・年齢階級別)



(7)うつ傾向

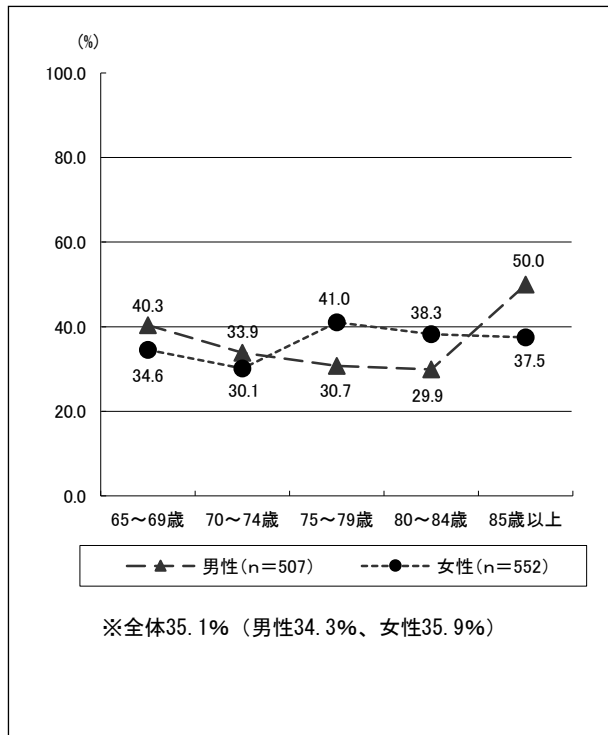
①評価と該当状況

- うつ傾向については、関連設問2問（問7(3)(4)）に対する回答からリスク状況への評価を行っています。
- うつ傾向の該当状況をみると、男女差はあまりみられません。
- リスク該当状況別にみると、やはり一般高齢者より総合事業対象者の該当率が高くなっています。



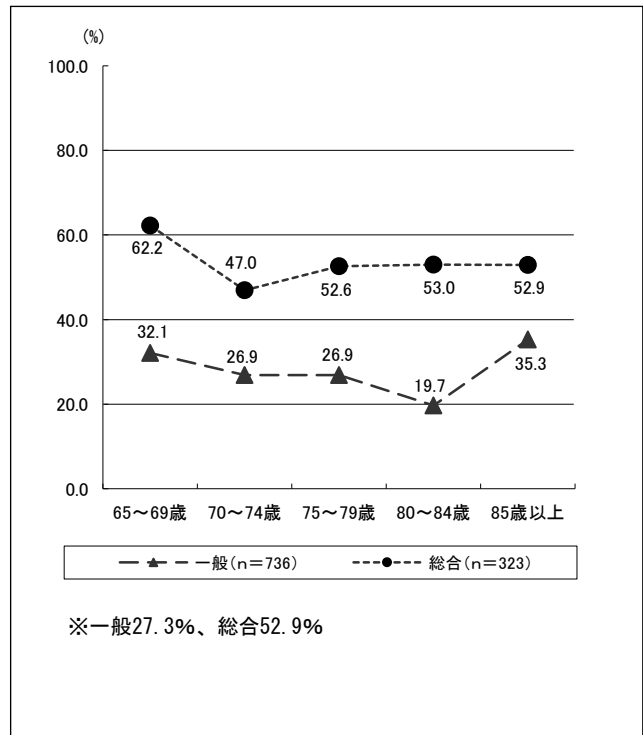
図表 4-1-19 該当者割合

(性・年齢階級別)



図表 4-1-20 該当者割合

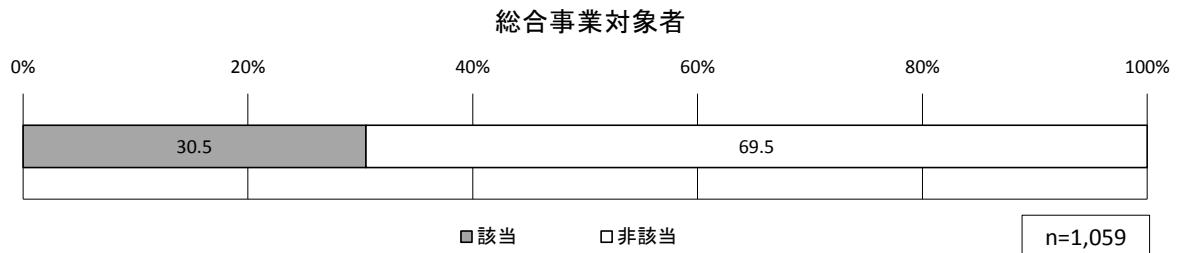
(リスク該当状況・年齢階級別)



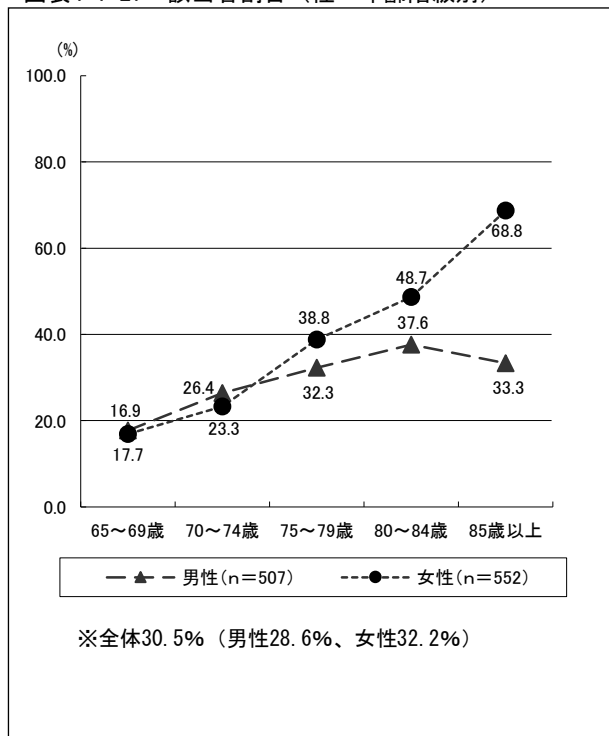
(8)総合事業対象者

①評価と該当状況

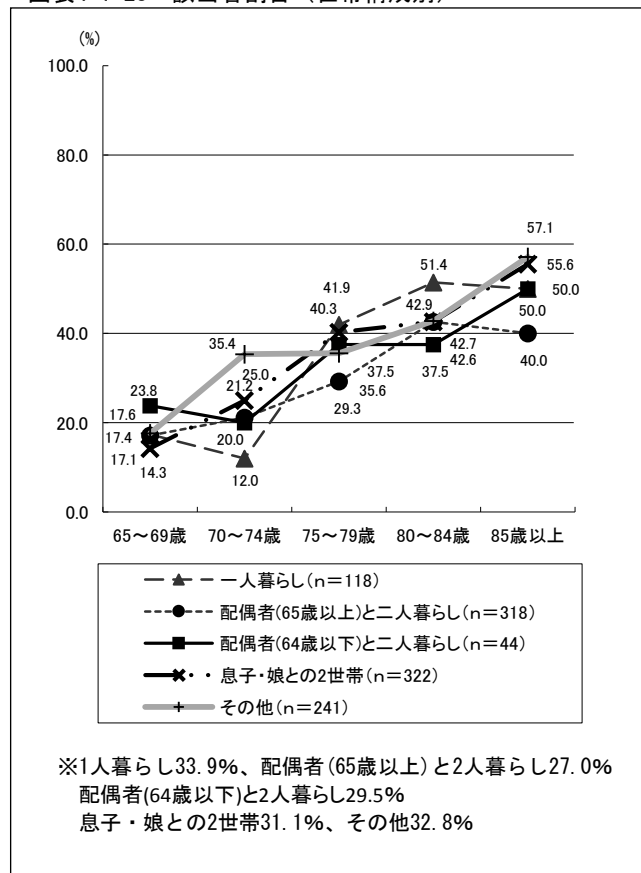
- 「運動器機能の低下」「低栄養の傾向」「口腔機能の低下」「虚弱」のいずれかにひとつでも該当する場合は総合事業対象者となります。
- 総合事業対象者については、複数の評価項目で重複して該当している場合があるため、こうした重複を除いて該当者割合を求めたのが下の図表となっています。
- 該当者割合は、女性のほうが高く、また年齢が上がるほどその割合は高くなっています。



図表4-1-27 該当者割合（性・年齢階級別）



図表4-1-28 該当者割合（世帯構成別）



2 リスク該当者の状況

		非認定者		無回答	合計		
		一般	総合				
全体		1059	736	323	0	1,059	
		100.0	69.5	30.5	0.0	100.0	
性別	男性	507	362	145	0	507	
		100.0	71.4	28.6	0.0	100.0	
性別・ 年齢別	男-65～69歳	124	102	22	0	124	
			100.0	82.3	17.7	0.0	100.0
	男-70～74歳	121	89	32	0	121	
			100.0	73.6	26.4	0.0	100.0
	男-75～79歳	127	86	41	0	127	
			100.0	67.7	32.3	0.0	100.0
	男-80～84歳	117	73	44	0	117	
			100.0	62.4	37.6	0.0	100.0
	男-85歳以上	18	12	6	0	18	
			100.0	66.7	33.3	0.0	100.0
性別	女性	552	374	178	0	552	
		100.0	67.8	32.2	0.0	100.0	
性別・ 年齢別	女-65～69歳	136	113	23	0	136	
			100.0	83.1	16.9	0.0	100.0
	女-70～74歳	146	112	34	0	146	
			100.0	76.7	23.3	0.0	100.0
	女-75～79歳	139	85	54	0	139	
			100.0	61.2	38.8	0.0	100.0
	女-80～84歳	115	59	56	0	115	
			100.0	51.3	48.7	0.0	100.0
	女-85歳以上	16	5	11	0	16	
			100.0	31.3	68.8	0.0	100.0

上段:人数 下段:割合(%)

[地区別]

		非認定者		無回答	合計	
		一般	総合			
地域包括支援センター おおまがり		257 100.0	178 69.3	79 30.7	0 0.0	257 100.0
性別	男性	124 100.0	86 69.4	38 30.6	0 0.0	124 100.0
性別・ 年齢別	男-65～69歳	27 100.0	22 81.5	5 18.5	0 0.0	27 100.0
	男-70～74歳	31 100.0	23 74.2	8 25.8	0 0.0	31 100.0
	男-75～79歳	29 100.0	18 62.1	11 37.9	0 0.0	29 100.0
	男-80～84歳	29 100.0	18 62.1	11 37.9	0 0.0	29 100.0
	男-85歳以上	8 100.0	5 62.5	3 37.5	0 0.0	8 100.0
	性別	女性	133 100.0	92 69.2	41 30.8	0 0.0
性別・ 年齢別	女-65～69歳	28 100.0	25 89.3	3 10.7	0 0.0	28 100.0
	女-70～74歳	37 100.0	29 78.4	8 21.6	0 0.0	37 100.0
	女-75～79歳	36 100.0	24 66.7	12 33.3	0 0.0	36 100.0
	女-80～84歳	28 100.0	13 46.4	15 53.6	0 0.0	28 100.0
	女-85歳以上	4 100.0	1 25.0	3 75.0	0 0.0	4 100.0

上段:人数 下段:割合(%)

		非認定者		無回答	合計	
		一般	総合			
地域包括支援センター さわたり		263 100.0	173 65.8	90 34.2	0 0.0	263 100.0
性別	男性	117 100.0	78 66.7	39 33.3	0 0.0	117 100.0
性別・ 年齢別	男-65～69歳	25 100.0	16 64.0	9 36.0	0 0.0	25 100.0
	男-70～74歳	29 100.0	21 72.4	8 27.6	0 0.0	29 100.0
	男-75～79歳	28 100.0	21 75.0	7 25.0	0 0.0	28 100.0
	男-80～84歳	31 100.0	16 51.6	15 48.4	0 0.0	31 100.0
	男-85歳以上	4 100.0	4 100.0	0 0.0	0 0.0	4 100.0
	性別	女性	146 100.0	95 65.1	51 34.9	0 0.0
性別・ 年齢別	女-65～69歳	38 100.0	29 76.3	9 23.7	0 0.0	38 100.0
	女-70～74歳	39 100.0	29 74.4	10 25.6	0 0.0	39 100.0
	女-75～79歳	33 100.0	18 54.5	15 45.5	0 0.0	33 100.0
	女-80～84歳	30 100.0	16 53.3	14 46.7	0 0.0	30 100.0
	女-85歳以上	6 100.0	3 50.0	3 50.0	0 0.0	6 100.0

上段:人数 下段:割合(%)

		非認定者		無回答	合計	
		一般	総合			
吉田地区地域包括 支援センター		282 100.0	198 70.2	84 29.8	0 0.0	282 100.0
性別	男性	137 100.0	98 71.5	39 28.5	0 0.0	137 100.0
性別・ 年齢別	男-65～69歳	37 100.0	34 91.9	3 8.1	0 0.0	37 100.0
	男-70～74歳	31 100.0	22 71.0	9 29.0	0 0.0	31 100.0
	男-75～79歳	36 100.0	21 58.3	15 41.7	0 0.0	36 100.0
	男-80～84歳	30 100.0	20 66.7	10 33.3	0 0.0	30 100.0
	男-85歳以上	3 100.0	1 33.3	2 66.7	0 0.0	3 100.0
	性別	女性	145 100.0	100 69.0	45 31.0	0 0.0
性別・ 年齢別	女-65～69歳	36 100.0	31 86.1	5 13.9	0 0.0	36 100.0
	女-70～74歳	36 100.0	27 75.0	9 25.0	0 0.0	36 100.0
	女-75～79歳	37 100.0	26 70.3	11 29.7	0 0.0	37 100.0
	女-80～84歳	33 100.0	15 45.5	18 54.5	0 0.0	33 100.0
	女-85歳以上	3 100.0	1 33.3	2 66.7	0 0.0	3 100.0

上段:人数 下段:割合(%)

		非認定者		無回答	合計	
		一般	総合			
分水地区地域包括 支援センター		257 100.0	187 72.8	70 27.2	0 0.0	257 100.0
性別	男性	129 100.0	100 77.5	29 22.5	0 0.0	129 100.0
性別・ 年齢別	男-65～69歳	35 100.0	30 85.7	5 14.3	0 0.0	35 100.0
	男-70～74歳	30 100.0	23 76.7	7 23.3	0 0.0	30 100.0
	男-75～79歳	34 100.0	26 76.5	8 23.5	0 0.0	34 100.0
	男-80～84歳	27 100.0	19 70.4	8 29.6	0 0.0	27 100.0
	男-85歳以上	3 100.0	2 66.7	1 33.3	0 0.0	3 100.0
	性別	女性	128 100.0	87 68.0	41 32.0	0 0.0
性別・ 年齢別	女-65～69歳	34 100.0	28 82.4	6 17.6	0 0.0	34 100.0
	女-70～74歳	34 100.0	27 79.4	7 20.6	0 0.0	34 100.0
	女-75～79歳	33 100.0	17 51.5	16 48.5	0 0.0	33 100.0
	女-80～84歳	24 100.0	15 62.5	9 37.5	0 0.0	24 100.0
	女-85歳以上	3 100.0	0 0.0	3 100.0	0 0.0	3 100.0

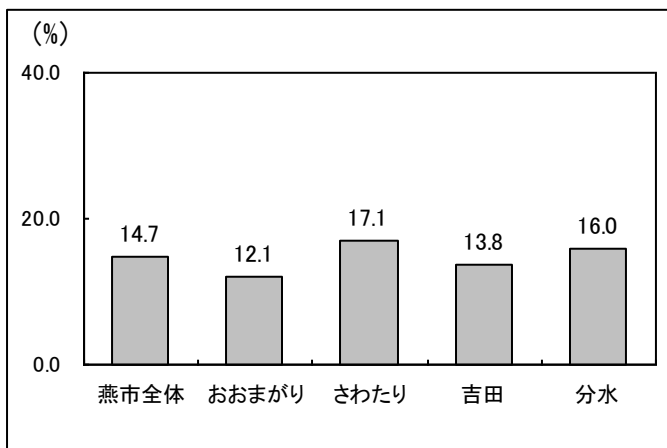
上段:人数 下段:割合(%)

3 総合事業対象者出現率

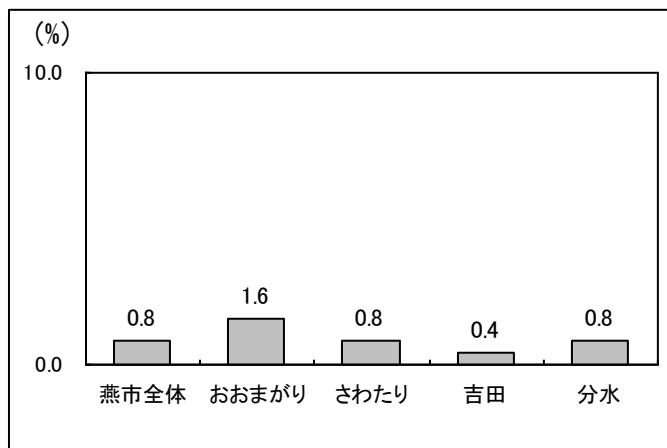
単位：%

	運動器の機能低下	低栄養の傾向	口腔機能の低下	虚弱(20項目)	総合事業対象者
燕市全体	14.7	0.8	20.5	12.7	30.5
おおまがり地区	12.1	1.6	24.5	16.3	30.7
さわたり地区	17.1	0.8	21.3	14.1	34.2
吉田地区	13.8	0.4	20.9	11.3	29.8
分水地区	16.0	0.8	15.2	9.3	27.2

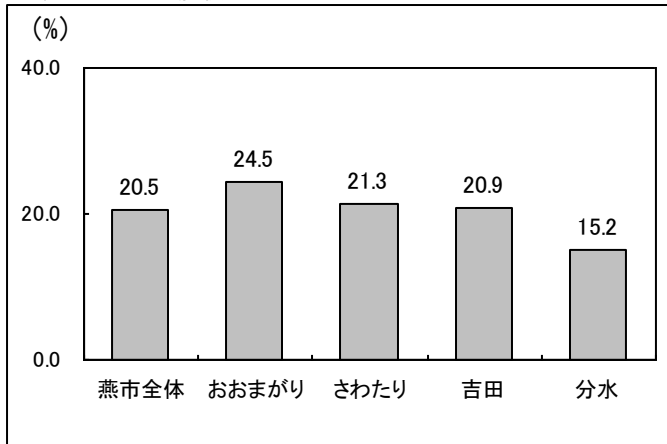
図表 4-2-1 運動器の機能低下



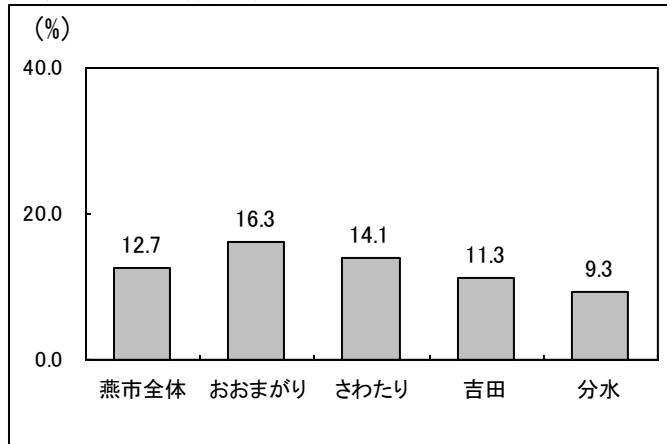
図表 4-2-2 低栄養の傾向



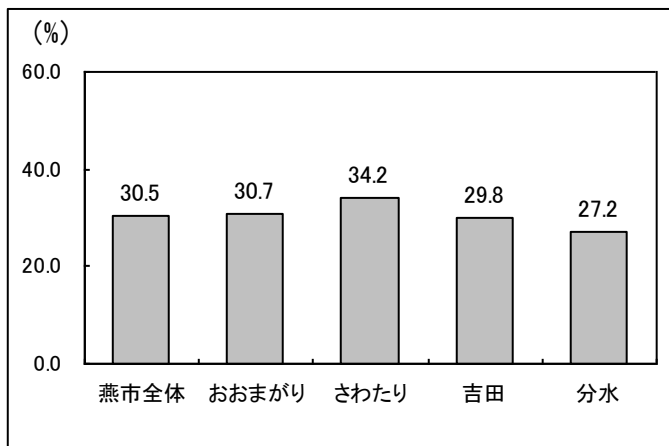
図表 4-2-3 口腔機能の低下



図表 4-2-4 虚弱(20項目)



図表 4-2-5 総合事業対象者



5 健康・疾病

1 疾病

現在治療中、または後遺症のある病気について、最も割合の高いのは一般高齢者・総合事業対象者ともに「高血圧」となっています。また、一般高齢者と総合事業対象者の差が大きいのは「筋骨格系の病気（骨粗しょう症、関節症等）」となっています。

図表 5-1-1 有病率（リスク該当状況別）

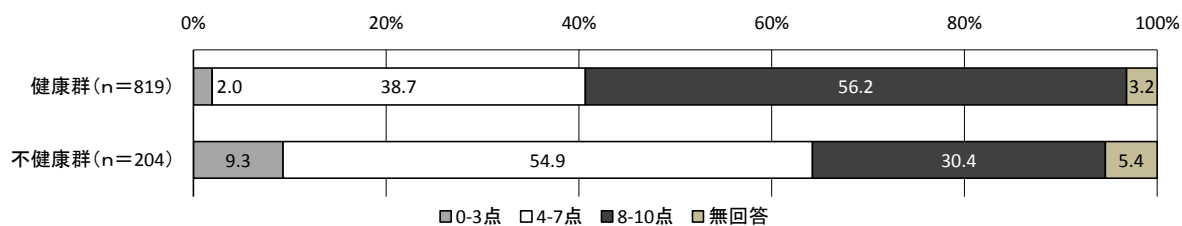
	単位(%)	
	一般	総合
高血圧	40.8	43.7
目の病気	18.6	29.7
筋骨格の病気(骨粗しょう症、関節症等)	9.8	23.8
糖尿病	12.0	17.0
高脂血症(脂質異常)	12.0	13.9
耳の病気	6.7	13.6
心臓病	7.1	13.3
胃腸・肝臓・胆のうの病気	6.0	9.6
腎臓・前立腺の病気	5.6	9.0
呼吸器の病気(肺炎や気管支炎等)	4.3	8.0
脳卒中(脳出血・脳梗塞等)	4.9	5.9
がん(悪性新生物)	2.7	5.9
外傷(転倒・骨折等)	0.8	5.0
認知症(アルツハイマー病等)	0.7	3.1
血液・免疫の病気	0.7	2.5
うつ病	1.2	1.9
パーキンソン病	0.3	1.2
その他	7.3	11.1
ない	19.0	7.4
無回答	6.3	4.3

2 健康

(1)主観的幸福感

○主観的健康感に対する各設問に対する回答を健康群と不健康群別にみると、主観的幸福感は健康群の方が高い点数となっています。

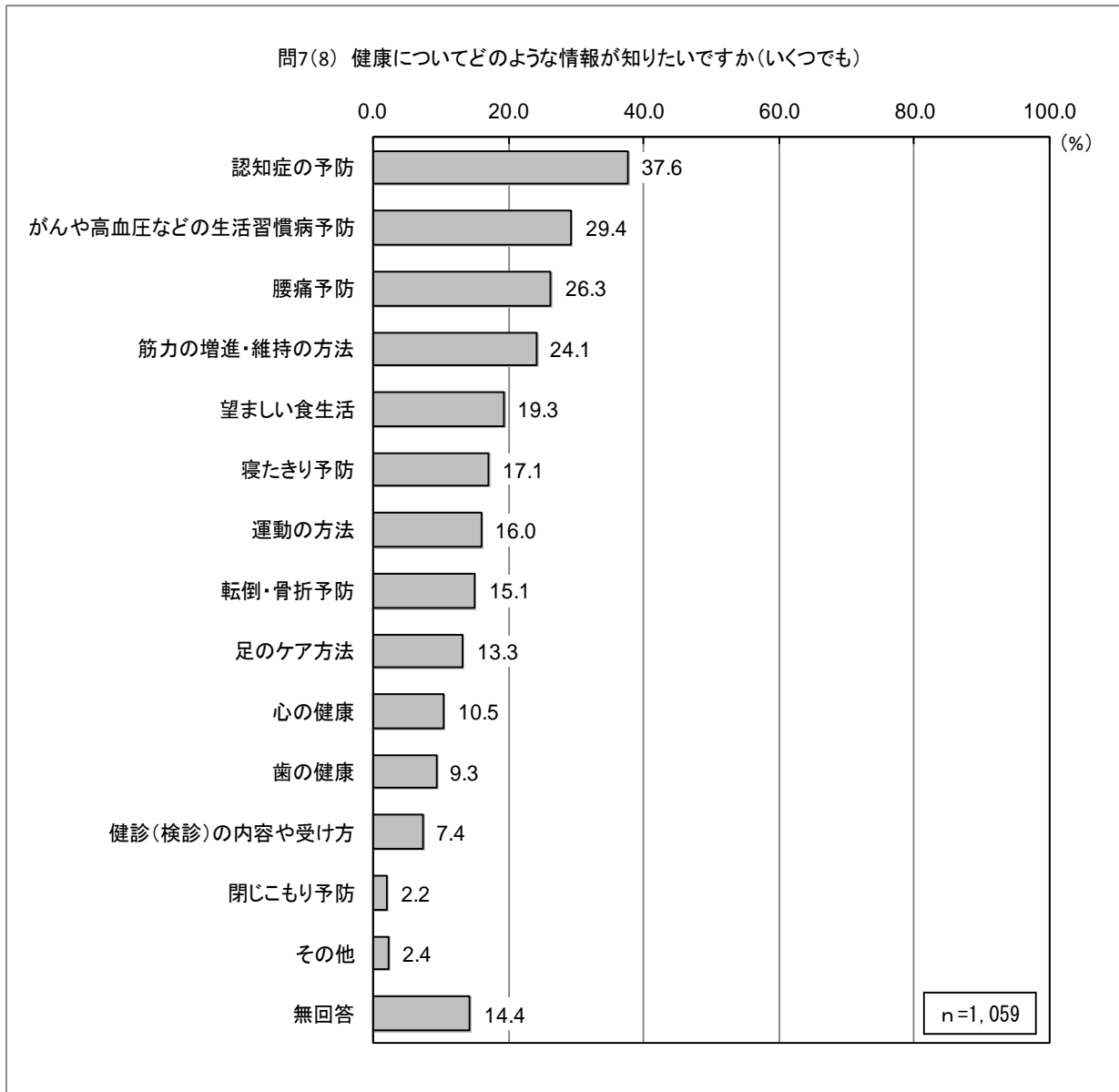
図表 5-2-1 主観的幸福感（主観的健康感別）



(2)健康について知りたい情報

○主観的健康感に対する各設問に対する回答を健康群と不健康群別にみると、主観的幸福度は健康群の方が高い点数となっています。

図表 5-2-2 健康について知りたい情報



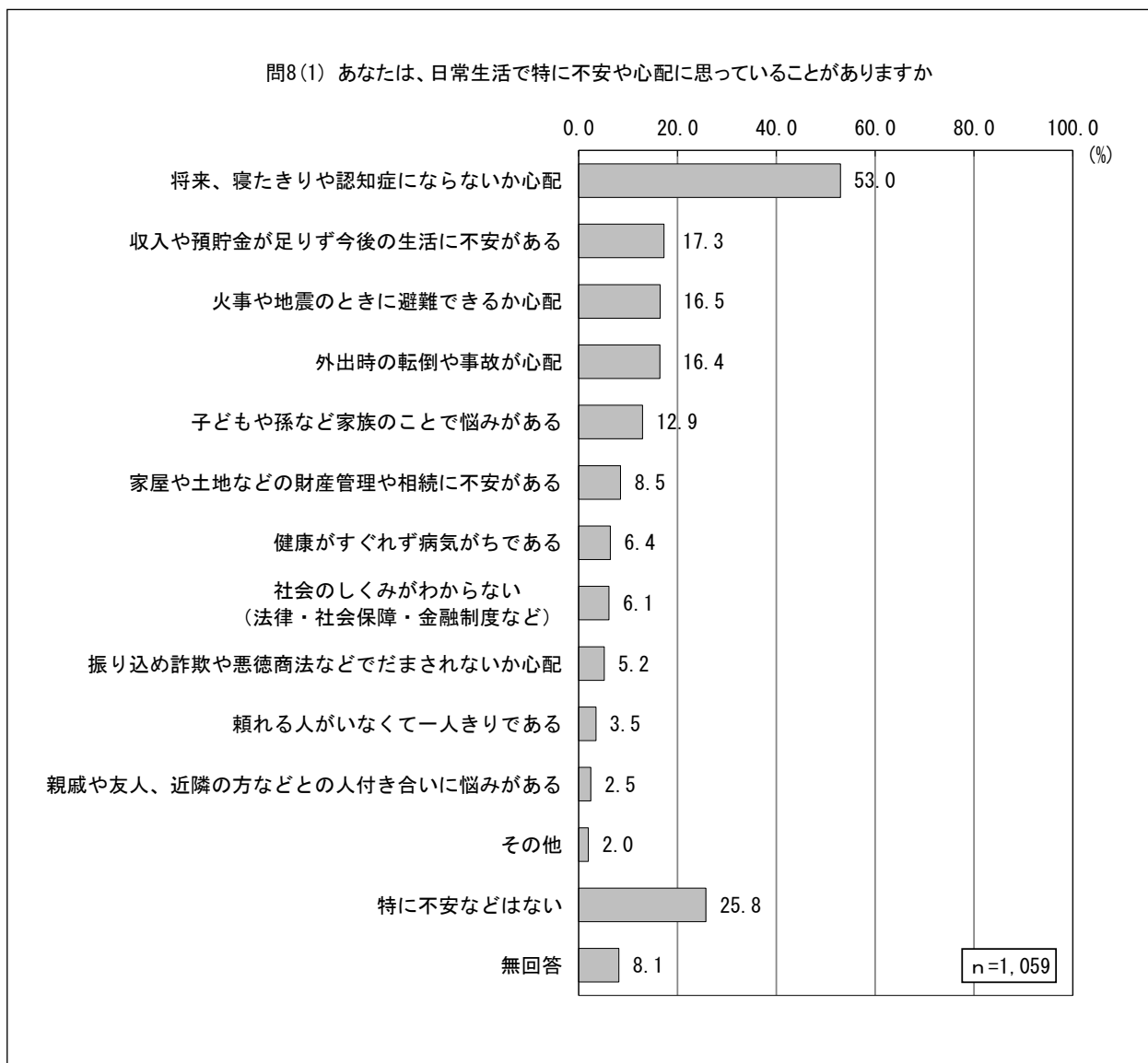
6 介護

1 介護に関する調査

(1)日常生活上の不安や介護に対する意識について

○日常生活で特に不安に思っていることは「将来、寝たきりや認知症にならないか心配」が特に多く 53.0%となっています。

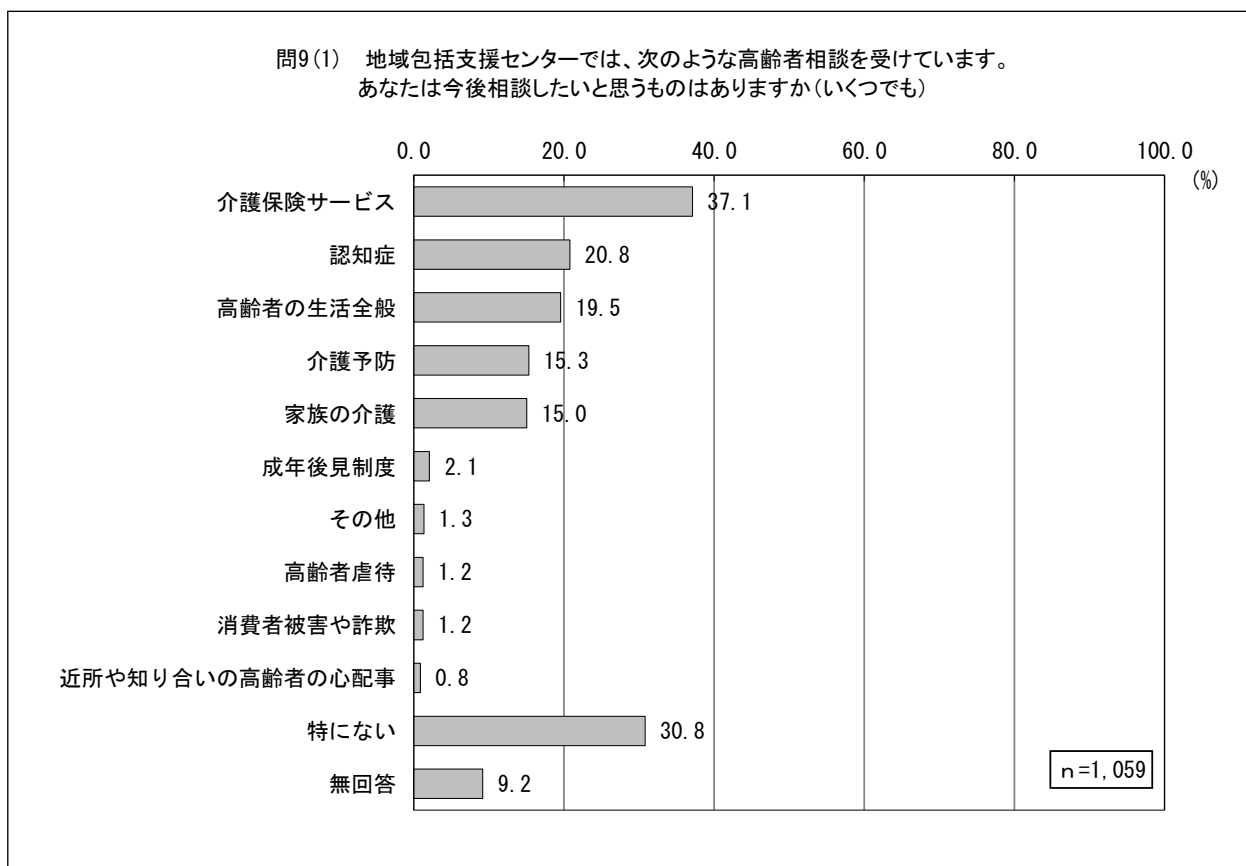
図表 6-1-1 日常生活で特に不安に思っていること



(2)地域包括支援センターへの相談について

○地域包括支援センターに今後相談したいと思うことは「介護保険サービス」が最も多く 37.1%、次いで「認知症」が 20.8%となっています。

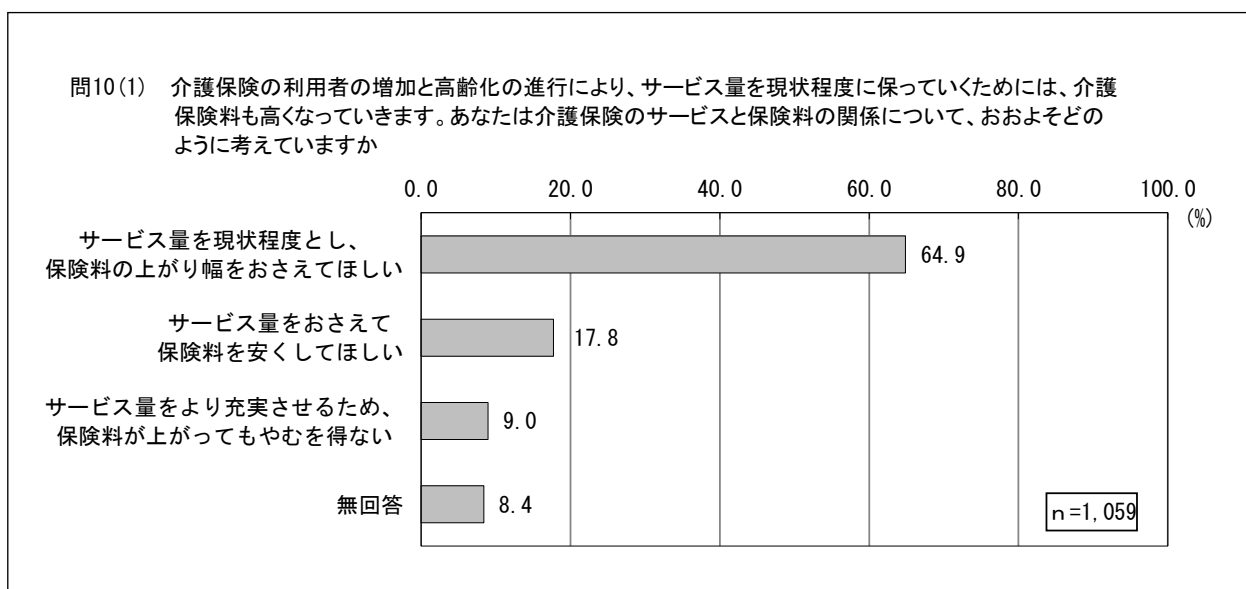
図表 6-1-2 地域包括支援センターに相談したいこと



(3)介護保険料について

○介護保険料については「サービス量を現状程度とし、保険料の上がり幅を抑えてほしい」と考えている方の割合が特に高く 64.9%となっています。

図表 6-1-3 介護保険料とサービスの関係について



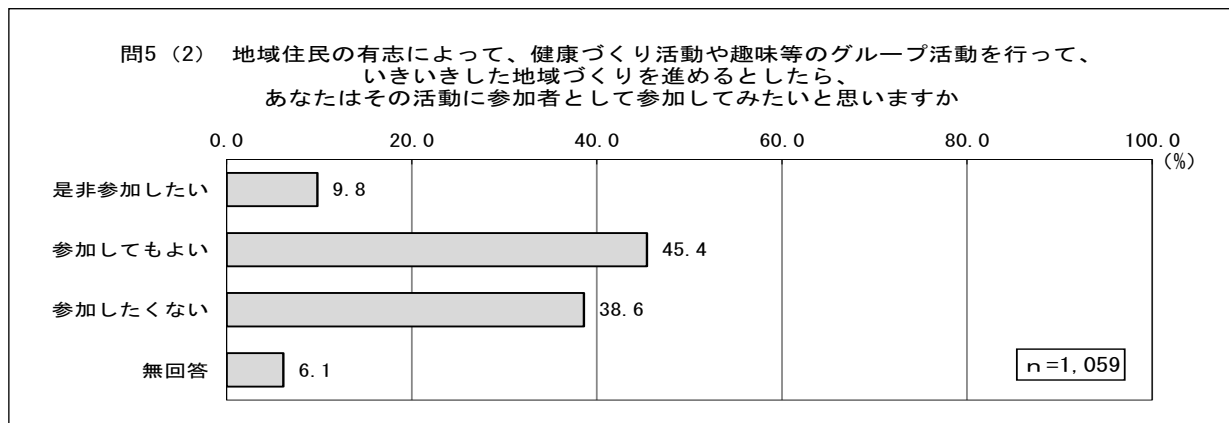
7 社会資源

1 社会参加

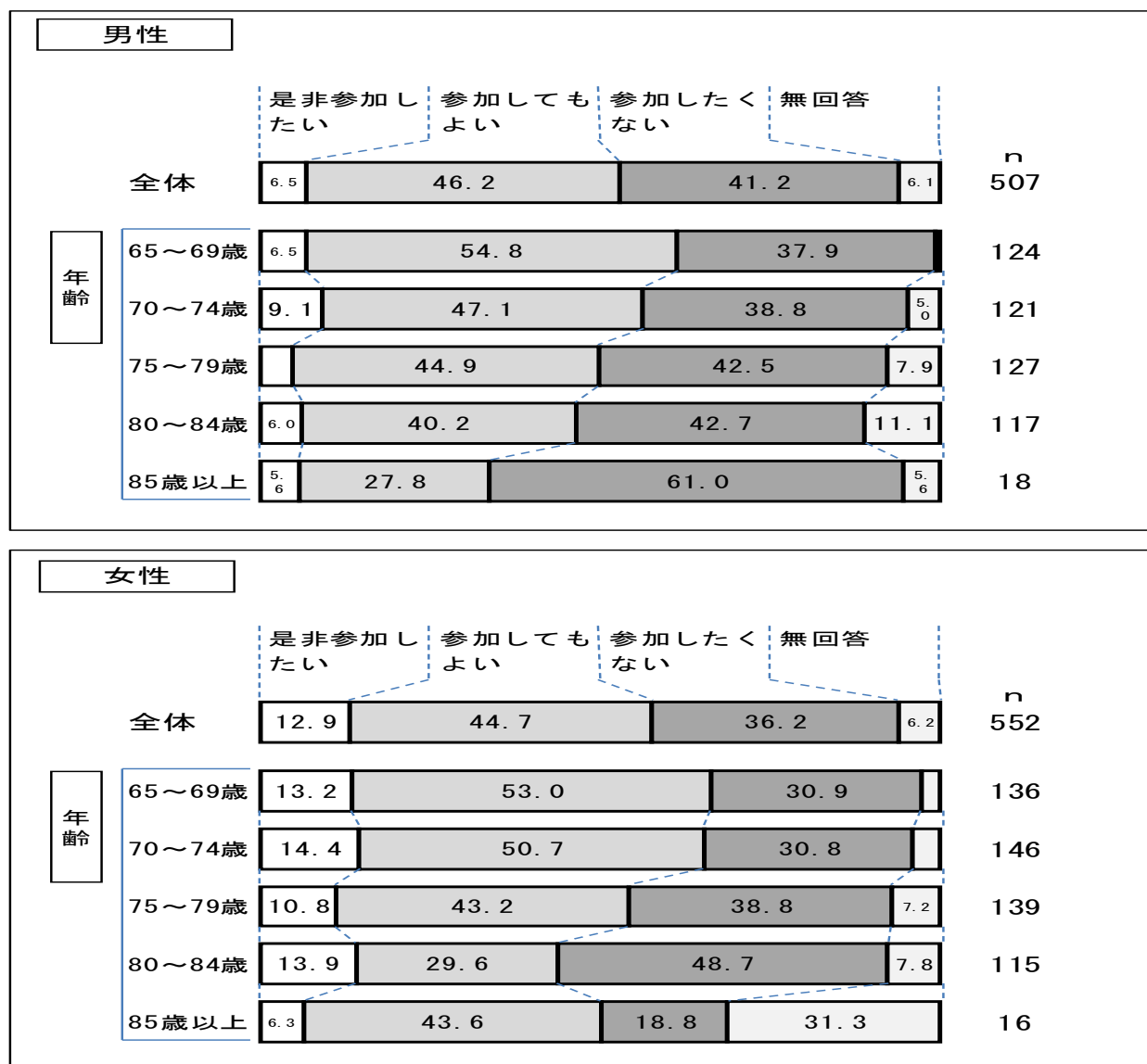
①地域活動等

○社会参加活動については参加者として「参加してもよい」が45.4%に対して、企画・運営（運営側）として「参加してもよい」は26.5%となっています。

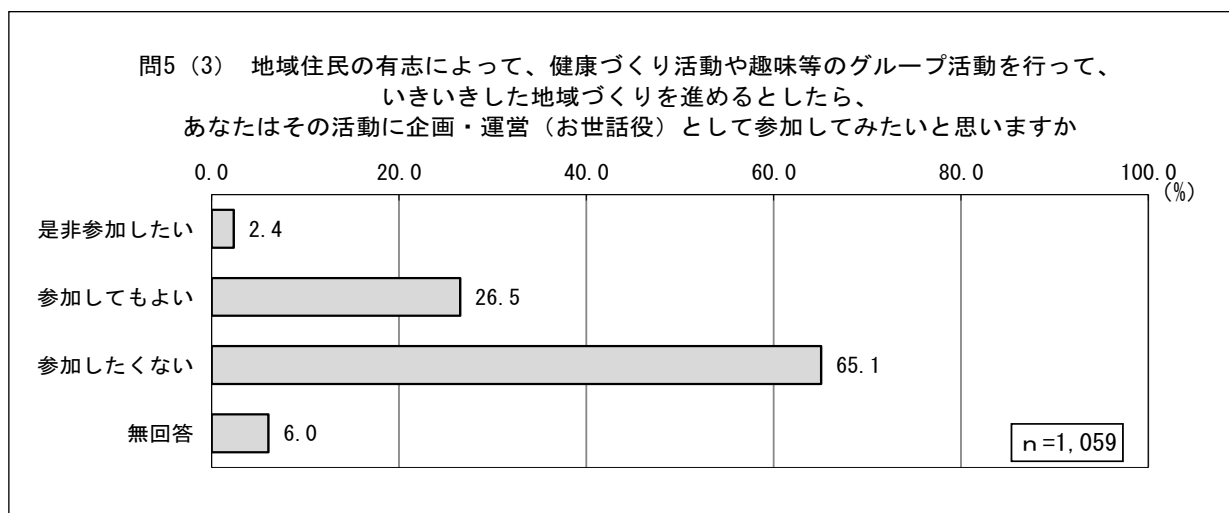
図表 7-1-1 社会参加活動について①



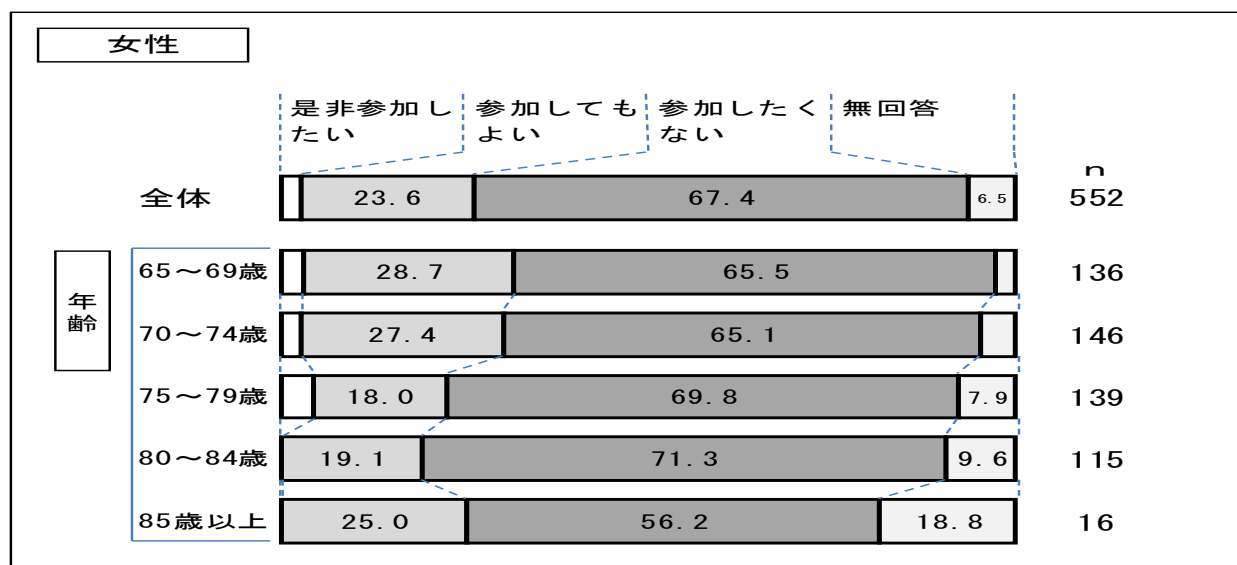
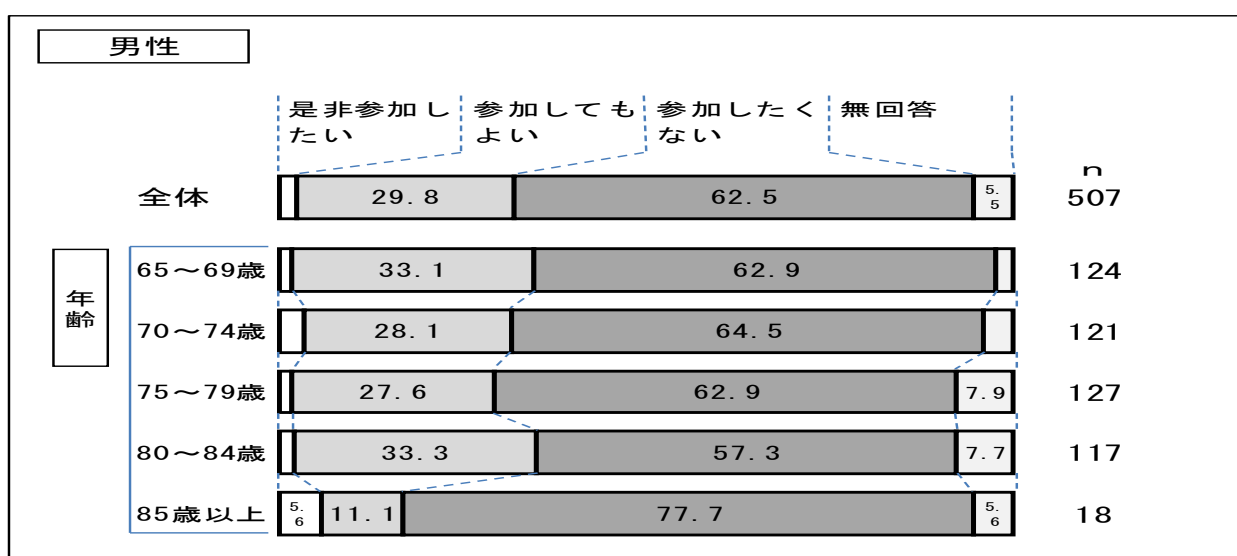
図表 7-1-2 社会参加活動について① (性別×年齢別)



図表 7-1-3 社会参加活動について②



図表 7-1-4 社会参加活動について②（性別×年齢別）



在宅介護実態調査報告書

平成 29 年 3 月

燕 市

目次

● 調査概要	1
調査結果	2
● アンケートを記入した方について	2
問1 アンケート記入者	2
● 調査対象者様ご本人について	2
問2 世帯類型	2
問3 性別	2
問4 年齢	3
問5 要介護度	3
問6 施設等への入所・入居の検討状況	3
問7 現在抱えている傷病	7
● 介護保険サービスについて	9
問8 介護保険サービスの利用の有無	9
問9 介護保険サービスの利用状況	9
問10 介護保険サービスの未利用の理由	12
問11 介護保険サービス以外の支援・サービスの利用状況	14
問12 必要な支援・サービス	16
問13 訪問診療の利用の有無	18
● ご家族等の介護の頻度について	18
問14 ご家族等の介護の頻度	18
● 主な介護者の方について	21
問15 介護のための離職の有無	21
問16 主な介護者の続柄	23
問17 主な介護者の性別	23
問18 主な介護者の年齢	23
問19 主な介護者が行っている介護	25
問20 主な介護者が不安に感じる介護	28
問21 主な介護者の勤務形態	32
問22 主な介護者の働き方の調整状況	32
問23 効果的な勤め先からの支援	33
問24 主な介護者の就労継続の可否に係る意識	34

● 口腔ケアについて	35
問25 かかりつけの歯医者.....	35
問26 無料訪問歯科検診事業の認知度.....	36
● 介護の現状について	37
問27 介護者の在宅状況.....	37
問28 介護と医療の連携.....	38
問29 介護の困り事.....	39
● 介護保険サービス利用の現状について	41
問30 介護保険サービスの利用上の問題.....	41
問31 ケアプランの満足度.....	42
● 介護保険料について	43
問 32 介護保険サービスと保険料の関係.....	43
● 経済状態について	44
問 33 経済的な暮らしの状況.....	44
● 今後の要望等について	44
問 34 今後の介護への考え.....	44
問 35 今後の介護への支援要望.....	46

● 調査概要

【 調査目的 】

それぞれの地域の特性を活かした地域包括ケアシステムを構築していくことが求められていることから、「要介護者の在宅生活の継続」や「介護者の就労継続」に有効な介護サービスのあり方等を検討するための調査とし、第7期介護保険事業計画策定・高齢者保健福祉計画の基礎資料とすることを目的に調査を実施しました。

【 調査内容 】

- ◆ 調査対象者：65歳以上の方の要介護認定者の中から無作為に抽出した800名の方
- ◆ 調査期間：平成28年12月～平成28年12月末日
- ◆ 調査基準日：平成28年11月21日現在
- ◆ 配布・回収方法：郵送による配布・回収

【 有効回答数 】

調査対象者数	800人
回収数	477人
回収率	59.6%
有効回答数	470人

【 報告書の見方 】

- ① 報告書中の「n」の数値は、設問への回答者数を表します。
- ② 回答の比率は、すべて小数点以下第2位を四捨五入して算出しています。したがって、回答者比率の合計が100%にならない場合があります
- ③ 回答の比率(%)は、その設問の回答者数を基数として算出しています。したがって、複数回答「(複数選択可)」の設問については、全ての回答比率の合計が100%を超えることがあります。
- ④ 該当者を限定した設問の回答において、非該当者(無回答を含む)としての扱いの判断が難しいため、そのデータを集計に含んでいません。
- ⑤ クロスグラフについては、「ない」「なし」「わからない」「無回答」等についてはグラフから省略しています。
※クロスグラフで対象者(n値)が極端に少ない場合は、グラフの割合にバラツキが生じますので見方に注意が必要です。
- ⑥ クロスグラフの中で5パーセントに満たない数字は省略しています。

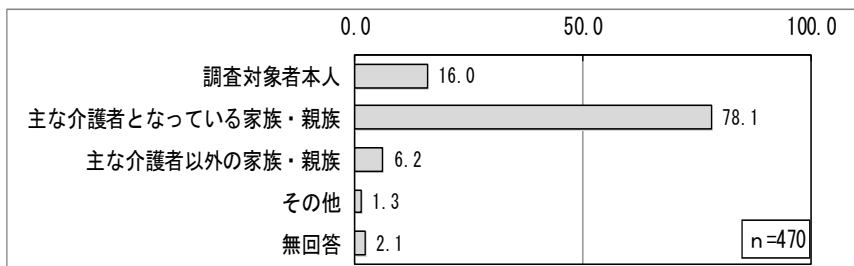
調査結果

● アンケートを記入した方について

問1 アンケート記入者

現在、この調査票にご回答を頂いているのは、どなたですか。（複数選択可）

「主な介護者となっている家族・親族」が最も多く78.1%、次いで「調査対象者本人」が16.0%となっています。

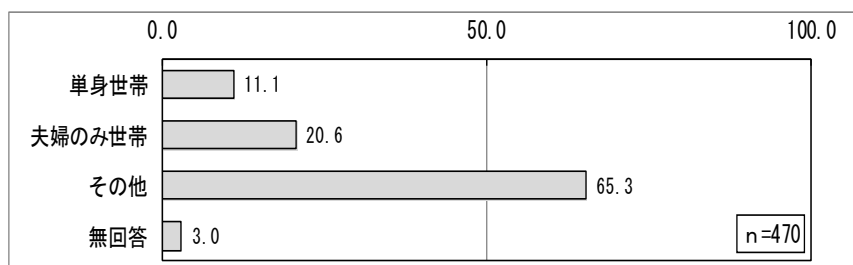


● 調査対象者様ご本人について

問2 世帯類型

世帯類型について、ご回答ください。（1つを選択）

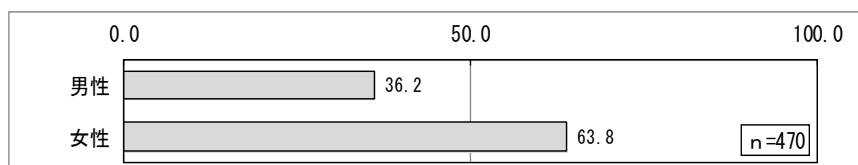
「単身世帯」が11.1%、「夫婦のみ世帯」が20.6%となっています。



問3 性別

ご本人（調査対象者）の性別について、ご回答ください。（1つを選択）

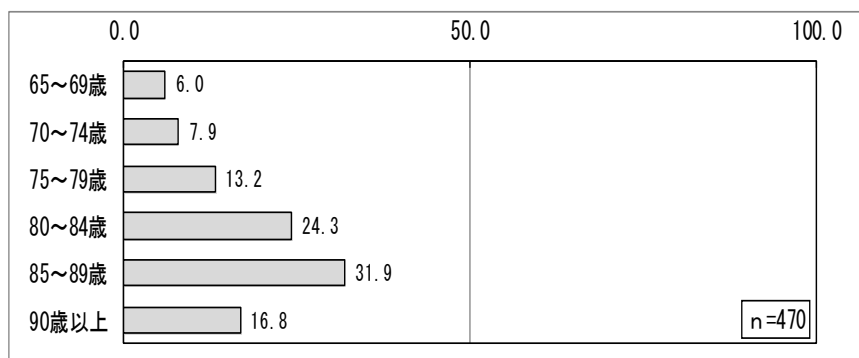
「男性」が36.2%、「女性」が63.8%となっています。



問4 年齢

ご本人（調査対象者）の年齢（平成28年11月21日現在）について、ご回答ください。（1つを選択）

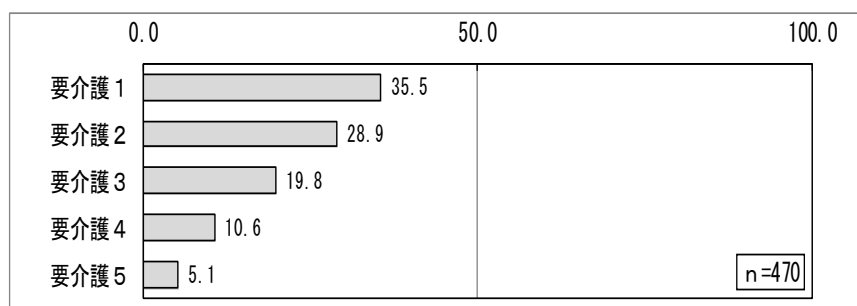
「85～89歳」が最も多く31.9%、次いで「80～84歳」が24.3%となっています。



問5 要介護度

ご本人（調査対象者）の要介護度について、ご回答ください。（1つを選択）

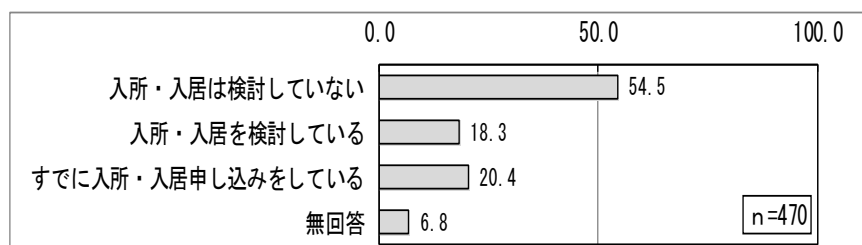
「要介護1」が最も多く35.5%、次いで「要介護2」が28.9%となっています。



問6 施設等への入所・入居の検討状況

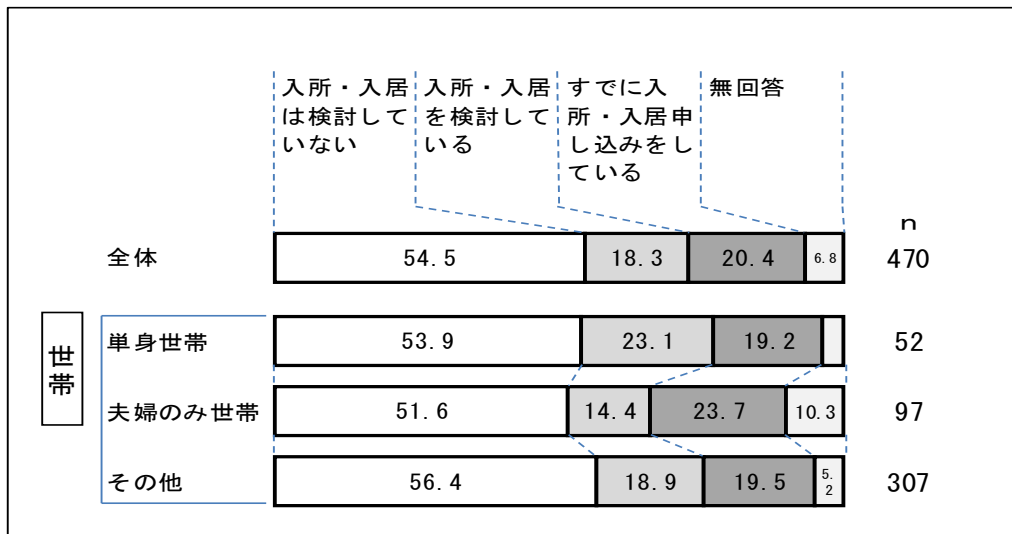
現時点での、施設等への入所・入居の検討状況について、ご回答ください。（1つを選択）

「入所・入居は検討していない」が54.5%、「入所・入居を検討している」が18.3%、「すでに入所・入居申し込みをしている」が20.4%となっています。



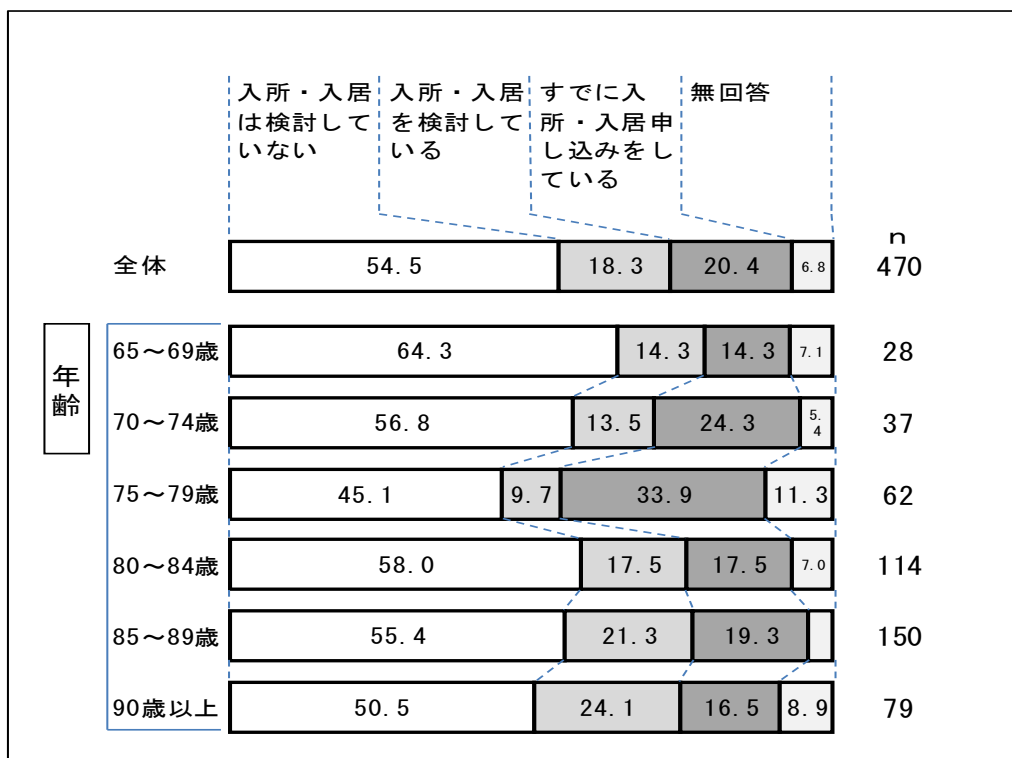
○世帯別にみると、夫婦のみ世帯は「すでに入所・入居申し込みをしている」が多くなっています。

[クロスグラフ 世帯 × (施設等への入所・入居の検討状況別)]



○年齢別にみると、75～79歳は「すでに入所・入居申し込みをしている」が多くなっています。

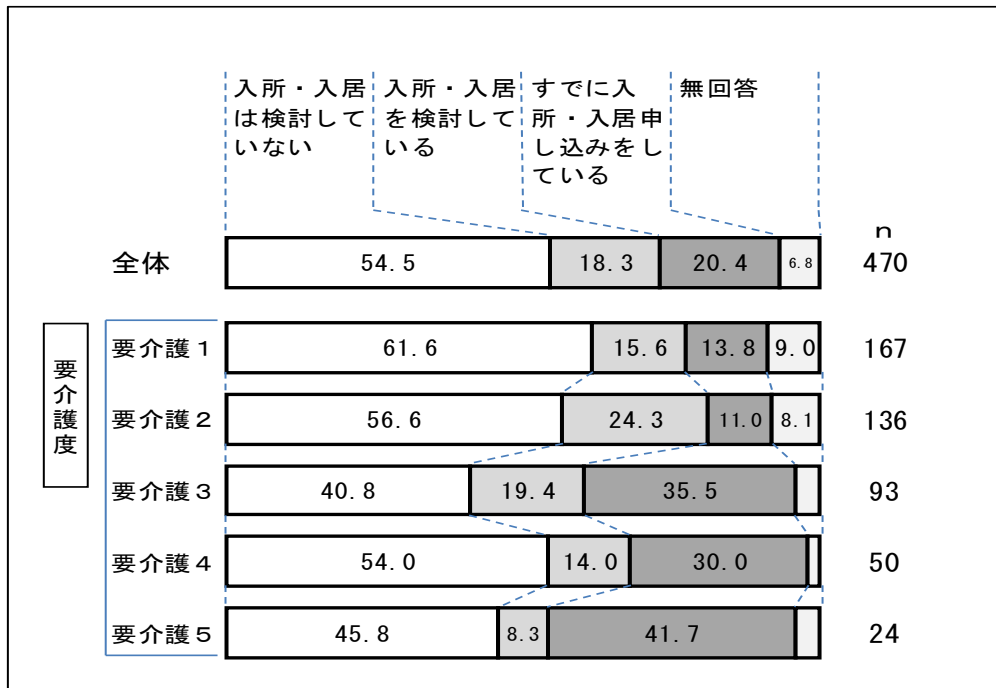
[クロスグラフ 年齢 × (施設等への入所・入居の検討状況別)]



※ クロスグラフ中で5.0%に満たない数字は省略しています。

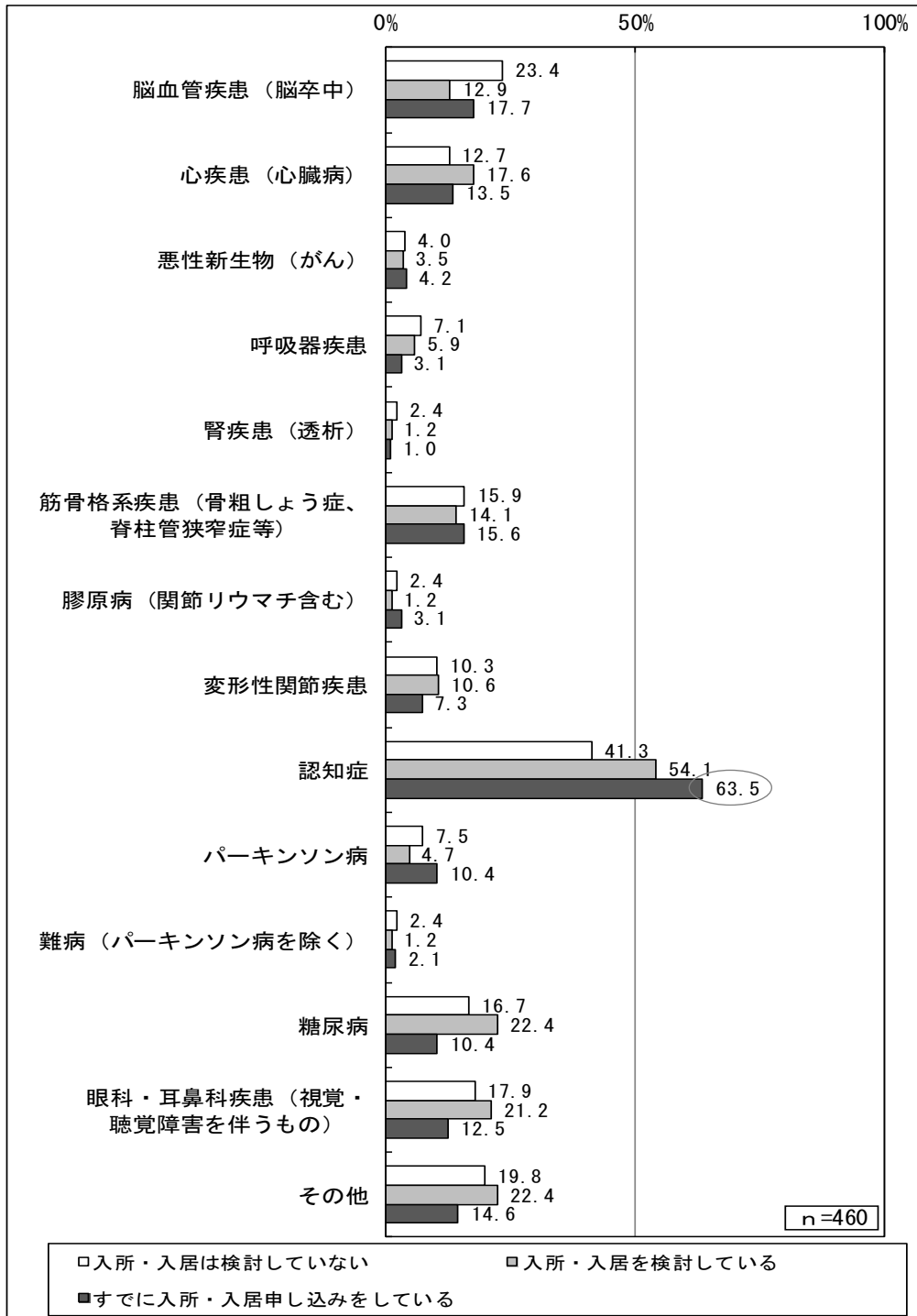
○要介護度別にみると、要介護5は「すでに入所・入居申し込みをしている」が多くなっています。

[クロスグラフ 要介護度 × (施設等への入所・入居の検討状況別)]



○現在抱えている傷病別にみると、認知症は「すでに入所・入居申し込みをしている」が多く
なっています。

[クロスグラフ 現在抱えている傷病 × (施設等への入所・入居の検討状況別)]

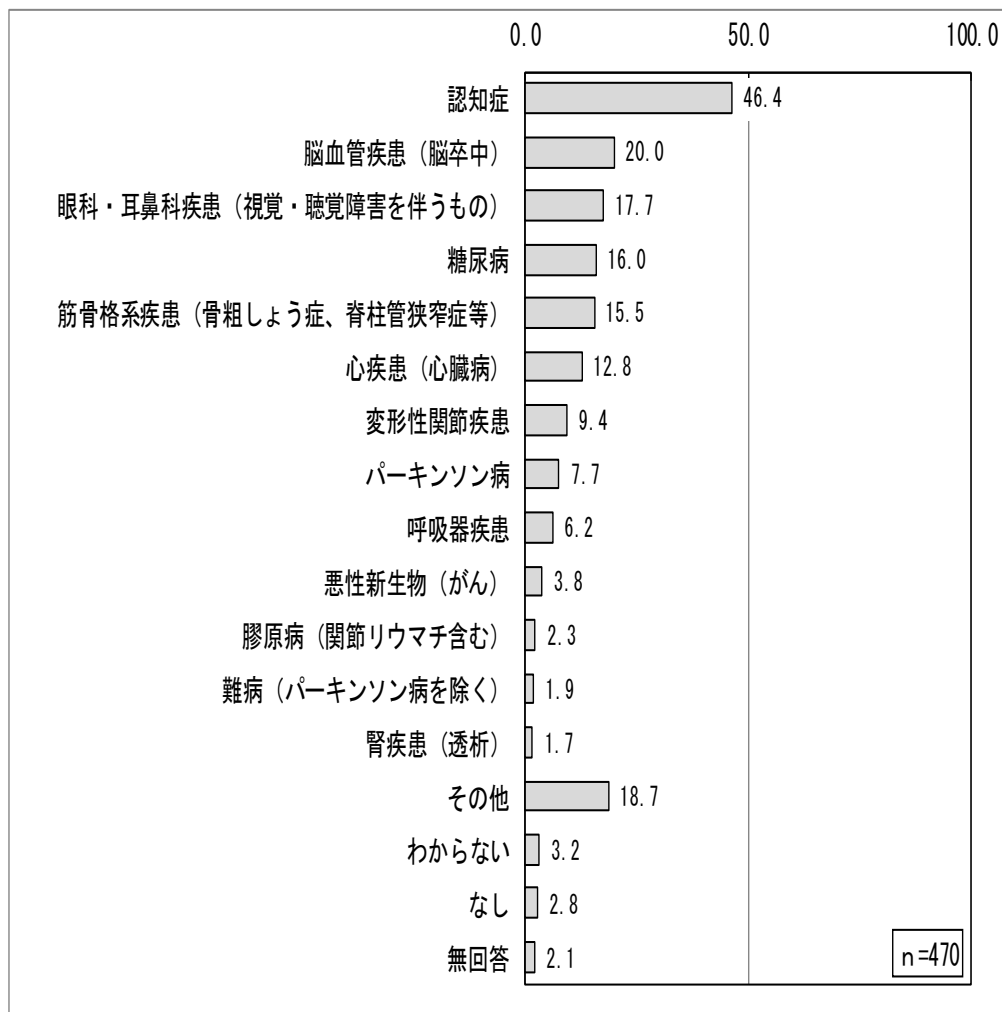


※ クロスグラフ中で無回答は省略していますので、単純集計グラフとn値が合わない場合があります。

問7 現在抱えている傷病

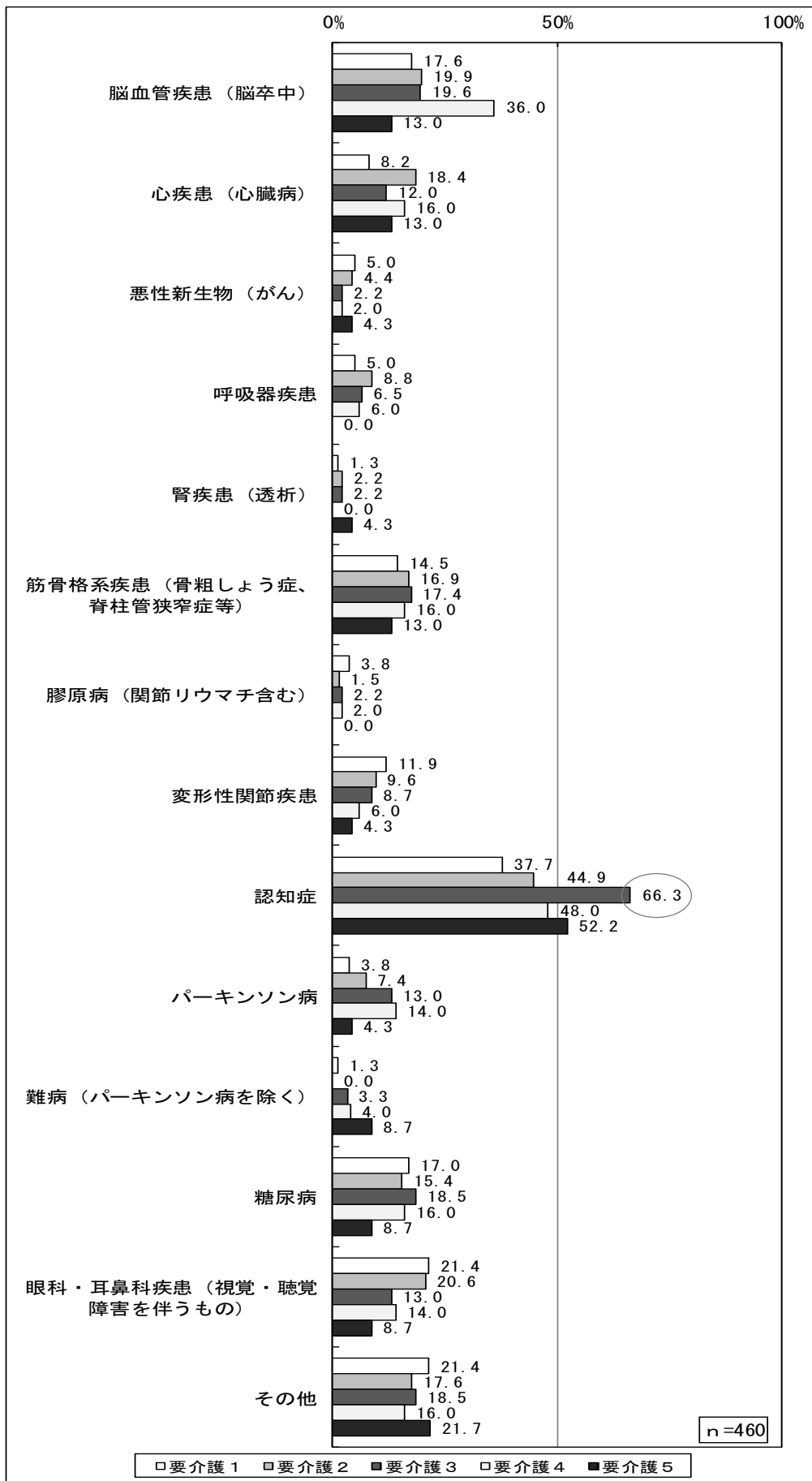
ご本人（調査対象者）が、現在抱えている傷病について、ご回答ください。（複数選択可）

「認知症」が最も多く46.4%、次いで「脳血管疾患（脳卒中）」が20.0%となっています。



○現在抱えている傷病別にみると、認知症は「要介護3」が多くなっています。

[クロスグラフ 現在抱えている傷病 × (要介護度別)]

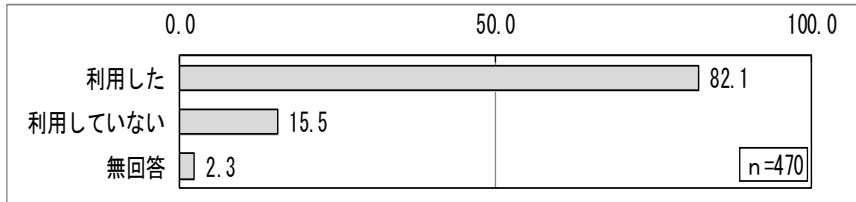


● 介護保険サービスについて

問8 介護保険サービスの利用の有無

平成28年11月の1か月の間に、介護保険サービス（住宅改修、福祉用具貸与・購入を除く）を利用しましたか。（1つを選択）

「利用した」82.1%、次いで「利用していない」が15.5%となっています。



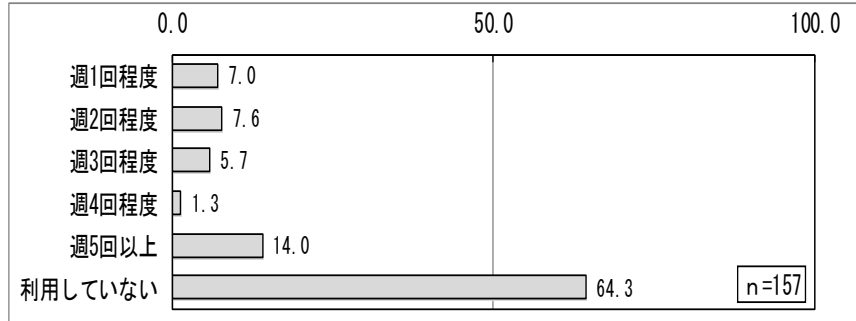
問9 介護保険サービスの利用状況

問8で「1:利用した」と回答した方におうかがいします。

以下の介護保険サービスについて、平成28年11月の1か月間の利用状況をご回答ください。対象の介護保険サービスをご利用になっていない場合は、「利用していない（0回、1.利用していない）」を選択してください。（それぞれ1つに○）

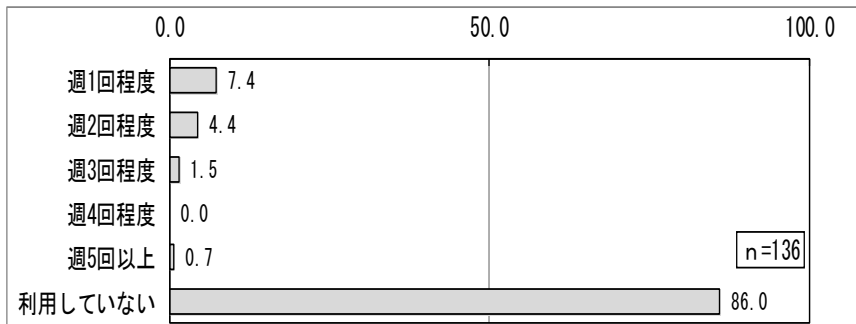
A. 訪問介護（ホームヘルプサービス）

「週5回以上」が最も多く14.0%、次いで「週2回程度」が7.6%となっています。



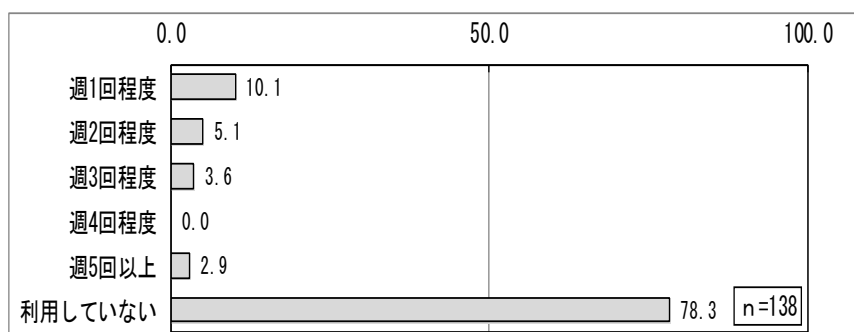
B. 訪問入浴介護

「週1回程度」が最も多く7.4%、次いで「週2回程度」が4.4%となっています。



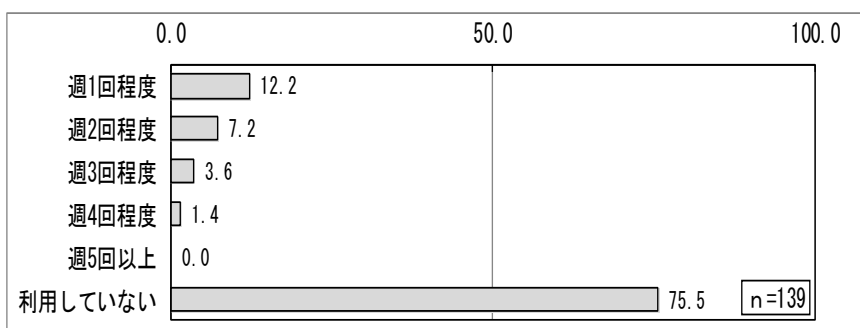
C. 訪問看護

「週1回程度」が最も多く10.1%、次いで「週2回程度」が5.1%となっています。



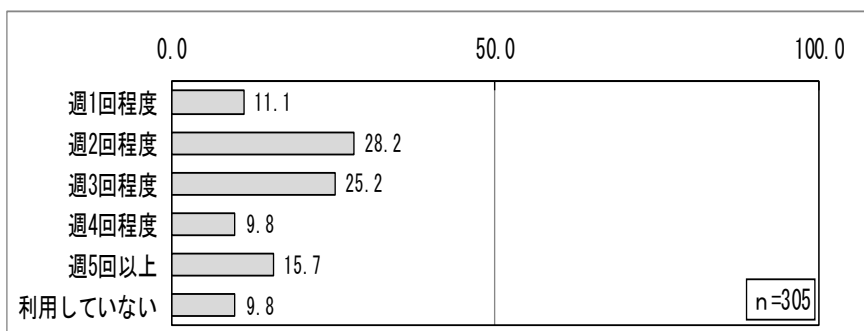
D. 訪問リハビリテーション

「週1回程度」が最も多く12.2%、次いで「週2回程度」が7.2%となっています。



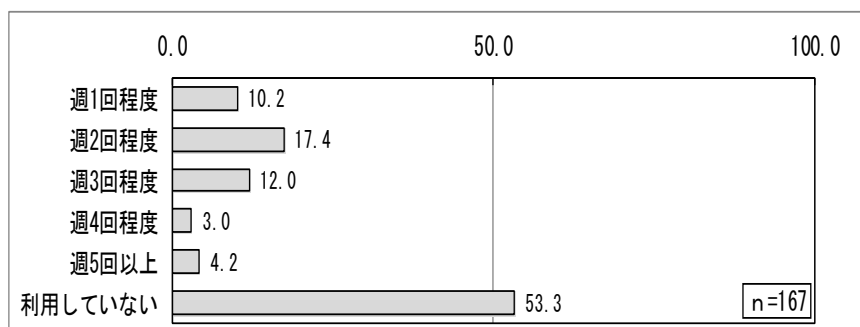
E. 通所介護（デイサービス）

「週2回程度」が最も多く28.2%、次いで「週3回程度」が25.2%となっています。



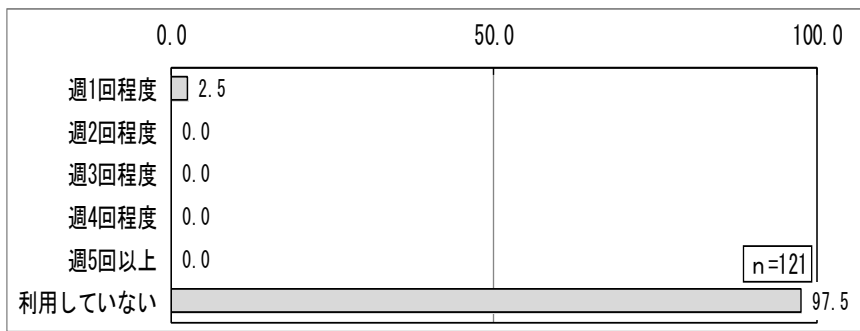
F. 通所リハビリテーション（デイケア）

「週2回程度」が最も多く17.4%、次いで「週3回程度」が12.0%となっています。



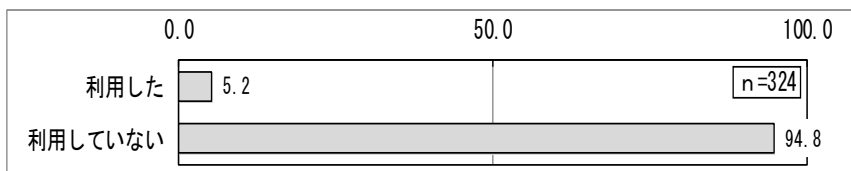
G. 夜間対応型訪問介護

「週1回程度」が2.5%のみの利用となっています。



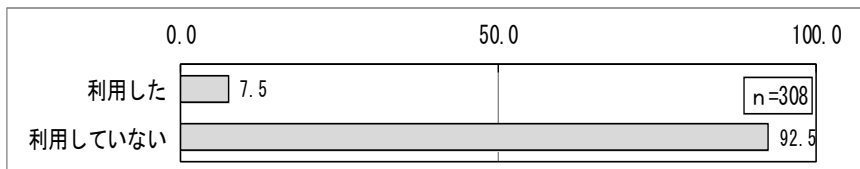
H. 定期巡回・随時対応型訪問介護看護

「利用した」が5.2%、「利用していない」が94.8%となっています。



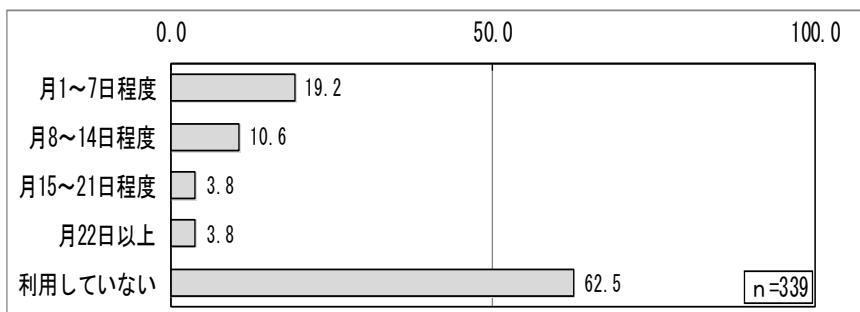
I. 小規模多機能型居宅介護

「利用した」が7.5%、「利用していない」が92.5%となっています。



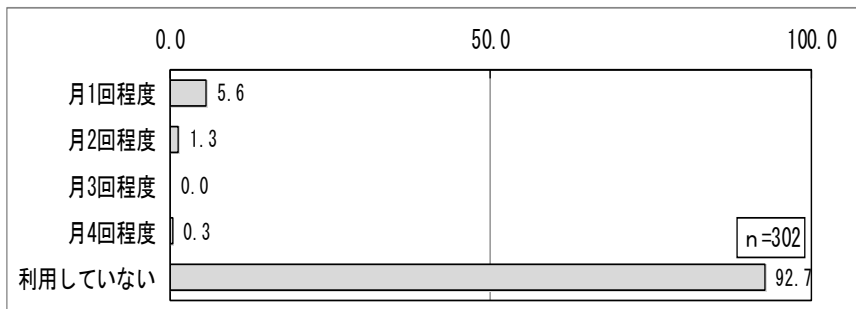
J. ショートステイ

「月1~7日程度」が最も多く19.2%、次いで「月8~14日程度」が10.6%となっています。



K. 居宅療養管理指導

「月1回程度」が最も多く5.6%、次いで「月2回程度」が1.3%となっています。

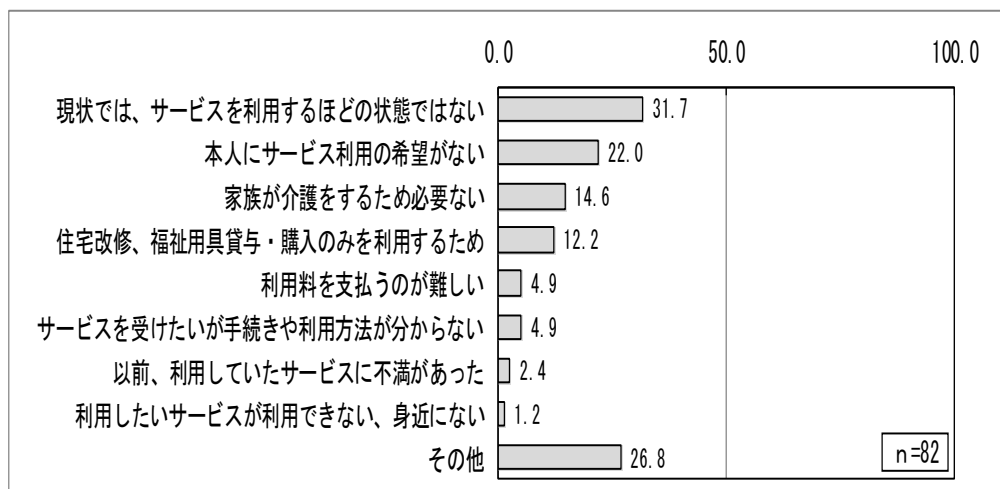


問10 介護保険サービスの未利用の理由

問8で「2:利用していない」と回答した方におうかがいします。

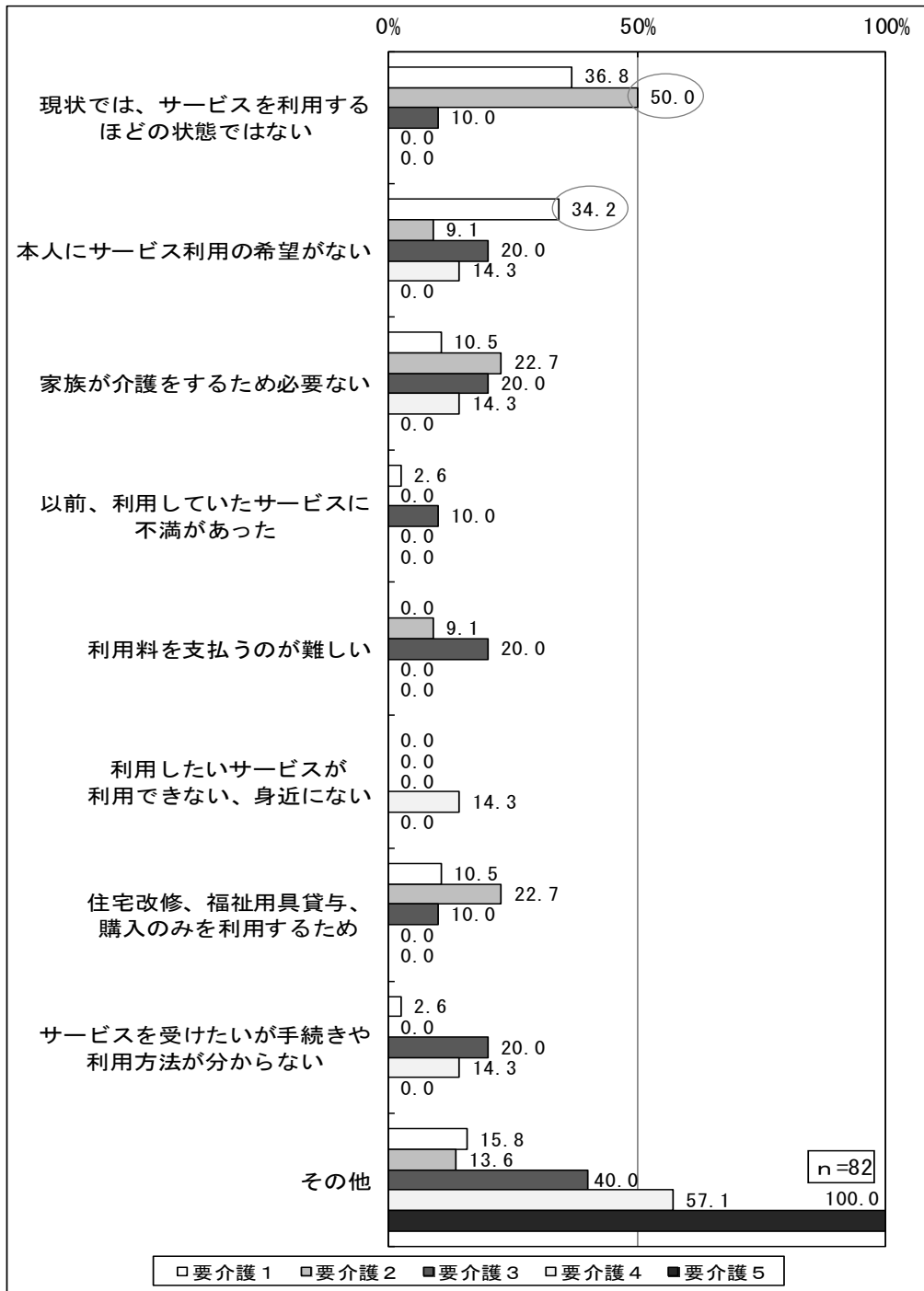
介護保険サービスを利用していない理由は何ですか。(複数選択可)

「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」が最も多く31.7%、次いで「本人にサービス利用の希望がない」が22.0%となっています。



○介護保険サービスの未利用の理由別にみると、現状では、サービスを利用するほどの状態ではないは「要介護2」が多くなっています。また、本人にサービス利用の希望がないは「要介護1」が多くなっています。

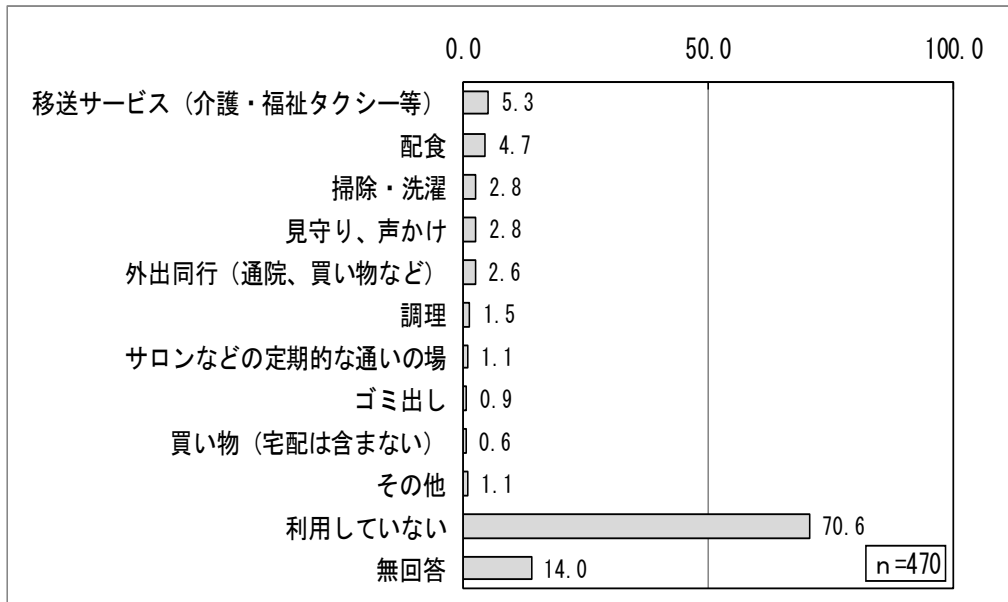
[クロスグラフ 介護保険サービスの未利用の理由 × (要介護度別)]



問 1 1 介護保険サービス以外の支援・サービスの利用状況

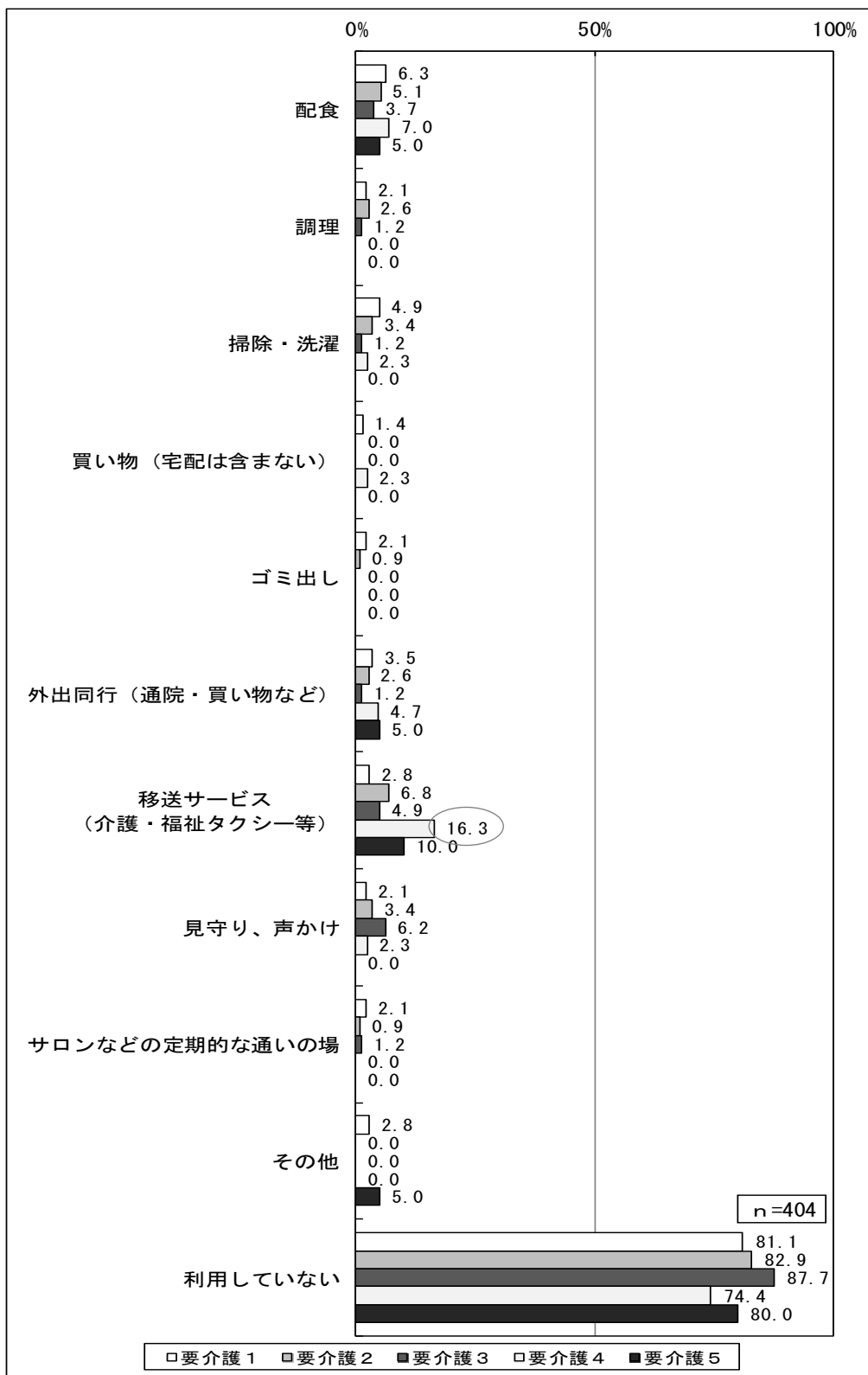
現在、利用している、「介護保険サービス 以外」の支援・サービスについて、ご回答ください。（複数選択可）

「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」が最も多く 5.3%、次いで「配食」が 4.7%となっています。



○介護保険サービス以外の支援・サービスの利用状況別にみると、移送サービス（介護・福祉タクシー等）は「要介護4」が多くなっています。

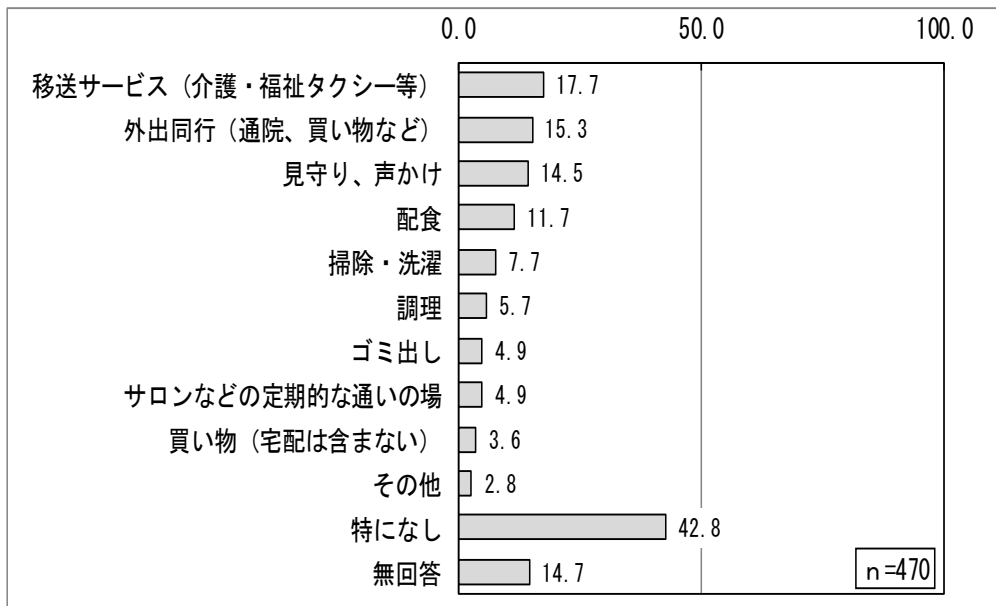
[クロスグラフ 介護保険サービス以外の支援・サービスの利用状況 × (要介護度別)]



問12 必要な支援・サービス

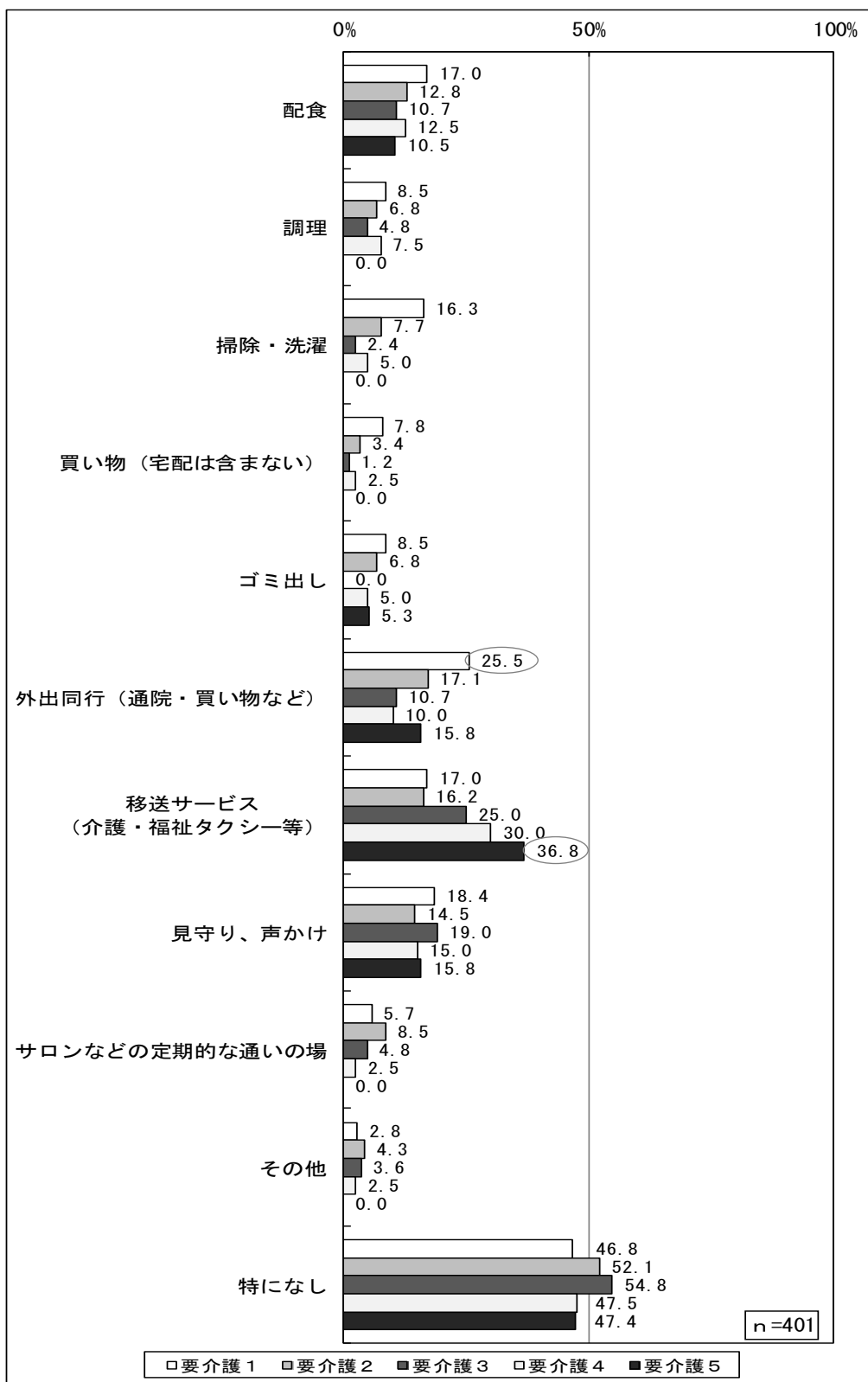
今後の在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス（現在利用しているが、さらなる充実が必要と感じる支援・サービスを含む）について、ご回答ください。（複数選択可）

「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」が最も多く17.7%、次いで「外出同行（通院・買い物など）」が15.3%となっています。



○必要な支援・サービス別にみると、移送サービス（介護・福祉タクシー等）は「要介護5」が多くなっています。また、外出同行（通院・買い物など）は「要介護1」が多くなっています。

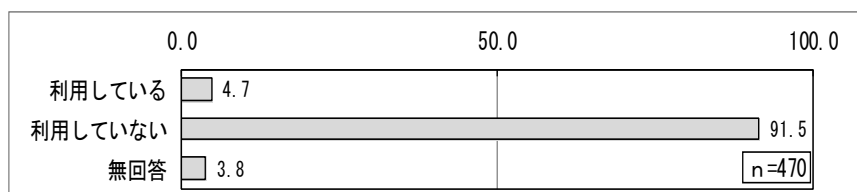
[クロスグラフ 必要な支援・サービス × (要介護度別)]



問 1 3 訪問診療の利用の有無

ご本人（認定調査対象者）は、現在、訪問診療を利用していますか。（1つを選択）

「利用している」が4.7%、「利用していない」が91.5%となっています。

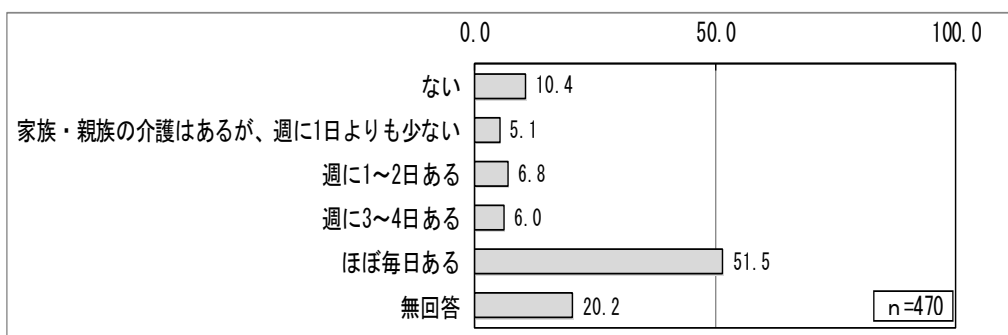


● ご家族等の介護の頻度について

問 1 4 ご家族等の介護の頻度

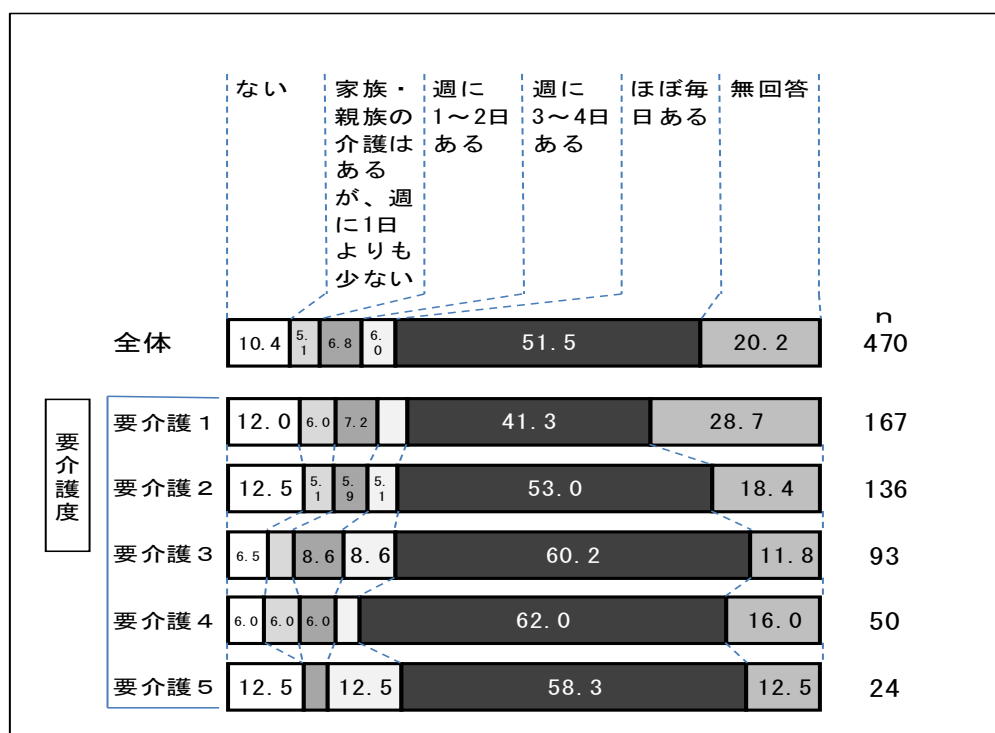
ご家族やご親族の方からの介護は、週にどのくらいありますか。（同居していない子どもや親族等からの介護を含む）（1つを選択）

「ほぼ毎日ある」が最も多く51.5%、次いで「週に1～2日ある」が6.8%となっています。



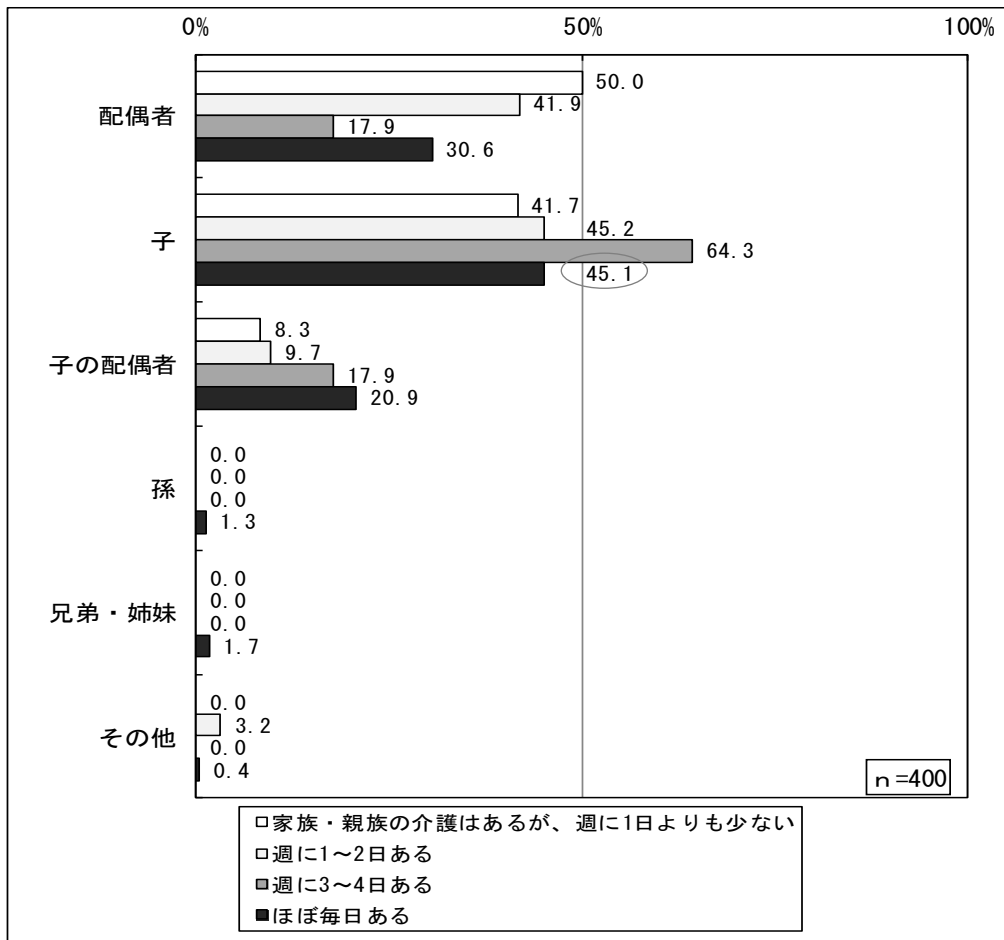
○要介護度別にみると、要介護4は「ほぼ毎日ある」が多くなっています。

[クロスグラフ 要介護度 × (ご家族等の介護の頻度別)]



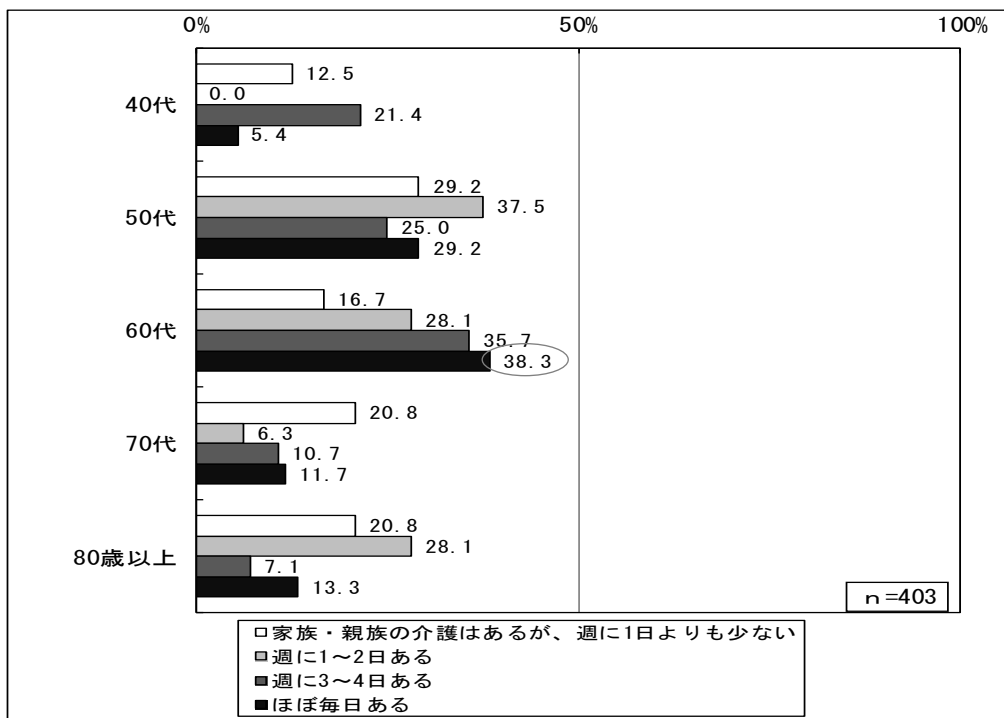
○主な介護者の続柄別にみると、「ほぼ毎日ある」の中で子が多くなっています。

[クロスグラフ 主な介護者の続柄 × (ご家族等の介護の頻度別)]



○主な介護者の年齢別にみると、60代は「ほぼ毎日ある」が多くなっています。

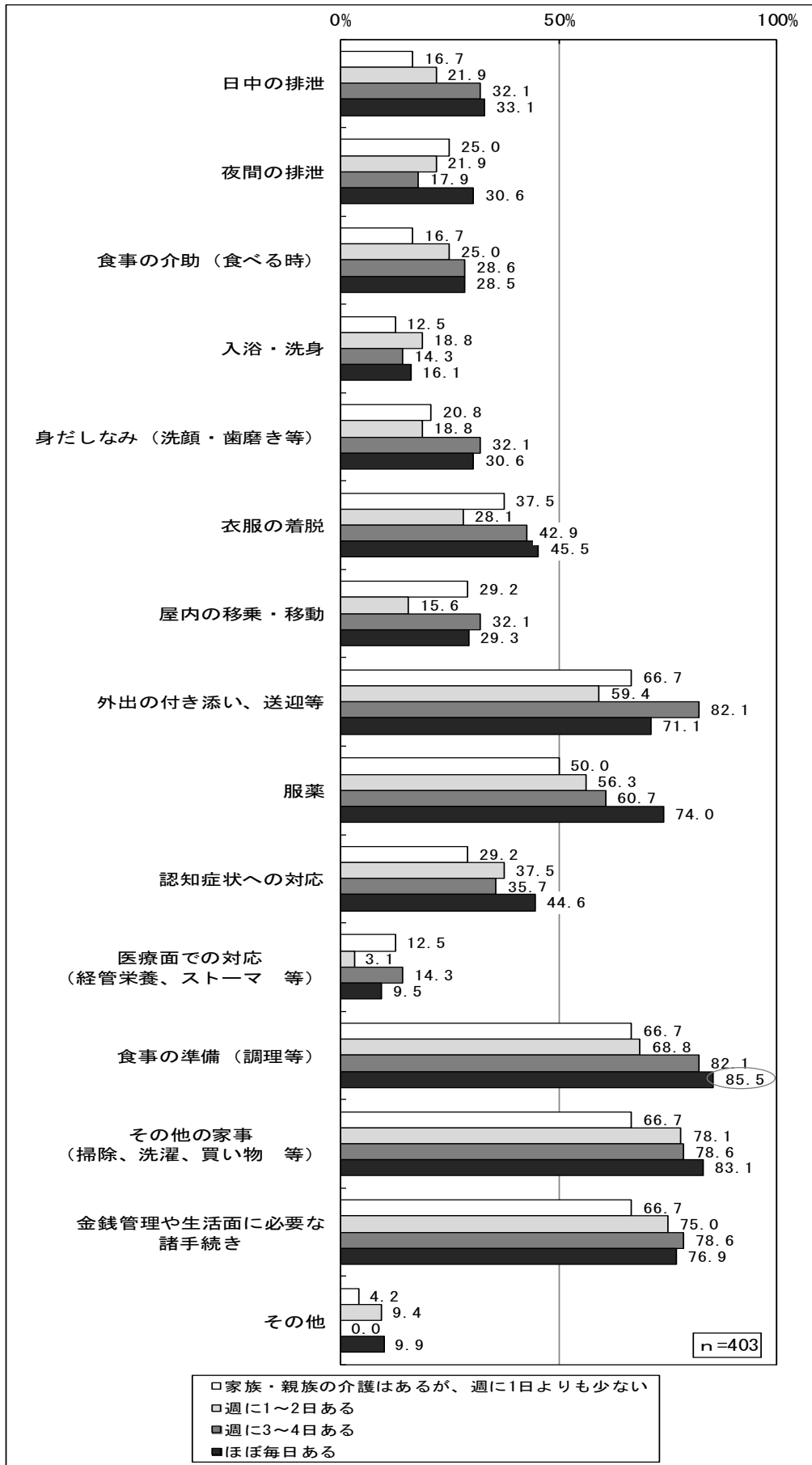
[クロスグラフ 主な介護者の年齢 × (ご家族等の介護の頻度別)]



*主な介護者の年齢で「20歳未満」「20代」「30代」の回答数が少ないためグラフは省略しています。

○主な介護者が行っている介護別にみると、食事の準備（調理等）は「ほぼ毎日ある」が多く
なっています。

[クロスグラフ 主な介護者が行っている介護 × (ご家族等の介護の頻度別)]



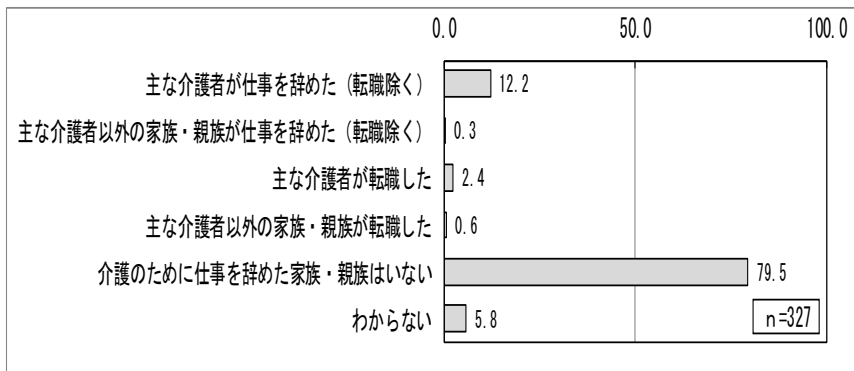
● 主な介護者の方について

問 1 5 介護のための離職の有無

ご家族やご親族の中で、ご本人（認定調査対象者）の介護を主な理由として、過去 1 年の間に仕事を辞めた方はいますか。（現在働いているかどうかや、現在の勤務形態は問いません）（複数選択可）

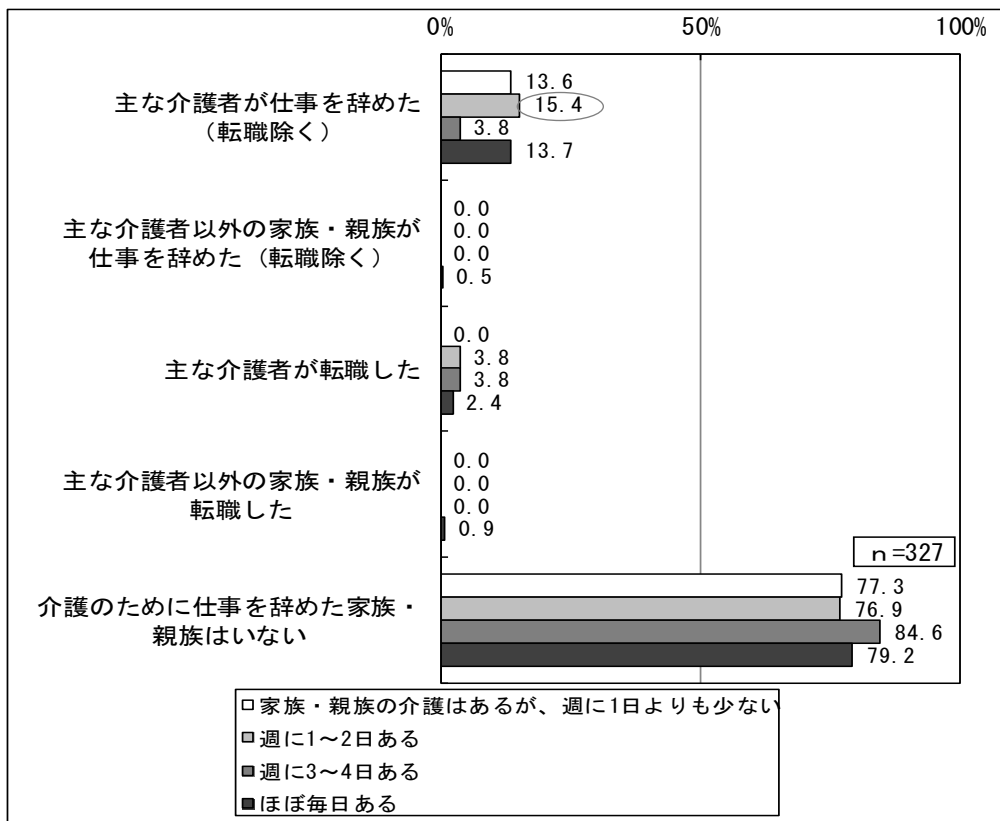
※ 自営業や農林水産業のお仕事を辞めた方を含みます。

「介護のために仕事を辞めた家族・親族はいない」が 79.5%、次いで「主な介護者が仕事を辞めた（転職除く）」が 12.2%となっています。



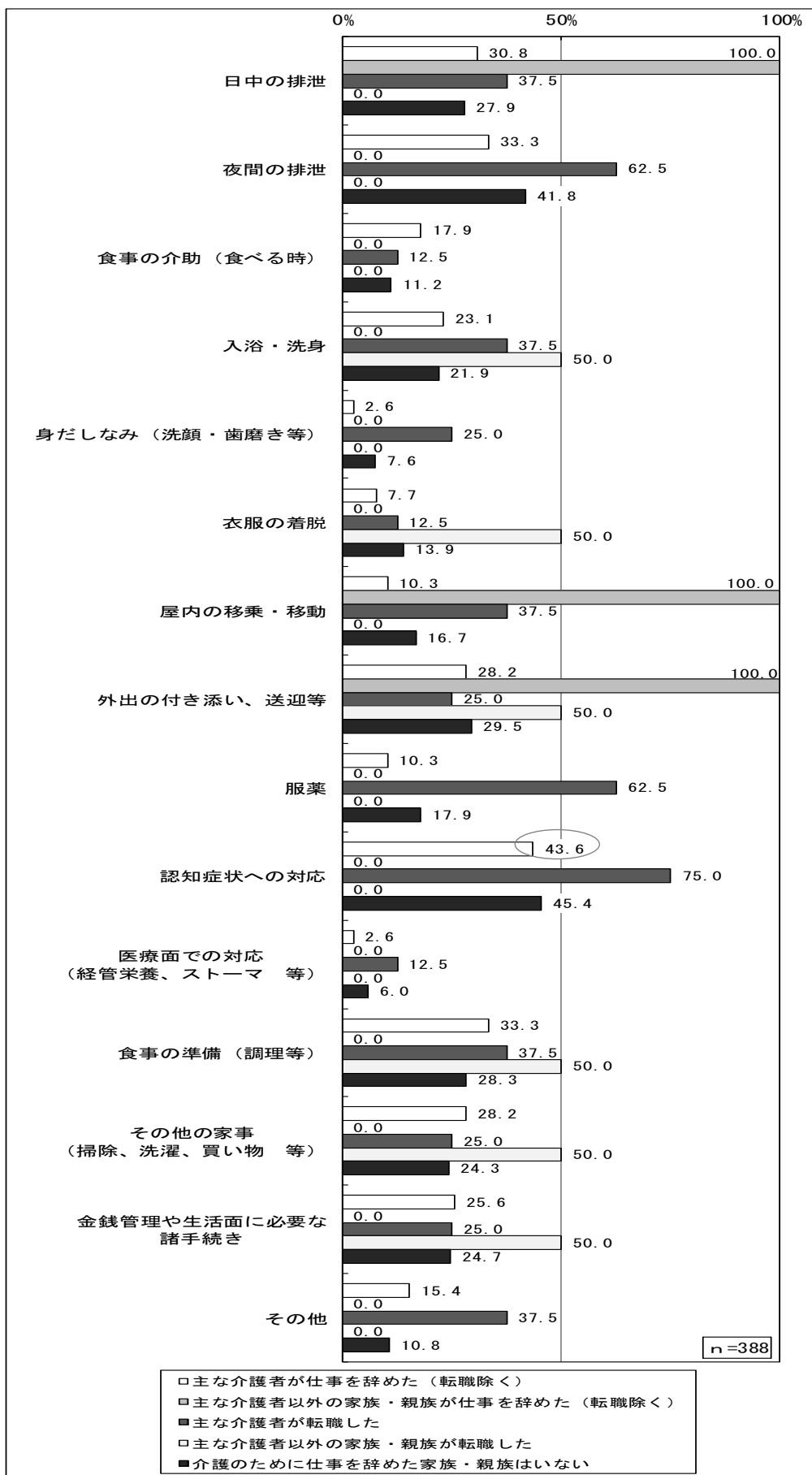
○介護のための離職の有無別にみると、主な介護者が仕事を辞めた（転職除く）は「週に 1～2 日ある」が多くなっています。

[クロスグラフ 介護のための離職の有無 ×（ご家族等の介護の頻度別）]



○主な介護者が不安を感じる介護別に見ると、「主な介護者が仕事をやめた（転職除く）」の中で認知症への対応が多くなっています。

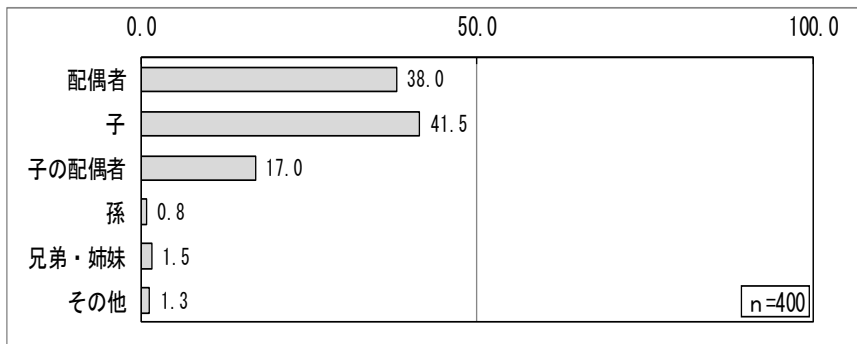
[クロスグラフ 主な介護者が不安を感じる介護 × (介護のための離職の有無別)]



問16 主な介護者の続柄

主な介護者の方は、どなたですか。（1つを選択）

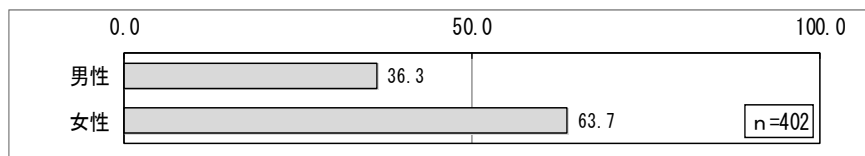
「子」が最も多く41.5%、次いで「配偶者」が38.0%となっています。



問17 主な介護者の性別

主な介護者の方の性別について、ご回答ください。（1つを選択）

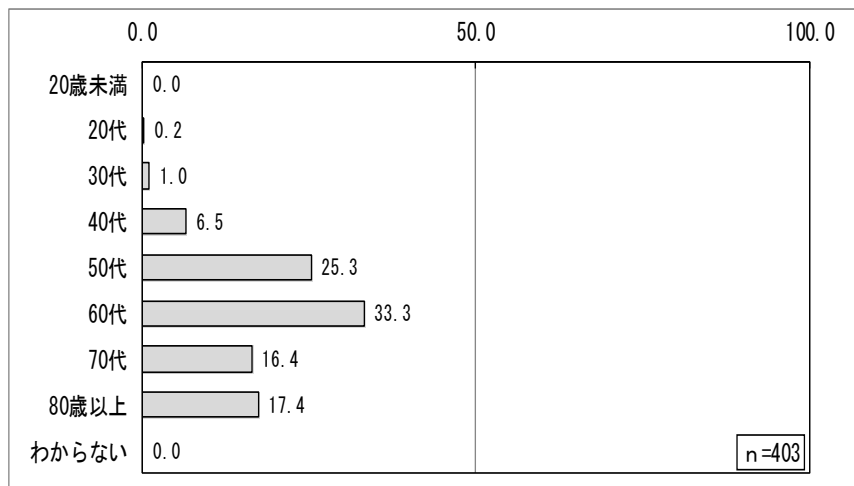
「男性」が36.3%、「女性」が63.7%となっています。



問18 主な介護者の年齢

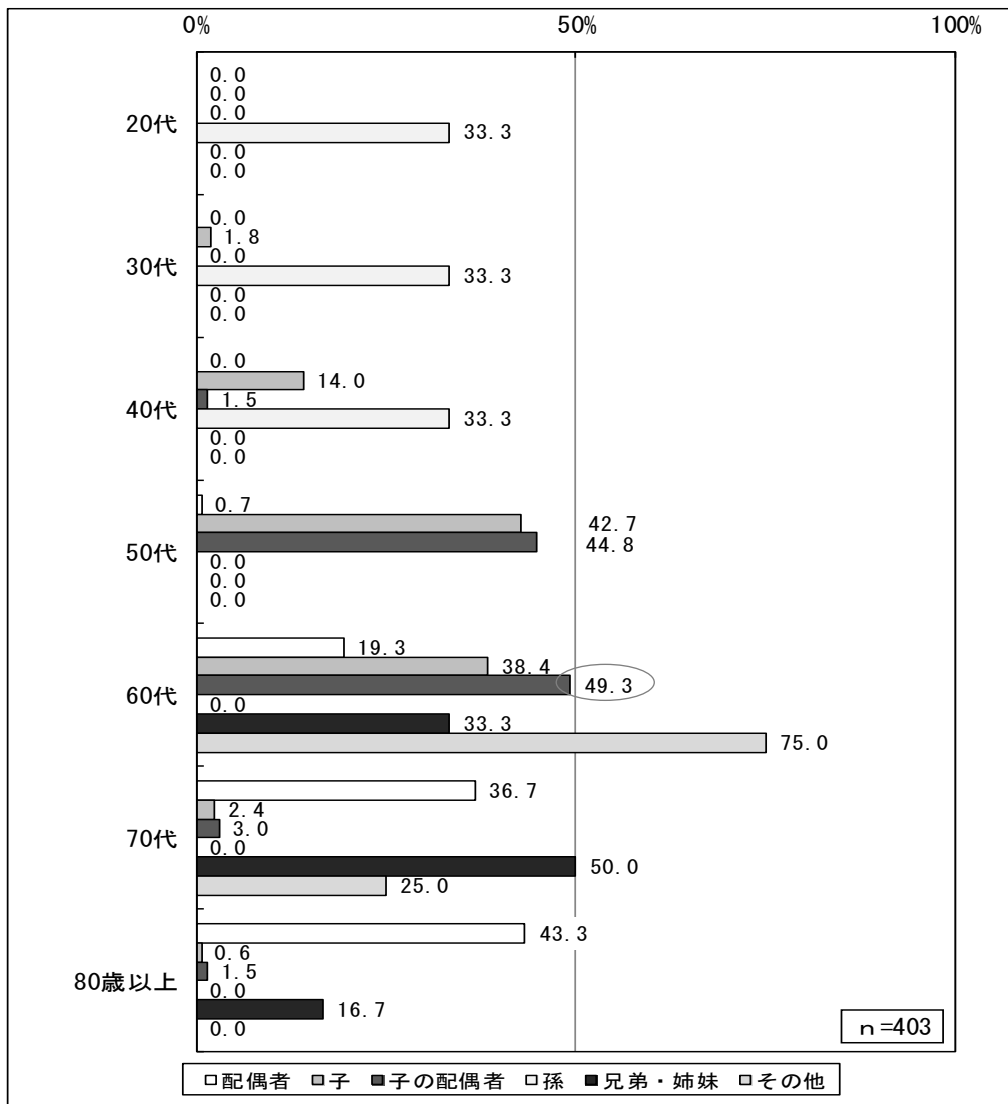
主な介護者の方の年齢について、ご回答ください。（1つを選択）

「60代」が最も多く33.3%、次いで「50代」が25.3%となっています。



○主な介護者の年齢別にみると、「子の配偶者」の中で60代が多くなっています。

[クロスグラフ 主な介護者の年齢 × (主な介護者の続柄別)]

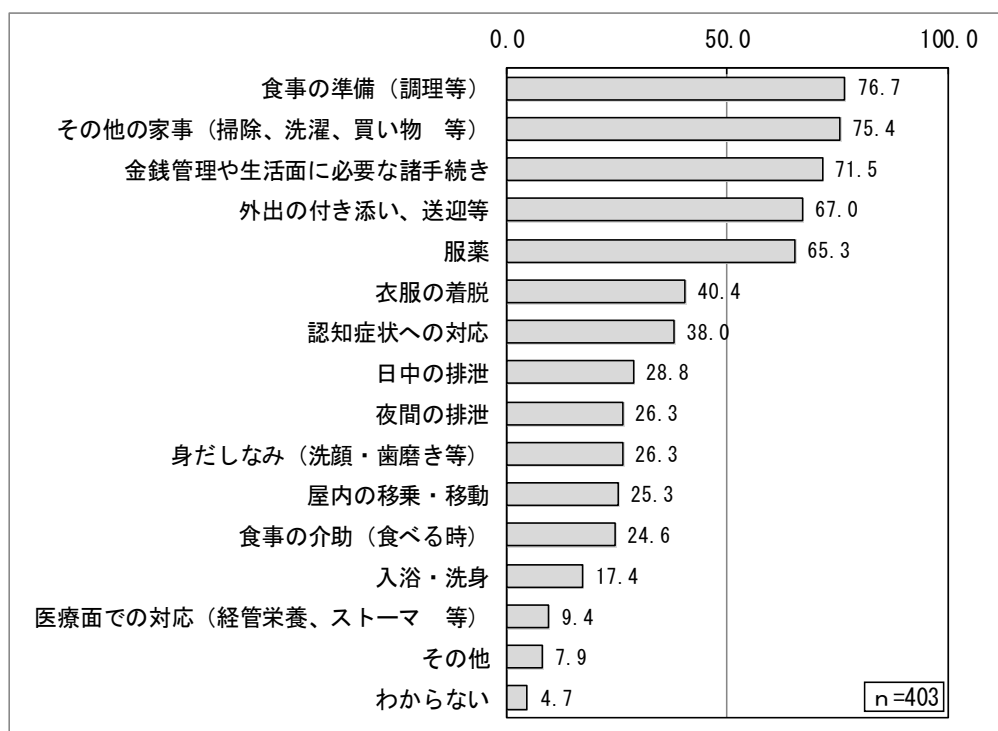


*主な介護者の年齢で「20歳未満」の回答数がないためグラフは省略しています。

問19 主な介護者が行っている介護

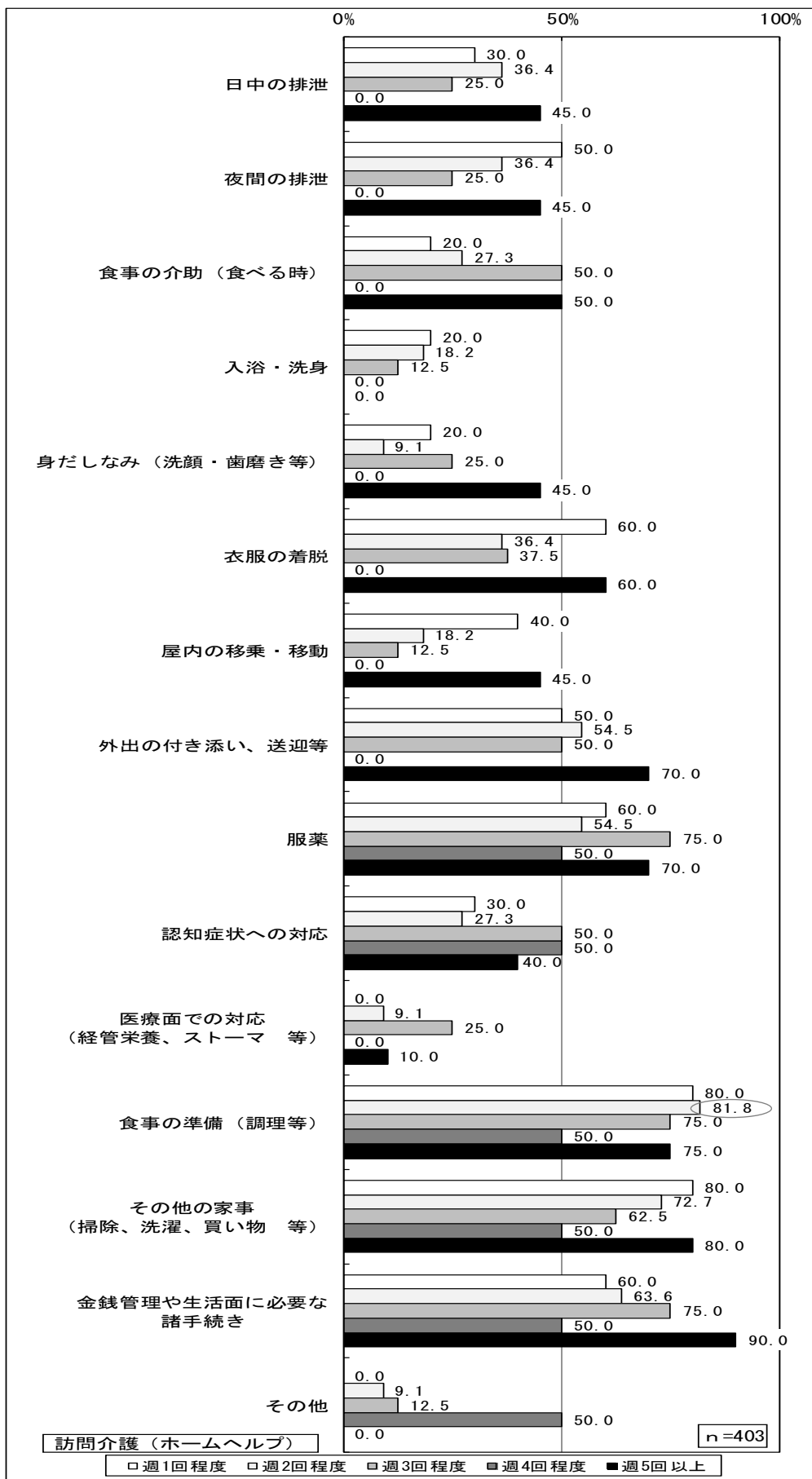
現在、主な介護者の方が行っている介護等について、ご回答ください。(複数選択可)

「食事の準備(調理等)」が最も多く76.7%、次いで「その他の家事(掃除、洗濯、買い物等)」が75.4%となっています。



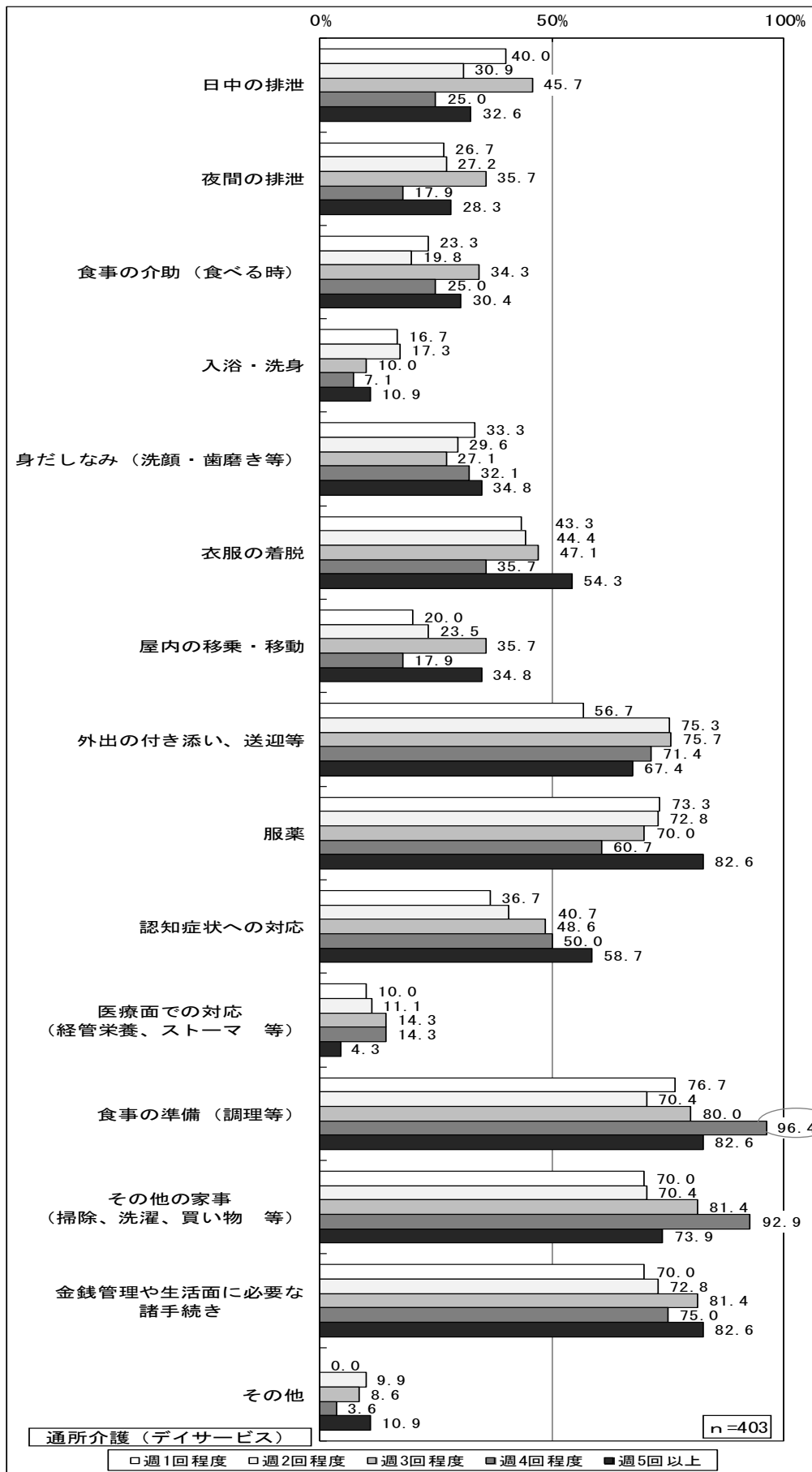
○主な介護者が行っている介護別にみると、食事の準備（調理等）は「週2回程度」が多くなっています。

[クロスグラフ 主な介護者が行っている介護 ×(訪問介護(ホームヘルプ)利用者 利用回数別)]



○主な介護者が行っている介護別にみると、食事の準備（調理等）は「週4回程度」が多くなっています。

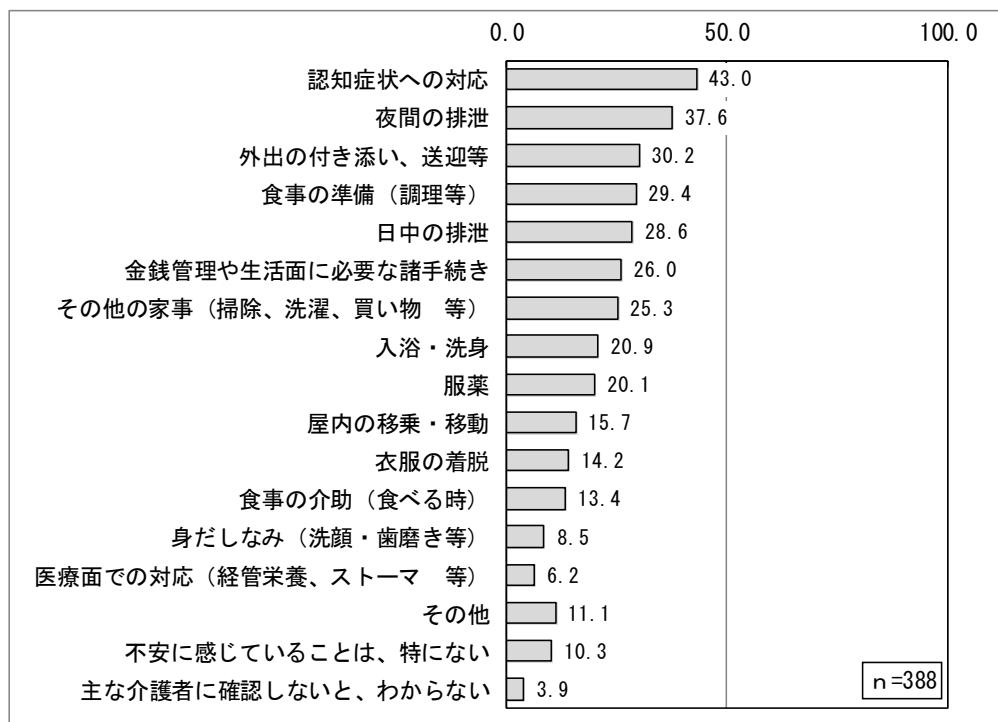
[クロスグラフ 主な介護者が行っている介護 × (通所介護(デイサービス)利用者 利用回数別)]



問20 主な介護者が不安に感じる介護

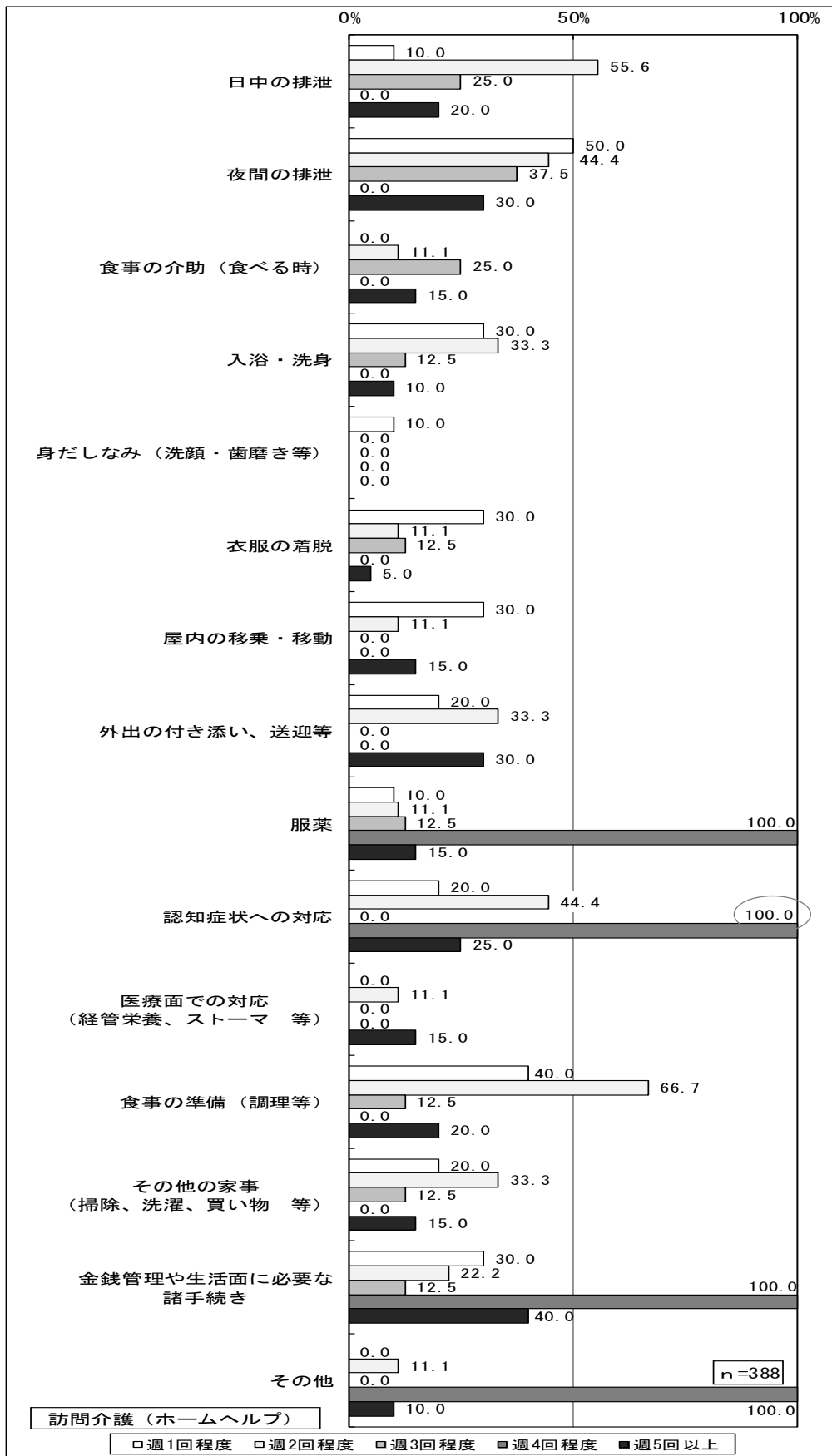
現在の生活を継続していくにあたって、主な介護者の方が不安に感じる介護等についてご回答ください。（現状で行っているか否かは問いません。）（3つまで選択可）

「認知症状への対応」が最も多く43.0%、次いで「夜間の排泄」が37.6%となっています。



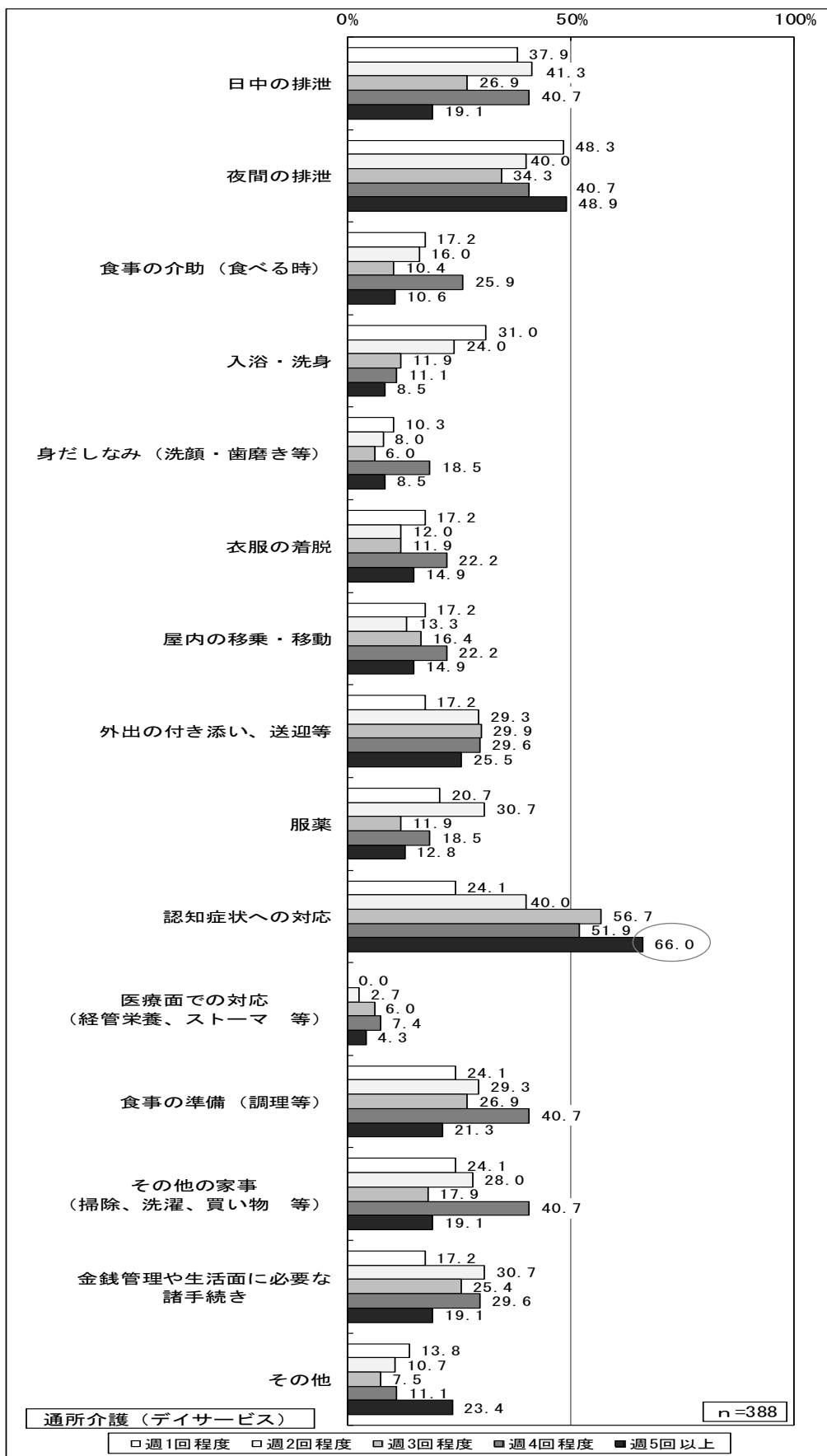
○主な介護者が不安を感じる介護別にみると、認知症状への対応は「週4回程度」が多くなっています。

[クロスグラフ 主な介護者が不安を感じる介護 × (訪問介護 (ホームヘルプ) 利用者 利用回数別)]



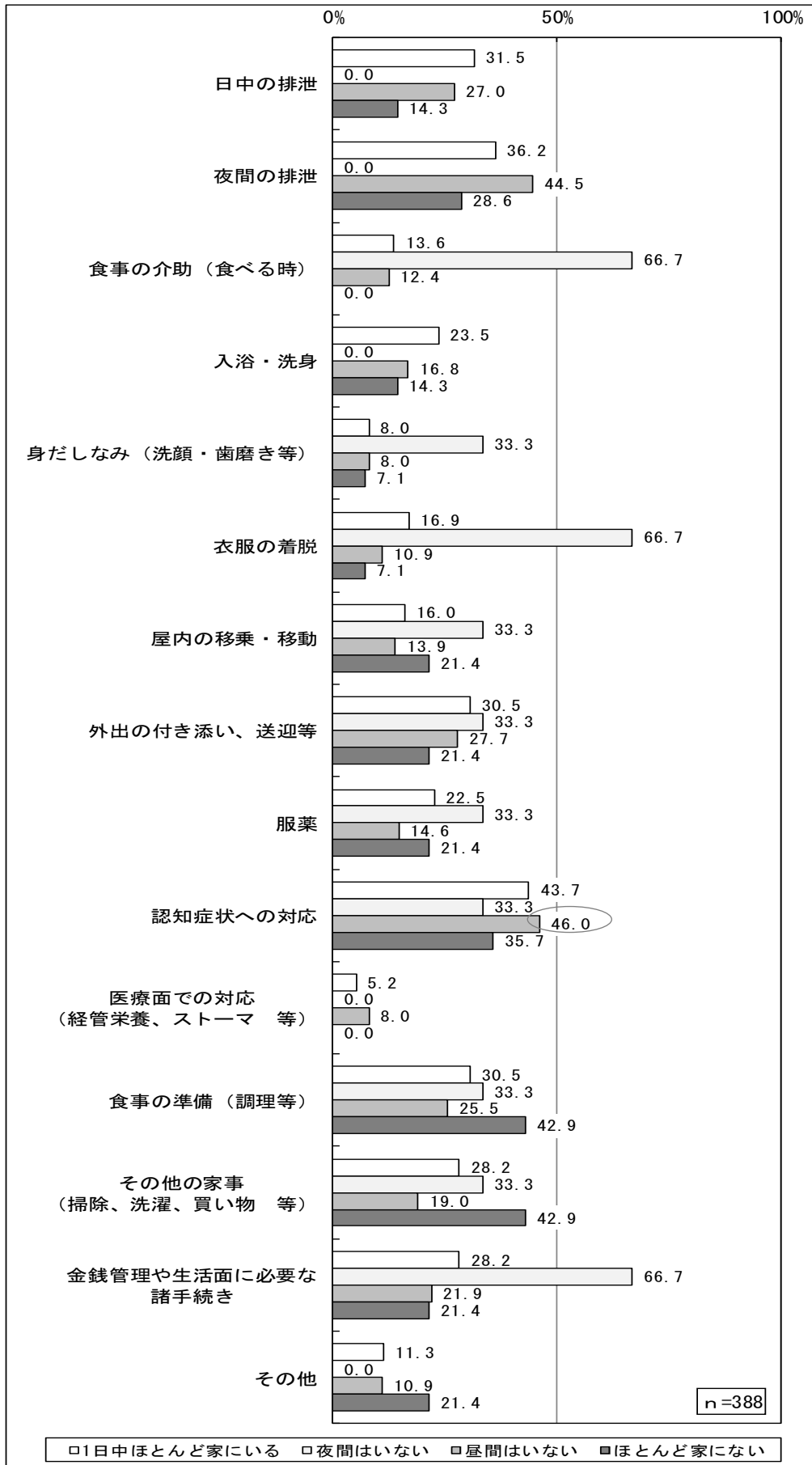
○主な介護者が不安を感じる介護別にみると、認知症状への対応は「週5回以上」が多くなっています。

[クロスグラフ 主な介護者が不安を感じる介護 × (訪所介護(デイサービス)利用者 利用回数別)]



○主な介護者が不安を感じる介護別にみると、認知症状への対応は「昼間はない」が多くなっています。

[クロスグラフ 主な介護者が不安を感じる介護 × (介護者の在宅状況別)]

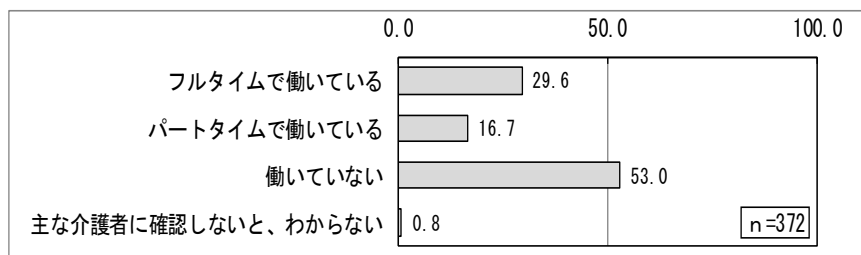


問 2 1 主な介護者の勤務形態

主な介護者の方の現在の勤務形態について、ご回答ください。（1つを選択）

※「パートタイム」とは、「1週間の所定労働時間が、同一の事業所に雇用される通常の労働者に比べて短い方」が該当します。いわゆる「アルバイト」、「嘱託」、「契約社員」等の方を含みます。自営業・フリーランス等の場合も、就労時間・日数等から「フルタイム」・「パートタイム」のいずれかを選択してください。

「フルタイムで働いている」が 29.6%、「パートタイムで働いている」が 16.7%、「働いていない」が 53.0%となっています。

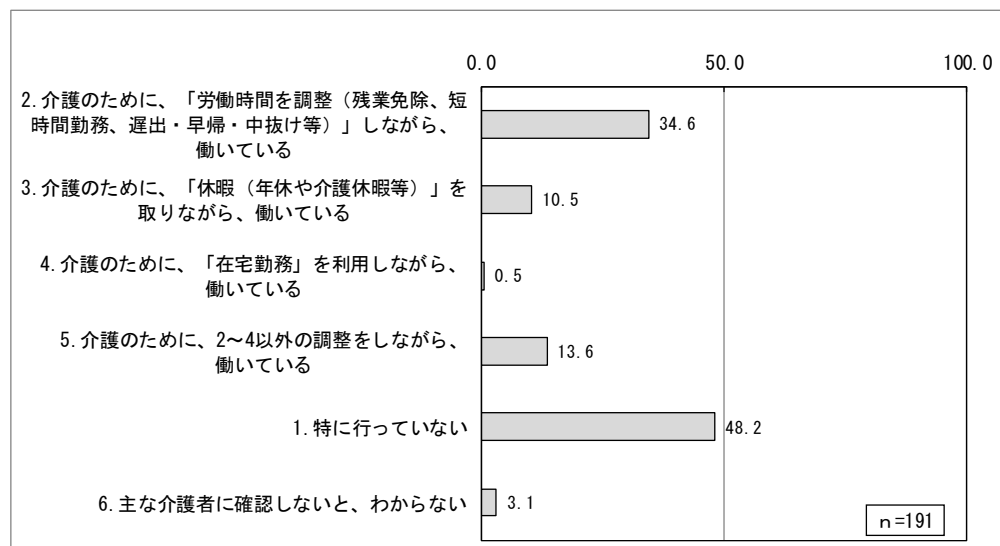


問 2 2 主な介護者の働き方の調整状況

問 2 1 で 「1:フルタイムで働いている」 「2:パートタイムで働いている」と回答した方におうかがいします。

主な介護者の方は、介護をするにあたって、何か働き方についての調整等をしていますか。（複数選択可）

「介護のために、労働時間を調整（残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜け等）をしながら働いている」が最も多く 34.6%、次いで「介護のために2~4以外の調整をしながら、働いている」が 13.6%となっています。

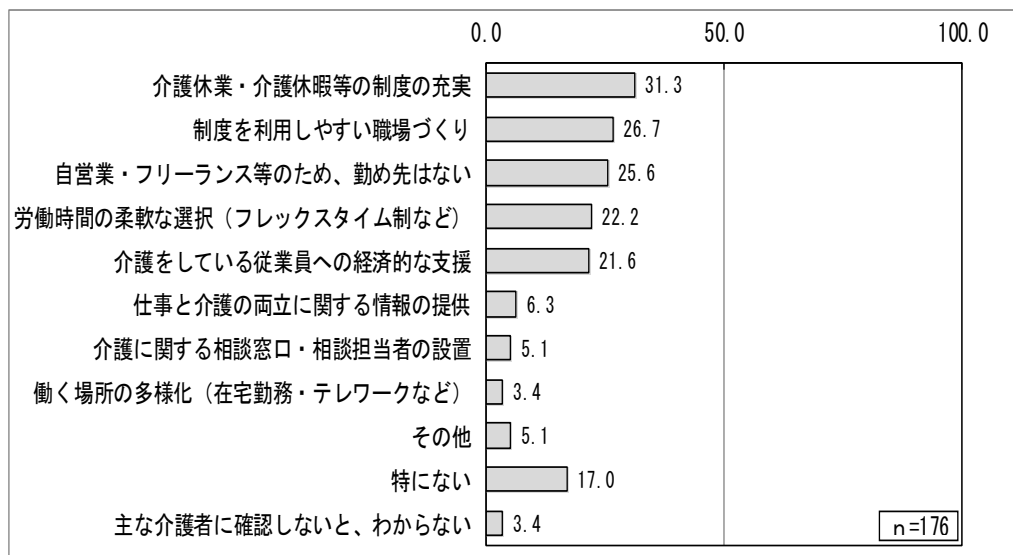


問23 効果的な勤め先からの支援

問21で「1:フルタイムで働いている」「2:パートタイムで働いている」と回答した方におうかがいします。

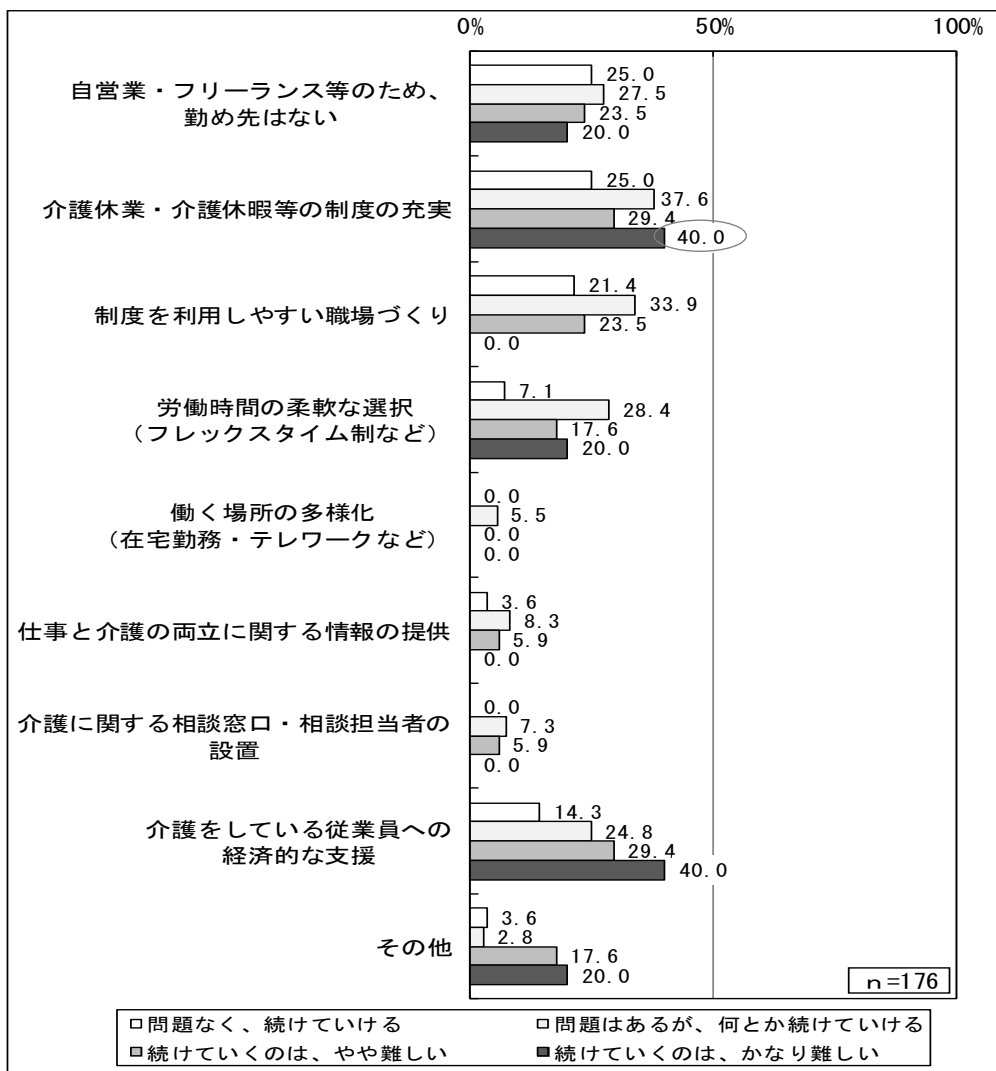
主な介護者の方は、勤め先からどのような支援があれば、仕事と介護の両立に効果があると思いますか。(3つまで選択可)

「介護休業・介護休暇等の制度の充実」が最も多く31.3%、次いで「制度を利用しやすい職場づくり」が26.7%となっています。



○効果的な勤め先からの支援別にみると、介護休業・介護休暇等の制度の充実は「続けていくのはかなり難しい」が多くなっています。

[クロスグラフ 効果的な勤め先からの支援 × (主な介護者の就労継続の可否に係る意識別)]

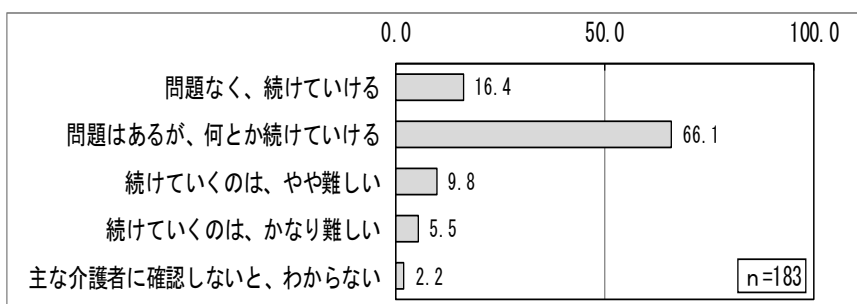


問 2 4 主な介護者の就労継続の可否に係る意識

問 2 1で「1:フルタイムで働いている」「2:パートタイムで働いている」と回答した方におうかがいします。

主な介護者の方は、今後も働きながら介護を続けていけそうですか。(1つを選択)

「問題はあるが、何とか続けていける」が最も多く66.1%、次いで「問題なく、続けていける」が16.4%となっています。

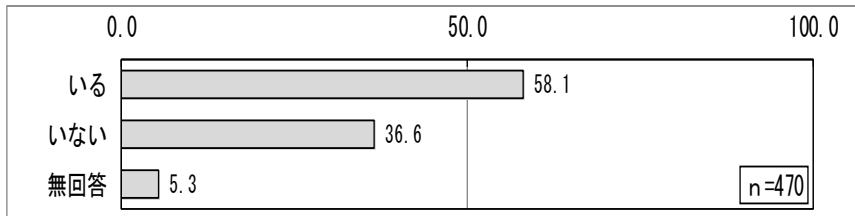


● 口腔ケアについて

問25 かかりつけの歯医者

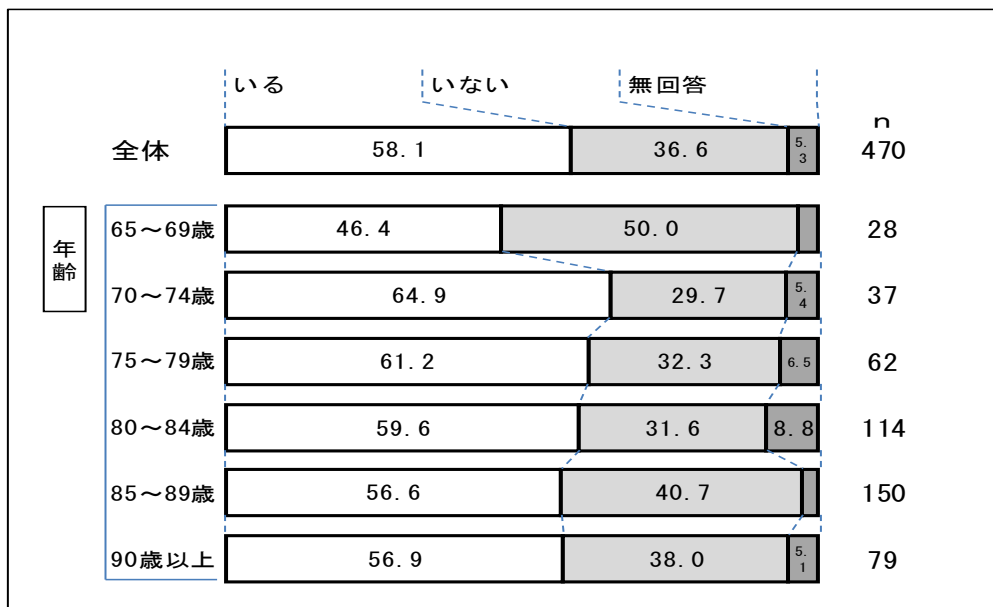
ご本人（調査対象者）がかかりつけの歯科医はいらっしゃいますか。（1つを選択）

「いる」が58.1%、「いない」が36.6%となっています。



○年齢別にみると、70～74歳は「いる」が多くなっています。

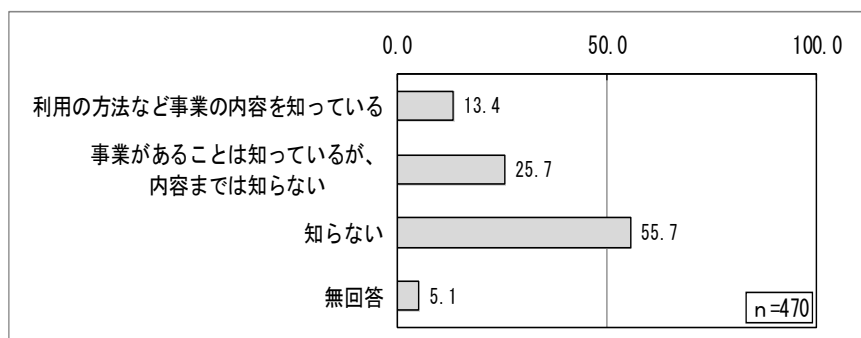
[クロスグラフ 年齢 × (かかりつけの歯医者別)]



問26 無料訪問歯科検診事業の認知度

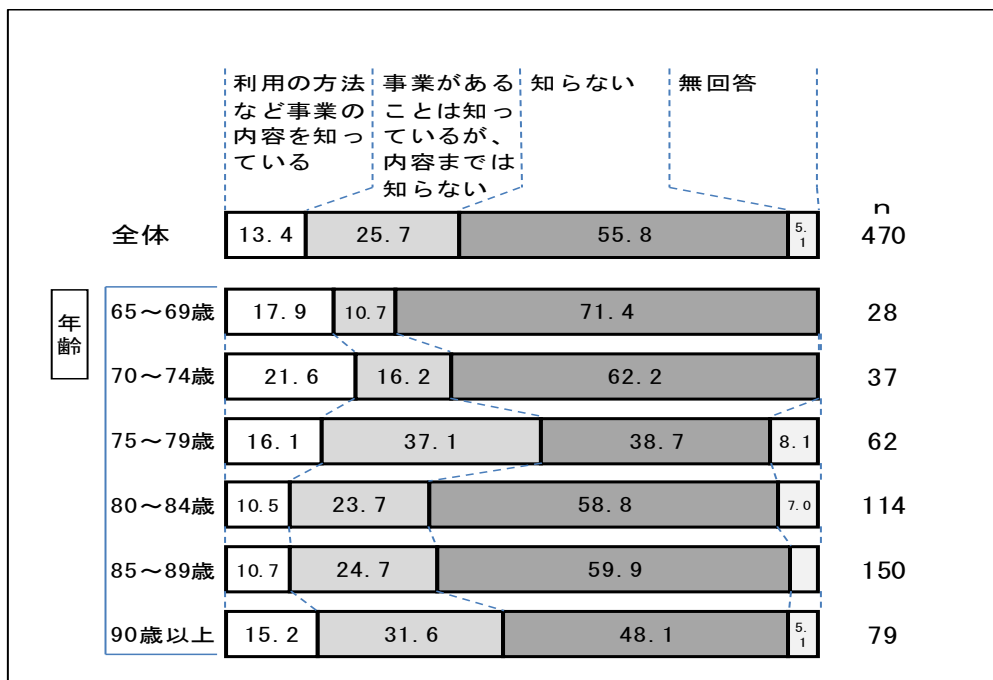
「無料訪問歯科健診事業」があることを知っていますか。(1つを選択)

「利用の方法など事業の内容を知っている」が13.4%、「事業があることは知っているが、内容までは知らない」が25.7%、「知らない」が55.7%となっています。



○年齢別にみると、70～74歳は「利用方法など事業の内容を知っている」が多くなっています。

[クロスグラフ 年齢 × (無料訪問歯科検診事業の認知度別)]

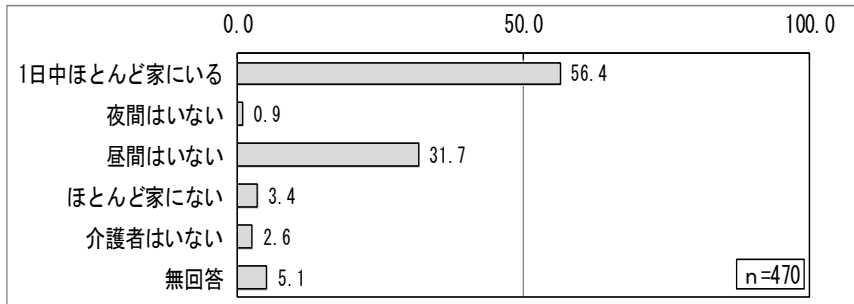


● 介護の現状について

問 2 7 介護者の在宅状況

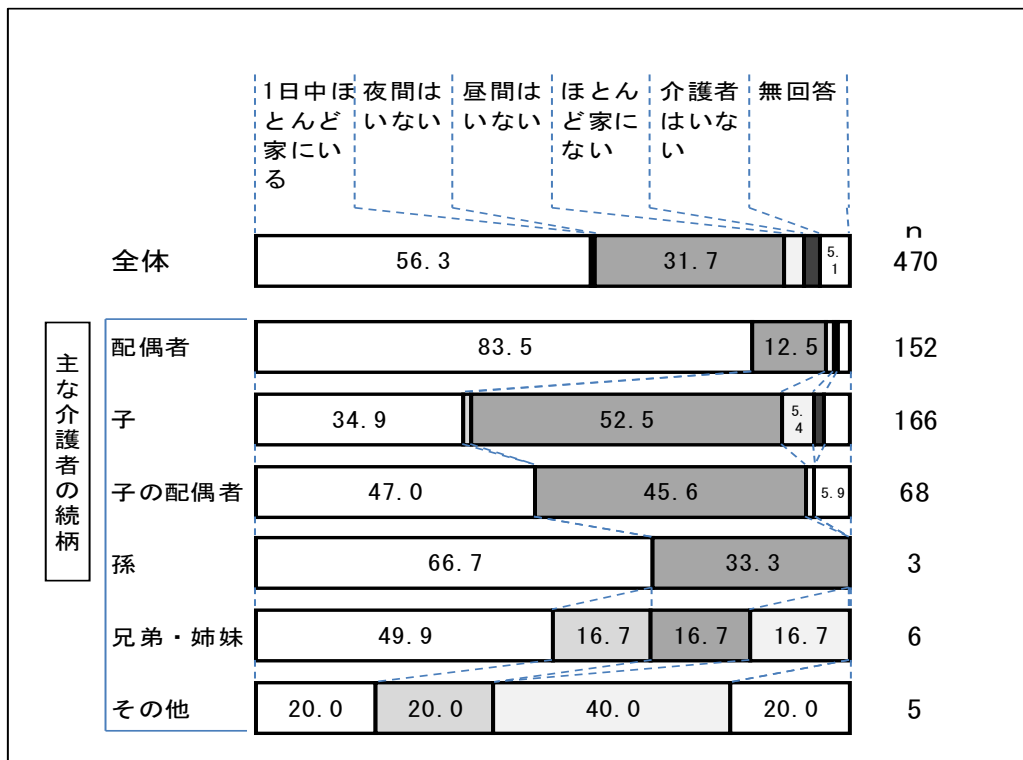
介護者の方の在宅状況は次のどれにあたりますか。(1つを選択)

「1日中ほとんど家にいる」が最も多く56.4%、次いで「昼間はいない」が31.7%となっています。



○介護者の在宅状況別にみると、子は「昼間はいない」が多くなっています。

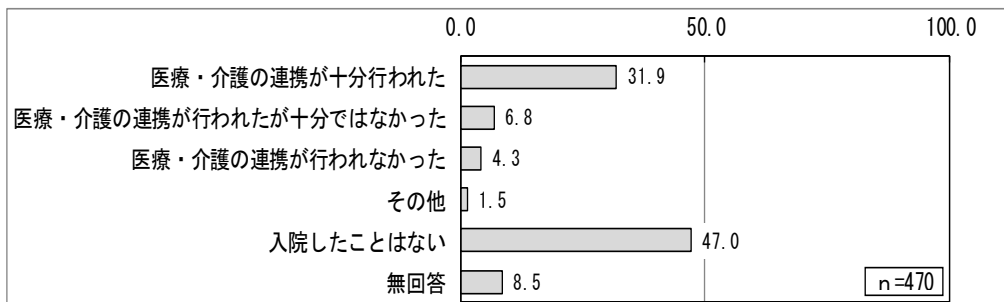
[クロスグラフ 主な介護者の続柄 × (介護者の在宅状況別)]



問 2 8 介護と医療の連携

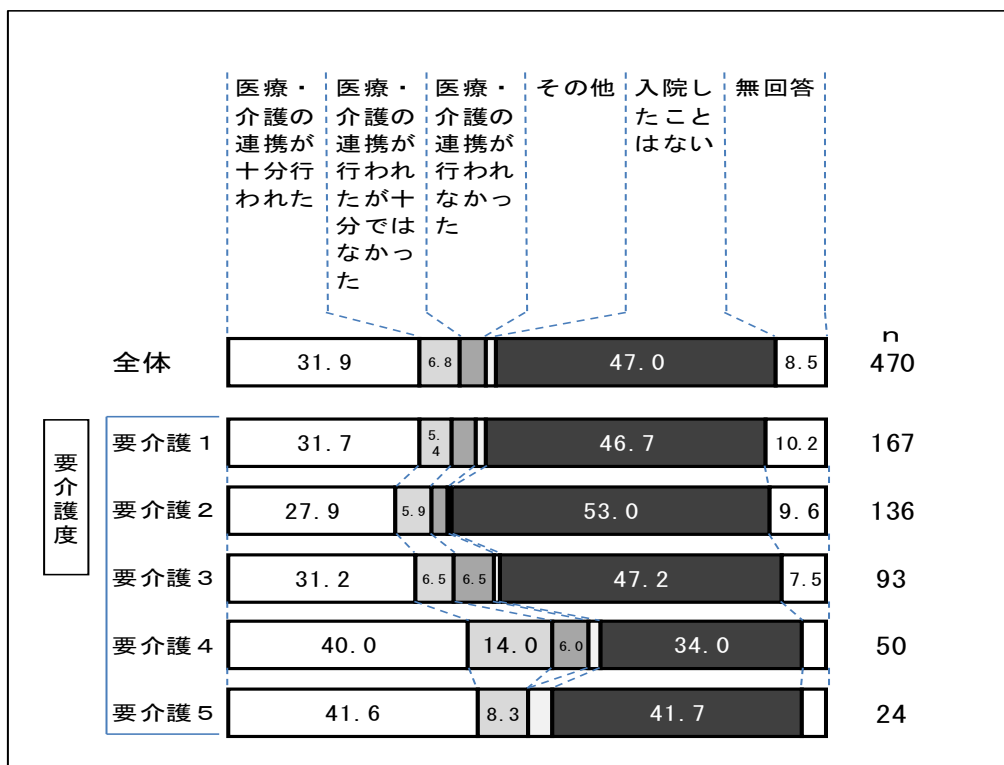
過去 2 年間に於いて、ご本人（調査対象者）が医療機関に入院した時に、退院後、医療と介護の連携は行われましたか。（1つを選択）

「医療・介護の連携が十分行われた」が最も多く 31.9%、次いで「医療・介護の連携が行われたが十分ではなかった」が 6.8%となっています。



○要介護度別にみると、要介護 5 は「医療・介護の連携が十分行われた」が多くなっています。

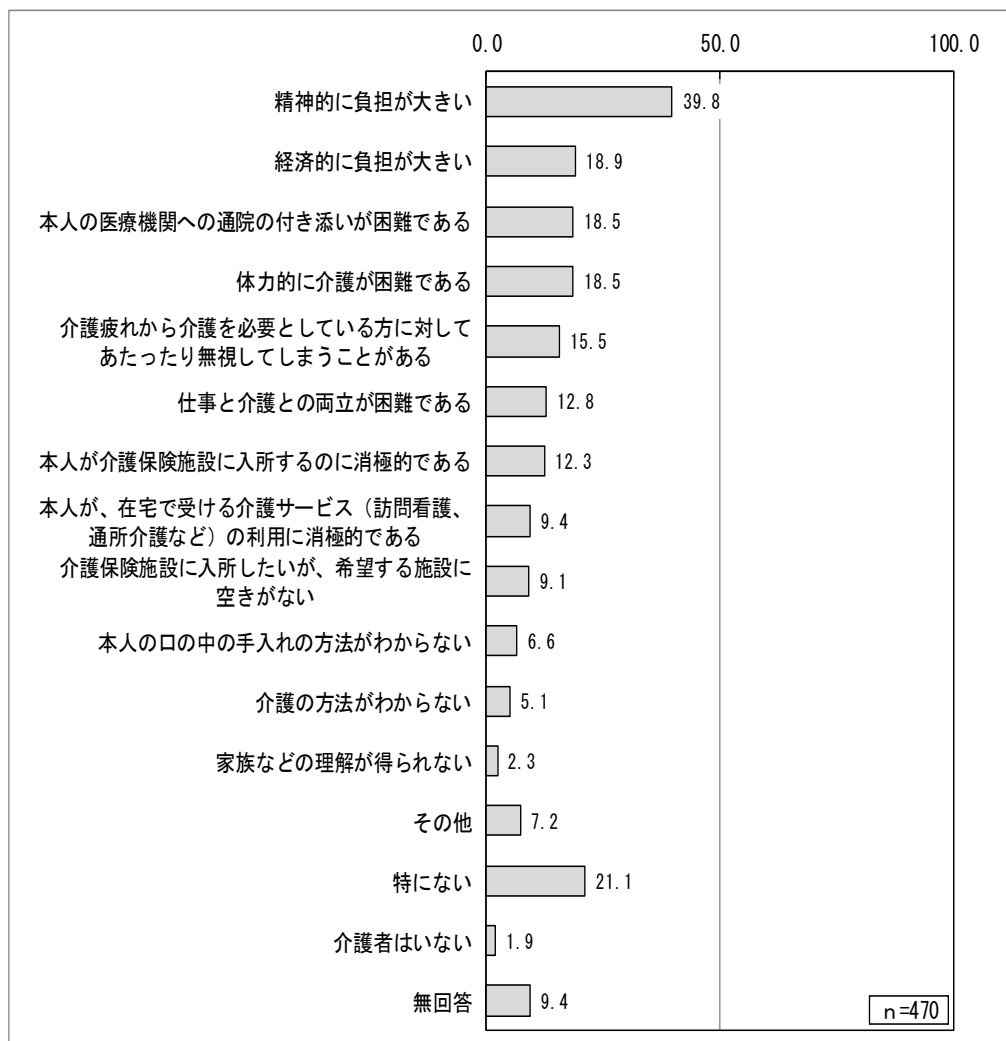
[クロスグラフ 要介護度 × (介護と医療の連携別)]



問29 介護の困り事

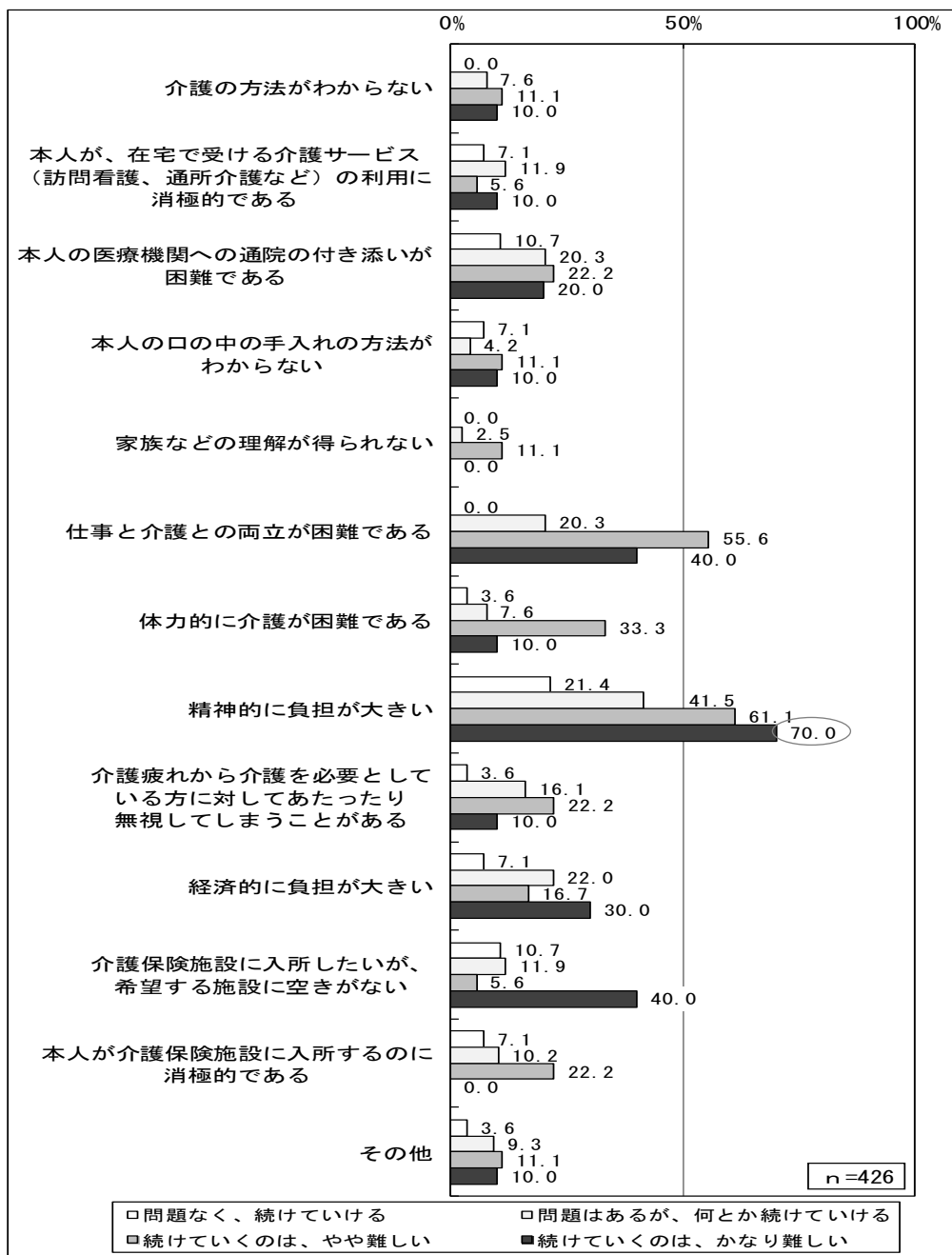
介護者の方が介護を行う上で困っていることは何ですか。(複数選択可)

「精神的に負担が大きい」が最も多く 39.8%、次いで「経済的に負担が大きい」が 18.9%となっています。



○介護の困り事別にみると、精神的に負担が大きいは「続けていくのは、かなり難しい」が多くなっています。

[クロスグラフ 介護の困り事 × (主な介護者の就労継続の可否に係る意識別)]



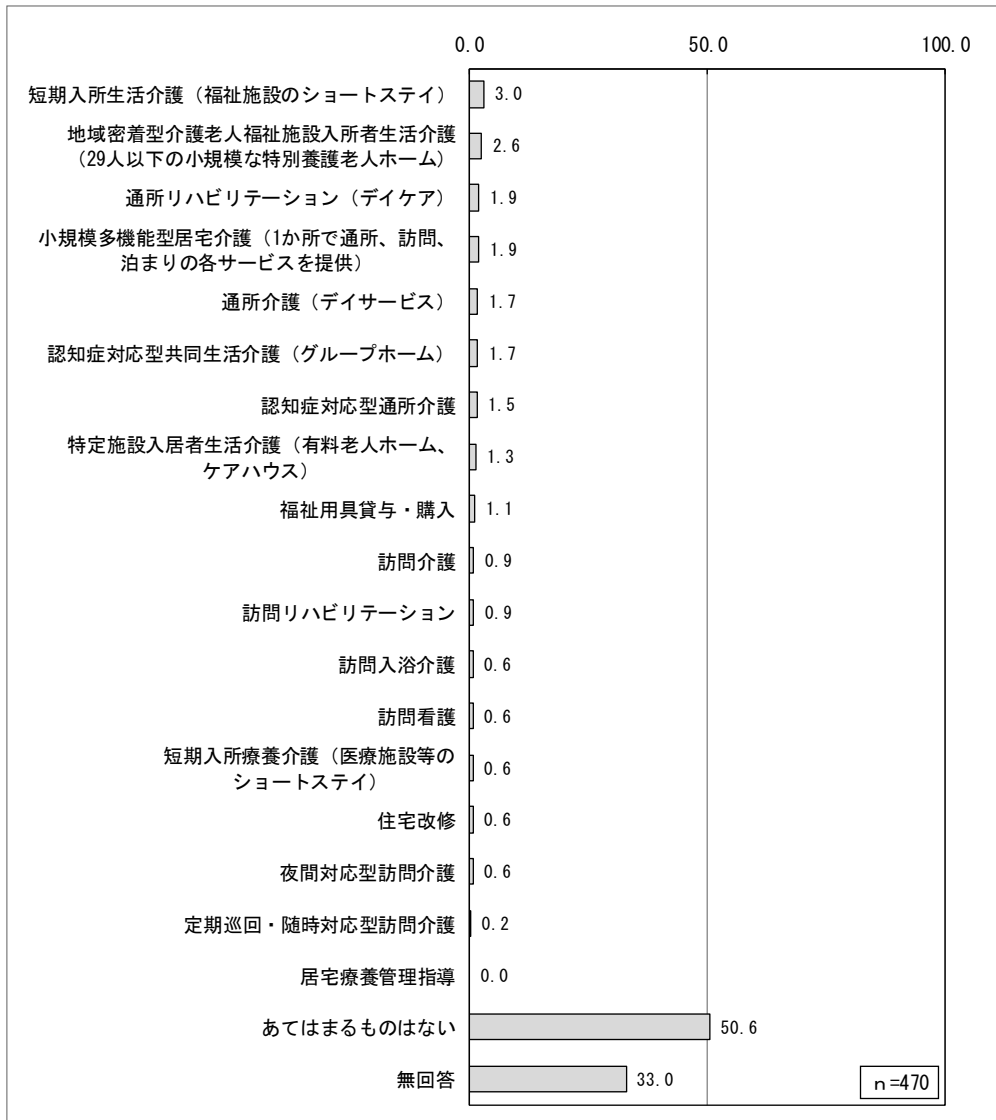
● 介護保険サービス利用の現状について

問30 介護保険サービスの利用上の問題

以下の介護保険サービスのうち、「事業所が近くにない」「利用したいが予約がいっぱいで利用できない」など、事業者側の都合で、利用したいのに利用できないサービスはありますか。

(複数選択可)

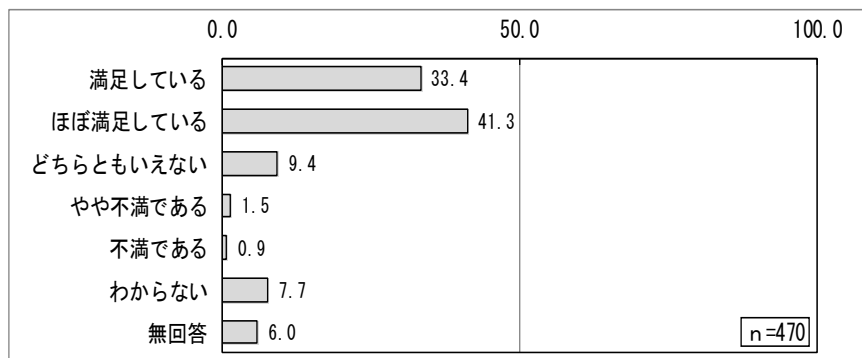
「短期入所生活介護（福祉施設のショートステイ）」が最も多く 3.0%、次いで「地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護（29人以下の小規模な特別養護老人ホーム）」が 2.6%となっています。



問3 1 ケアプランの満足度

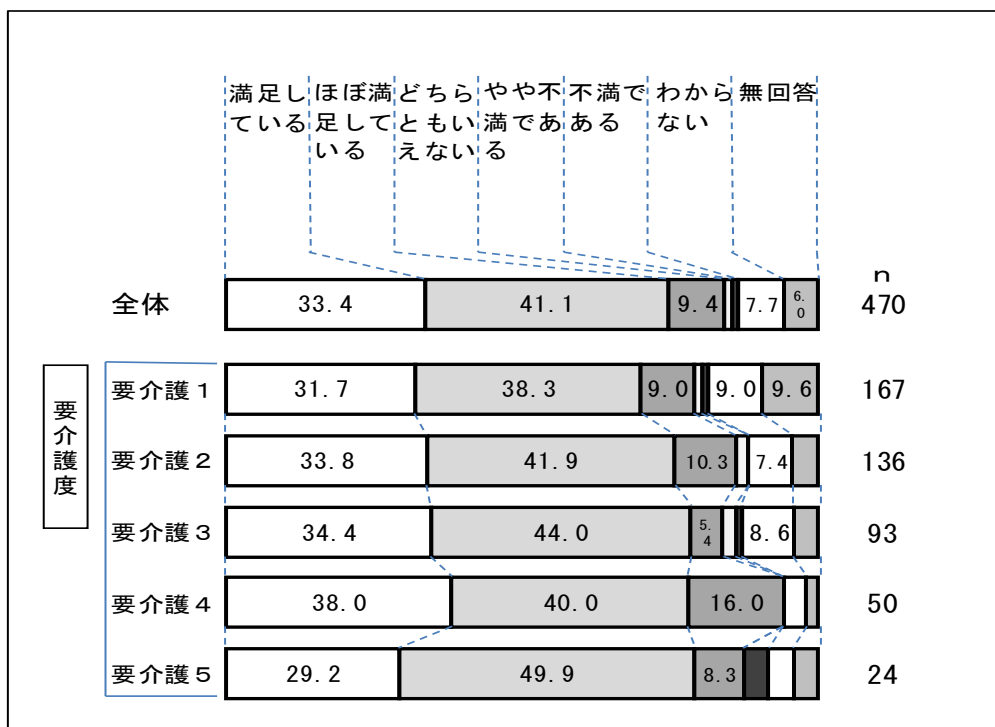
ケアプランの内容について満足していますか。(1つを選択)

「ほぼ満足している」が最も多く 41.3%、次いで「満足している」が 33.4%となっています。



○要介護度別にみると、要介護5は「ほぼ満足している」が多くなっています。

[クロスグラフ 要介護度 × (ケアプランの満足度別)]

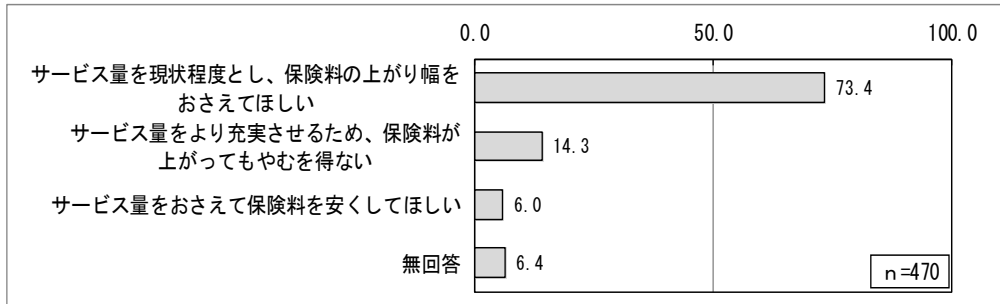


● 介護保険料について

問3 2 介護保険サービスと保険料の関係

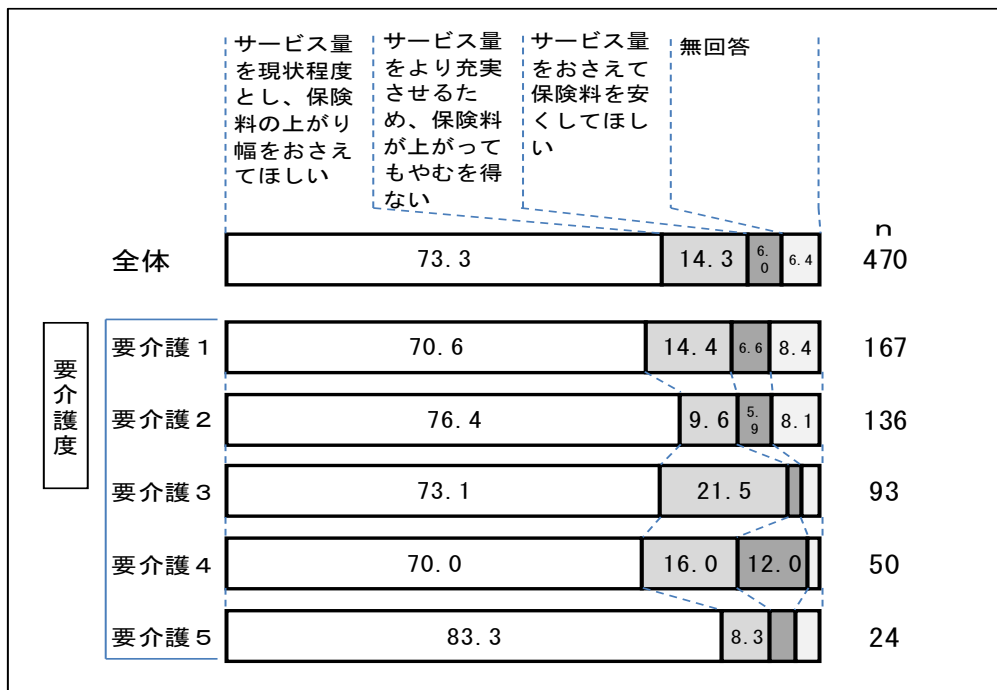
介護保険の利用者の増加と高齢化の進行により、サービス量を現状程度に保つていくためには、介護保険料も高くなっていきます。あなたは介護保険のサービスと保険料の関係について、おおよそどのように考えていますか。（1つを選択）

「サービス量を現状程度とし、保険料の上がり幅をおさえてほしい」が最も多く 73.4%、次いで「サービス量をより充実させるため、保険料が上がってもやむを得ない」が 14.3%となっています。



○要介護度別にみると、要介護5は「サービス量を現状程度とし、保険料の上がり幅をおさえてほしい」が多くなっています。

[クロスグラフ 要介護度 × (介護保険料について別)]

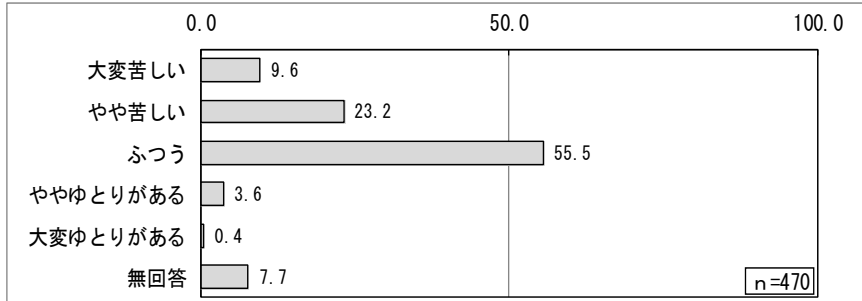


● 経済状態について

問33 経済的な暮らしの状況

ご本人（調査対象者）は、現在の暮らしの状況を経済的にどう感じていますか。（1つを選択）

「ふつう」が最も多く55.5%、次いで「やや苦しい」が23.2%となっています。

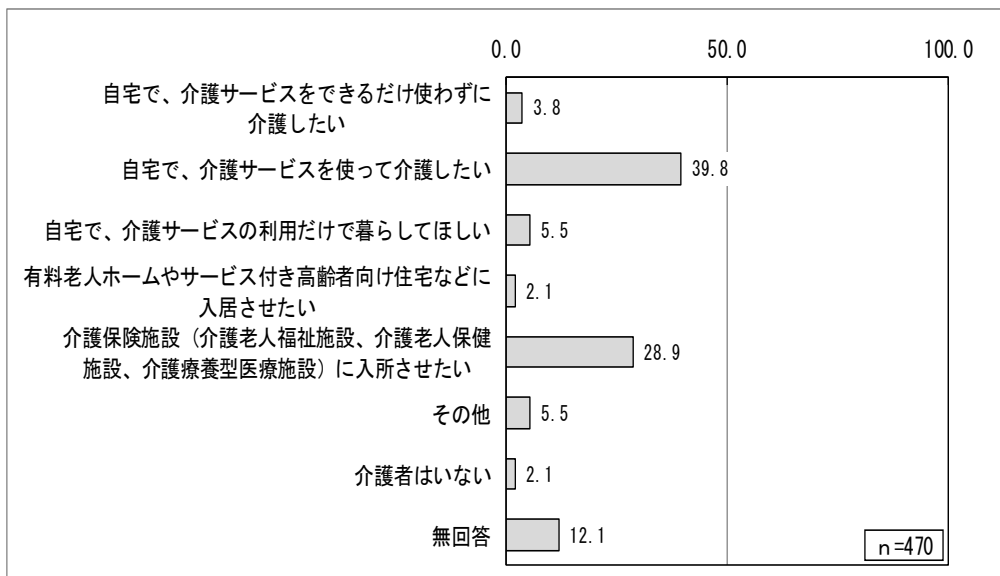


● 今後の要望等について

問34 今後の介護への考え

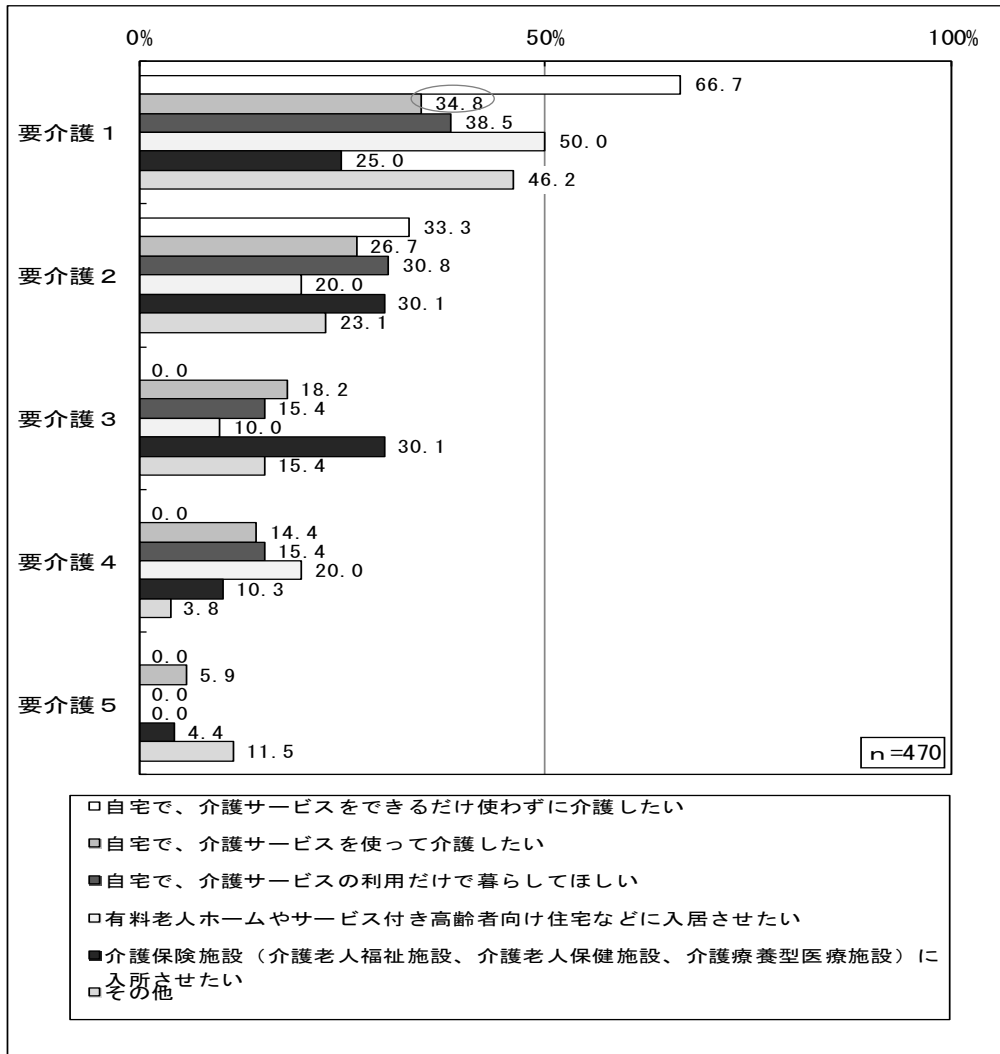
介護者の方は、今後の介護をどのようにしていきたいとお考えですか。（1つを選択）

「自宅で、介護サービスを使って介護したい」が最も多く39.8%、次いで「介護保険施設（介護老人福祉施設、介護老人保健施設、介護療養型医療施設）に入所させたい」が28.9%となっています。



○要介護度別にみると、「自宅で、介護サービスを使って介護したい」の中で要介護1が多くなっています。

[クロスグラフ 要介護度 × (今後の介護への考え方別)]

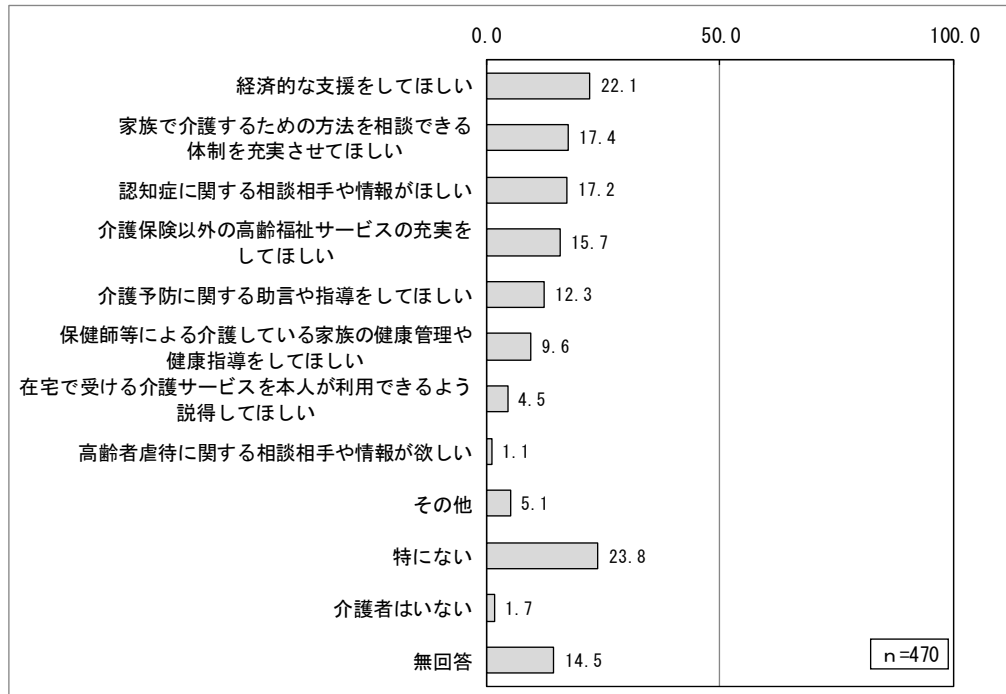


問35 今後の介護への支援要望

介護者の方は、現状の介護に関してどのようなことを支援してほしいとお考えですか。

(複数選択可)

「経済的な支援をしてほしい」が最も多く 22.1%、次いで「家族で介護するための方法を相談できる体制を充実させてほしい」が 17.4%となっています。



《概要版》

在宅介護実態調査報告書

平成 29 年 5 月 22 日

燕 市

目次

● 調査概要	1
調査結果	2
● 調査対象者様ご本人について	2
1 世帯類型	2
2 性別	2
3 年齢	2
4 要介護度	3
5 施設等への入所・入居の検討状況	3
● 介護保険サービスについて	4
6 介護保険サービスの未利用の理由	4
7 必要な支援・サービス	4
● ご家族等の介護の頻度について	5
8 ご家族等の介護の頻度	5
● 主な介護者の方について	6
9 介護のための離職の有無	6
10 主な介護者の続柄	6
11 主な介護者の年齢	7
12 主な介護者が不安に感じる介護	7
13 主な介護者の働き方の調整状況	8
14 効果的な勤め先からの支援	9
15 主な介護者の就労継続の可否に係る意識	9
● 介護の現状について	10
16 介護の困り事	10
● 介護保険料について	11
17 介護保険サービスと保険料の関係	11

● 調査概要

【 調査目的 】

それぞれの地域の特性を活かした地域包括ケアシステムを構築していくことが求められていることから、「要介護者の在宅生活の継続」や「介護者の就労継続」に有効な介護サービスのあり方等を検討するための調査とし、第7期介護保険事業計画策定・高齢者保健福祉計画の基礎資料とすることを目的に調査を実施しました。

【 調査内容 】

- ◆ 調査対象者：65歳以上の方の要介護認定者の中から無作為に抽出した800名の方
- ◆ 調査期間：平成28年12月～平成28年12月末日
- ◆ 調査基準日：平成28年11月21日 現在
- ◆ 配布・回収方法：郵送による配布・回収

【 有効回答数 】

調査対象者数	800人
回収数	477人
回収率	59.6%
有効回答数	470人

【 報告書の見方 】

- ① 報告書中の「n」の数値は、設問への回答者数を表します。
- ② 回答の比率は、すべて小数点以下第2位を四捨五入して算出しています。したがって、回答者比率の合計が100%にならない場合があります
- ③ 回答の比率(%)は、その設問の回答者数を基数として算出しています。したがって、複数回答「(複数選択可)」の設問については、全ての回答比率の合計が100%を超えることがあります。
- ④ 該当者を限定した設問の回答において、非該当者(無回答を含む)としての扱いの判断が難しいため、そのデータを集計に含んでいません。
- ⑤ クロスグラフについては、「ない」「なし」「わからない」「無回答」等についてはグラフから省略しています。
※クロスグラフで対象者(n値)が極端に少ない場合は、グラフの割合にバラツキが生じますので見方に注意が必要です。
- ⑥ クロスグラフの中で5パーセントに満たない数字は省略しています。

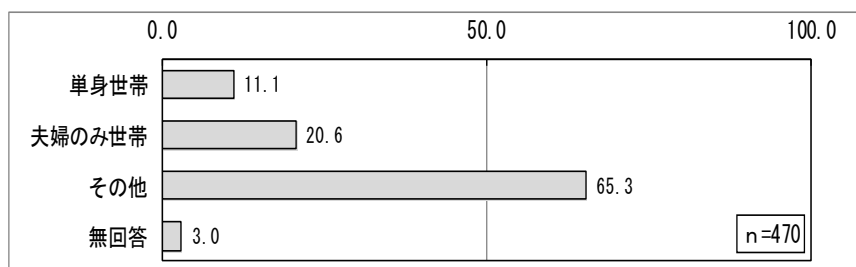
調査結果

● 調査対象者様ご本人について

1 世帯類型

世帯類型について、ご回答ください。（1つを選択）

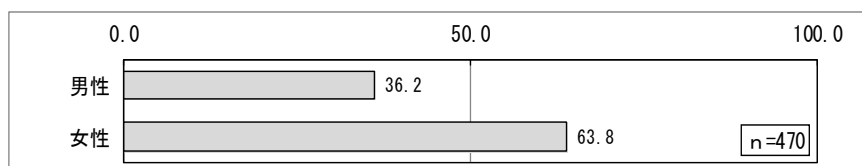
「単身世帯」が11.1%、「夫婦のみ世帯」が20.6%となっています。



2 性別

ご本人（調査対象者）の性別について、ご回答ください。（1つを選択）

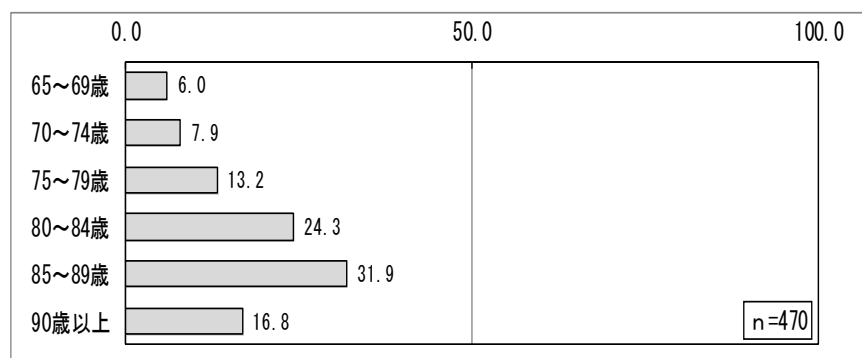
「男性」が36.2%、「女性」が63.8%となっています。



3 年齢

ご本人（調査対象者）の年齢（平成28年11月21日現在）について、ご回答ください。（1つを選択）

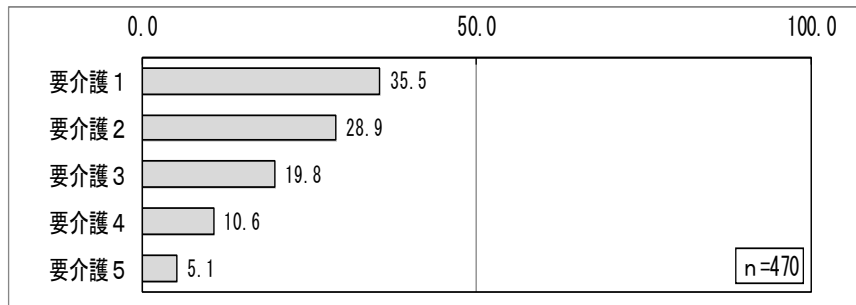
「85～89歳」が最も多く31.9%、次いで「80～84歳」が24.3%となっています。



4 要介護度

ご本人（調査対象者）の要介護度について、ご回答ください。（1つを選択）

「要介護1」が最も多く35.5%、次いで「要介護2」が28.9%となっています。



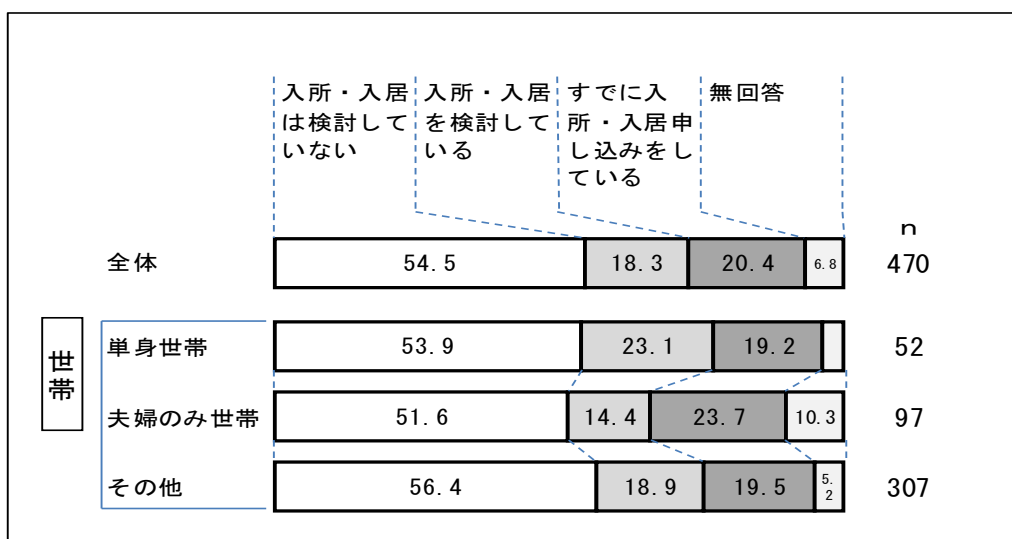
5 施設等への入所・入居の検討状況

現時点での、施設等への入所・入居の検討状況について、ご回答ください。（1つを選択）

「入所・入居は検討していない」が54.5%、「入所・入居を検討している」が18.3%、「すでに入所・入居申し込みをしている」が20.4%となっています。

○世帯別にみると、夫婦のみ世帯は「すでに入所・入居申し込みをしている」が多くなっています。

[クロスグラフ 世帯 × (施設等への入所・入居の検討状況別)]



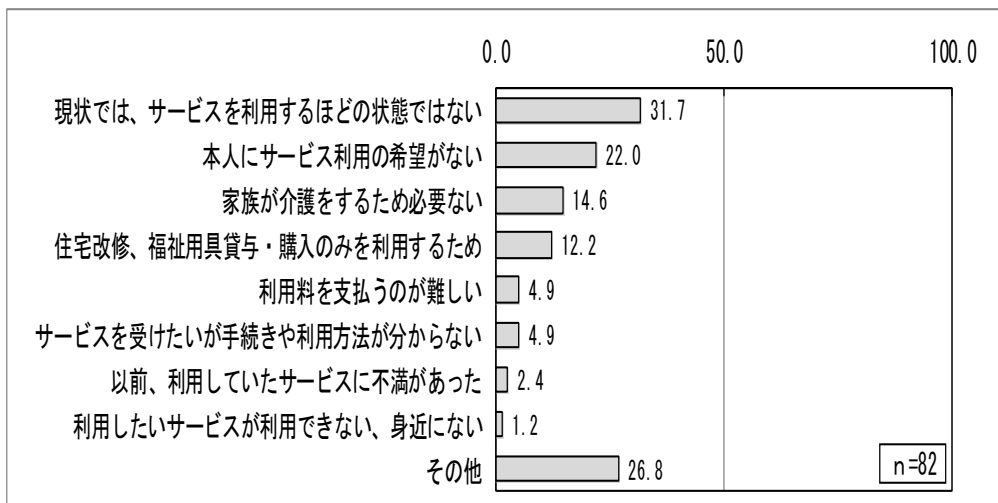
※ クロスグラフ中で5.0%に満たない数字は省略しています。

● 介護保険サービスについて

6 介護保険サービスの未利用の理由

問8で「2:利用していない」と回答した方におうかがいします。
介護保険サービスを利用していない理由は何ですか。(複数選択可)

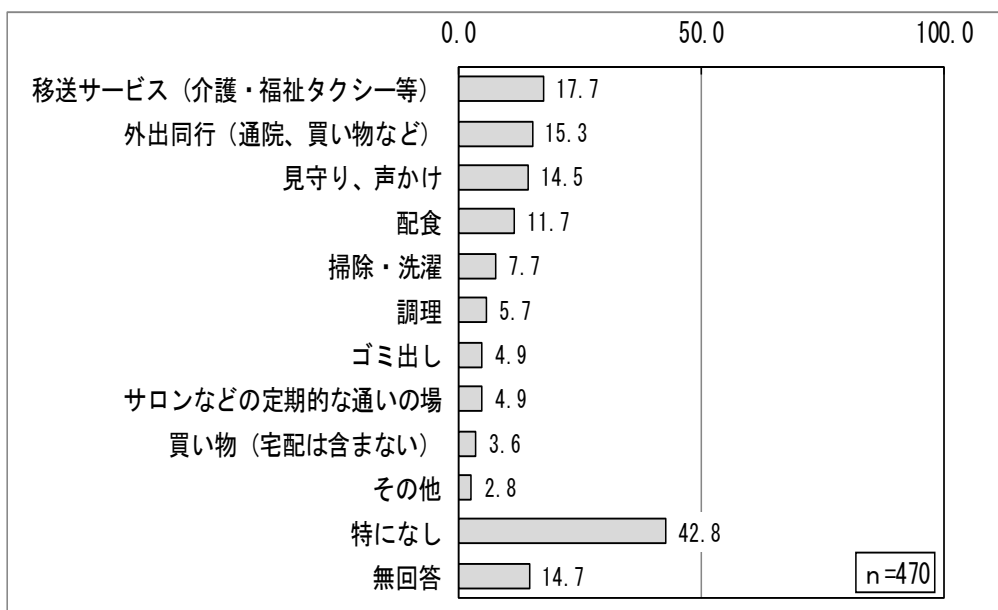
「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」が最も多く 31.7%、次いで「本人にサービス利用の希望がない」が 22.0%となっています。



7 必要な支援・サービス

今後の在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス（現在利用しているが、さらなる充実が必要と感じる支援・サービスを含む）について、ご回答ください。(複数選択可)

「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」が最も多く 17.7%、次いで「外出同行（通院・買い物など）」が 15.3%となっています。



● ご家族等の介護の頻度について

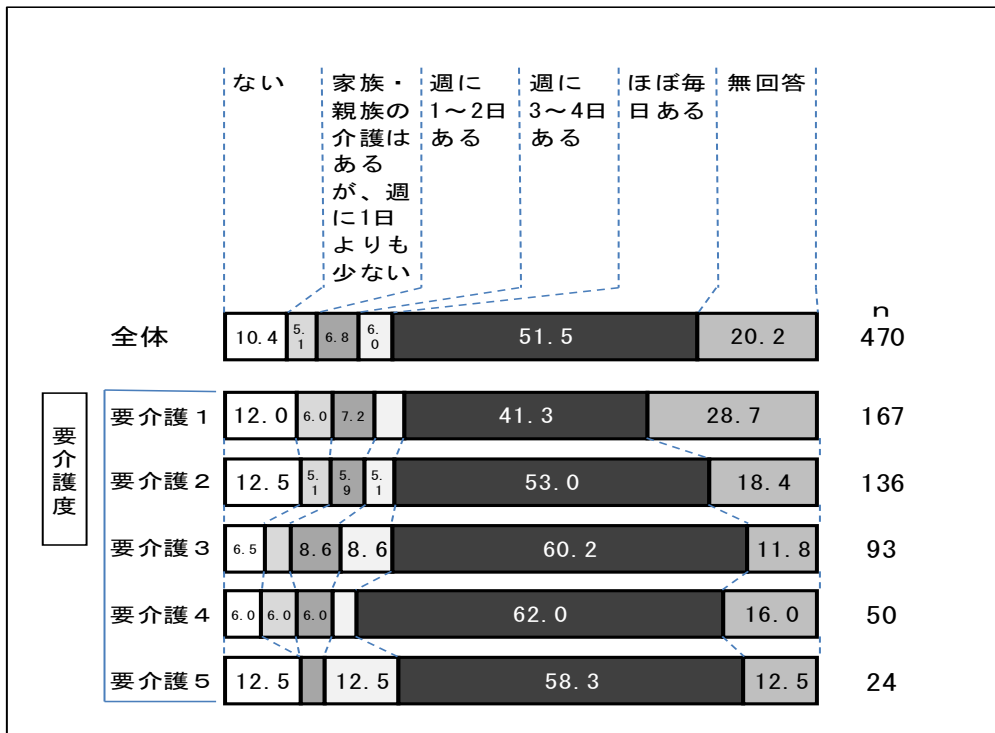
8 ご家族等の介護の頻度

ご家族やご親族の方からの介護は、週にどのくらいありますか。(同居していない子どもや親族等からの介護を含む) (1つを選択)

「ほぼ毎日ある」が最も多く 51.5%、次いで「週に1~2日ある」が 6.8%となっています。

○要介護度別にみると、要介護4は「ほぼ毎日ある」が多くなっています。

[クロスグラフ 要介護度 × (ご家族等の介護の頻度別)]



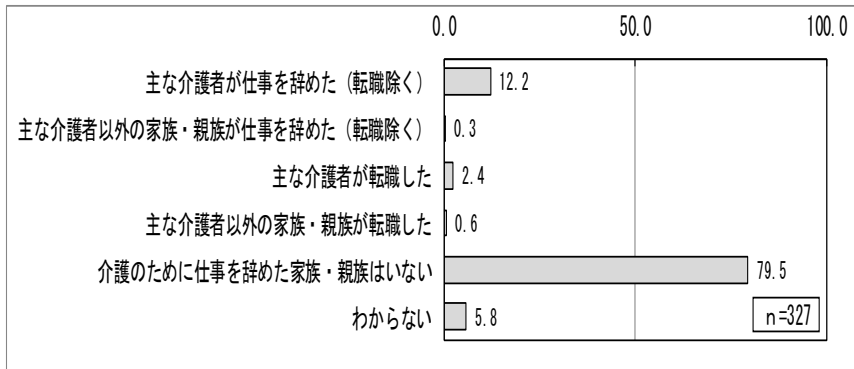
● 主な介護者の方について

9 介護のための離職の有無

ご家族やご親族の中で、ご本人（認定調査対象者）の介護を主な理由として、過去1年間に仕事を辞めた方はいますか。（現在働いているかどうかや、現在の勤務形態は問いません）
（複数選択可）

※ 自営業や農林水産業のお仕事を辞めた方を含みます。

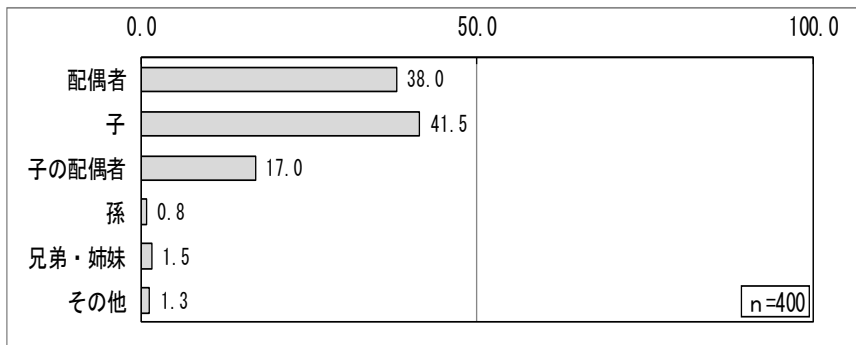
「介護のために仕事を辞めた家族・親族はいない」が79.5%、次いで「主な介護者が仕事を辞めた（転職除く）」が12.2%となっています。



10 主な介護者の続柄

主な介護者の方は、どなたですか。（1つを選択）

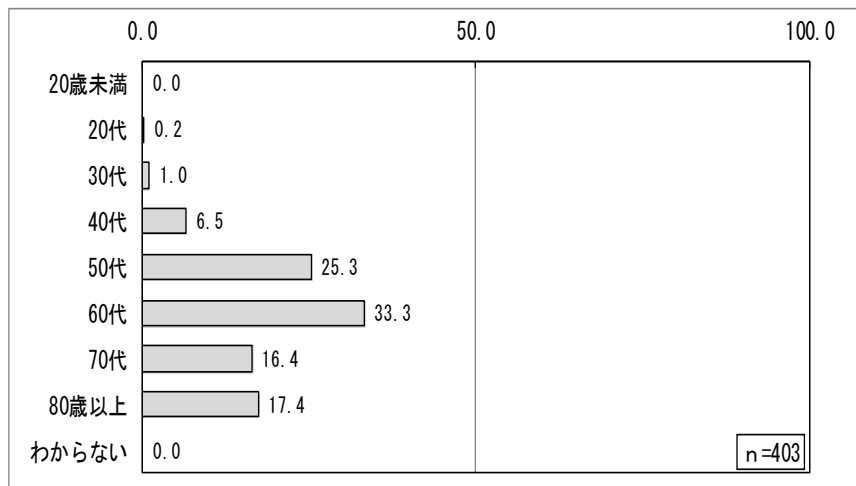
「子」が最も多く41.5%、次いで「配偶者」が38.0%となっています。



1.1 主な介護者の年齢

主な介護者の方の年齢について、ご回答ください。（1つを選択）

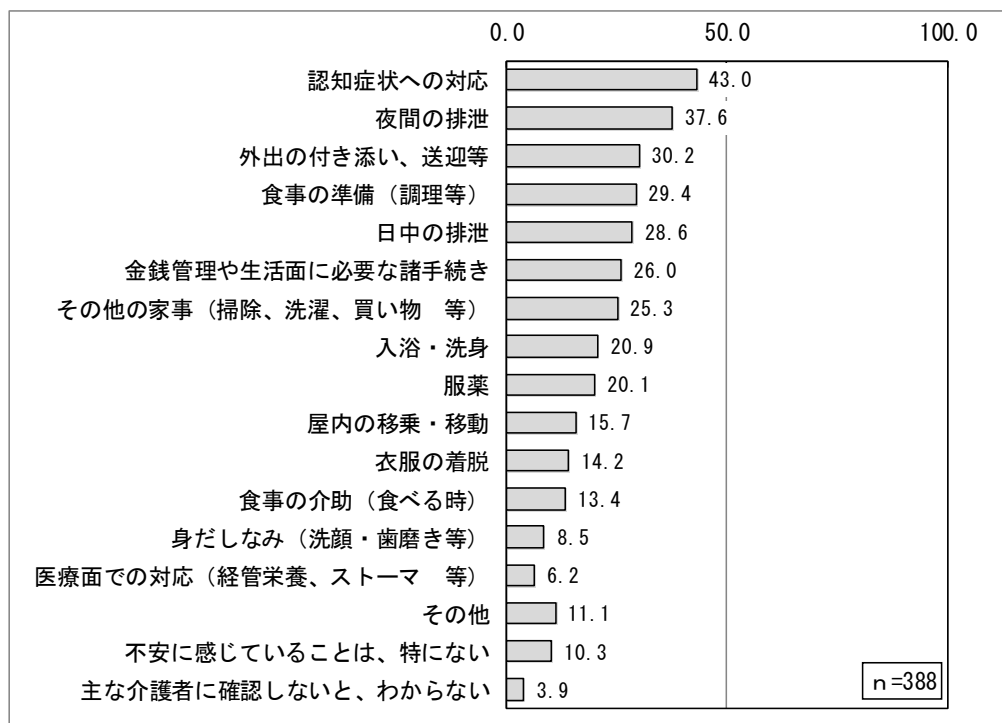
「60代」が最も多く 33.3%、次いで「50代」が 25.3%となっています。



1.2 主な介護者が不安に感じる介護

現在の生活を継続していくにあたって、主な介護者の方が不安に感じる介護等についてご回答ください。（現状で行っているか否かは問いません。）（3つまで選択可）

「認知症状への対応」が最も多く 43.0%、次いで「夜間の排泄」が 37.6%となっています。

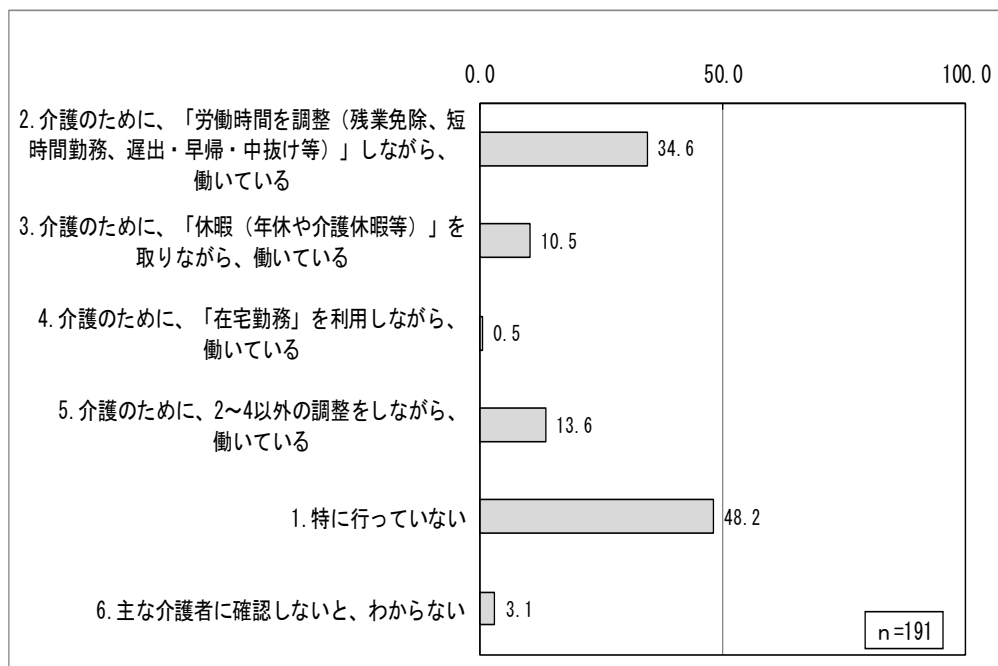


1.3 主な介護者の働き方の調整状況

問21で「1:フルタイムで働いている」「2:パートタイムで働いている」と回答した方におうかがいします。

主な介護者の方は、介護をするにあたって、何か働き方についての調整等をしていますか。
(複数選択可)

「介護のために、労働時間を調整（残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜け等）をしながら働いている」が最も多く34.6%、次いで「介護のために2~4以外の調整をしながら、働いている」が13.6%となっています。

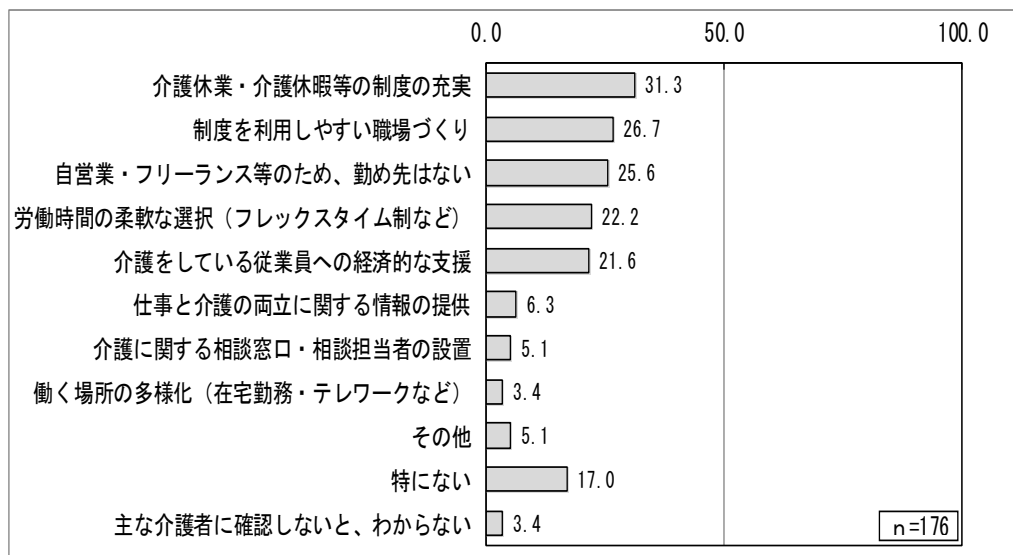


1.4 効果的な勤め先からの支援

問21で「1:フルタイムで働いている」「2:パートタイムで働いている」と回答した方におうかがいします。

主な介護者の方は、勤め先からどのような支援があれば、仕事と介護の両立に効果があると思いますか。(3つまで選択可)

「介護休業・介護休暇等の制度の充実」が最も多く31.3%、次いで「制度を利用しやすい職場づくり」が26.7%となっています。

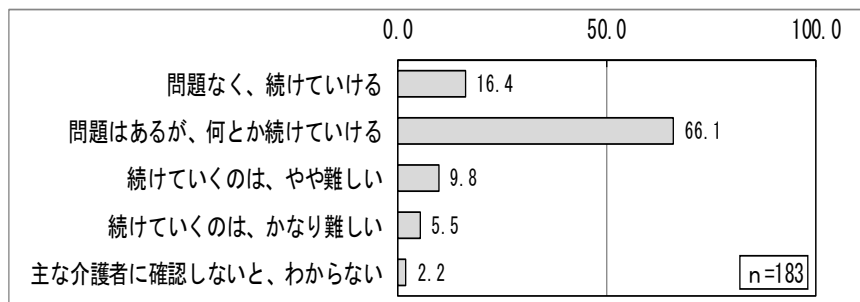


1.5 主な介護者の就労継続の可否に係る意識

問21で「1:フルタイムで働いている」「2:パートタイムで働いている」と回答した方におうかがいします。

主な介護者の方は、今後も働きながら介護を続けていけそうですか。(1つを選択)

「問題はあるが、何とか続けていける」が最も多く66.1%、次いで「問題なく、続けていける」が16.4%となっています。

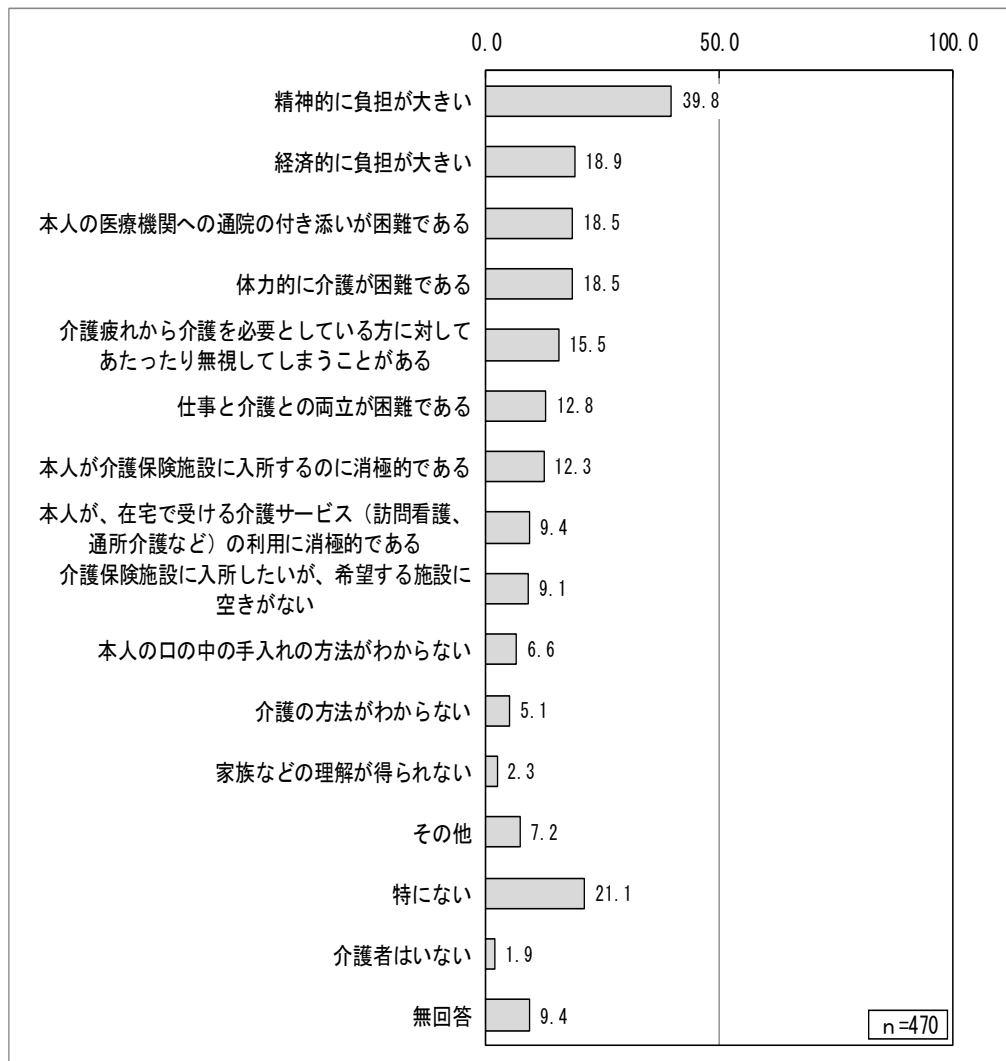


● 介護の現状について

16 介護の困り事

介護者の方が介護を行う上で困っていることは何ですか。(複数選択可)

「精神的に負担が大きい」が最も多く 39.8%、次いで「経済的に負担が大きい」が 18.9%となっています。



● 介護保険料について

1.7 介護保険サービスと保険料の関係

介護保険の利用者の増加と高齢化の進行により、サービス量を現状程度に保っていくためには、介護保険料も高くなっていきます。あなたは介護保険のサービスと保険料の関係について、おおよそどのように考えていますか。（1つを選択）

「サービス量を現状程度とし、保険料の上がり幅をおさえてほしい」が最も多く 73.4%、次いで「サービス量をより充実させるため、保険料が上がってもやむを得ない」が 14.3%となっています。

